

平成30年度

教授要項

シラバス (syllabus)



香川県立保健医療大学

KAGAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

目 次

I 教養教育科目【看護学科・臨床検査学科】

1 教養教育科目の履修にあたって	1
2 授業科目表	3
3 教養教育科目	5

II 専門教育科目【看護学科】

1 看護学科専門教育科目の履修にあたって	35
2 授業科目表	37
3 専門基礎科目	39
4 専門科目	73

III 専門教育科目【臨床検査学科】

1 臨床検査学科専門教育科目の履修にあたって	125
2-1 授業科目表（平成30年度以降入学生に適用）	127
2-2 授業科目表（平成28・29年度入学生に適用）	129
2-3 授業科目表（平成27年度入学生に適用）	131
3 専門基礎科目	133
4 専門科目	167

IV 教育科目【助産学専攻科】

1 助産学専攻科教育科目の履修にあたって	229
2 授業科目表	231
3 基礎領域	233
4 実践領域	239
5 実践関連領域	251

各項目についての説明

〇〇看護学 (〇〇Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	□□ □□ ()、△△ △△ ()										
授業の目的	<p>【授業の目的】 授業の目的(どのようなことが学べ、その学習内容がどのように使用できるのか)及び授業の到達目標(この授業の終了段階で、具体的にどのようなことが出来るようになってほしいか)を示しています。</p> <p>【到達目標】</p>										
授業の進め方	<p>授業の目的や到達目標に向けて、どのように学習を進めていくか(授業形態や授業方法の具体的なもの)を示しています。必要な時間外学習(事前準備・復習・宿題など)についても示しています。(「授業のスケジュール」に記載している場合もあります。)</p>										
授業スケジュール	回	項 目	内 容								
	1	△△△△	<p style="text-align: right;">(〇〇〇〇)</p> <p>オムニバス形式の場合は、各回での担当教員を示しています。</p> <p>15時間の授業は8回、30時間の授業は15回、45時間の授業は23回で計画し、教育内容のスケジュールを示しています。(コースオリエンテーション、試験、グループワークなどの方法は、授業の進め方や成績評価方法のところを書いていきます。)</p>								
教 科 書	受講学生が購入するテキストを示しています。										
参考書・参考資料等	教科書として使用するテキスト以外の主要な文献資料などを示しています。										
成績評価の方法	試験、課題レポート、授業の参加度など、評価の方法を示しています。(なお、原則として総授業数の3分の2以上(学内演習及び実験・実習・実技にあっては5分の4以上)の出席が無ければ試験が受けられません。)										
オフィスアワー	学業に関する質問をしたり、相談あるいは個人的な指導等を受けるために設定された時間です。記載している日時などは、あくまでも目安として考えてください。										
受講上の留意事項	授業の目的や到達目標を達成するために、学生に期待する授業に臨む姿勢や態度、事前に受講が必要な関連科目などを示しています。また、本科目を要件とする資格なども示しています。										

I 教養教育科目

看護学科

臨床検査学科

1 教養教育科目の履修にあたって

教養教育は、大学を大学たらしめる基本的な項目であり、人間性の理解と幅広い学問的興味を持つために必要な科目である。さらに、医療従事者には高い人間性が求められており、教養を深めることは必須である。このために両学科共通の教養教育科目とし、選択科目も多く設けてある。

医学は、自然科学の一つとみなされてきたが、今や医学は、人間科学 (human sciences) の一つの分野と考えられるようになってきた。

人間科学において、医学が関連するものとして、他の自然科学のほかに、社会科学分野の法学、経済学など、また、心理学、文学、哲学、芸術、宗教など広い範囲のものが含まれており、これらを学習することは、医療に従事する者にとって重要なことである。

従来から医療従事者の教育は、医療に従事する専門家としての知識 (knowledge) と技術 (skill) の習得が主な目標とされてきたが、医療においては、病める人間が対象であることから、知識と技術とともに、医療人の患者に対する態度 (attitude) についての教育が極めて重要である。医の倫理が強調される所以である。

このような円満な、教養人である医療従事者としての人材を育成するために、教養教育科目は、幅広い教養と豊かな人間性を養うことと、科学的思考や情報化、国際化など時代の変化に的確に対応できる能力を養うことを目的とする授業科目で構成されている。

その主な内容は、生命の尊重と豊かな人間性を養うために、哲学、倫理学などの人文科学系科目と、社会環境の変化に対応できるように、社会学、経済学などの社会科学系科目を配置しており、また、科学的思考に基づく問題解決の基礎能力を身につけるために、物理学、化学、生物学などの自然科学系科目と、情報化社会に対応できる人材を育成するために、情報科学とコンピュータの基本操作を習得する科目を配置している。

一方、国際的視野を持って活動できる人材の育成のために、英語と中国語を配置し、特に、英語の学習によって、基礎英語、英会話、医療英語、文献などの読解についての力を養う。さらに、健康的な生活習慣に果たす運動の重要性を理解し、スポーツを医学的、生理学的、運動学的な視点から学び、自らの健康管理とともに、地域の健康活動に貢献できる人材の養成を目指して健康科学科目を配置している。

大学においては、学生自らが問題意識をもち、自主的に判断し解決することが大切である。そのためには幅広い知識を持ち、さまざまな観点から問題を見つめ、その解決能力を高めることを支援するために、総合科目として教養ゼミナールが設けられている。

看護学科および臨床検査学科の両学科の学生は、同じ教室で学習することによって、お互いの交流と理解を深め、将来、保健医療福祉分野での活躍に役立つことが大きいものと考えられる。

2 授業科目表

教養教育科目（看護学科）

○必修

科目名	担当教員	共通	単位	単位			時間	配当年次		卒業要件	ページ	
				必修	選択	計		前期	後期			
人文科学	日本語表現法	佐藤明宏	○	2		2	2	30	1	4 単位以上 (選択 4 単位以上)	5	
	哲学	三宅岳史	○	2		2	2	30			1	6
	史学	田中健二	○	2		2	2	30	1			7
	心理学	中塚勝俊	○	2		2	2	30			1	8
	倫理学	佐藤慶太	○	2		2	2	30	1			9
社会科学	法学	辻上佳輝	○	2		2	2	30		1	10	
	教育学	松原勝敏	○	2		2	2	30	1		11	
	社会学	葛城浩一	○	2		2	2	30	1		12	
	経済学	藤原敦志	○	2		2	2	30	1		13	
	文化人類学	丹羽佑一	○	2		2	2	30	1		14	
自然科学	統計学	横山佳充	○	2		2	2	30		1	15	
	物理学	鶴町徳昭	○	2		2	2	30	1		16	
	物理学実験	鶴町徳昭、太田安彦	○	1		1	1	30		1	17	
	化学	小森博文	○	2		2	2	30	1		18	
	化学実験	加太英明、新美健太	○	1		1	1	30		1	19	
	生物学	加太英明	○	2		2	2	30	1		20	
	生物学実験	加太英明、新美健太	○	1		1	1	30		1	21	
外国語	英語Ⅰ	ジャンジュア ナジマ	○	②	2		2	30	1		22	
	英語Ⅱ	ジャンジュア ナジマ	○	②	2		2	30		1	23	
	英語Ⅲ	ジャンジュア ナジマ	○	2		2	2	30	2		24	
	英語Ⅳ	ジャンジュア ナジマ	○	2		2	2	30	2		25	
	中国語Ⅰ	毛 勇	○	2		2	2	30	2		26	
	中国語Ⅱ	毛 勇	○	2		2	2	30		2	27	
情報科学	情報科学Ⅰ	服部哲郎	○	①	1		1	30	1		28	
	情報科学Ⅱ	服部哲郎	○	①	1		1	30		1	29	
	情報科学演習	服部哲郎	○	①	1		1	30		1	30	
健康科学	健康科学	石川雄一	○	1		1	1	15	1		31	
	健康スポーツ	石川雄一、石田佳二	○	1		1	1	30	1		32	
総合科目	教養ゼミナール	加太英明、森西起也、國方弘子、塩田敦子、ジャンジュア ナジマ、竹内美由紀、多田達史、中村丈洋、新美健太、平川栄一郎、舟越和代、古山達雄、松村恵子	○	①	1		1	30	1		33	
上記の選択科目から 2 単位										2 単位		
計					8	41	49	855				
卒業要件単位数					8	16	24				24 単位以上 (必修 8 単位) (選択 16 単位)	
進級要件単位数		2 年次 (2 年←1 年)			8	12	20					
		3 年次 (3 年←2 年)				4	4					
		4 年次 (4 年←3 年)					0					

教養教育科目（臨床検査学科）

○必修

科目名	担当教員	共通	単位	単位			時間	配当年次		卒業要件	ページ	
				必修	選択	計		前期	後期			
人文科学	日本語表現法	佐藤明宏	○	2		2	2	30	1	4単位以上 (選択4単位以上)	5	
	哲学	三宅岳史	○	2		2	2	30			1	6
	史学	田中健二	○	2		2	2	30	1			7
	心理学	中塚勝俊	○	2		2	2	30			1	8
	倫理学	佐藤慶太	○	2		2	2	30	1			9
社会科学	法学	辻上佳輝	○	2		2	2	30		1	4単位以上 (選択4単位以上)	10
	教育学	松原勝敏	○	2		2	2	30	1			11
	社会学	葛城浩一	○	2		2	2	30	1			12
	経済学	藤原敦志	○	2		2	2	30	1			13
	文化人類学	丹羽佑一	○	2		2	2	30	1			14
自然科学	統計学	横山佳充	○	2		2	2	30		1	8単位以上 (選択8単位以上)	15
	物理学	鶴町徳昭	○	2		2	2	30	1			16
	物理学実験	鶴町徳昭、太田安彦	○	1		1	1	30		1		17
	化学	小森博文	○	2		2	2	30	1			18
	化学実験	加太英明、新美健太	○	1		1	1	30		1		19
	生物学	加太英明	○	2		2	2	30	1			20
	生物学実験	加太英明、新美健太	○	1		1	1	30		1		21
外国語	英語Ⅰ	ジャンジュア ナジマ	○	②	2		2	30	1		6単位以上 (必修4単位) (選択2単位以上)	22
	英語Ⅱ	ジャンジュア ナジマ	○	②	2		2	30		1		23
	英語Ⅲ	ジャンジュア ナジマ	○	2		2	2	30	2			24
	英語Ⅳ	ジャンジュア ナジマ	○	2		2	2	30	2			25
	中国語Ⅰ	毛 勇	○	2		2	2	30	2			26
	中国語Ⅱ	毛 勇	○	2		2	2	30		2		27
情報科学	情報科学Ⅰ	服部哲郎	○	①	1		1	30	1		3単位	28
	情報科学Ⅱ	服部哲郎	○	①	1		1	30		1		29
	情報科学演習	服部哲郎	○	①	1		1	30		1		30
健康科学	健康科学	石川雄一	○	1		1	1	15	1			31
	健康スポーツ	石川雄一、石田佳二	○	1		1	1	30	1			32
総合科目	教養ゼミナール	加太英明、森西起也、國方弘子、塩田敦子、ジャンジュア ナジマ、竹内美由紀、多田達史、中村丈洋、新美健太、平川栄一郎、舟越和代、古山達雄、松村恵子	○	①	1		1	30	1		1単位	33
上記の選択科目から2単位										2単位		
計						8	41	49	855			
卒業要件単位数						8	20	28			28単位以上 (必修8単位) (選択20単位)	
進級要件単位数		2年次 (2年←1年)				8	16	24				
		3年次 (3年←2年)					4	4				
		4年次 (4年←3年)						0				

3 教養教育科目

看護学科

臨床検査学科

日本語表現法(Japanese Language Expression)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	佐藤 明宏(Akihiro Satou)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 日本語の読み方、書き方、聞き方、話し方の資本技術を身に付ける。 論理的表現・文学的表現など、具体的な日本語表現法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①正しい文法に則って倫理的な言語表現ができる。 ②言語表現を通して人と正対して、心を通わせるコミュニケーションができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業の中で、まず、表現の仕方を学び、それを自己表現する。多様な表現様式による表現にチャレンジすることで、豊かで確かな表現力を習得する。グループで表現したり、発表し合う機会が多いので、出席を特に重視する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	日本語表現力	日本語表現力の必要性について								
	2	積極的な聞き方・話し方	楽しむ→受容→啓発								
	3	描写の技術①	五感を生かして								
	4	描写の技術②	校外学習								
	5	自己主張と協調	グループで相談・調整								
	6	質問と回答	ユーモア								
	7	群読・朗読	声のハーモニー								
	8	比べよう①	脚本と映画								
	9	比べよう②	英語歌詞と日本語歌詞								
	10	ディベート	説得力のある表現								
	11	レポート・論文の書き方	基本構成								
	12	アンケート調査	図や表も使って								
	13	プレゼン	お薦めの○○								
	14	文学的文章を書く	説得作文								
	15	演出と表現	説得劇づくり								
教 科 書	特になし(こちらでプリントを準備する)										
参考書・参考資料等	特になし(こちらでプリントを準備する)										
成績評価の方法	参加態度40%、提出物30%、レポート30%										
オフィスアワー	質問があれば、次のメールアドレスへ連絡して下さい。sato@ed.kagawa-u.ac.jp										
受講上の留意事項	毎回、プリント・ワークシートを配付するので、B4のプリントが綴じられるように各自でファイルを用意しておくこと。演習中心の授業のため、人数制限を設ける。履修可能人数は40人とし、履修登録時に抽選により、履修可能者を決定する。(抽選の方法は、履修登録の際に大学事務局から説明がある。)										

哲学 (Philosophy)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	三宅 岳史 (Takeshi Miyake)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>哲学とは、「なぜ」「どうして」「～って何？」などの素朴な問いから物事を深く掘り下げていく学問である。この授業でも、さまざまな問いを出発点に哲学を始めることにしよう。そこで、1. 哲学ではどのようなことが問題にされてきたか、2. その問いに哲学者はどのような考えを巡らせてきたか、3. それに対して自分はどう思うのか、というようなことを考えていくのがこの授業の目的である。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 哲学で議論されてきた問題を示すことができる。</p> <p>② 哲学者が考えた問題と議論について説明できる。</p> <p>③ 哲学的問題について自分の見解と根拠を述べることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>哲学者の考えを見る前に、普段から疑問に思っていたことを形にしてみよう。例えば、他人の心は分かるのか、「話せばわかる」ものなのか、男女はなぜすれ違うのか、権力とは何か、「私」とは何か、色を塗りたくったものがなぜ芸術なのか、などなど色々な問いについて考え、話し合ってみる。そのあとで、哲学者のいくつかの考えや立場を見てみよう。そのために、教科書を一緒に読んだり、DVD視聴などをしたりして、問題を考える。このように、グループワークや発表を中心に、講義や解説などをききながら、授業は進んでいく予定である。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	導入1	授業についての説明								
	2	話し合い1	愛とは何か？								
	3	哲学者1	プラトンとプラトニック・ラブ								
	4	話し合い2	美とは何か？アートの目的は何か？								
	5	哲学者2	アリストテレスの哲学と芸術論								
	6	話し合い3・哲学者3	我々は自由なのか？：ストア派とエピクロス派								
	7	話し合い4・哲学者4	この世に悪があるのはなぜか？：中世哲学者の神の問題								
	8	話し合い5・哲学者5	疑い得ない確実な知識は存在するのか？：デカルトの懐疑								
	9	話し合い6・哲学者6	我々は白紙状態で生まれるのか？：ロックの経験論								
	10	話し合い7・哲学者7	政府がなかったらどうなるのか？：ホブズと社会契約								
	11	話し合い8・哲学者8	嘘は絶対許されないのか？：カントとミルの倫理学								
	12	話し合い9・哲学者9	私とは何か？：ニーチェ、マルクス、フロイト								
	13	体験1	哲学カフェ：哲学の問題を作ってみよう								
	14	体験2	哲学カフェ：自分たちの作った問題をテツガクする								
	15	まとめ	ふりかえりとDVD視聴『小さな哲学者たち』								
教 科 書	貫成人『図説・標準 哲学史』(新書館)2008年										
参考書・参考資料等	シャロン・ケイ『中学生からの対話する哲学教室』(玉川大学出版)2012年 伊藤邦武『物語 哲学の歴史』(中公新書)2012年										
成績評価の方法	平常点(参加意欲と課題)(40%)と最終レポート(60%)により総合的に評価する。事前連絡なしでの欠席は、1回につき、5点の減点とする。										
オフィスアワー	連絡先: miytakshi@ed.kagawa-u.ac.jp										
受講上の留意事項	うまく意見は言えなくてもいいので、積極的に意見を述べ、授業に参加することが望ましい。										

史学(History)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	田中 健二(Kenji Tanaka)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>授業のテーマは「古代・中世日本人の子ども観」である。古代・中世の日本社会において、子どもはどのように位置づけられていたのか、子どもと大人の違いはどこに求められていたのか、子どもは、いつ、どのようにして大人と認められるようになるのか、などの問題について、歴史学と民俗学の両面から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①前近代の人々は、大人と子ども、男と女のような身分関係のなかで生きていたことを説明できる。</p> <p>②前近代の子どもは、一定期間の生育儀礼と学習をへて大人になり、社会の一員となったことを説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業は、配布されたプリントに従って進められる。毎時の授業の終わりに配布される出席カードに授業内容についてのコメントを記して、振り返りを行う。また、授業の区切りに課される小レポートと全体の終了後に課されるレポートを作成することで、内容をまとめ、復習を行う。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	ガイダンス	授業の内容と進め方、評価の方法等についての指導								
	2	前近代の身分	江戸時代以前の身分の特性についての講義								
	3	目に見える身分	身分の可視化についての講義								
	4	身分標識としての髪型	代表的な身分標識である髪型についての講義								
	5	成人儀礼	男女の成人儀礼についての講義								
	6	家長と家族	授業のまとめと1回目レポート作成についての指導								
	7	七歳以前は葬礼なし	古代・中世の子どもの葬法についての講義								
	8	律令に見る七歳(1)	律令に見る子どもの位置づけについての講義								
	9	律令に見る七歳(2)	同上								
	10	古代人の一生	古代人の死生観についての講義								
	11	子どもと大人の違い	子どもと大人の根本的な違いについての講義								
	12	産育儀礼と成育儀礼	産育儀礼から七歳までの成育儀礼についての講義								
	13	「まなぶ」と「まねる」	七歳から十五歳までの学習期間についての講義								
	14	七つ以前は神のうち	古代・中世の子ども観についての講義								
	15	まとめ	授業のまとめと2回目レポート作成上の注意								
教 科 書	適宜、プリントを配布するので必要ない。										
参考書・参考資料等	授業中に紹介する。										
成績評価の方法	2回のレポートと毎回のコメントシートにより評価する。その基準は講義内容についての理解度である。配分割合は、1回目のレポート30%、2回目のレポート50%、毎回のコメントシート20%である。										
オフィスアワー	非常勤講師のため、曜日・時間を指定できない。授業の終了後であれば、対応できる。										
受講上の留意事項	授業に毎回出席し、レポートを2回とも必ず提出すること。										

心理学 (Psychology)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	中塚 勝俊 (Katsutoshi Nakatsuka)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>人間理解のための学問領域は多岐にわたります。その1領域が心理学です。また、心理学の分野も多種多様です。そこで、本講義においては生涯にわたる人間の営みを、知覚、学習、人格などを視座に考え、人間行動の日常を科学します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①コミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>②心理学の基礎を習得し、臨床的場面に応用する態度を身につけることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>全般的には、講義方式の中に対話方式を織り込み理解を深めたいと思います。そのような進め方の中で、コミュニケーション能力、課題解決能力の習得を目指します。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	感覚・知覚	感覚と知覚の違い								
	2	感覚・知覚	物を見る仕組みとその働き								
	3	感覚・知覚	音を聞く仕組みとその働き								
	4	感覚・知覚	距離・大きさの知覚、時間と運動の知覚								
	5	脳と情報処理	大脳の構造、左右半球の機能差								
	6	学習	条件づけ、学習理論								
	7	学習	言語学習、社会的学習								
	8	学習	外発的動機づけ、内発的動機づけ								
	9	学習	短期記憶、長期記憶、エピソード記憶、手続き記憶								
	10	学習	忘却の仕組み								
	11	学習	内言、外言、言語調整機能								
	12	人格	心の図式								
	13	人格論	特性論、類型論								
	14	適応の仕組み	自我防衛反応								
	15	人格の形成	生物的要因、家庭的要因、社会的要因								
教 科 書	あなたの心理学(北大路書房)										
参考書・参考資料等	今田 寛他(共著)、心理学の基礎、培風館(2009)										
成績評価の方法	期末試験、授業への参加度										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	授業への参加度を高めるため、毎回質問しますので思いついたことを何でも述べて下さい。										

倫理学(Ethics)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	佐藤 慶太(Keita Sato)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>倫理学は、行為の善悪について考える学問です。この学では、その多くの部分が論争であり、歴史に名を残す倫理学者たちでも、基本的な事柄についてさえ一致しないことがあります。これは考えてみれば厄介な事態なのですが、「善悪」の問題の奥の深さを示すものともいえます。本授業では、主要な倫理学説のそれぞれを、他の学説との相違点にも着目しつつ、学びます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 主要な倫理学説の特徴とその根拠づけの方法について説明できる。</p> <p>② 倫理的問題について、根拠づけられた自分の考えを提示できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	要点をまとめたハンドアウトや資料をもとに授業をおこないます。また授業中に、現代の倫理的問題について、グループディスカッションやミニレポートに取り組み、倫理学説の理解を深めます。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	オリエンテーション	「倫理学」はどんな学問か？								
	2～4	倫理と文化的相違	「文化が変われば倫理も変わる」と言えるか？								
	5～6	功利主義	善悪の基準は「最大多数の最大幸福」か？								
	7～8	義務論	善悪の基準は結果か、動機か？								
	9～10	フェミニズムとケアの倫理	男の子向けアニメ、女の子向けアニメ、それぞれに秘められたメッセージは何か？								
	11～12	徳倫理論	倫理学は愛や友情について語るができるか？								
	13～14	医療倫理の問題	映画「私の中のあなた」を題材に考える								
	15	まとめ	これまで学んだ倫理学説についての復習								
教 科 書	授業中にプリントを配布します。										
参考書・参考資料等	J・レイチェルズ/S・レイチェルズ『新版 現代を見つめる道徳哲学』(晃洋書房) その他、適宜授業中に紹介します。										
成績評価の方法	ミニレポート、グループワークシート(40%)、レポート(60%)で評価します。										
オフィスアワー	質問等は授業終了後に受け付けます。										
受講上の留意事項	グループ討論への積極的な参加を期待します。倫理学についての基礎知識がなくても、履修には問題ありません。										

法学(Jurisprudence)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	辻上 佳輝(Yoshiteru Tsujigami)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>皆さんは、将来医療関係の仕事に就きたいのでしょうか？ でしたら、怖くないですか、ミスが。いや、人間誰だってミスします。この社会には、いくつもミスに対する償い方があります。謝るだけでもいいかもしれませんが、その仕事をやめなければならないかもしれません。法学は、その中で最も堅くて、でも最も正式な解決を教えてくれる学問です。</p> <p>この講義では、皆さんが将来かかわる医師・看護師など医療従事者の法律上の責任がどうなっているのか、入り口だけでも覗いて見ましょう。きっと皆さんの行動が変わってきますよ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①民法学の基本的な用語(主として契約・不法行為に関する用語)を用いることができる。</p> <p>②民事法の基本的な考え方(特に医療水準論)についておおよそが説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>医事法をイキナリ学ぼうとしても、それは無理です。医事法の基礎になっている法律、すなわち民法の基礎を学ばないといけません。民法の基礎を学ぶには、法律の基礎が必要です。</p> <p>そこで、この講義では、最初の2回で法律学の基礎を学びます。分かり易く講義しますので、恐れなくていいです。その後、民法の基礎を学び、医事法に必要な分野を特に勉強します。そうして最後に判例の事実を素材に、医事法の基礎を学びましょう。</p> <p>予習は必要ありませんが、できるだけ復習に努めて下さい。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～2	【第1部法学入門】	法律の基礎を知ろう								
	3～4	【第2部民事法入門】	民事法の基礎								
	5	【第3部医事法導入1】	不法行為								
	6	【第4部医事法導入2】	委任と事務管理								
	7	【第5部医事法】	医師・看護師の民事責任 医療関係者の資格、コンタクトレンズ事件								
	8	【第5部医事法】	医師・看護師の民事責任 医療関係者の資格、歯科技工士事件・菊田医師事件								
	9	【第5部医事法】	医師・看護師の民事責任 過失・医療水準、未熟児網膜症事件・サイレース投与事件								
	10	【第5部医事法】	医師・看護師の民事責任 因果関係 ルンパール事件								
	11	【第5部医事法】	医師・看護師の民事責任 応召義務 神戸診療拒否事件								
	12	【第5部医事法】	医師・看護師の民事責任 説明義務 乳房温存療法事件								
	13	【第5部医事法】	医師・看護師の民事責任 説明義務 コイル塞栓術事件								
	14	【第5部医事法】	医師・看護師の民事責任 転医勧告義務、ロキソニン投与事件・精索捻転事件								
	15	【第5部医事法】	医師・看護師の民事責任 看護師の賠償義務、北大電気メス事件								
教 科 書	使用せず、教員作成の教材を配布する。毎回教材を持参すること。										
参考書・参考資料等	野崎和義＝柳井圭子『看護のための法学』(ミネルヴァ書房・1999年)、菅野耕毅『事例法学入門』(信山社・2003年)										
成績評価の方法	レポートを課します。選択問題ですので、得意な問題を選んでください。主にレポートの評価によります。平常点を加味することもあります。										
オフィスアワー	非常勤講師なので、日頃は対処できませんが、講義終了後しばらく大学にいますので、その時間ならば相談を受け付けます。メール等での連絡はいつでもかまいません。										
受講上の留意事項	講義に持参する必要はありませんが、一家に一冊六法(法律の条文が載っている本)はあったほうがよいと思います。六法や参考書を参照したほうがレポートが書きやすいはずです。										

教育学(Education)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	松原 勝敏(Katsutoshi Matsubara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 「教育とは何か」という問いを考えるヒントとなる基礎的な知識の獲得を目指すとともに、教育分野が「人」そして「命」をどのように見ているのかということ意識しながら、教育について多角的に考察します。</p> <p>【到達目標】 ①今日の教育事象について、教育学の知見を踏まえて自らの意見を述べるができる。 ②「教育」と「看護」という同じ人を対象とする学問領域において、それぞれの共通性と相違性を理解することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>授業スケジュールに示したテーマに沿って、例えば、学習指導なら学習指導の考え方を、教育内容なら教育内容構成の考え方を・・・などと、それぞれの項目に関する基本的な原則や理念を学習し、教育の各領域に関わる基礎知識の習得を目指します。そして、今日の様々な教育問題を検討します。</p> <p>基本的に講義形式の授業ですが、授業の最後には、毎回、B6サイズの感想カードで、講義内容に関連して考察し、意見まとめます。このカードは、次回の授業の最初に担当教員が全員に紹介しますので、疑問点などを受講者全員で検討します。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	教育学の概念	オリエンテーション&教育学の全体像								
	2	教育の目的	憲法や教育基本法をヒントにした教育目的論の紹介								
	3	教育課程	教育課程の概念と教育課程の種類と特色								
	4	学習指導(1)	学習指導方法の種類と特色								
	5	学習指導(2)	学力の概念とこれからの時代に求められる学力								
	6	幼児教育の方法論	幼児教育の重要性と難しさの理解								
	7	西洋の学校の歴史(1)	学校の誕生と古代の学校の特色								
	8	西洋の学校の歴史(2)	近代的な学校の特色								
	9	我が国の学校の歴史	明治期以降の学校の歴史								
	10	生涯学習	生涯学習が求められる背景及び生涯学習の重要性								
	11	障害児教育(1)	障害児教育の歴史								
	12	障害児教育(2)	特別支援教育の理念と制度								
	13	少子化問題	少子化の原因とその影響								
	14	教師の在り方	教師に求められる資質能力								
	15	全体のまとめ	教師に求められる資質、全体の復習								
教 科 書	佐々木正治編著『新初等教育原理』(福村出版)										
参考書・参考資料等	井上豊久ほか『教育っていったい何だろう』(福村出版)、 西川信廣ほか『教育学を学ぼう』(福村出版)										
成績評価の方法	授業のミニレポート(38%)、レポート点(12%)、試験(50%)の割合で総合得点を計算し、全体の60%以上の得点で単位を認定します。										
オフィスアワー	メールアドレス: matubara@takamatsu-u.ac.jp 講義時間の前後にあるいはメールで質問していただけたらと思います。										
受講上の留意事項	教育学と聞くと、指導のコツや技術の授業だと思いが少なくありません。もちろん、それらに関することも教育学の一領域ですが、この授業では、一般的な教育学概論の授業として講義します。つまり、教育という社会的な活動が私たちの社会でどのような意味を持っているのか、課題は何かを考えて行きたいと思えます。										

社会学(Sociology)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	葛城 浩一(Koichi Kuzuki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>社会学とは、人々の間で「当たり前」のこととして広まっている「常識」を疑う学問です。この「脱常識」へのアプローチは、対象としている現象が実際はどのような特徴を持つものか、より正確に把握することを通して達成されます。授業で取り上げるテーマ(今年度は「大学」)を問い直し、新たな視点でそのテーマを捉え、考えていく力を育成します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>この授業の到達目標は以下の2点です。</p> <p>①与えられた課題について、自分の意見を他者にわかるように表現することができる。</p> <p>②与えられた最終課題について分析した内容を、他者にわかるようにプレゼンすることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業の前半では、テーマを問い直し、新たな視点でそのテーマを捉え、考える上で必要となる事項について学びます。授業の後半では、与えられた課題について分析した内容をプレゼンしてもらいます。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	イントロダクション	シラバスの内容について説明する。								
	2・3	エリート型の大学	エリート型の大学について講義する。								
	4	マス型前期の大学	マス型前期の大学について講義する。								
	5～7	マス型後期以降の大学	マス型後期以降の大学について講義する。								
	8	グループワークのイントロダクション	グループワークを始める前に、その説明等を行う。								
	9～13	プレゼン準備	プレゼンのための準備を行う。								
	14	プレゼン	プレゼンを行う。								
	15	レポート・まとめ	授業全体の内容をふまえたうえで、自分の考えをレポートにまとめる。								
教 科 書	なし										
参考書・参考資料等	授業中に配布する。										
成績評価の方法	ワークシート(40%)(到達目標①に対応) プレゼン(40%)(到達目標②に対応) レポート(20%)(到達目標①に対応)										
オフィスアワー	非常勤講師のため、昼休み及び授業終了後に、教室または講師控室にて										
受講上の留意事項	私語や居眠り、授業中の飲食等、授業の雰囲気を乱す者は、教室を退室してもらう。										

経済学(Economics)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	藤原 敦志(Atsushi Fujihara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 金融政策の仕組みについて学ぶ。具体的には中央銀行がどのような業務を行い、それがどのようなメカニズムで経済に影響を与えるかについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 日本でアベノミクスの「三本の矢」の1つとして採用された「大胆な金融緩和」の仕組みをより正確かつ具体的に説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書の内容を口頭と板書で説明する。最近の日本の金融政策の事例などをパワーポイントなどを用いて紹介する。授業中に教員が学生に個別に質問したり、例題を与えたりして、答えさせることもある。日頃から新聞・ニュースなどで金融政策に関する出来事に関心を持っておく。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1		金融政策と日本経済								
	2		金融と通貨の意味								
	3		民間銀行の役割								
	4		日本銀行の役割と金融政策								
	5		日本銀行の金融調節①								
	6		日本銀行の金融調節②								
	7		金融政策の波及経路								
	8		中間試験								
	9		「伝統的」金融政策								
	10		「非伝統的」金融政策—ゼロ金利政策—								
	11		「非伝統的」金融政策—量的緩和・信用緩和—								
	12		「非伝統的」金融政策のまとめと今後の課題								
	13		金融政策の新たな枠組み								
	14		日本とアメリカの金融危機								
	15		システミックリスクとブルーデンス政策								
教 科 書	『金融政策』小林照義[著]、中央経済社、2015年										
参考書・参考資料等	新聞・雑誌の記事などを適宜配布する。										
成績評価の方法	中間試験50%、期末試験50%										
オフィスアワー	火曜日4時限目 場所:非常勤講師控室										
受講上の留意事項	経済学をはじめて学ぶ学生に対して分かりやすく解説しますが、経済に興味・関心を持っている学生が受講するのに適しています。										

文化人類学 (Cultural Anthropology)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	丹羽 佑一 (Yuichi Niwa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>文化人類学は文化・社会から人類とは何かを知る学問である。人類はチンパンジーやゴリラと共に霊長類の一員であるが、その社会は独特の制度をもつ。死者を葬るための手続きと生殖のための手続きである。葬制と婚姻制である。本講義ではこの二つの制度が人類の本性に由来すると定め、その始まりを人類初期の社会生活に探し求めることをつうじて、「人類とは何か」を検討する。そしてその結論から「人類社会の将来」を展望する。授業の目的は「私たちは何であるか」、「私たちは何処へ行くのか」を検討し、知るところにある。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①「人類とは何か」を考えることができる。</p> <p>②「人類社会の将来」を考えることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業のテーマ、サブテーマに関わる諸説をビデオ映像も交えて紹介する形で授業は進められる。授業の節目ごとにテーマに従ったレポートを作成する。レポートには学んだ諸説を批判し、受講生自らのモノの見方、考え方を明確に表現することが求められる。レポート作成を通じて、受講生は授業で学んだ知識を確実なものとするともに、自らのモノの見方を洗練させ、また説得力のある表現方法を獲得することが期待される。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	人類の起源①	諸説の解説1 イーストサイド・ストーリーと直立二足歩行								
	2	人類の起源②	諸説の解説2 トゥーマイ・ストーリーと家族の起源								
	3	人類の起源③	諸説の解説3 携帯電話説と人類の食性								
	4	まとめ	家族の起源・婚姻の起源とレポートへのコメント								
	5	埋葬の起源	ネアンデルタール人の埋葬法—旧石器時代人の死								
	6	祭りの起源	洞窟壁画と精霊の世界								
	7	他界の起源	愛媛県・上黒岩岩陰遺跡縄文早期人の死と他界								
				愛媛県・穴神洞遺跡の早期縄文人の祖霊祭祀と他界							
	8	他界の終焉	現代人の他界観								
	9	まとめ	他界観の展開とレポートへのコメント								
	10	縄文時代の婚姻制①	与助尾根遺跡縄文中期人の婚姻システム								
	11	縄文時代の婚姻制②	天竜川水系縄文中期人の婚姻システム								
	12	人類初期の婚姻制	霊長類の群れ落ちとヒトの群れ落ちの特異性								
	13	世界の婚礼制の展開	いろいろな社会といろいろな婚姻制								
	14	現代の婚姻制	変容する社会と婚姻								
15	まとめ	質問とレポートへのコメントと全体質問									
教 科 書	用いない。										
参考書・参考資料等	授業中に紹介する。										
成績評価の方法	平時のレポート(40点満点)と期末試験(60点満点)の評価を総合する。合格基準は60点である。										
オフィスアワー	メールで質問に答える(niwa@pe.kagawa-u.ac.jp)。										
受講上の留意事項	ビデオをレポートの課題とする場合があるから、必ず出席すること。										

統計学(Statistics)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	横山 佳充(Yoshimitsu Yokoyama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>この授業においては「統計学」の基本的な考え方、指標の見方、分析手法を学ぶことを目的とします。「統計学」自体はデータを扱う学問で難しいというイメージがありますが、各種分野と非常に関連のある分野です。私自身は経済学関係で統計学と接する仕事をしていますが、みなさんの関連する医療をはじめとして、生物学や化学など必要とされる分野は多く存在します。本講義ではデータの分析に関する基礎知識を学ぶことで、みなさんの将来の仕事の一助になればと思います。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①代表値を用いて分布を表現・理解できる。 ②正規分布の性質を理解し、応用的側面を利用することができる。 ③推定などの初歩的な推測統計学について理解することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業はテキストにしたがって進めることを基本とします。授業においてはプロジェクターでスライドを投影することで行います。統計学においては、実際コンピュータとの関係も重要になるので、コンピュータを用いた解説も行いたいと思います。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	授業の概要	統計学とはどのような学問かの解説								
	2	データの図示	データのグラフ化を学ぶ								
	3	データの集計	度数分布表とヒストグラムを学びデータを整理								
	4	情報の集約	基本統計量(分布の中心を表す指標)を考察								
	5	ばらつきの尺度	基本統計量(データのばらつきを表す指標)を導入する								
	6	情報の分析方法	基本統計量のまとめを行い、統計の尺度を確認する								
	7	正規分布の導入	正規分布の性質(平均と標準偏差の重要性)を考察								
	8	標準正規分布	Zスコアと偏差値を学び、標準正規分布の導入の用意をする								
	9	中心極限定理	中心極限定理を学び、標本平均の分布の状態を確認する								
	10	推定	推定を学び信頼区間を構成する								
	11	検定	仮説検定の基本的概念を学ぶ								
	12	演習1	Excelを利用し基本統計量を学ぶ								
	13	演習2	Excelを利用し正規分布の特性を確認								
	14	演習3	Excelを利用し中心極限定理を確認								
	15	演習4	Excelを利用しサンプル抽出を学ぶ								
教 科 書	新・涙なしの統計学(新世社)										
参考書・参考資料等	P.G.ホーエル、『初等統計学』(培風館)										
成績評価の方法	授業中の演習、期末試験によります。受講者数が少ない場合にはレポートによる評価を重視します。受講数が多い場合には基本的に最終試験70%、レポートの評価30%で判断します。										
オフィスアワー	授業が行われる前後の時間で対応する。なお、メールにて質問等ある場合には yokoyama@ec.kagawa-u.ac.jp まで										
受講上の留意事項	授業中の私語は慎むこと。										

物理学(Physics)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	鶴町 徳昭(Noriaki Tsurumachi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>医療系の学生にとって物理学はあまり関係ないと思うかもしれないが、それは大きな間違いである。医療の現場で遭遇するさまざまな事象や機器の理解のためには物理学の知識や考え方がどうしても必要となる。本授業においては高校で物理を履修していない学生でも理解できるように体系的に物理学を学ぶことを目的としている。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①力と運動の概念や熱の伝達、電気や磁気など簡単な物理現象のメカニズムを論理的に説明できる。</p> <p>②物理量と単位の間関係を説明できる。</p> <p>③物理現象と医療機器との関係を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	物理学的な自然の見方・考え方について身近な現象を例にしながら解説する。また演示実験等もできる限り導入し理解を深める。これらを通じて物理現象の規則性・法則性やその客観的表現方法について理解すると共に、医学への応用についても考察する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	序論	物理学的な自然の見方・考え方、測定と医療機器								
	2	力学1	静止している物体								
	3	力学2	運動している物体								
	4	力学3	仕事とエネルギー								
	5	力学4	医療機器と力学								
	6	熱学1	熱と温度								
	7	熱学2	エントロピー								
	8	熱学3	極低温								
	9	波動1	音								
	10	波動2	光								
	11	電磁気学1	電荷・電場・電流								
	12	電磁気学2	磁力								
	13	電磁気学3	電磁波								
	14	現代物理学1	原子の構造								
	15	現代物理学2	レーザー								
教 科 書	医療系のための物理(東京教学社)										
参考書・参考資料等	シンプマン自然科学入門:新物理学(Shipman著、勝守訳:学術図書出版社)など適宜指示する。										
成績評価の方法	レポート(30%)と期末試験(70%)で評価する。										
オフィスアワー	<p>連絡先</p> <p>香川大学工学部材料創造工学科</p> <p>電話番号:087-864-2390</p> <p>e-mail:tsuru@eng.kagawa-u.ac.jp</p>										
受講上の留意事項	講義内容の区切りのよいところでレポート問題を課す予定である。講義中、講義時間外での積極的な質問を歓迎する。										

物理学実験 (Physics Laboratory)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実験
担 当 教 員	鶴町 徳昭 (Noriaki Tsurumachi)、太田 安彦 (Yasuhiko Ohta)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>物理学は実験を用いた現象の測定を基礎に発展してきた。ここでは物理学の諸分野(力学、熱、波動、電磁気、原子)の実験を行うことにより、測定方法、データのまとめ方及び解析方法について学ぶ。これらの実験は医療検査機器への応用の基礎でもある。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①基礎的な物理実験を遂行できる。 ②テスターやデジタルマルチメーターなどの測定器を使用できる。 ③実験で得られたデータをまとめ、解析することができる。 ④自然科学におけるレポートを書式に則って書くことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	少人数のグループを組み、実験課題に取り組む。結果を次の週にレポートとしてまとめて提出する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	序論	物理学実験の方法								
	2	序論	実験レポートの書き方								
	3	基礎的事項	ノギス、マイクロメータの使い方								
	4	基礎的事項	有効数字、誤差の分布の取り扱い								
	5	実験1	金属の抵抗の温度変化測定								
	6	実験2	等電位線の分布の測定								
	7	実験3	電子の比電荷 e/m の測定								
	8	実験4	Franck-Hertzの実験(原子中の電子の離散性)								
	9	実験5	超音波による波動の実験(音速、振動数、波長、干渉)								
	10	実験6	プランク定数の測定								
	11	実験7	電気回路の実験								
	12	実験8	光の干渉実験(光の波長)								
	13	実験9	オシロスコープによる周波数と波形の観測								
	14	実験10	Na、Hg原子の線スペクトル測定								
	15	実験11	直視分光器の製作と光の波長測定								
教 科 書	物理学実験指導書を配布する。										
参考書・参考資料等	適宜指示する。										
成績評価の方法	実験レポートにより成績を評価する。										
オフィスアワー	<p>連絡先</p> <p>香川大学工学部材料創造工学科</p> <p>電話番号: 087-864-2390</p> <p>e-mail: tsuru@eng.kagawa-u.ac.jp</p>										
受講上の留意事項	授業の前までに行なう実験の内容について実験指導書をよく読んでおくと、実験を円滑に行なえる。授業時間中、授業時間外の質問を歓迎する。										

化学 (Chemistry)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	小森 博文 (Hirofumi Komori)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 原子の構造をはじめ、さまざまな物質や反応についての基礎的な知識を広く修得し、化学的なものの見方や考え方を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①原子とはどのようなものか説明できる。 ②化学結合の種類や違いを説明できる。 ③物質の構造と性質について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書を用いて授業を進めるが、高等学校「化学基礎」の内容を復習しておくことが望ましい。また、講義中に理解度の確認のための小テストも行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	導入	講義の進め方、化学について								
	2	化学の基礎1	元素と化学記号								
	3	化学の基礎2	化学反応式と構造式								
	4	化学の基礎3	酸と塩基、酸化と還元								
	5	化学の基礎4	気体の状態方程式など								
	6	原子論	化学の歴史								
	7	量子論	電子の波動性、発光スペクトル								
	8	原子の電子構造	周期表と元素の物性								
	9	化学結合1	分子軌道法								
	10	化学結合2	分子の構造と性質								
	11	物質の構造と物性	気体の分子運動、結晶								
	12	有機化合物	有機物の一般的な性質、異性体								
	13	生物化学	生体高分子								
	14	化学と社会	身近な化学								
	15	まとめ	全体のまとめ								
教 科 書	基礎化学入門 大場茂著(三共出版)										
参考書・参考資料等	高等学校「化学基礎」の教科書等										
成績評価の方法	期末試験を行うが、授業中に小テストも行い、その成績も加味する。再試験は原則行わない。										
オフィスアワー	komori@ed.kagawa-u.ac.jp										
受講上の留意事項	分からないことがあれば、積極的に質問してください。										

化学実験 (Chemistry Laboratory)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実験
担 当 教 員	加太 英明 (Hideaki Kabuto)、新美 健太 (Kenta Niimi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>はじめに化学薬品の性質、保管、廃棄の方法、秤量、標準液の調製法、実験器具類およびレポートの作成などに関する基本的な事項を演習・実習によって学ぶ。</p> <p>ついで、無機および有機物の分析法、有機化合物の化学反応および分離・精製法の基礎について実験を通して習得する。</p> <p>本実験では、薬品や機器を使用した科学的体験を通じて、結果には必ず原因があるという論理的思考を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>化学実験を行う姿勢、器具の扱い方を学び、結果をまとめ、適切なレポートを書くことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	班に別れての実習										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	オリエンテーション	実習に関する一般的注意、化学薬品および実験器具の保管および使用法、廃棄物の処理法、消火器の使用法								
	2	ピペットの使用法	正確な濃度の溶液の調製の仕方								
	3	試薬の秤量と標準溶液の調製	未知濃度の酸(塩酸、食酢)の定量								
	4	無機定量分析(酸・塩基滴定)	灰化法による無機塩類の検出								
	5	食品に含まれる無機塩類の検出	牛乳を使つての糖・脂質・タンパク質の検出								
	6	食品に含まれる有機化合物の分離と検出	野菜や果物に含まれるビタミンCの定量								
	7	食品に含まれるビタミンCの定量	茶葉からのカフェインの抽出								
	8	天然物の抽出、精製	分子模型による、有機化合物の立体構造の理解								
教 科 書	プリントを配布する。										
参考書・参考資料等	随時指示する。										
成績評価の方法	各実験終了後のレポート、学習態度により判定する。 実習であるため、あらかじめ配点は決めていない。										
オフィスアワー	加太: 随時。kabuto-h@chs.pref.kagawa.jp 新美: 随時。niimi-k@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	実験に適した服装で出席すること。 同じ班の人に迷惑をかけますので遅刻・欠席をする場合は、連絡を入れること。 あらかじめプリントを読んで理解し、手順書を作成しておくことが望ましい。										

生物学(Biology)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	加太 英明(Hideaki Kabuto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>生命現象とはどのようなものであるか理解する。特に生物の基本構造である「細胞」、生きていくために不可欠な「食」、医療と関連した「免疫」「老化」、健康な生活に必要な「環境」について講義する。また最新の生命現象や生物学関連の話題を知ることができるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>生物とはどのような物なのか、なぜそうなっているのか、常に興味を持ち続けるようになることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	導入	講義について、生物学の基本								
	2	細胞の仕組み	細胞と細胞内小器官の発見								
	3	細胞の仕組み	細胞と細胞内小器官の形態と機能								
	4	遺伝子の働き	DNAの発見と構造								
	5	遺伝子の働き	遺伝子発現の仕組み								
	6	進化	進化の原理								
	7	進化	遺伝子進化と分類								
	8	食と健康	栄養素とその役割								
	9	食と健康	機能性食品								
	10	薬	細菌のライフサイクルと薬								
	11	薬	ウイルスのライフサイクルと薬								
	12	免疫	免疫に関わる細胞								
	13	免疫	免疫システム								
	14	老化	老化の原因と老化に伴う体の変化								
	15	環境	環境問題								
			その他、随時生物学関連の話題紹介等								
教 科 書	「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田勝著 (羊土社)ISBN4-7581-0808-0 プリントを配布する。										
参考書・参考資料等	「分子生物学講義中継」part0～part3 井出利憲 著 (羊土社) 「医学を学ぶための生物学」改訂第2版 谷口直之他 編集(南江堂) 「楽しくわかる生物・化学・物理」岡田隆夫 著(羊土社) 「ヒトを理解するための生物学」八杉貞雄 著(裳華房) 「ワークブックヒトの生物学」八杉貞雄 著(裳華房)										
成績評価の方法	小テスト(約20%)、筆記試験(約80%)など										
オフィスアワー	随時。 メール(kabuto-h@chs.pref.kagawa.jp)でも受け付ける。										
受講上の留意事項	これから看護学、臨床検査学を学ぶ上で、生命現象の基礎を理解すること、最新の生物学関連の話題を知ること は必要不可欠である。積極的に生物学関連の本や雑誌・新聞記事などを読むようにして欲しい。										

生物学実験 (Biology Laboratory)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実験
担 当 教 員	加太 英明 (Hideaki Kabuto)、新美 健太 (Kenta Niimi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>生物講義で習得した知識をさらに深めるために、生命現象、生物及び環境に実際に触れることにより、生物の構造と機能、環境との関わり合いについて理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実験を行う姿勢、実験機器の取り扱い方、生物を扱う際の倫理的配慮を学び、適切なレポートを書くことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	実習。最初に実験の説明した後、数人の班に別れて実験を行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	臨海実習	瀬戸内海とそこに生息するプランクトンの観察								
	2	臨海実習	磯に生息する海洋生物の観察								
	3	実習の説明	実習の心得、レポートの書き方、スケッチ法等についての説明(1時間)								
	4	顕微鏡観察	光学顕微鏡とマイクロメーターの取り扱い方法								
	5	顕微鏡観察	植物の体細胞分裂及びユスリカ唾液染色体の観察								
	6	脊椎動物の解剖	浸透圧による植物細胞及び赤血球の形態変化観察								
	7	脊椎動物の解剖	マウスの解剖と内臓の観察								
	8	DNAの単離	マウスの脳・神経系の観察								
			魚類精巣からのDNAの単離及びその測定								
			※時間割等により授業計画が変更することがある。								
教 科 書	テキスト配布										
参考書・参考資料等	<p>顕微鏡の使い方ノート(羊土社)</p> <p>生物科学実験法(東京共学社)</p> <p>図説動物実験の手技手法(朝倉書店)</p> <p>瀬戸内圏の干潟生物ハンドブック(恒星社厚生閣)</p>										
成績評価の方法	レポート(約80%)、実験への参加度合と態度(約20%)										
オフィスアワー	<p>加太: 随時。捕まらない場合は“kabuto-h@chs.pref.kagawa.jp”へmail</p> <p>新美: 随時。捕まらない場合は“niimi-k@chs.pref.kagawa.jp”へmail</p>										
受講上の留意事項	<p>最初4時間は夏季に香川大学瀬戸内圏研究センターにて行う集中実習である。</p> <p>最初4時間以降は、後期に本学にて行う。</p> <p>やむを得ず遅刻・欠席する(した)場合は、必ず共同実験者に連絡をし、さらに教員の指示を仰ぐ必要がある。</p>										

英語 I (Medical English I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	ジャンジュア ナジマ(Najma Janjua)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 To develop students' English reading, writing, listening and speaking skills through engaging them in critical thinking and problem solving in the context of real-life medical issues</p> <p>【到達目標】 To be able to read and comprehend case studies of common medical conditions, think about and discuss possible solutions of issues involved, and become aware of differences in English and Japanese ways of pronunciation of English words</p>										
授 業 の 進 め 方	In a typical lesson, students will be introduced to a case study (CS) in a local or global healthcare setting. The case will present the students with a medical issue that they must think about; discuss it with their classmates in group work; suggest its possible solution(s); create dialogues based on its content; and perform role-play. Students will also practice pronunciation using a pronunciation practice guide (PPG). Special emphasis will be placed on acquiring intelligible pronunciation and developing effective oral and written communication skills in healthcare settings.										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	Intro./CS 1 Dealing with depression	Introduction to the course and PPG/Start of CS 1 with dictation								
	2	CS 1 Role-play and group work	Students practice role-playing and problem solving in pairs and groups								
	3	CS 2 Aging and Alzheimer's disease	Start of CS 2 with dictation								
	4	CS 2 Role-play and group work	Students practice role-playing and problem solving in pairs and groups								
	5	CS 3 Alcohol abuse & alcoholism	Start of CS 3 with dictation								
	6	CS 3 Role-play and group work	Students practice role-playing and problem solving in pairs and groups								
	7	CS 4 End stage lung cancer	Start of CS 4 with dictation								
	8	CS 4 Role-play and group work	Students practice role-playing and problem solving in pairs and groups								
	9	CS 5 Familial hypercholesterolemia	Start of CS 5 with dictation								
	10	CS 5 Role-play and group work	Students practice role-playing and problem solving in pairs and groups								
	11	CS 6 Huntington's disease	Start of CS 6 with dictation								
	12	CS 6 Role-play and group work	Students practice role-playing and problem solving in pairs and groups								
	13	CS 7 Familial polyposis of colon	Start of CS 7 with dictation								
	14	CS 7 Role-play and group work	Students practice role-playing and problem solving in pairs and groups								
	15	Reflection/Course Evaluation	Students reflect on the course and complete a Course Evaluation Questionnaire								
教 科 書	There is no prescribed textbook for this course. The teacher will provide handouts of case studies and references to various resources. Students will use those and/or other resources to create and build their own study material.										
参考書・参考資料等	Merriam-Webster Online: http://www.merriam-webster.com/cgi-bin/mwod.pl PROJECT CARE website at: http://projectcare.worlded.org										
成績評価の方法	Evaluation will be based on attendance (25%); class tests (25%); role-plays (25%); group work (25%); and/or as judged appropriate by the teacher for the given class.										
オフィスアワー	By appointment										
受講上の留意事項	Students must bring a dictionary to each class and take an active part in classroom activities such as by raising their hands to ask questions and/or to answer teacher's questions. Students will be graded for participation in each class. Therefore, if they do not take an active part in the lesson or are absent from a given class, they will get no participation grade for that particular class.										

英語Ⅱ (Medical English Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	ジャンジュア ナジマ(Najma Janjua)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 To develop students' ability to express themselves and communicate in English in a variety of medical settings related to their future profession</p> <p>【到達目標】 To be able to function in English in some of the very basic medical settings through listening, responding, explaining and taking actions as necessary</p>										
授 業 の 進 め 方	In a typical lesson, students will be introduced to a dialogue in a healthcare setting using audiovisual tools. They will then read the dialogue for a thorough understanding of its content including all medical terms; practice role-play (RP) in pairs; and answer a set of comprehension questions. Students will present RP of the dialogues in the class according to a presentation schedule announced by the teacher. Listening and pronunciation practice using the content of dialogues will be an integral part of the lessons. Special emphasis will be placed on learning common medical terminology and developing communication skills in students' future professional settings.										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	Intro./ In the hospital	Course outline/Start Dialogue 1								
	2	At the doctor's office	RP of Dialogue 1 / Start Dialogue 2								
	3	Taking the medicine	RP of Dialogue 2 / Start Dialogue 3								
	4	A medical check-up	RP of Dialogue 3 / Start Dialogue 4								
	5	Blood test results	RP of Dialogue 4 / Start Dialogue 5								
	6	First half review	Students review Dialogues 1-5								
	7	Dialogue role-play	Students present dialogue role-plays								
	8	Daughter's fever	Listening Test 1-5/ Start Dialogue 6								
	9	After knee operation	RP of Dialogue 6 / Start Dialogue 7								
	10	Newborn jaundice	RP of Dialogue 7 / Start Dialogue 8								
	11	Gastroscopic exam	RP of Dialogue 8 / Start Dialogue 9								
	12	Taking temperature	RP of Dialogue 9 / Start Dialogue 10								
	13	Second half review	Students review Dialogues 6-10								
	14	Dialogue role-play	Students present dialogue role-plays								
	15	Listening test / Evaluation	Listening Test 6-10/Course Evaluation								
教 科 書	There is no prescribed textbook for this course. The teacher will provide handouts for the dialogues and additional materials as necessary.										
参考書・参考資料等	1. Merriam-Webster Online < http://www.merriam-webster.com/cgi-bin/mwwod.pl > 2. Other relevant materials and online resources for listening and pronunciation practice										
成績評価の方法	Evaluation will be based on class participation (25%); class tests (50%); dialogue role-play (25%); and/or as judged appropriate by the teacher for the given class.										
オフィスアワー	By appointment										
受講上の留意事項	Students must bring a dictionary to each class and take an active part in classroom activities such as by raising their hands to ask questions and/or to answer teacher's questions. Students will be graded for participation in each class. Therefore, if they do not take an active part in the lesson or are absent from a given class, they will get no participation grade for that particular class.										

英語Ⅲ (Medical English Ⅲ)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	ジャンジュア ナジマ(Najma Janjua)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 To further develop students' English reading, writing, listening, speaking and workplace communication skills and build their vocabulary through study of real-life medical cases</p> <p>【到達目標】 To be able to hear and understand medical terminology related to several acute and chronic medical conditions and be intelligible in medical discourse in related healthcare settings</p>										
授 業 の 進 め 方	In a typical lesson, students will be introduced to a real-life medical case study (CS) using audiovisual tools. They will then: read the text of the CS for a thorough understanding of the content including the new medical terms; do group work to answer a set of comprehension and problem solving questions; and prepare a dialogue for role-play based on the CS content. Students will also practice pronunciation and listening through various multimedia tools. Special emphasis will be placed on developing students' workplace communication skills in the context of their future professional settings.										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	Intro./ CS 1. Achalasia	Course overview / Start CS 1								
	2	CS 2. Pyelonephritis	Group work CS 1 / Start CS 2								
	3	CS 3. Hemothorax	Group work CS 2 / Start CS 3								
	4	CS 4. Hypertension	Group work CS 3 / Start CS 4								
	5	CS 5. R. arthritis	Group work CS 4 / Start CS 5								
	6	First half review	Students review CSs 1-5								
	7	CS role-plays	Students present CS role-plays								
	8	CS 6. Cholecystitis	Reflection / Start CS 6								
	9	CS 7. Lyme disease	Group work CS 6 / Start CS 7								
	10	CS 8. Meningitis	Group work CS 7 / Start CS 8								
	11	CS 9. Stroke	Group work CS 8 / Start CS 9								
	12	CS 10. Cirrhosis	Group work CS 9 / Start CS10								
	13	Second half review	Students review CSs 6-10								
	14	CS role-plays	Students present CS role-plays								
	15	Reflection/ Evaluation	Reflection/Course Evaluation								
教 科 書	There is no prescribed textbook for this course. The teacher will provide handouts for the case studies and additional materials as necessary.										
参考書・参考資料等	1. Merriam-Webster Online < http://www.merriam-webster.com/cgi-bin/mwwod.pl > 2. MEDICAL-SURGICAL NURSING By Gina M. Ankner, Thomson Delmar Learning, 1980										
成績評価の方法	Evaluation will be based on attendance (25%); class tests (25%); role-play presentations (50%); and/or as judged appropriate by the teacher for the given class.										
オフィスアワー	By appointment										
受講上の留意事項	Students must bring a dictionary to each class and take an active part in classroom activities such as by raising their hands to ask questions and/or to answer teacher's questions. Students will be graded for participation in each class. Therefore, if they do not take an active part in the lesson or are absent from a given class, they will get no participation grade for that particular class.										

英語Ⅳ (Medical English Ⅳ)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	ジャンジュア ナジマ (Najma Janjua)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 To develop students' ability to communicate effectively in English about their profession in a global context, in intercultural settings, and with patients and their families</p> <p>【到達目標】 To be able to talk about their study major and future profession, orally communicate with healthcare students and professionals from other countries and interact with patients and their families in the professional context</p>										
授 業 の 進 め 方	In this course students read on topics related to fields of nursing (N) and medical technology (MT), write summaries of what they have read together with their opinions/comments/questions about the content, and use their written output for speaking and discussion in small groups. Students also learn and practice patient interviewing and family history taking skills.										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	Outline/A model	Course outline/Introduction of a model lesson								
	2	Issues in N/MT	Group work and discussion with Q&A								
	3	N: Global aspects	Group work and discussion with Q&A								
	4	MT: Global aspects	Group work and discussion with Q&A								
	5	Profession of N	Group work and discussion with Q&A								
	6	Profession of MT	Group work and discussion with Q&A								
	7	Careers in N	Group work and discussion with Q&A								
	8	Careers in MT	Group work and discussion with Q&A								
	9	Culture/language I	Group work and discussion with Q&A								
	10	Culture/language II	Group work and discussion with Q&A								
	11	Interviewing skills	Students learn doing a patient interview								
	12	Interviewing practice	Students practice doing a patient interview								
	13	FH taking skills	Students learn taking a family history								
	14	FH taking practice	Students practice taking a family history								
	15	Reflection/CE	Reflection and course evaluation								
教 科 書	Students will select study materials in their respective majors from various resources as discussed with and advised by the teacher.										
参考書・参考資料等	1. Merriam-Webster Online: http://www.merriam-webster.com 2. Books, journals and online resources related to the study topics										
成績評価の方法	Evaluation will be based on class attendance (25%); participation (75%); and/or as judged appropriate by the teacher for a given class.										
オフィスアワー	By appointment										
受講上の留意事項	Student motivation to learn to use English for communication in the context of their respective study majors is a prerequisite for this course.										

中国語 I (Chinese I)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	毛 勇 (Mao Yong)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>この授業では、中国の標準語を指導する。中国語は文字としての漢字を用いているため、他の外国語より取り付きやすく簡単のように見えるかもしれない。しかし、現在中国で使われている漢字が簡略化された文字(簡体字)なので、全くの外国語として取り組むことが重要である。授業は、LL方式(Language Laboratory System)で行う。受講者は、CD、DVD映像等により、現代中国を親しみながら、「聴・説」と「読・写」のバランスを取れた総合学習を通じて、自然な中国語を学ぶとともに、旅の先手で使えるような実用表現も学べる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①リスニングとスピーキングの訓練を通じて、中国語の基本的なコミュニケーション能力が身につけられる。</p> <p>②修得した内容をもとに将来必要に応じて発展学習ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	LL方式(Language Laboratory System)で行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	発音(1)	母音の学習								
	2	発音(2)	複合母音の学習								
	3	発音(3)	子音の学習								
	4	発音(4)	発音総合練習								
	5	北京(1)	去王府井								
	6	北京(2)									
	7	北京(3)	天 公								
	8	泰山・黄山(1)	世界遺産泰山								
	9	泰山・黄山(2)	世界複合遺産黄山								
	10	西安(1)	西安								
	11	西安(2)	兵 俑								
	12	成都	蜀の国とパンダ								
	13	九寨	九寨								
	14	雲南省(1)	雲南省の少数民族								
	15	雲南省(2)	象形文字「トンパ文字」								
教 科 書	旅して学ぶ中国語2012年版(朝日出版社)										
参考書・参考資料等	中国語辞書(電子辞書を推薦)										
成績評価の方法	平常点(15%)、期末テスト(85%)で評価する。										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	授業はLL方式(Language Laboratory System)で行うので、事前にCD、DVDで予習することが勧められる。										

中国語Ⅱ (ChineseⅡ)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	通年	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	毛 勇 (Mao Yong)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>この授業では、中国の標準語を指導する。中国語は文字としての漢字を用いているため、他の外国語より取り付きやすく簡単のように見えるかもしれない。しかし、現在中国で使われている漢字が簡略化された文字(簡体字)なので、全くの外国語として取り組むことが重要である。授業は、LL方式(Language Laboratory System)で行う。受講者は、CD、DVD映像等により、現代中国を親しみながら、「聴・説」と「読・写」のバランスを取れた総合学習を通じて、自然な中国語を学ぶとともに、旅の先手で使えるような実用表現も学べる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①リスニングとスピーキングの訓練を通じて、中国語の基本的なコミュニケーション能力が身につけられる。</p> <p>②修得した内容をもとに将来必要に応じて発展学習ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	LL方式(Language Laboratory System)で行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	大連(1)	アカシアを模した街灯								
	2	大連(2)	路面電車								
	3	青島(1)	港湾都市								
	4	青島(2)	青島のビール祭り								
	5	上海(1)	南京路								
	6	上海(2)	新天地								
	7	上海(3)	豫園								
	8	杭州(1)	百聞は一見に如かず								
	9	杭州(2)	龍井茶								
	10	厦門	洋館が並ぶコロンス島								
	11	海南島	果物が豊富								
	12	香港(1)	2階建てトラム								
	13	香港(2)	100万ドルの夜景								
	14	桂林(1)	麗江下り								
	15	桂林(2)	桂林山水甲天下								
教 科 書	旅して学ぶ中国語2012年版(朝日出版社)										
参考書・参考資料等	中国語辞書(電子辞書を推薦)										
成績評価の方法	平常点(15%)、期末テスト(85%)で評価する。										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	授業はLL方式(Language Laboratory System)で行うので、事前にCD、DVDで予習することが勧められる。										

情報科学 I (Information Science I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	服部 哲郎(Tetsuo Hattori)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>近年、医療の現場ではコンピュータの導入が進んでおり、情報処理に関する基礎技能の修得や、コンピュータに対する活用能力が求められている。</p> <p>情報科学 I では、社会において要求される情報活用能力の習得を目標として、コンピュータシステムの基礎知識と、ソフトウェア・ツールの活用能力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①コンピュータの基本構成が説明できる。</p> <p>②Word、Power Point、Excelなどのソフトウェアを活用した文書作成ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業は、コンピュータを使って教科書の演習問題やプリントの課題を実際に作成しながら進める。コンピュータ操作の得意・不得意によって進捗度に差が生じた場合には、時間外に作業を進め、大幅に遅れることが無いようにする。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	ガイダンス、パソコンの基本概念	パソコンの歴史、ハードウェアとソフトウェア								
	2～4	情報検索と情報モラル	ファイルとフォルダ構造、ブラウザによる情報検索、コンピューター・ウィルス、著作権、情報倫理								
	5～8	文書処理の基本	メールやインターネット・システムの基本原理								
	9～10	プレゼンテーション資料の作成	Wordの基本操作、簡単な文書の作成、数式・図形の挿入、印刷設定								
	11～13	その他のツール・ソフトの操作	PowerPointの基本操作、実務に関連したプレゼンテーション資料の作成								
14～15	コンピュータ・システムの基礎知識	Excelなどの基本操作									
教 科 書	学生のための情報リテラシー Office2016/Windows10版、若山芳三郎著、(東京電機大学出版局)										
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する。										
成績評価の方法	演習課題(約40%)、記述試験など(約60%)を総合的に評価する。										
オフィスアワー	随時対応する。										
受講上の留意事項	私語、遅刻など授業の進行を妨げる行為に対しては、厳格に対処する。他の学生と大幅に遅れることが無いよう、各自予習・復習をして授業に臨むこと。										

情報科学Ⅱ (Information Science Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	服部 哲郎(Tetsuo Hattori)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>情報科学の中で重要な、確立・統計学や情報理論の基礎を学ぶ。チェビシェフ(Tschebyscheff、またはChebychev)の不等式の定理など、統計解析の入門的知識を学び、特に、実用上でも有用なベイズ(Bayes)の定理と、それに基づく推論方法を理解して修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①確率論における基本的定義や統計的検定の考え方が説明できる。</p> <p>②ベイズの定理に基づく確率的推論方法を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業は、情報理論や確率統計の基礎についての配布資料に基づいて行う。配布資料の問題や課題を実際に解きながら、その理解度に応じた講義を行う。得意・不得意によって進捗度に差が生じた場合には、授業時間外にも質問等を受け付けて学習を進め、大幅な遅れが無いようにする。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1 2～5 6～9 10～12 13～15	ガイダンス 確率、情報理論 Bayesの定理に基づく統計的推論法 統計学の基礎 種々の確立分布とBayes推定の応用	<p>情報科学における情報理論</p> <p>確率論の入門(確率と何か)、情報理論の入門(情報量とは何か、情報量とエントロピーの関係)、条件付き確率と結合確率</p> <p>事前確率と事後確率、尤度、確率のBayes更新、モンティホールの問題、3囚人問題</p> <p>平均、分散、標準偏差、代表値(平均値・中央値・最頻値等)、度数分布とヒストグラム、確率と確率密度、チェビシェフの不等式、大数の法則</p> <p>2項分布、正規分布、ポアソン分布、検定の考え方(統計学の仮説検定)、P値、有意差とは何か、Baes ROC解析</p>								
教 科 書	適宜資料を配付する。										
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する。										
成績評価の方法	レポート課題(約40%)、記述試験(約60%)などを総合的に評価する。										
オフィスアワー	随時対応する。										
受講上の留意事項	私語、遅刻など授業の進行を妨げる行為に対しては、厳格に対処する。他の学生と大幅に遅れることが無いよう、各自予習・復習をして授業に臨むこと。										

情報科学演習 (Information Science Laboratory)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	演習
担 当 教 員	服部 哲郎 (Tetsuo Hattori)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 情報科学 I で学習したOfficeのアプリケーション・ソフトの活用技術を学ぶと共に、特に、ExcelにおけるVBA (Visual Basic for Applications)のプログラミング方法について実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 Excelで基本的なプログラミング処理ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業は、コンピュータを使って教科書の演習問題やプリントの課題を実際に作成しながら進める。コンピュータ操作の得意・不得意によって進捗度に差が生じた場合には、時間外に作業を進め、大幅に遅れることが無いようにする。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	情報科学演習授業の全体ガイダンス	VBAの操作法、VBE (Visual Basic Editor)の利用、マクロ機能の活用、種々の標準関数の利用 オブジェクト指向言語の意味、Visual Basicプログラミングの文法、予約語、Visual Basicプログラミングの記述(コーディング)演習 インタフェースとしてのFormの作成 統計処理による表・グラフ作成や、グラフィックスや及び画像等を用いる資料作成の実践								
2~4	エクセルにおける計算処理、エクセルの種々の機能、関数の定義、及びマクロの記録機能										
5~7	VBAによるマクロ・プログラミングの操作法										
8~11	Visual Basic 言語の基礎										
12~15	VBAプログラミングの実践と活用										
教 科 書	情報科学 I の教科書における残りの部分を使用すると共に、特に演習用に次の教科書を使用する。 「学生のためのExcel VBA 第2版」、若山芳三郎著、(東京電機大学出版局)										
参考書・参考資料等	授業中に適宜紹介する。また必要に応じて適宜資料も配布する。										
成績評価の方法	授業に臨む姿勢(約30%)、演習レポート課題(約70%)などを総合的に評価する。										
オフィスアワー	随時対応する。										
受講上の留意事項	私語、遅刻など授業の進行を妨げる行為に対しては、厳格に対処する。他の学生と大幅に遅れることが無いよう、各自予習・復習をして授業に臨むこと。										

健康科学(Health Science)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	石川 雄一(Yuuichi Ishikawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 現代における健康課題を明らかにし、望ましい生活・運動習慣を身近な観点から見直すことによって、自らの健康観とよりよい生活実践の在り方を考えていくとともに、健康の科学的視点を学ぶことを授業の目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①現代における健康問題を明らかにできる。 ②運動と健康の関連性について科学的視点から理解することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業はスライドを使用して講義形式で進めます。時に質問等を投げかけたり、グループで考えたりする時間を作ったりします。授業終了時には小レポートも課して、授業展開を深めていきます。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	健康の概念	健康の概念について説明する。								
	2	体力の概念	猪飼道夫氏の体力の概念を中心的に考察し、体力の構造と機能を理解する。								
	3	体力があれば健康といえるか？	体力と健康の関係について考察する。								
	4	運動しないとどうなるのか	ヒトの身体が運動しないとどうなるのかについて、ベッドレスト実験の知見をもとに説明する。								
	5	運動不足と生活習慣病	運動不足と心疾患、糖尿病などの生活習慣病との関連性について説明する。								
	6	適度な運動とは？	運動処方について、その条件や内容について説明する。								
	7	有酸素運動について	有酸素運動について、運動生理学的な知識をもとに説明する。								
	8	貯筋について	筋肉と健康について考察する。								
教 科 書											
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	授業後のミニレポート、授業態度、課題レポートにより総合的に評価する。										
オフィスアワー	集中授業期間中の休み時間										
受講上の留意事項	健康について問題意識を持って受講してください。										

健康スポーツ(Health and Sports Science)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実技
担 当 教 員	石川 雄一(Yuuichi Ishikawa)、石田 佳二(Keiji Ishida)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>トレーニングやストレッチなどを実施することにより健康な体の維持や専門職に必要な身体づくりについて理解する。またスポーツにおいては、個人や集団でのレベル向上のために、チームで基礎練習や戦術練習に取り組み、スポーツの特性を理解するだけでなく、集団での役割認識や協調能力などを身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①各種トレーニングが自分の健康のため体力維持のために遂行できる。</p> <p>②バレーボールを通じて集団における役割認識や協調能力を身につけることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	健康づくりやスポーツのために必要なトレーニングやコンディショニングについて学習しながら自身の運動能力や体力を向上する。同時にスポーツの基礎練習などによる個人の技術の向上や、チームでの戦術練習やゲームなどによる集団としてのレベルアップに取り組む。またさまざまなスポーツの体験により健康づくりや生涯スポーツなどについて理解を深める。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	体力や運動能力を知る	バレーボールのパスなどの基本動作練習								
	2	柔軟性の向上	バレーボールのパスのレベルアップ								
	3	筋力の向上	バレーボールのパスのまとめとサーブの基本動作練習								
	4	瞬発力の向上	バレーボールのサーブのレベルアップ								
	5	敏捷性の向上	バレーボールのパス、サーブのまとめ								
	6	巧緻性の向上	バレーボールの連係について(三段階での連係)								
	7	協調性の向上	バレーボールの連係をゲームに生かす								
	8	コンディションの維持	バレーボールのアタックと攻撃(戦術)について								
	9	準備運動や整理運動について	バレーボールのゲームを想定した練習								
	10		試しのゲーム(バレーボール)								
	11		レベルアップや課題克服のためのチーム練習(バレーボール)								
	12		リーグ戦(バレーボール)								
	13		トーナメント戦(バレーボール)								
	14		トーナメント戦(バレーボール)								
	15		まとめ								
教 科 書											
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	活動記録の内容(出席含む)、授業への取り組み方、運動技能などにより総合的に評価する。										
オフィスアワー	特に設定しません。相談のあるかたは、授業後に時間をとります。										
受講上の留意事項	体力向上や健康づくりのために授業以外でも体を動かせる機会を確保する。 実技が可能な服装、体育館用のシューズを用意する。										

教養ゼミナール(Liberal Arts and Sciences Seminar)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	演習
担 当 教 員	加太 英明(Hideaki Kabuto)、森西 起也(Tatsuya Morinishi)、國方 弘子(Hiroko Kunikata)、塩田 敦子(Atsuko Shiota)、ジャンジュア ナジマ(Najma Janjua)、竹内 美由紀(Miyuki Takeuchi)、多田 達史(Satoshi Tada)、中村 丈洋(Takehiro Nakamura)、新美 健太(Kenta Niimi)、平川 栄一郎(Eiichiro Hirakawa)、舟越 和代(Kazuyo Funakoshi)、古山 達雄(Tatsuo Furuyama)、松村 恵子(Keiko Matsumura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>大学における学習を始めるにあたり、各教員が様々なテーマについて講演を行い、幅広い知識を伝え、その中から自ら選んだテーマについてさらに深く調べまとめることにより、学習意欲を高め、学習活動を自主的なものとし自ら考える力を養い、より問題探求能力を高める。さらに国際的な視野を身に着けるための支援を行う。また、香川県の魅力を広く学生に知ってもらう。</p> <p>学生が選んだテーマに対して、学生からの自主的な質問を受け、教員が文献・論文の検索法、読み方、書き方および研究の手法等について、経験に基づく助言を与えることにより学生の自覚を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①自ら考え、調べ、まとめることができる。</p> <p>②また、香川県についてよりよく理解し、他者にも論理的に説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	まず各教員が自分の専門に関して自由に講義を行う。そののち、学生がその中から各自自由にテーマを選び、教員の支援の下、さらに深くみずから本やネットにより調べ、レポートを作成する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～14	各教員による講演	各教員により、自らの属する学問・研究分野を中心に広く人文科学、社会科学、自然科学領域の歴史、現状、展望などの紹介等を行い、これらを通して学生の学習におけるモチベーションの高揚を支援する。また、香川県職員の方にも講演をしてもらい、香川県の魅力を発信してもらう。								
	15	自主学習	学生が選んだテーマ(各教員の講演の中から選択する)について、みずから学習を進めレポートを作成する。								
教 科 書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	学生はそれぞれのテーマについてみずから資料を検索する。										
成績評価の方法	各教員の行う試問、学習態度、レポートなどにより総合的に判定する。 配点基準は各教員に一任するが、選んだテーマによって不公平がないように調整を行う。										
オフィスアワー	各自、選んだテーマを講演した教員に相談すること。										
受講上の留意事項	どのテーマを選ぶかは自由ですが、講演を行う教員の話をしっかり聞かないと判断できません。まずしっかりと講演の内容を理解して、その上で自分が調べたいテーマを選択し、みずから本やインターネットなどで調べて、レポートを作成すること。										

Ⅱ 専門教育科目

看護学科

1 看護学科専門教育科目の履修にあたって

看護学科では、卒業時まで、「人間関係形成能力」「倫理的判断能力」「看護における判断力と問題解決能力」「連携協働する能力」「新たな看護を創造する能力」「看護の発展に貢献する研究能力」「自己研鑽する能力」の7つの看護実践能力の基礎を修得することを目指して、教育課程を編成している。

専門教育科目は、＜専門基礎科目＞と、＜専門科目＞で構成している。

＜専門基礎科目＞

人間の健康と生活環境や制度に関する知識を修得するために、「人体の構造と機能」「疾病と治療」「保健医療制度論」「疫学」「健康教育」等を配置している。さらに、国際化や地域の課題やチーム医療に関する知識の修得を目指して、「国際環境論」「チーム医療論」等の科目を配置して、学科の枠を越えて履修できるようにしている。

＜専門科目＞

看護学の専門的知識・技能を基礎から応用に向かって段階的に修得できるように、「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「母性看護学」「小児看護学」「精神看護学」「在宅看護学」「地域看護学」に区分して、1年～4年に渡って配置している。各看護学では、「講義・演習・実習」の教育形態で授業展開する。

看護学の臨地実習は、4年間で段階的に看護実践能力が発達するように配置している。1年次と2年次には「基礎看護学」を履修し、3年次で対象を拡大して「成人看護学」「老年看護学」「母性看護学」「小児看護学」を履修する。4年次前期で場を拡大して、「精神看護学」「在宅看護学」「地域看護学」を履修し、後期の「総合実習」で、チーム医療に必要な総合的な看護実践能力の修得を目指すとともに、卒業前の自己課題を明確にする。

4年次には、応用看護学から関心ある科目を選択する。また、「専門ゼミナール」で看護研究に取り組み、卒業論文として完成させる。

平成24年度以後に入学し保健師の資格取得を目指す学生は、3年次以後の保健師教育課程専攻に必要な「公衆衛生看護学」を始めとする科目を履修しなければならない。定員は20人以内である。

看護師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格（平成24年度以後は20人以内）

卒業要件（平成24年度以後入学生）（単位）

	必修	選択	計
教養教育科目	8	16以上	24以上
専門基礎科目	24	3以上	27以上
専門科目	68	5以上	73以上
計	100	24以上	124以上

*保健師を専攻する場合は、別途8単位の履修が必要となる。

2 授業科目表

専門基礎科目（看護学科）

○必修

科目名	担当教員	共通	単位	単位			時間	配当年次		卒業要件	ページ
				必修	選択	計		前期	後期		
人体の構造と機能Ⅰ	古山達雄		②	2		2	45	1		27単位以上 (必修24単位) (選択3単位以上)	39
人体の構造と機能Ⅱ	寺中正人		②	2		2	45	1			40
病理学	平川栄一郎		①	1		1	30		1		41
生化学	加太英明		①	1		1	30		1		42
病原微生物学	奥田潤		①	1		1	30	1			43
臨床心理学	竹森元彦		1		1	1	30	2			44
疾病と治療Ⅰ	樋本尚志		①	1		1	30		1		45
疾病と治療Ⅱ	塩田敦子、中村丈洋、新見道夫		①	1		1	30	2			46
疾病と治療Ⅲ	塩田敦子、中村丈洋、新見道夫		①	1		1	30	2			47
疾病と治療Ⅳ	大原昌樹、安藤延男、松村義人		①	1		1	30		2		48
疾病と治療Ⅴ	塩田敦子、幸山洋子		①	1		1	30		2		49
薬理学	二宮昌樹、小坂信二、芳地一	○	①	1		1	30		2		50
医療とME機器	和田晋一		1		1	1	30		2		51
人間工学	神邊篤史	○	1		1	1	30		1		52
保健医療制度論Ⅰ	星川洋一、筒井茂子	○	①	1		1	15	2			53
保健医療制度論Ⅱ	高嶋伸子、林公子、草薙靖男、岡野由佳		①	1		1	30	3			54
社会福祉学	岩城由幸	○	①	1		1	30		1		55
家族社会学	高倉良一		1		1	1	30	2			56
生活科学	平木民子		1		1	1	30	1			57
公衆衛生学	高嶋伸子、仁木賢、納田幸代、星川洋一		①	1		1	30		2		58
医療情報処理学	横井英人、西本尚樹	○	1		1	1	30	2			59
疫学	高嶋伸子、小山裕子		②	2		2	30		3		60
保健統計	小倉永子、前田ひとみ、藤川愛、横山勝教		②	2		2	30		3		61
健康教育	植原千明、高嶋伸子		①	1		1	30		2		62
生活環境学	須那滋		1		1	1	30	2			63
栄養学	川染節江		1		1	1	30	1			64
医療経済学	十川聖三	○	1		1	1	15		4		65
医療概論	中村丈洋	○	①	1		1	15	1		66	
国際保健論	太田安彦、新田恭子、依田健志、末澤千草、岡西幸恵	○	1		1	1	15	1		67	
国際環境論	浅川富美雪	○	1		1	1	15		1	68	
組織論	片山昭彦	○	1		1	1	15	1		69	
チーム医療論	三木佳子、國方弘子、塩田敦子、行正信康、加村晴美	○	①	1		1	15	2		70	
瀬戸内圏環境論	平篤志	○	1		1	1	15	1		71	
生涯発達学	松村恵子		1		1	1	15		3	72	
計				24	14	38	915				
卒業要件単位数				24	3	27				27単位以上 (必修24単位) (選択3単位以上)	
進級要件単位数	2年次（2年←1年）			10		10					
	3年次（3年←2年）			9	1	10					
	4年次（4年←3年）			5	1	6					

科目名	担当教員	共通	単位	単位			時間	配当年次		卒業要件	ページ
				必修	選択	計		前期	後期		
基礎看護学	看護学原論Ⅰ	平木民子	①	1		1	30	1		47単位以上 (必修45単位) (選択2単位以上)	73
	看護学原論Ⅱ	堀美紀子	①	1		1	30		1		74
	看護学方法論Ⅰ	堀美紀子	①	1		1	30		1		75
	看護学方法論Ⅱ	松村千鶴	②	2		2	60		1		76
	看護学方法論Ⅲ	小林秋恵	①	1		1	30		1		77
	看護学方法論Ⅳ	松村千鶴	①	1		1	30	2			78
	看護学方法論Ⅴ	小林秋恵	①	1		1	30	2			79
	看護学方法論Ⅵ	平木民子、堀美紀子、松村千鶴、小林秋恵	①	1		1	30	2			80
	看護教育	平木民子		1		1	15		4		81
	看護管理	平木民子		1		1	15	4			82
公衆衛生看護学	地域看護学Ⅰ	高嶋伸子	②	2		2	30	3		83	
	地域看護学Ⅱ	高嶋伸子、三木佳子	②	2		2	30		3	84	
	地域看護学Ⅲ	高嶋伸子、植原千明	②	2		2	30	4		85	
	公衆衛生看護学Ⅰ △	辻よしみ、林佳子		3		3	60		3	86	
	公衆衛生看護学Ⅱ △	辻よしみ、高嶋伸子、植原千明		3		3	60	4		87	
	公衆衛生看護学Ⅲ △	辻よしみ		1		1	15	4		88	
在宅看護学	在宅看護学Ⅰ	片山陽子	②	2		2	30	3		89	
	在宅看護学Ⅱ	片山陽子、諏訪亜季子	②	2		2	60		3	90	
精神看護学	精神看護学Ⅰ	國方弘子、土岐弘美、多田羅光美	①	1		1	30		2	91	
	精神看護学Ⅱ	國方弘子、土岐弘美、多田羅光美	②	2		2	30	3		92	
	精神看護学Ⅲ	國方弘子、土岐弘美、多田羅光美	①	1		1	30		3	93	
成人看護学	成人看護学Ⅰ	内海知子	①	1		1	30		1	94	
	成人看護学Ⅱ	内海知子、岩本真紀、岡西幸恵、新井恵津子	②	2		2	60	2		95	
	成人看護学Ⅲ	細原正子、内海知子、岩本真紀、岡西幸恵、新井恵津子	③	3		3	90	2		96	
老年看護学	老年看護学Ⅰ	吉本知恵、竹内千夏、平井智重子	①	1		1	30	2		97	
	老年看護学Ⅱ	吉本知恵、竹内千夏、平井智重子	①	1		1	15		2	98	
	老年看護学Ⅲ	吉本知恵、片山陽子、三木佳子、竹内千夏、平井智重子	②	2		2	45	3		99	
母性看護学	母性看護学Ⅰ	松村恵子、榮玲子、植村裕子	②	2		2	30		2	100	
	母性看護学Ⅱ	松村恵子、榮玲子、植村裕子	②	2		2	60	3		101	
小児看護学	小児看護学Ⅰ	舟越和代、三浦浩美、松本裕子	①	1		1	30		2	102	
	小児看護学Ⅱ	三浦浩美、松本裕子	①	1		1	15		2	103	
	小児看護学Ⅲ	三浦浩美、舟越和代、松本裕子	②	2		2	45	3		104	
応用看護学	看護研究方法論	三木佳子	①	1		1	15		3	105	
	専門ゼミナール(看護)	看護学科教員	②	2		2	30		4	106	
	看護トピックス	舟越和代、内海知子、岩本真紀		1		1	15		4	107	
	家族看護論	三木佳子	①	1		1	15	2		108	
	看護政策論	井伊久美子		1		1	15	4		109	
	災害看護論	松本登紀子		1		1	15		4	110	
	国際看護論	平木民子		1		1	15		4	111	
計				45	13	58	1,275				
臨床実習	基礎看護学実習Ⅰ	平木民子、堀美紀子、松村千鶴、小林秋恵	②	2		2	90		1	112	
	基礎看護学実習Ⅱ	平木民子、堀美紀子、松村千鶴、小林秋恵	②	2		2	90		2	113	
	公衆衛生看護学実習 △	高嶋伸子、辻よしみ、林佳子、植原千明		4		4	180	4		114	
	在宅看護学実習	片山陽子、三木佳子、諏訪亜季子	②	2		2	90	4		115	
	精神看護学実習	國方弘子、土岐弘美、多田羅光美	②	2		2	90	4		116	
	成人看護学実習	内海知子、細原正子、岩本真紀、岡西幸恵、新井恵津子	⑥	6		6	270	3		117	
	老年看護学実習	吉本知恵、竹内千夏、平井智重子	③	3		3	135	3		118	
	母性看護学実習	松村恵子、榮玲子、植村裕子	②	2		2	90	3		119	
	小児看護学実習	舟越和代、三浦浩美、松本裕子	②	2		2	90	3		120	
	地域連携看護学実習 □	三木佳子、堀美紀子、松村千鶴、小林秋恵、多田羅光美、植原千明		3		3	135	4		121	
	総合実習 △□	△ 高嶋伸子、辻よしみ、林佳子、植原千明 □ 平木民子、堀美紀子、松村千鶴、小林秋恵		②	2		90	4		122	
計				23	7	30	1,350			123	
合計				68	20	88	2,625				
卒業要件単位数				68	5	73				卒業単位73単位以上 (必修68単位) (選択5単位以上)	
進級要件単位数	2年次(2年←1年)				9		9				
	3年次(3年←2年)				18		18				
	4年次(4年←3年) ※				31	3	34				

△ 保健師教育課程を選択する場合において、履修が必要な科目

□ 保健師教育課程を選択しない場合において、履修が必要な科目

※ 保健師教育課程を選択した者は、4年次進級の際に公衆衛生看護学Ⅰを修得しておくこと。

3 専門基礎科目

看護学科

人体の構造と機能 I (Human Anatomy and physiology I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義
担 当 教 員	古山 達雄(Tatsuo Furuyama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 専門科目の内容を理解するためにはまず基礎となる人体の正常構造を知る必要がある。本講義では、細胞、組織から骨格系、筋系、神経系の構造と機能について学習していく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 骨格系、筋系、神経系の基本的な構造と生理機能について説明できる。 ② 運動の際にそれらがどのように統合されているかを説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書を中心にして最低限必要な部分を授業で取り上げる。スライドと配布プリントを用いてすすめる。各章の最後に最低限の知識が身についているかを確認するため小テストを行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2 3 4 5～7 8 9～10 11～13 14～15 16 17～18 19～20 21 22～23	細胞 組織 骨組織と骨発生 骨格系 膜電位と興奮 筋組織と筋収縮 筋系 神経組織と電気信号 脊髄と脊髄神経 脳の構造・脳血管系 運動系 自律神経系 大脳皮質の生理機能	細胞の構造・機能 組織の種類と機能 骨組織の構造と骨の発生 人体を構成する骨と関節 膜電位と興奮性細胞の特徴 筋細胞の構造と収縮の仕組み 人体を構成する筋肉と関節運動 神経細胞の興奮と伝導・伝達 脊髄の構造と反射 脳の構造と血管系・脳脊髄液 錐体路・錐体外路・大脳基底核と小脳の機能 自律神経の構造と機能 機能局在・記憶学習・睡眠								
教 科 書	トートラ 人体の構造と機能 第3版 (丸善出版)										
参考書・参考資料等	系統看護学講座 専門基礎分野1 解剖生理学 (医学書院)										
成績評価の方法	小テスト20%、定期試験80%										
オフィスアワー	12:00-13:00 研究室35										
受講上の留意事項	授業でわからないところや疑問があるときは放っておかずに可能な限り早く相談に来ること。 細胞・組織の項目については十分な時間が取れないため、生物学、化学の履修が望ましい。										

人体の構造と機能Ⅱ (Human Anatomy and physiology Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義
担 当 教 員	寺中 正人 (Masato Teranaka)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>人体の正常な機能と構造との結びつきについて理解を深める。そのために毎回小テストを行う。それぞれの学術用語を理解し、その結びつきでどのような働きが生まれるかを理解する。これらが正しく影響しあって、ヒトの生理的な活動が行われている。解剖学的な単語は、地名を覚えるのに似ている。最低限の単語を覚えていないと、医学関係者の間で正しく意思疎通ができない。さらにその形や位置が働きにどう影響するかを考える。正常な機能が損なわれたり、構造に異常が生じると病理的症状が現れるが、逆にそのことから正常な機能や構造を理解できる場合がある。したがって時には病理的症状にまで話を進めることもある。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 国家試験を念頭において、教科書に載っている単語の内容を理解できる。</p> <p>② それぞれの要素が組み合わさって、正常な身体の働きが生じることを理解できる。</p> <p>③ 代表的な解剖学の名称を覚え、その構造と、位置を把握できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>授業の目的を達成するために、授業は主に教科書に沿って行われる。教科書をあらかじめ読んでおき、生理現象の仕組みについて、わかりづらい場所のチェックや、用語の下調べをしておくことを推奨する。さらに理解の助けになるように、重要度を加味して講義で補足する、プリントを配布し、スライドを用いて説明する。</p> <p>臨床関係の話題などもここに加える。</p> <p>各章の終了後には小テストを実施する。小テストは、知識が確実にできているかを確認するために、その章で学んだ当日と、次の講義の初めに行うので、復習してほしい。</p> <p>小テストにはアンケート欄を設けているので、質問や感想など積極的に書いてもらいたい。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1 2～4 5～8 9～12 13～14 15～16 17～19 20～21 22 23	基礎知識 消化と吸収 呼吸と血液 循環系 尿路系 自律神経・内分泌 感覚器 皮膚・免疫・体温 生殖・成長 補足	<p>人体の構造と機能を学ぶための基礎知識</p> <p>栄養の消化と吸収</p> <p>呼吸と血液</p> <p>血液の循環とその調節</p> <p>体液の調節と尿の生成</p> <p>内蔵機能の調節(自律神経とホルモン)</p> <p>感覚(目の構造と視覚、耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、痛覚(片頭痛と緊張形頭痛))</p> <p>皮膚の構造と機能、生体の防御機構、体温とその調節</p> <p>生殖・発生と老化のしくみ</p> <p>各分野の補足を中心に</p>								
教 科 書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野(医学書院)</p> <p>人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第8版</p>										
参考書・参考資料等	必要な資料はプリントして配布										
成績評価の方法	毎回の小テストの結果を、講義直後と講義次回分で配転を傾斜させて評価する。講義次回分の配点が重視される。出席回数を満たしていながら得点面で不十分な場合、救済措置としてレポートを課す場合がある。										
オフィスアワー	特に設けない。質問などはメールで。>teranaka@med.kagawa-u.ac.jp										
受講上の留意事項	<p>授業に関する質問を歓迎。</p> <p>高校範囲の生物学を履修していない場合、医学に関わる分野は目をとっておいてほしい。</p> <p>大学生になって初めての半期の授業を楽しんでもらいたい。</p>										

病理学(Pathology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	平川 栄一郎(Eiichiro Hirakawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 疾患・健康逸脱状態の病態生理および病変の主要因についての知識を学び、病因論に論及する。各疾患の病理病態に共通する総論・各論について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①第1回から第5回までは病理学総論として、細胞と組織の障害、循環障害の病態、免疫や代謝障害の基礎、腫瘍の特徴について説明できる。</p> <p>②第6回以降は病理学各論として、心血管障害、呼吸器疾患、消化器疾患について説明できる。</p> <p>③内分泌疾患や生殖器・乳腺疾患では、各種疾患とともにホルモンとの関連について説明できる。</p> <p>④造血・リンパ疾患、腎・泌尿器疾患、脳神経の疾患では、各種疾患の病態を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	スライドとプリント、教科書を用いて授業を進めるが、病理学は幅広い知識が必要となる学問であるので、教科書を予習してくる。また講義中に理解度の確認のための質疑応答の時間を設ける。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	病理学序説	細胞組織とその障害、再生と修復								
	2	循環障害、炎症	循環障害の病理病態、炎症の意味と臓器障害								
	3	免疫、感染	免疫のしくみと役割、各種感染症								
	4	代謝異常	代謝異常による病理病態								
	5	腫瘍	腫瘍の分類、発がんメカニズム、がんの特徴								
	6	循環器疾患	虚血性心疾患、心疾患の病理病態、動脈硬化								
	7	呼吸器疾患	呼吸器の病理病態、肺炎、肺癌								
	8	消化器疾患1	消化器(胃、大腸)の病理病態、腫瘍								
	9	消化器疾患2	消化器(肝、胆、膵)の病理病態、腫瘍								
	10	内分泌疾患	内分泌臓器の機能亢進症、機能低下症、内分泌腫瘍								
	11	造血・リンパ疾患	造血器疾患の病理病態、貧血、白血病、悪性リンパ腫								
	12	腎・泌尿器疾患	代表的な糸球体疾患、尿路感染症と尿路の閉塞、悪性腫瘍								
	13	生殖器・乳腺疾患	前立腺疾患、精巣腫瘍、子宮頸癌と体癌、乳腺疾患								
	14	脳神経等の疾患	脳梗塞、脳出血、変性疾患、脳腫瘍								
	15	病理検査	病理組織検査、細胞診、病理解剖								
教 科 書	カラーで学べる病理学(ヌーヴェルヒロカワ)										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	定期試験および小テスト等により総合的に判断する。 定期試験(90%)、小テスト(10%)										
オフィスアワー	随時:管理研究棟3階 研究室34 メール:hirakawa@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	小テストを行うので予習、復習をしてくる。										

生化学(Biochemistry)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	加太 英明(Hideaki Kabuto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生命の基礎的現象を理解するために、生体成分の性質と働きを学ぶ。生体成分の性質、機能、立体構造について講義し、それらの物質が生体内でどのように代謝されてゆくのか理解する。さらに病態との関連に触れる。</p> <p>【到達目標】 生体を構成する物質の構造と役割、体内での変化(代謝)を理解し、健康への影響を科学的に考えることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	導入	生化学の基礎知識								
	2	糖質	糖質の生化学的性質								
	3	糖質	糖質の生化学的性質								
	4	糖質	糖質代謝								
	5	糖質	糖質代謝								
	6	脂質	脂質の生化学的性質								
	7	脂質	脂質の生化学的性質								
	8	脂質	脂質代謝								
	9	脂質	脂質代謝								
	10	アミノ酸とタンパク質	タンパク質とアミノ酸の生化学的性質								
	11	アミノ酸とタンパク質	タンパク質とアミノ酸代謝								
	12	酵素	酵素の性質と働き								
	13	酵素	酵素の性質と働き								
	14	酵素	酵素の速度反応論								
	15	体液	体液の性質と作用								
教 科 書	系統看護学講座専門基礎2「生化学」(医学書院)										
参考書・参考資料等	「わかりやすい生化学」(ヌベールヒロカワ) 「シンプル生化学」(南江堂) 「自分で作る生化学ワークノート」(メディカ出版) 「はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学」(羊土社)										
成績評価の方法	小テスト(約20%)、レポート(約10%)、筆記試験(約70%)										
オフィスアワー	随時。メール(kabuto-h@chs.pref.kagawa.jp)でも受け付ける。										
受講上の留意事項	学習内容が多いので、1回1回の講義ごとに理解していった欲しい。										

病原微生物学(Pathogenic Microbiology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	奥田 潤 (Jun Okuda)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】病原微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)の分類、形態、病原性について学ぶ。さらに、感染と免疫、感染症の予防(滅菌と消毒)、感染症の検査と診断、感染症の治療(化学療法)などについても学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 感染症の発症機構を説明できる。</p> <p>② 感染症の予防・治療に必要な専門知識について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>講義を中心に授業を進める。</p> <p>質問等によって講義内容についての理解を深める。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	微生物学の基礎①	微生物と微生物学								
	2	微生物学の基礎②	細菌の性質、ウイルスの性質								
	3	微生物学の基礎③	真菌の性質、原虫の性質								
	4	感染とその防御①	感染と感染症								
	5	感染とその防御②	感染に対する生体防御(自然免疫のしくみ)								
	6	感染とその防御③	感染に対する生体防御(獲得免疫のしくみ)								
	7	感染症の予防	滅菌と消毒、ワクチンと予防接種								
	8	感染症の検査と診断	病原体を検出する方法、生体の反応から診断する方法								
	9	感染症の治療	化学療法の基礎、各種の化学療法薬								
	10	病原細菌と細菌感染症①	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌								
	11	病原細菌と細菌感染症②	らせん菌、グラム陽性桿菌、抗酸菌、嫌気性菌								
	12	病原細菌と細菌感染症③	スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア								
	13	ウイルスとウイルス感染症①	DNAウイルス								
	14	ウイルスとウイルス感染症②	RNAウイルス								
	15	病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症	深在性真菌症、表在性真菌症、根足虫類、鞭毛虫類、孢子虫類								
教 科 書	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④[第12版第3刷]2016年版 (医学書院)										
参考書・参考資料等	病原体・感染・免疫[改訂2版](南山堂)										
成績評価の方法	定期試験(90%) 平常点(10%)										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	膨大な量の病原微生物学に関する知識を短期間で学習する必要があるため、使用する教科書の重要事項に絞って講義を行う。理解を深めるために、予習・復習を行うことが望ましい。										

臨床心理学 (Clinical Psychology)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義, 演習
担 当 教 員	竹森 元彦 (Motohiko Takemori)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 前半は、現代社会とカウンセリングについて学習するとともに、看護場面等を設定した演習を通じて自分のコミュニケーションを振り返る。後半では、臨床心理学の歴史や理論を学ぶ。以上を通して、臨床心理学やカウンセリングについての理論や実践について学習を行うことを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①現代社会の問題の背景にある心の問題について説明できる。 ②グループでの演習を通して、自分のコミュニケーションの癖を説明できる。 ③授業全体を通して、看護場面におけるカウンセリングを深めて、それを記述することができる。 ④臨床心理学の基礎理論について、授業の内容にそって説明することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	前半は、現代社会における心の問題、カウンセリングの現代的意義を論じた上で、臨床心理学の理論やパーソナリティの理論について学ぶ。後半は、看護場面におけるカウンセリング的コミュニケーションについてシナリオ法を通して学ぶ。最後に、演習として、コラージュ制作を行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2	現代社会とカウンセリング	現代社会とカウンセリングの関係について								
	3～4	事例検討	事例を検討する。								
	5～6	臨床心理学の理論	臨床心理学の理論について								
	7～9	パーソナリティの理論	パーソナリティ理論について								
	10～13	シナリオ法	カウンセリング・シナリオ法の演習								
	14	コラージュ制作	コラージュを制作することを通して(演習)								
	15	課題	レポート課題								
教 科 書											
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	受講態度を基本として、小レポート40%、レポート課題60%等により総合的に評価する。										
オフィスアワー	集中講義なので、休憩時間などに。										
受講上の留意事項	コラージュ制作のために、①切り抜いてもよい雑誌1, 2冊、②はさみorカッター、③のり(ピットのり等)を3日目に準備すること。										

疾病と治療 I (Diseases and Treatment I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	樋本 尚志(Takashi Himoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>看護職者にとって、病気の病態生理等を理解している事は看護の実践を行う上で極めて重要である。この授業のシリーズにおいては、内科疾患のうち、成人及び老人における呼吸器系疾患、循環器系疾患、消化器系疾患について、症候、病態生理、必要な検査、内科的及び外科的治療についてできるだけ具体的に学習し理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>それぞれの疾患の概念や治療法について述べられる。</p>										
授 業 の 進 め 方	呼吸器、消化器、循環器の各領域に含まれる疾患について、構造と機能、症状とその病態生理、検査と治療・処置、疾患の理解などについて学ぶ。この広い領域をわずか半年で学ぶため、限られた授業ではポイントを絞った内容となるため、学生は自主的に予習及び復習が重要である。その後に患者と接する臨地実習は、これらの疾患に対する理解なくしては不可能である。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	呼吸器総論	呼吸器系疾患を理解するための基礎的知識								
	2	各論 I	呼吸器感染症(結核を含む)								
	3	各論 II	閉塞性呼吸器疾患、								
	4	各論 III	拘束性呼吸器疾患など								
	5	各論 IV	肺腫瘍など								
	6	消化器総論	消化器系疾患を理解するための基礎知識								
	7	各論 I	食道・胃・十二指腸の疾患								
	8	各論 II	腸の疾患								
	9	各論 III	肝臓の疾患								
	10	各論 IV	胆嚢・膵臓の疾患								
	11	循環器総論	循環器系疾患を理解するための基礎的知識								
	12	各論 I	心不全・不整脈								
	13	各論 II	虚血性心疾患、心筋症								
	14	各論 II	先天性心疾患、心臓弁膜症								
	15	各論 IV	高血圧など								
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学2、3、5(医学書院)										
参考書・参考資料等	新版看護学全書 成人看護学2、3、4(メジカルフレンド社)、 標準看護学講座 成人看護学(金原出版)										
成績評価の方法	授業ごとに実施する前回授業内容における小テスト、及び総合試験により評価する。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	高校生時代に比較して、各種の疾患を理解するための実際的な医学的な内容となる。さらに学ぶ範囲が急速に広範囲に、しかも程度も深くなるため各授業の復習が必要であり、持続する実践が重要となる。										

疾病と治療Ⅱ (Disease and Treatment Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	塩田 敦子(Atsuko Shiota)、中村文洋(Takehiro Nakamura)、新見 道夫(Michio Niimi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 看護職者にとって、病気の病態生理等を理解している事は看護の実践を行う上で極めて重要である。この授業のシリーズにおいては、成人及び老人における内分泌・代謝系疾患、免疫・アレルギー系疾患、血液・造血管系疾患及び感染症の症候、病態生理、必要な検査、内科的及び外科的治療についてできるだけ具体的に学習し理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 内分泌・代謝系疾患、免疫・アレルギー系疾患、血液・造血管系疾患及び感染症の症候について説明できる。 ② それらの病態生理について概説できる。 ③ それらの診断に必要な検査について説明できる。 ④ それらの内科的及び外科的治療について概説できる。 										
授 業 の 進 め 方	広範な領域を学ぶが、限られた授業ではポイントを絞った内容となるため、学生は自主的な予習及び復習が重要である。疾患に対する理解を深め、患者と接する臨地実習を充実したものとし、将来の看護職に活かすことを目標に授業を進める。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～4	血液疾患	血液・造血管系疾患の基礎的知識と検査、治療 (中村) 赤血球系疾患 (中村) 白血球系疾患(1) (中村) 白血球系疾患(2)、血小板系疾患 (中村)								
	5～7	内分泌疾患	内分泌系疾患の基礎的知識および下垂体疾患 (新見) 甲状腺・副甲状腺疾患 (新見) 副腎疾患 (新見)								
	8～9	代謝性疾患	代謝系疾患の基礎的知識および糖尿病 (新見) 脂質異常症・肥満症・尿酸代謝障害 (新見)								
	10	免疫・アレルギー	免疫・アレルギー疾患の基礎的知識と検査、治療 (新見)								
	11	膠原病	膠原病 (新見)								
	12～15	感染症	感染症を理解するための基礎的知識 (塩田) 感染症に対すると検査、治療 (塩田) 感染症に対する予防 (塩田) 感染症の種類と病態生理 (塩田)								
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学4、6、11 医学書院										
参考書・参考資料等	新版看護学全書 成人看護学3、6、7 メジカルフレンド社 標準看護学講座 成人看護学 金原出版										
成績評価の方法	期末筆記試験にて評価する。										
オフィスアワー	研究室在室時はいつでも質問、相談を受け付けます。										
受講上の留意事項	1年で学んだ専門基礎科目である「人体の構造と機能」「病理学」「病原微生物学」の知識をもとに、同時に学ぶ専門科目である「成人看護学」、「老年看護学」等に直結する臨床医学の知識を学ぶ専門基礎科学である。学ぶ範囲が広範囲であるため、理解を深めるため授業ごとに復習することが望ましい。										

疾病と治療Ⅲ (Disease and Treatment Ⅲ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	塩田 敦子 (Atsuko Shiota)、中村文洋 (Takehiro Nakamura)、新見 道夫 (Michio Niimi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 めまぐるしく変化する医学・医療の現場において、個々の症例に応じた適切な看護を実践していくためには、疾病の成り立ちや症候、病態生理などを理解することが重要である。本講義では、腎・泌尿器系、脳・神経系、運動器系、女性生殖器系の主な疾患について、その症候、病態生理、必要な検査、内科的および外科的治療などできるだけ具体的に学習する。</p> <p>【到達目標】 ①腎・泌尿器系、脳・神経系、運動器系、女性生殖器系の主な疾患の症候について説明できる。 ②それらの病態生理について概説できる。 ③それらの診断に必要な検査について説明できる。 ④それらの内科的および外科的治療について概説できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	本講義では、各領域の疾患に入る前に、まず腎・泌尿器系、脳・神経系、運動器系、女性生殖器系の構造と機能について十分な学習を行い、各疾患の病態生理を理解するための基礎を習得する。次いで、各領域の主な疾患について、その病因や症候、病態生理、検査所見、内科的及び外科的治療法などを学習する。講義ではそれぞれの専門科医師による特別講義も予定し、学生の十分な理解が得られるよう努める。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～5	腎・泌尿器系疾患	腎・泌尿器系の構造と機能 (新見) 腎・泌尿器系疾患の症状と検査 (新見) 糸球体腎炎 (新見) 腎不全 (新見) その他の腎・尿路疾患 (新見)								
	6～7	脳・神経系疾患	脳・神経系の構造と機能 (中村) 脳・神経系の主な疾患 (中村)								
	8～9	運動器系疾患	運動器系の基礎知識 (塩田) 運動器系の主な疾患 (塩田)								
	10～15	女性生殖器系疾患	女性生殖器の基礎知識 (発生、解剖・生理) (塩田) 女性生殖器系疾患の診察と検査、月経異常と不妊症 (塩田) 子宮の良性疾患 (子宮筋腫・腺筋症・子宮脱など) (塩田) 子宮の悪性疾患 (子宮頸がん・子宮体がん) (塩田) 卵巣・卵管の疾患、外陰・膣の疾患、子宮内膜症 (塩田) 性感染症・骨盤腹膜炎、更年期障害、乳腺疾患 (塩田)								
教 科 書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学7、8、9、10 医学書院										
参考書・参考資料等	コメディカルのための内科学 第3版 医学出版社 病気がみえる Vol.9 婦人科 第2版 MEDIC MEDIA										
成績評価の方法	期末筆記試験にて評価する。										
オフィスアワー	研究室在室時はいつでも質問、相談を受け付けます。										
受講上の留意事項	1年で学んだ専門基礎科目である「人体の構造と機能」「病理学」「病原微生物学」の知識をもとに、同時に学ぶ専門科目である「成人看護学」、「老年看護学」、「母性看護学」等に直結する臨床医学の知識を学ぶ専門基礎科学である。 学ぶ範囲が広範囲であるため、理解を深めるため授業ごとに復習することが望ましい。										

疾病と治療Ⅳ (Disease and Treatment Ⅳ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	大原 昌樹(Masaki Ohara)、安藤 延男(Nobuo Andoh)、松村 義人(Yoshihito Matsumura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p><大原></p> <p>① 高齢者によくみられる疾病について、原因、病状や検査・治療を学び、高齢社会の要請に応えられる専門知識と技術を修得し、健康問題の解決に必要な判断力・思考力・適応力などの能力を養う。</p> <p>② 疾病の理解とともに、地域包括ケアシステム、在宅医療、ケアにおける看護師の役割を学ぶ。</p> <p><安藤、松村></p> <p>精神看護実践の目的は、対象者とその家族のQuality of lifeが向上するための支援であると位置づけ、対人関係的技術に基づいて、ヘルスアセスメントを行いながら、リラクゼーションやレクリエーション活動を提供しつつ、対象のストレスに焦点を当てながら自己決定に基づくセルフケア促進を支援するといった看護活動を行う。そのためには、精神疾患についての知識の習得が必要であり、本科目では、精神科診断学・症候学、代表的な精神疾患、精神科治療学を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p><大原></p> <p>① 授業で学んだ専門知識と技術を活かして、高齢者の健康問題を適切に解決できる。</p> <p>② 看護師国家試験の問題基準で要求されるレベルまで知識水準を高め保持することができる。</p> <p><安藤、松村></p> <p>① 代表的精神疾患の症状を把握できる。</p> <p>② 代表的精神疾患の対処法や治療法を理解できる。</p> <p>③ 検査方法の意義や手法を理解できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p><大原></p> <p>テキストを中心にしながら、適宜、パワーポイントや資料を用いながら授業を進める。</p> <p><安藤、松村></p> <p>視覚的理解を容易にするために、講義はパワーポイントによるプレゼンテーション方式を基本とする。講義内容をノートに筆記するのではなく、自分の目で見、耳で聞くことによる記憶を優先する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1		高齢者の特徴・症候・評価 (大原)								
	2		高齢者の循環器疾患 (大原)								
	3		高齢者の呼吸器疾患 (大原)								
	4		高齢者の消化器疾患 (大原)								
	5		高齢者の内分泌・代謝疾患 (大原)								
	6		高齢者の腎・泌尿器疾患、運動器の疾患 (大原)								
	7		高齢者の血液疾患、神経疾患、皮膚疾患 (大原)								
	8～9		序論・診断学、睡眠医学(総論・各論)、精神科症候学、リエゾン精神学 (安藤)								
	10～11		統合失調症、神経症・心身症 (安藤)								
	12～13		老年精神医学、てんかん、児童・青年期精神医学、治療学 (松村)								
	14～15		気分障害、器質性脳症候群、薬物依存 (松村)								
教 科 書	<p><大原> 系統看護学講座 専門分野21 老年看護 病態・疾患論(医学書院)</p> <p><安藤、松村> 精神医学 第5版(文光堂)</p>										
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	<p><大原> プリントアウトしたパワーポイントによるプレゼンテーションファイル</p> <p><安藤、松村> 現代臨床精神医学改訂第11版(2008)、大熊輝雄著(金原出版(株))</p>										
成 績 評 価 の 方 法	<p><大原> 定期筆記試験及び平常点により総合的に評価する。</p> <p><安藤、松村> レポート提出</p>										
オ フィ ス ア ワ ー											
受 講 上 の 留 意 事 項	<p><大原> 疑問点があれば積極的に質問してほしい。</p> <p><安藤、松村> 最も記憶量が良好な年齢層の学生であるため、書くのではなく聴くことに集中して理解してほしい。</p>										

疾病と治療Ⅴ (Disease and Treatment Ⅴ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	塩田 敦子(Atsuko Shiota)、幸山 洋子(Hiroko Kouzan)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>女性にとって妊娠、分娩は心も体も大きく変化するイベントであり、正常な経過をたどらないことも多い。母性看護、周産期の疾病に対して適切な看護を行うにあたって理解しておくべき正常と異常の特徴、病態、検査、治療について学ぶ。</p> <p>小児は大人のミニチュアではない。小児、ことに新生児・乳児の身体は、大人とは非常に異なった生理を営んでいる。したがって、なんらかの疾病にかかっている小児の診療にあたっては、この特異性に十分な配慮をし、この時期特有の種々な疾病の治療および看護をする必要があることを学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①周産期の正常と異常の特徴とその病態について説明できる。</p> <p>②リプロダクションに関わる検査(超音波断層法、胎児心拍モニタリング)について概説できる。</p> <p>③周産期の異常に対応した治療について概説できる。</p> <p>④小児特有の発達、発育が理解できる。</p> <p>⑤主な小児疾患について説明できる。</p> <p>⑥小児疾患の治療や看護の特性を理解し、概説できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>【塩田】</p> <p>まず正常妊娠・分娩に関して十分な講義を行い、周産期の各疾患の病態生理を理解するための基礎を習得した後、主な疾患について、その病因や症候、病態生理、検査所見などを学ぶ。講義では、難解な医学用語は出来るだけ平易に解説し、十分な理解が得られるよう努める。</p> <p>【幸山】</p> <p>教科書に沿って各論の講義を進めるが、講義時間が限られているため、他科疾患(整形外科、耳鼻科など)は省略する。パワーポイントとプリントを用いて、診断・症状・治療に関して図説や写真で要点を押さえた平易な説明を心掛ける。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1 2 3~5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	正常妊娠 正常分娩 異常妊娠 異常分娩 付属物の異常 正常・異常産褥 新生児 小児の疾患 事故、虐待など	<p>正常妊娠 (塩田)</p> <p>正常分娩(分娩の3要素、分娩の機転・経過) (塩田)</p> <p>異常妊娠①(切迫流・早産、子宮外妊娠、多胎妊娠) (塩田)</p> <p>異常妊娠②(妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、胎児機能不全) (塩田)</p> <p>異常妊娠③(偶発性全身性疾患、母子感染症など) (塩田)</p> <p>異常分娩(骨盤位、回旋異常、帝王切開などの産科手術) (塩田)</p> <p>付属物の異常(胎盤、羊水、臍帯の異常にともなう疾病) (塩田)</p> <p>正常産褥・異常産褥 (塩田)</p> <p>染色体異常、新生児(幸山)</p> <p>代謝、内分泌(幸山)</p> <p>免疫、感染症(幸山)</p> <p>呼吸器、循環器(幸山)</p> <p>消化器、血液、悪性疾患(幸山)</p> <p>腎・泌尿器、神経疾患(幸山)</p> <p>精神疾患、事故、虐待(幸山)</p>								
教 科 書	<p>【塩田】系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学2(医学書院)</p> <p>【幸山】小児臨床看護各論(医学書院)</p>										
参考書・参考資料等	<p>【塩田】病気がみえる Vol.10 産科 第2版(MEDIC MEDIA)</p> <p>【幸山】ナースとコメディカルのための小児科学(日本小児科医事出版社)、子供の病気の地図帳(講談社)、新生児学入門(医学書院)</p>										
成績評価の方法	期末筆記試験にて評価する。										
オフィスアワー	【塩田】研究室在室時はいつでも質問・相談を受け付けます。										
受講上の留意事項	後期で履修する専門科目「母性看護学」、「小児看護学」の基礎となる臨床の医学知識を学ぶ。妊娠、分娩、小児は特殊な病態であるので、理解を深めるため授業ごとに復習をすることが望ましい。										

薬理学 (Pharmacology)										
必修・選択の区別	必修(看護学科)、 選択(臨床検査学 科)	学年次 2	学 期 後期	単位数 1.0	時間数 30	授業形態 講義				
担 当 教 員	二宮 昌樹(Masaki Ninomiya)、小坂 信二(Shinji Kosaka)、芳地 一(Hitoshi Houchi)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>ヒトの生理機能と病態及び薬物の作用機序を理解し、薬物治療へ適用する薬に関する知識を習得する。臨床でよく用いられる薬について、薬効と副作用を体系的に理解し、服薬指導・看護の注意点を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①薬効に影響するヒトの代謝機能と相互作用を説明できる。 ②抹消神経系の化学伝達物質を説明できる。 ③中枢神経系の疾患に適用する薬物の作用機序と看護の注意点を説明できる。 ④呼吸器・消化器系の疾患に適用する薬物の作用機序と看護の注意点を説明できる。 ⑤免疫/エネルギー/皮膚/眼の疾患に適用する薬物の作用機序と看護の注意点を説明できる。 ⑥感染症/循環器系の疾患に適用する薬物の作用機序と看護の注意点を説明できる。 ⑦代謝系の疾患に適用する薬物の作用機序と看護の注意点を説明できる。 ⑧抗がん剤の作用機序と看護の注意点を説明できる。</p>									
授 業 の 進 め 方	パワーポイントとプリントを用いて授業を進行する。授業は教科書を用いて行うので、教科書をしっかり読み学習することが大切である。講師は徳島文理大学香川薬学部(二宮)、香川大学部附属病院薬剤部(芳地・小坂)が担当する。									
	回	項 目	内 容							
授業スケジュール	1～2 3～4 5～6 7～8 9～10 11～12 13～14 15	第1部 5章 6章 8章 3・4・10章 1・7章 9・14章 2章	薬理学総論 (芳地) 末梢神経系に作用する薬物 (芳地) 中枢神経系に作用する薬物 (二宮) 呼吸器・消化器系に作用する薬物 (二宮) 免疫/アレルギー/皮膚/眼に作用する薬物 (小坂) 感染症・循環器系に作用する薬物 (小坂) 代謝系に作用する薬物・輸液 (二宮) 抗がん剤 (小坂)							
教 科 書	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[3]薬理学 (医学書院)									
参考書・参考資料等	NEW薬理学(南江堂)									
成績評価の方法	課題レポート80%(課題は別途指定する)、授業態度 20% で評価する。 レポート課題は別途、二宮から指定する。									
オフィスアワー	授業の質問・相談は、徳島文理大学・二宮までメールで連絡してください(随時)。 E-mail:m-nino@kph.bunri-u.ac.jp									
受講上の留意事項	薬の薬理作用には、病気の治療に役立つ作用(有効性)と期待しない作用(副作用)がある。 薬物治療に際しては、副作用が少なく有効性の高い薬物が好ましく、もし副作用が発現した時はその初期症状に対処できる看護のポイントを習得し、臨地実習に役立ててください。									

医療とME機器 (Medical engineering)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	和田 晋一 (Shin-ichi Wada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>① 医療の発達とME機器の関連を概観し、救命救急に使用するME機器についてその基本的な仕組みと取り扱いについて学ぶ。</p> <p>② 心電図モニター波形、血液ガス値、呼吸波形などの成り立ちとそのデータを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 心電図を判読し、緊急異常波形の患者の対処ができる。</p> <p>② 血液ガス、呼吸データの測定データの判読ができ、臨床への報告ができる。</p> <p>③ ME機器の安全な設置ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業は、パワーポイントを使用し、教科書の内容を中心に講義する。また、できる限り実際の医療現場で使用されている機器を授業の中で提示し、学生自身が積極的に医療機器の持つ重要性を習得していくことを目指したい。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	ME機器	医用工学概説、医療と安全								
	2	医療機器と安全性	電氣的安全のための基礎知識、								
	3	医療機器の安全基準	医療機器のクラス別分類、装着部分の形式分類								
	4	医療機器の安全管理	安全に関する研修、保守点検、電磁波障害								
	5	心電図モニター	心電図の誘導法、装着方法								
	6～9	心電図の基礎と正常心電図	心電図、血圧、脈波の基礎知識								
	10～11	異常心電図	不整脈、虚血性心疾患の心電図判読、ペースメーカー、除細動装置の役割、救命(胸骨圧迫)方法								
	12～13	人工呼吸器	人工呼吸器、CPAP、酸素飽和度、カブノメータ								
	14	パルスオキシメータ	パルスオキシメータの原理、血液ガス(酸塩基平衡とガス交換)								
	15	その他のME機器	超音波機器、脳波機器								
教 科 書	ナースのためのME機器マニュアル(JJNスペシャルNo.90)(医学書院)										
参考書・参考資料等	必要なものは講義内でその都度紹介する。										
成績評価の方法	筆記試験(80%)、授業態度(20%)により総合的に評価する。										
オフィスアワー	質問等は随時受け付け可能。										
受講上の留意事項	医療現場で働くものとして検査結果の判読ができるように学習して下さい。										

人間工学(Human Engineering)											
必修・選択の区別	選択(看護学科)、 必修(臨床検査学 科)	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	神邊 篤史(Atsushi Kanbe)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>医療職には判断や行動の誤りが許されない場面が数多く存在する。また、患者の身体を支えるような、医療職自身に大きな負荷が生じる場面も多い。人間工学は人間の特性に合わせた職務や機器の設計方法を探求する分野であり、医療のさまざまな場面で人間工学的なアプローチによる問題の解決が図られている。この授業では、人間の身体的、心理的特性について、加齢に伴う特性の変化も含めて学習する。そして、人間の特性に合わせた環境の設計、構築方法について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①人間の身体的、心理的特性を理解したうえで、医療業務において労働災害の防止や医療安全に対し人間の特性が考慮されている点を説明できる。</p> <p>②身の回りにある人間工学的課題を探し、その課題の解決方法を提案できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	基本的には講義形式で実施する。講義の中では、基礎知識として人間の身体的・心理的特性を説明したうえで、医療分野をはじめさまざまな身の回りの人間工学的課題を例示し、その解決方法を説明する。なお、随時グループワークやレポートなどを通して、課題解決方法について受講学生が自らの考えを表出する機会も設ける。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	イントロダクション	人間工学とは、その対象は								
	2	身の回りの人間工学的課題	人間の誤り、機械の故障、対人関係などから生じる、身の回りで起こるトラブルを考える								
	3	腰痛対策(1)	生体システムとは、生体システムから見た作業のあり方								
	4	腰痛対策(2)	ボディメカニクスと看護動作、作業分析による労働管理								
	5	人体計測	人間工学における計測の目的、マルチン式計測法、モーションキャプチャなど静的・動的に人間を測る方法								
	6	生理学的測定法(1)	筋電図、心拍数								
	7	生理学的測定法(2)	脳波、脳血流								
	8	生理学的測定法(3)	皮膚発汗、フリッカ一値、エネルギー代謝率、眼球運動								
	9	心理学的測定法	比較判断法、質問紙法								
	10	計測データの分析方法	統計学的手法の説明、データ分析演習								
	11	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーとは、その要因は、リスクマネジメント								
	12	人間の認知とその情報処理	実例を体験して人間の視覚情報処理の特性を考える、人間中心設計								
	13	高齢者や障害者の特性	加齢に伴う心身の変化や、心身のさまざまな障害を理解する								
	14	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの概念、事例								
	15	心身に障害のある人を支える技術/授業の総括	アシスティブテクノロジー、テクノロジーで変わる障害者のQOL/医療福祉分野における人間工学の役割を総括								
教 科 書	講義に必要な資料は、授業中に配布します。										
参考書・参考資料等	小川鑛一:「イラストで学ぶ看護人間工学」(東京電機大学出版局)2008 佐藤幸光、佐藤久美子:「必携 医療安全に活かす医療人間工学」(医療科学社)2007										
成績評価の方法	原則としてレポート(60%)、期末試験(40%)により総合的に評価する。 質問や意見発表などを通して特に積極的に授業に参加していると認められる場合は加点することがある。 なお、期末試験の再試験は実施しない。										
オフィスアワー	随時メール(a-kanbe@sea.plala.or.jp)にて質問などを受け付けます。										
受講上の留意事項	レポートには、授業で説明した内容を幅広く包含した課題を提示する予定なので、毎回の授業の要点について復習を心がけてください。										

保健医療制度論 I (Healthcare Systems I)											
必修・選択の区別	必修(看護学科)、 選択(臨床検査学 科)	学年次	カリキュ ラムに より異 なりま す。	学 期	前 期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	星川 洋一 (Yoichi Hoshikawa)、筒井 茂子 (Shegeko Tsutsui)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 保健医療活動の根拠法令や労働関係の法規や制度に関する基本的知識を習得し、安全・安心して業務に携る保健医療従事者の役割を理解する。</p> <p>【到達目標:星川】 ①法の基礎知識を理解し、衛生法の概念・沿革・分類、厚生行政の仕組みについて説明できる。 ②医療法、医療関係資格法、保健衛生法等を理解し、医療提供体制について説明できる。 ③感染症法の基本を理解し、院内感染防止対策の重要性について説明できる。</p> <p>【到達目標:筒井】 ①看護関係法令を理解し、看護職の役割が正しく認識できる。 ②医療サービスを理解し、医療の安全について説明できる。 ③労働関係法令についての基本的知識を身につけて説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	各領域の法制度に精通した専門職が、保健医療福祉及び労働に関連する法律や様々な制度、各種計画など社会を支えている仕組みについて、行政の実際を交えて講義を行う。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	法の概念	衛生法の意義・沿革・分類、厚生行政のしくみ、医療法、医療提供の理念・定義 (星川)								
	2	医療サービス供給体制	医療機関の開設、医療計画等医療提供体制の確保、医療関係資格法、医療制度を支える法 (星川)								
	3	医療サービス供給体制	病院等の監督・立ち入り検査、診療記録・情報公開、薬事法:薬局の種類と機能 (星川)								
	4	感染症予防、環境法	院内感染、病原体等管理の適正化、医療廃棄物について (星川)								
	5	保健師助産師看護法	目的・定義、免許、業務、守秘義務、個人情報保護、他職種と職務範囲の違い(筒井)								
	6	医療過誤	医療過誤と行政処分、毒劇物取り扱い (筒井)								
	7	看護職員の確保・労働と関係法規①	看護師等人材確保の促進に関する法律、看護体制と診療報酬(筒井)								
	8	看護職員の確保・労働と関係法規②	労働安全衛生法、労働基準法、育児休業、介護休業ワークライフバランス (筒井)								
教 科 書	系統看護学講座 看護関係法令(医学書院) 看護六法(新日本法規)										
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介する。										
成績評価の方法	期末試験により評価する。										
オフィスアワー	質問がある場合は、毎回の授業終了時に申し出てください。										
受講上の留意事項	新聞報道などで話題となっていること、トピックス、保健・医療や労働・生活に関連するできごとに関心を持ち、社会人として、保健医療の専門技術職として、考える習慣を身につけてほしい。また、保健医療従事者として、常識的・社会的に必要な用語も身につけてほしい。										

保健医療制度論Ⅱ (Healthcare Systems Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	高嶋 伸子(Nobuko Takashima)、林 公子(Kimiko Hayashi)、草薙 靖男(Shizuo Kusanagi)、岡野 由佳(Yuka Okano)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 保健医療に関する行政財政のしくみや関係法規など保健活動の根拠となる基本的知識を習得し、求められる看護職の役割を考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①保健医療に関する行政財政のしくみを説明できる。 ②保健活動の根拠となる保健医療福祉に関する法規を説明できる。 ③保健医療体系の中で果たす看護の役割を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	各領域に精通した専門職により最近の保健医療福祉の動向に関する資料や実際の保健活動などの事例紹介も交えて、オムニバス形式で講義を行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	保健医療行政の概要	保健医療に係わる行政財政のしくみ、地方自治と地方分権法、行政と住民の役割（高嶋）								
	2	保健医療行政と保健師活動	保健医療行政の理念、保健師活動の理念と特徴、公務員としての保健師活動（高嶋）								
	3	地域保健の体系	地域保健法の概要、都道府県や市町村の保健活動、保健所や市町村保健センターの役割（高嶋）								
	4	地方自治体の保健医療計画	計画策定に求められるもの、総合計画と保健医療の諸計画、保健計画の策定・推進・評価、住民参画（高嶋）								
	5～6	保健計画の策定プロセス	保健計画の策定推進の実際（高嶋）								
	7	新たな課題と政策の発展	健康危機管理、自殺対策、がん対策、感染症対策（新興感染症対策・予防接種法）（林）								
	8	母子保健対策	母子保健法とすこやか親子21、次世代育成支援対策推進法（林）								
	9～10	障害者対策、難病対策	障害者基本法、精神保健対策、難病対策、特定疾患治療研究事業（林）								
	11～12	保険制度と保健事業	介護保険制度、介護保険事業と保健師の役割、医療保険・後期高齢者医療保険、国民医療費、医療費適正化対策、特定健診・特定保健指導（岡野）								
	13～14	産業保健関連法規	労働安全衛生法、労働基準法（草薙）								
	15	国際保健と保健師活動	国際保健の活動、主な機関と活動（高嶋）								
	教 科 書	標準保健師講座別巻Ⅰ 保健医療福祉行政論(医学書院)									
	参考書・参考資料等	「国民衛生の動向」、「国民福祉の動向」、「労働衛生のしおり」中央労働災害防止協会出版 その他									
	成績評価の方法	各教員が問題作成し筆記試験(100%)により評価する。									
	オフィスアワー	質問がある場合は、毎回の授業終了時に申し出てください。									
受講上の留意事項	将来、保健医療分野に従事する者として、日頃より、医療問題や社会保障制度に関する報道等に興味を持ち、自分なりの問題意識や意見を考える習慣を身につけてほしい。										

社会福祉学 (Social Welfare)											
必修・選択の区別	必修(看護学科)、 選択(臨床検査学 科)	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	岩城 由幸 (Yosiyuki Iwaki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 人が生きて行く上で生じる、様々な生活課題の解決に向け、福祉と医療の連携が重視されている現状を踏まえ、将来医療現場で働くことになる学生の皆さんが、わが国の社会福祉制度についての理念や現状、また、児童福祉や障害福祉等の社会福祉の個別対策について、その基礎的知識を理解・学ぶ事を目指します。</p> <p>【到達目標】 ①社会福祉の思想を理解できる。 ②医療と福祉の連携を理解できる。 ③児童虐待等を発見し、通報することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	看護師等、医療職にとって必要なわが国の社会福祉を中心とした社会保障制度に関する法制度やその置かれている現状をテキスト及び関連資料またDVDや新聞記事を活用して、わかりやすく授業を行います。(2回に1度程度、映像により現状を紹介します)										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	オリエンテーション	授業計画や社会福祉とは何かについて総論的な講義、								
	2	社会福祉の現状Ⅰ	現在社会の家族の現状やその変化								
	3	社会福祉の現状Ⅱ	現在社会の地域社会の現状やその変化								
	4	社会福祉の現状Ⅲ	日本国憲法と社会福祉法制								
	5	社会福祉の現状Ⅳ	ノーマラージーション等の社会福祉の理念								
	6	諸外国の福祉の歴史	イギリス・アメリカ等における社会福祉の歩み								
	7	日本の福祉の歴史	日本における社会福祉の古代から社会福祉の歩み								
	8	社会福祉ニーズとは	社会福祉ニーズについての考え方								
	9	児童福祉	児童福祉法等の児童福祉制度について								
	10	児童虐待	児童虐待防止法等の児童虐待への対策について								
	11	障害者福祉	障害者総合支援法等の障害者福祉の制度について								
	12	高齢者福祉	介護保険法等の高齢者福祉制度について								
	13	母子及び寡婦福祉	母子寡婦福祉法等の母子、寡婦福祉制度について								
	14	低所得者福祉	生活保護法等の低所得者福祉制度について								
	15	社会保障	年金等の社会保障制度について								
教 科 書	4訂版 社会福祉概論-その基礎学習のために-(中央法規出版)										
参考書・参考資料等	関係資料を授業の際、配布予定です。										
成績評価の方法	平常点及び筆記試験により評価を行います。										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	新聞・テレビ等で社会福祉関連の記事・報道が出た時は出来るだけ、気をつけて見ておいて下さい。										

家族社会学 (Family Sociology)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	高倉 良一 (Ryoichi Takakura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>私たちにとって、最も身近な存在であると思われる家族は、大きな喜びや深い悲しみを共有する人間関係である。ところが、私たちは、家族の一員が困難な問題に直面した時に、どのような対応をすれば、その苦しみを緩和できるのかという事柄についての科学的な知識をそう多くは持っていないように思われる。そこで、授業では、現代の家族が直面する様々な問題を取り上げ、家族社会学の研究成果を中心に、隣接諸科学をも参考にしつつ、問題を克服するための方途を考えてみたい。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 家族に関する基礎的な知識を習得することができる。</p> <p>② 看護師として、困難な問題に直面している家族に対して、どのような支援をなすべきかが理解できる。</p> <p>③ 受講者各自が、自らの家族の在り方を多角的な視点から考えることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>教員と受講者との間で、また、受講者間でも意見の交換ができるように、体験学習的な要素を取り入れることにする。また、受講者が、主体的に学習しようとした際に必要とされる学習技法も教授することにした。</p> <p>フューチャーマッピング、デッサンメモ、専門書の効果的な読書法、マインドマップやKJ法などによる図解の作成作業なども教授する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～2	ガイダンス	フューチャーマッピングを活用して、受講者の問題意識を明確にする。								
	3～4	家族関係図と人生設計図の作成	家族関係図と人生設計図の作成作業を通じて、家族が遭遇する可能性がある問題についての理解を深める。								
	5～7	わが国における家族関係の変化	日本社会において、家族関係が、どのように変化してきたかを紹介する。								
	8～9	親子の絆	親子関係の特質を検討し、さらに、児童虐待を行う家族の特徴を説明する。								
	10～11	結婚と離婚をめぐる問題	婚姻制度に関する研究を紹介するとともに、映画を素材としながら、結婚生活が破綻するメカニズムを考える。								
	12～13	高齢者の家族	我が国で、高齢者の家族が直面する問題を取り上げた映画を手掛かりとして、支援の在り方を検討する。								
	14～15	家族の危機	家族の一員が危機に直面した際の対応と援助を考える。								
教 科 書	系統看護学講座別巻15 家族論・家族関係論 第2版 (医学書院)										
参考書・参考資料等	芸術教育研究所編『映画のなかに福祉がみえる』中央法規出版 高橋政史『マインドマップ問題解決』ダイヤモンド社 高橋政史『必要な知識を15分でインプットできる速読術』クロスメディア・パブリッシング フランクル『夜と霧(新版)』みすず書房										
成績評価の方法	授業の感想レポートと課題レポートの内容で判定する。採点の割合は、それぞれ50%とする。										
オフィスアワー	集中講義のため、質問や相談などは、授業実施日の昼休みの間に対応する。また、授業時に、連絡先のメールアドレスを伝達する。										
受講上の留意事項	ビデオ教材などの活用や体験学習を実施するため、授業は集中講義で行う。教室を、教員と学生が共に触れ合えるような空間とすることを目指す。感想レポートについては、全員に印刷して配布し、各人の問題意識を共有できるようにしたい。										

生活科学(Living Science)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	平木民子(Tamiko Hiraki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生活科学とは、より快適な人間生活をめざして、人間生活をさまざまな視点から研究する学問である。この授業では、生活科学の知識を活用して、少子高齢化の進展が著しい日本人の生活、特に「衣・食・住」に焦点を当てて、健康と福祉の観点から現状と課題を分析考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①人間の衣生活について、世代と地域の観点から分析考察できる ②人間の食生活について、世代差や地域差の観点から分析考察できる ③人間のすまい・生活環境について、世代や地域の観点から分析考察できる ④人間の日常生活活動と生活習慣と健康との関係について説明できる ⑤人間にとっての「暮らし」「家庭」「経済」「健康」の関係について説明できる</p>										
授 業 の 進 め 方	学生自ら興味関心があるテーマに関する文献資料を収集し、得た情報を整理し分析考察してまとめる。これを効果的にプレゼンテーションして意見交換する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	人間と衣生活	人間にとっての衣生活とは								
	2	衣生活の歴史の変遷	日本人の衣生活の歴史の変遷								
	3	衣生活の地域差	環境と衣生活、衣類の調達と維持保管								
	4	衣生活と年齢・世代	衣服の快適性と志向性、ファッション文化								
	5	快適な衣生活の構築	快適な衣生活と健康生活との関係								
	6	人間と食生活	人間にとっての食生活とは								
	7	食生活の歴史の変遷	日本人の食生活の歴史の変遷								
	8	食生活の地域差	食物の調達、調理、食卓団らん、食文化								
	9	食生活の年齢・世代	栄養管理と食生活と健康								
	10	健康な食生活の構築	食の安心安全、食品廃棄								
	11	人間と生活環境	日本人の住まいの特徴と歴史の変遷								
	12	すまいの歴史の変遷	住まいの清掃・整理整頓と健康								
	13	すまいの地域差	住宅住まいと地域差と文化								
	14	すまいと年齢・世代	家族構成と住宅と暮らし								
	15	快適な住まいの構築	快適で健康的に住まうための考え方や方法								
教 科 書	ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障①健康と社会・生活(メディカ出版)										
参考書・参考資料等	国民衛生の動向										
成績評価の方法	<p>○授業参加度(10%) ○プレゼンテーション(50%) 「資料のわかりやすさ」「説明の明瞭さと説得力」「考えの深まり」 ○期末レポート(40%) 「論旨の一貫性」「言語表現の適切性」「レポートの構成とパラグラフ展開」「考察の深まり」</p>										
オフィスアワー	適宜、対応します。										
受講上の留意事項	看護学原論 I で学んだ「人間・生活・環境社会」に関連づけて、さらに生活科学に焦点化して深く学びたい人に履修して欲しいと思います。また、自ら問を立て探究し説明し議論するといった学習スキルを深化させたいと考えています。										

公衆衛生学 (Public Health)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	高嶋 伸子 (Nobuko Takashima)、仁木 賢 (Masaru Niki)、納田 幸代 (Sachiyo Nouda)、星川 洋一 (Yoichi Hoshikawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 公衆衛生の目的は、組織的な社会の活動と努力を通じて、地域に暮らす全ての人々の健康を保持増進することである。本科目では、そのための理論と実際について、わが国における公衆衛生制度の展開と保健活動の現状を中心に学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①公衆衛生の基本理念と健康課題の変遷とともに発展した公衆衛生の発展を説明できる。 ②公衆衛生からみる人間の健康状態と健康指標を説明できる。 ③人間の健康に及ぼす要因とそれを衛る仕組みを説明できる。 ④健康課題に応じた具体的な公衆衛生活動を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	まず公衆衛生の成り立ちと発展、保健・医療における疾病予防の概念、わが国の健康水準・疫学理論の基礎等について学習するとともに、日常生活のベーシックな条件である環境と健康の関係について理解し、ついで地域、学校、産業の場における公衆衛生の制度と保健衛生活動の実際について学習していく。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1 2～3 4～5 6～7 8～9 10～11 12～13 14～15	公衆衛生の理念・概要 保健統計と公衆衛生 環境と公衆衛生 食と公衆衛生 疾病の疫学と予防 公衆衛生活動のプロセス 公衆衛生活動の実際 公衆衛生の課題と展望	公衆衛生の定義・歴史、健康の概念、ヘルスプロモーション (高嶋) 人口と公衆衛生、人口動態・静態と公衆衛生、包括的保健医療の状況、健康指標 (高嶋) 生活環境、健康問題と環境、環境問題の動向、居住環境、公害、生活習慣病、化学物質リスク (仁木) 健康づくりと食、健康の維持と食品衛生、食品衛生法、食品衛生行政、国民栄養調査 (仁木) 疾病の成立と予防、疫学調査、疫学指標(率、比)感染症の疫学と予防、非感染性疾患の疫学と予防、予防接種 (仁木) 高リスクアプローチと集団アプローチ、公衆衛生看護活動の展開 (納田) 地域保健と公衆衛生学的意義、高齢者対策、精神保健対策、母子保健、難病・障害者対策 (納田) 保健行政と保健医療福祉の課題 (星川)								
教 科 書	新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度②公衆衛生学(メヂカルフレンド社) 国民衛生の動向(最新版) 厚生統計協会(必携) 別に講義資料を配布する										
参考書・参考資料等	関係資料を授業の際、配布する。										
成績評価の方法	期末試験により評価する。										
オフィスアワー	各先生への質問は高嶋を通して随時受け付け、対応する。										
受講上の留意事項	公衆衛生学は自然科学から社会科学まで、きわめて広範囲の応用科学より成り立つ実践的な学問である。保健医療制度論Ⅰ・Ⅱと関連する科目である。										

医療情報処理学 (Medical Informatics)											
必修・選択の区別	選択(看護学科)、 必修(臨床検査学 科)	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	横井 英人(Hideto Yokoi)、西本 尚樹 (Naoki Nishimoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 医療情報学とは、コンピュータの進歩・普及によって成立した比較的新しい学問体系である。さらに、近年の急速なICT化により大きな変化が起きている分野である。本講義では、病院や地域医療に活用されている医療情報システムについての見識を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①医療に関する情報を批判的に吟味し、自分で情報の善し悪しを判断できる。 ②医療情報に関する数字の意味を理解できる。 ③科学論文に記載されている方法を理解し、解析方法をトレースできる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業では、配布資料の内容を中心に行う講義と、グループごとに関連分野の課題発表を行うこととする。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	医療情報学総論	導入、スケジュールと課題の説明 医学文献の探し方 医療・健康に関する問題設定 科学と疑似科学								
	2	医療情報と倫理	セキュリティの3要素 ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート タスキギー事件、サリドマイド事件 事例検討、議論								
	3	EBM	エビデンスレベル 批判的吟味								
	4	医療制度と関連法規									
	5	地域医療と行政データ									
	6	中間発表	調査内容(リサーチクエスション)の検討								
	7	電子カルテ総論	標準化 電子保存の3原則								
	8	電子カルテ各論(部門システム)									
	9	臨床試験方法論									
	10	表計算ソフトの応用	データの要約 ヒストグラムの描画と解釈 比、割合、率								
	11	事例検討	栄養剤広告の批判的吟味								
	12	プレゼンテーションソフトによる課題作成(1)									
	13	プレゼンテーションソフトによる課題作成(2)									
	14	発表									
	15	まとめ									
教 科 書	新版 医療情報 医療情報システム編(篠原出版新社)										
参考書・参考資料等	必要なものは講義内でその都度指示、紹介する。										
成績評価の方法	講義中の質問(約30%)、課題に対するレポート(約30%)、演習課題(約40%)により総合的に評価する。										
オフィスアワー	当講義は、全て非常勤講師によって行われるため、質問等は原則として、講師来学中に行って頂きたい。										
受講上の留意事項											

疫学(Epidemiology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	高嶋 伸子(Nobuko Takashima)、小山 裕子(Yuko Oyama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>疫学の歴史や基礎的理論を理解し、公衆衛生の基盤となり健康関連現象の分析となる疫学的解析方法について学ぶ。また、健康指標について国際的情報の収集や、科学的判断を行うために疫学的方法論を適応しながら、保健師活動の基本である地域診断に役立てられるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 公衆衛生と臨床医学の基盤となる科学であることを理解し、基礎的な疫学の理論と方法を説明できる。 ② 疾病のリスク要因について疫学的手法で分析できる基礎を身につけられる。 ③ 公衆衛生における保健活動の妥当性を検討する疫学的方法を説明できる。 ④ 疫学的研究方法について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	疫学の概念及び歴史等の基礎及び疫学的解析方法について講義及び演習を行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	疫学とは	概念・定義・目的・歴史/地域看護学との関連 (高嶋)								
	2	集団の健康状態の把握	有病率・罹患率・リスク (高嶋)								
	3	〃	死亡率・年齢調整・致命率・その他の指標 (高嶋)								
	4	疫学的研究方法	記述疫学・疫学要因 (高嶋)								
	5	〃	生態学的研究・横断的研究・コホート研究 (高嶋)								
	6	〃	疫学と地域診断・調査票の作成の基礎 (高嶋)								
	7	〃	症例対象研究・介入研究 (高嶋)								
	8	スクリーニング	スクリーニングの目的・意義・評価指標 (高嶋)								
	9	疾病の予防	予防の段階・疫学研究と倫理 (高嶋)								
	10	感染症の疫学	感染症の基礎概念・食中毒と疫学調査 (高嶋)								
	11	疫学演習	アウトブレイク時の疫学的対応(確認・探索) (小山)								
	12	(ケーススタディ)	アウトブレイク時の疫学的対応(記述疫学) (小山)								
	13	〃	アウトブレイク時の疫学的対応(アセスメント) (小山)								
	14	保健活動と疫学	保健活動に活用する疫学 (小山)								
	15	疫学演習	基本的分析の自己評価 (高嶋)								
教 科 書	標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学(医学書院) 国民衛生の動向(厚生統計協会)										
参考書・参考資料等	基本からわかる看護疫学入門(医歯薬出版) 感染症疫学ハンドブック(医学書院)										
成績評価の方法	中間試験20%、最終試験70%、授業参加態度10%で総合的に評価する。										
オフィスアワー	必要に応じて対応します。										
受講上の留意事項	集団の健康事象の分析について、保健統計と合わせて理解を深めてください。										

保健統計 (Health Statistics)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	小倉 永子 (Nagako Ogura)、前田 ひとみ (Hitomi Maeda)、藤川 愛 (Ai Fujikawa)、横山 勝教 (Katsunori Yokoyama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 人間集団に発生するあらゆる健康事象を表す各種保健統計の見方や解析方法を習得する。さらに、解析した結果が健康課題を解決する方策の基礎資料となることを理解する。</p> <p>【到達目標】 ① 集団の健康現象を指標により把握でき、説明できる。 ② 保健統計の基礎的解析方法を身につけることができる。 ③ 解析した結果を適切な図表で表すことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	保健統計の基礎解析方法を講義と演習で教授し解析能力が習得できることを目指す。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～2	統計資料の見方	年次推移、地域分布、関連要因 (小倉)								
	3～4	各種保健統計の概要	人口動態、感染症発生動向調査、国勢調査、患者調査、国民基礎調査、傷病量、ICD-10、学校保健統計、レセプト (前田)								
	5～6	保健指標の性格と意味	統計の誤差と偏り、保健指標:死亡率、割合と比、罹患率と有病率、標準化の必要性、年齢調整死亡率、生命表、年次推移、平滑化、コホート観察、将来予測 (前田)								
	7～8	データ収集と記述的解析	データの種類と尺度、単純集計とクロス集計 (藤川)								
	9～10	〃	数分布、ヒストグラム、代表値、散布度、パーセント、標準偏差、相関関係 (藤川)								
	11～12	統計的推論	確率分布、期待値、正規分布、推定 (横山)								
	13～14	〃	検定、生存分析、回帰分析 (横山)								
	15	保健統計の総括	質疑応答とまとめ (横山)								
教 科 書	標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学(医学書院) 国民衛生の動向(最新版)										
参考書・参考資料等	必要なものは講義内でその都度紹介する。										
成績評価の方法	授業に臨む姿勢(約30%)、演習課題(約20%)、記述試験など(約50%)を総合的に評価する。										
オフィスアワー	随時対応する。										
受講上の留意事項	指示した場合は演習課題や記述試験に用いる電卓、定規を用意すること。										

健康教育 (Health Education)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	植原 千明 (Chiaki Uehara)、高嶋 伸子 (Nobuko Takashima)										
授 業 の 目 的	<p>【授業目的】 対象が自らの健康問題に積極的に取り組むことができる健康教育の意義とあり方が理解できる。また、健康教育の諸理論を学び、科学的根拠をもって行動変容につながる健康教育の企画と実践ができる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 健康教育の意義・目的を説明できる。 ② 対象の保健行動の変容を促す基本理論や概念を説明できる。 ③ 対象、場にあった健康教育を工夫できる実践力を身につけることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義形式、グループワーク、演習を組み合わせる。 演習では、健康教育に使用する企画書、指導案や媒体等をグループで作成し健康教育を実施する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	健康教育の理念	健康教育の目的と意義								
	2～3	保健・医療と健康教育	患者教育、予防の概念と健康教育、介護保険制度と健康教育、国民健康づくり運動『健康日本21』と健康教育								
	4～5	保健行動の関連理論	健康教育と基本理念、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション セルフケアとセルフケア教育、「生活記録」作成								
	6～7	保健行動、行動変容	人間の行動、生活行動、保健行動、保健行動の変容								
	8～9	健康教育の方法媒体	健康教育の方法と健康教育の媒体、方法媒体の選択 健康教育の過程								
	10～11	健康教育の企画・実施・評価	グループワークの説明 健康教育の企画・指導案・媒体作成(グループワーク)								
	12～13	〃	〃								
	14～15	健康教育の実際	発表、まとめ								
教 科 書	最新保健学講座<別巻1> 健康教育論(メヂカルフレンド社)										
参考書・参考資料等	医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎(医歯薬出版株式会社)松本千明										
成績評価の方法	筆記試験80%、課題とグループワークの参加状況・成果20%										
オフィスアワー	在室時に対応します。										
受講上の留意事項	グループワークでは、自分の役割を發揮しながらメンバーの力を統合して進めてください。										

生活環境学(Living Environment)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	須那 滋 (Shigeru Suna)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>地球生態系における人間と環境の相互関係を総合的に理解するとともに、人間活動において生ずる、各種環境因子ストレスによる健康影響、規制対策等についての知識を身につける。加えて環境リスク評価能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①人間の日常活動を取り巻く環境の成り立ちとあるべき姿を総合的に理解できる。</p> <p>②環境と健康の関係を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	過去の人類の歴史に遡って時系列的に考察する中で、古代医療、産業革命、近代医療、環境汚染・公害問題等の展開を通じて人間生活における環境の重要性を理解する。ついで、環境と人間の相互関係、環境規制の方式について学習し、空気・水環境、下水廃棄物処理、栄養・食環境、屋内・屋外環境（一般生活環境、学校環境、労働環境）における環境リスクの現状と課題、環境リスクモニタリング・評価手法等について学習する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	総論1	人類の健康と社会・環境								
	2	総論2	環境の概念、人間-環境系、生態系、物質循環、食物連鎖								
	3	総論3	環境因子、曝露、吸収・代謝・排泄、蓄積、量-反応(影響)関係、環境毒性学、環境と規制の方式、リスクアセスメント・マネジメント、								
	4	総論4	環境汚染・公害、公害・健康被害・補償、環境問題の変遷、								
	5	総論5	地球環境問題、環境化学物質問題、化審法、内分泌攪乱化学物質、ダイオキシン問題								
	6	空気・水環境1	エアロゾル、大気汚染物質、健康影響調査、大気環境基準、浮遊粒子状物質、微粒子・ナノ粒子								
	7	空気・水環境2	大気発がん物質、石綿問題、								
	8	空気・水環境3	水質汚濁指標、排水基準、上水道、水道水質基準、下水道・し尿、排水対策(下水道・浄化槽)、廃棄物対策、医療廃棄物、悪臭、土壌汚染								
	9	空気・水環境4	栄養・食品衛生、食品の機能、食品添加物、ADI、残留農薬								
	10・11	栄養・食環境	化学・生物学的環境と健康、VOCs、シックハウス問題、環境タバコ煙、レジオネラ症、ラドン、酸素欠乏、職場化学物質管理、環境管理手法、環境測定評価、管理濃度、許容濃度								
12・13	屋内・屋外環境1	物理学的環境と健康、温熱指数、熱中症問題、騒音、振動、光									
14・15	屋内・屋外環境2										
教 科 書	国民衛生の動向(最新版) 厚生統計協会(必携) 別に講義資料を配布する。										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	レポート、口頭試問等により評価する。ただし、口頭試問はレポートが不十分の場合、個別に実施する。										
オフィスアワー	随時。メール可。E-mail:suna-s@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	初回授業時に全資料ファイルを配布するので、以降予習復習を必ずすること。										

栄養学(Nutrition)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義, 実習
担 当 教 員	川染 節江(Setsue Kawasome)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 人々が生きるためには、食物から栄養素を食事として体内にとり込み、身体をつくり、活動するためのエネルギーを得ることを生涯くり返している。この過程で生命の維持、健康保持・増進、疾病の回復がなされる仕組みを学習し、看護職に生かす知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①炭水化物、たんぱく質、脂質などの各栄養素が身体内でどのように消化吸収され、身体に活用されるかを知り、健康づくりに役立てることができる。</p> <p>②ライフサイクルに応じた食生活および栄養のあり方を習得し、QOLの向上を考察することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	身体を構成している栄養素の特性を理解した上で、ライフサイクルごとに、何をどれだけ食べるのが適正かを知り、生活習慣病予防、疾病と栄養へと進める。また、2015年版の日本人の食事基準及び日本食品成分表を活用し適正な食生活の実践方法を学習する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	看護栄養学の流れ	栄養学教育の変遷と栄養学の方向性								
	2	食生活とQOL	「食」と健康づくりの関係、摂取栄養量の推移								
	3	ライフサイクル前半の栄養	胎生期～青年期における食生活の特徴								
	4	ライフサイクル後半の栄養	成人期・老年期の食生活の特徴、生活習慣病の予防								
	5	食行動と食品の選択	食物づくりから消化・吸収への営み、選食力の自立								
	6	栄養と栄養素	五大栄養素と水の働き								
	7	日本人の食事摂取基準	何をどれだけ食べたらいいか								
	8	消化・吸収の流れ	消化器の機能、吸収のメカニズム・良い時と悪い時								
	9	健康と栄養の関係	好ましい食生活の条件、運動の重要性								
	10	疾病と栄養Ⅰ	栄養方法の分類と特徴、小児期・思春期の例								
	11	疾病と栄養Ⅱ	成人期・老年期の疾病の特徴と食								
	12	人間と食文化・セルフケア	食の文化的要素、健康教育と患者教育、健康日本21(第2次)								
	13	現代人の食生活の課題Ⅰ	特に子どもの食生活の改善課題								
	14	現代人の食生活の課題Ⅱ	高齢期の食生活と健康維持								
	15	栄養食(普通食・治療食・介護食)の知識	栄養食づくりの基礎知識								
教 科 書	看護栄養学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	香川靖雄教授のやさしい栄養学(女子栄養大学出版部)										
成績評価の方法	定期試験またはレポート、授業への取り組みなど。										
オフィスアワー	学業等に関して質問等がある場合には、授業の終了時に申し出てください。 相談のうえ時間を決めて対応いたします。										
受講上の留意事項	看護師の仕事には、栄養学の知識は必須です。生化学などの関連科目とともに学習して看護・医療関係者として専門知識を深めるように学習して下さい。										

医療経済学 (Health Economics)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	十川 聖三 (Seizou Sogawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>経済学の基本は『もの』を売り買いして互いに利益を求め、その価値は売る側と買う側に平等に分配される対称性がある。</p> <p>一方、医療は、生命の尊厳性から命や臓器は売り買い出来ない「非営利」であり、また、正しい医療行為を受けても必ずしも満足する結果になるとは限らない「非対称性」となるなど経済学とは本質的に異なる分野であった。故に、医療は生命の尊厳性を重視した質的向上を目指すあまり、経済性を無視した設備投資や技術スタッフの増員などは、バブルの崩壊と同時に経営が破綻する傾向が生じてきた。</p> <p>この経営改善に取り組んだのは医療と経済・経営管理学が歩み寄り「医療経済学」という新しい学問であった。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①マクロ、ミクロなど経済学の基礎を学び、顧客、マーケティング、サービスなど経営管理学を理解することができる。</p> <p>②医療法の変遷や看護学・検査学の発展と推移を理解することができる。</p> <p>③医療と経済社会との効率、効果、安心・安全などのマッチングを理解することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>まず、経済学の総論について学び、経済の発展が国民生活にどのように還元されるのかを統計学などから理解する。また、医療の本質と今日までの医療の歴史を考え、経済の発展による生活の向上が医療との関係を深め、新しい学問に発展してきた医療経済学の本質を学ぶ。</p> <p>さらに、医療を支える経済、会計、法律などを学び、よりよい医療の発展を支える医療経済学を学ぶ。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	経済社会の背景や動向について	日本と国際社会がもたらす背景を学ぶ								
	2	マクロ・ミクロ経済学とは何か	需要と供給などの経済学の基礎を学ぶ								
	3	医療分野の特質と問題点	医療活動から見た社会性								
	4	医療における経営管理学の導入	経済が医療経済に及ぼす影響を学ぶ								
	5	経済・文化・暮らしと医療経営について	顧客原理に基づく需要とサービスの供給など医療との関係を学ぶ								
	6	皆保険と診療点数	診療点数(レセプト)について学ぶ								
	7	医療の経営管理の組織について	医療の人的資源の活用について								
	8	マネージメントとオペレーション機能	計画と実行、投資と利益について								
教 科 書	各毎 レジューメ配布										
参考書・参考資料等	<p>大学4年間の経済学が10時間で学べる 井堀利宏 中経出版</p> <p>経営学原理 小椋慶宏 学文社</p> <p>経営管理の倫理 宮坂純一 晃洋書房 高松大</p> <p>医療安全の経済分析 安川文朗 勤草書房</p>										
成績評価の方法	レポート提出(A-4 2枚以上)、授業態度を加味する										
オフィスアワー	随時 メール(090-9170-3100)										
受講上の留意事項	授業の要点について質問があります。										

医療概論(Introduction to Medicine)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	授業、グループ学習
担 当 教 員	中村 丈洋(Takehiro Nakamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>医学・医療の様々な問題点を考える事で、医学の発展や疾病構造の変化、国民の健康に対する意識の向上に伴う医療及び医療従事者に対する考え方の変化、予防医学の重要性などを学習し、さらに、現在社会的に問題になっている種々の医療について学ぶことにより、医療従事者に求められる倫理性や社会的使命を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 医療の歴史の概要を理解できる。 ② 医療事故および対策について理解できる。 ③ 生殖医療の概要を理解できる。 ④ 先進医療について説明できる。 ⑤ 患者権利について説明できる。 ⑥ 予防医学について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>大学生の学びへ対する基本的な姿勢は自らが主体となることである。本科目は数名からなる各グループの全員が与えられたテーマに対し、インターネット、図書館、各種マスメディアから情報を得、全員でその内容を理解した上で整理、調整し、発表するものである。このことにより未知の領域へのアプローチの仕方、方法を学び、今後の授業に対しての基礎を形成するものである。また同時に他グループの発表に対して、自分の理解できないことに関する疑問の発信、質問の仕方をも習得する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	総論	医学・医療とは何か								
	2	歴史	医学・医療の歴史とその考え方の変化								
	3	医療事故	医療事故とその防止策								
	4	生殖医療	生殖医療の動向								
	5	先進医療	先進医療と遺伝子治療								
	6	終末期医療	終末期医療(ターミナルケア)								
	7	患者権利	脳死と臓器移植やがん告知								
	8	予防医学	予防医学と生活習慣病								
教 科 書	適宜紹介する。										
参考書・参考資料等	図書館、インターネット、新聞などのメディア等で調査する。										
成績評価の方法	グループ調査内容(50%)および発表(50%)。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	原則として、学生自身が調査を行い、レポートにまとめ、分かりやすく発表する。詳細については、授業時に発表する。										

国際保健論 (Global Health)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	太田 安彦 (Yasuhiko Ohta)、新田 恭子 (Yasuko Nitta)、依田 健志 (Takeshi Yoda)、末澤 千草 (Chigusa Suezawa)、岡西 幸恵 (Sachie Okanishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 先進国と発展途上国における健康・いのち・医療・生活・教育・環境・収入等の格差を知り、その諸要因を考察し、さまざまな解決策を自分なりに紡ぎ出すことができる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 発展途上国における健康に関する諸問題について説明できる。 ② 国境を越えた健康に関する諸問題について説明できる。 ③ 健康水準の国家間・地域間格差とその要因について説明できる。 ④ 問題解決の手段や活動について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義の他に、受講者数次第で可能であれば討論を加えたい。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1		ODAとNGO、NPO その特性について (新田)								
	2		国際保健概論 (依田)								
	3		感染症コントロールへの取り組み (末澤)								
	4		リプロダクティブヘルス・栄養・労働衛生 (依田)								
	5		ミレニアムゴールとNGOの取り組み、香川のNGOによるカンボジアの保健医療分野での活動事例 (新田)								
	6		国際保健医療の研究と実践の方法 (依田)								
	7		JICAボランティア事業(ガーナ、ボリビア)について (太田、岡西)								
	8		元JICA隊員による講演								
教 科 書	国際保健医療学 第2版(杏林書院)										
参考書・参考資料等	国際保健医療のお仕事 改訂2版(南山堂) 安全保障の今日的課題(朝日新聞社)										
成績評価の方法	全8回の講義の中から1つを選択し、その内容についてレポートを提出する。 提出されたレポートを評価する(表題や名前のないもの、インターネットからのコピー&ペースト、自身の意見のないもの、字体の統一がされていないもの等は減点対象となる)。										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	ときには世界に目を転じ、国際社会が抱えるいのちと生きる機会の不平等・不公正や理不尽さに「なぜなのか」と関心をもって考えてみましょう。										

国際環境論 (Global Environment)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	浅川 富美雪 (Fumiyuki Asakawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 われわれを取り巻く環境と、環境と人間の相互作用について学び、環境の変化を地球規模で理解し、地球環境問題の国際的な関連について理解する。 これを通じ、環境に対する畏敬と良好な環境維持のために努力する心と具体的活動について考える姿勢を培い、人類が共存してゆくべき方法を探究する。また、日常的に実践するための基礎的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】 人々の健康が環境とのかかわり(生態系)の中で成り立っていることを理解し、とくに地球環境問題の科学的側面(基礎的部分)と国際的な取り組み(政治的側面)の学習を通じて、将来、医療人として人々の健康生活のために考え、行動することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	宇宙船地球号の一員として、どのように考え行動すべきか各自が判断して実践することができるよう、テキストで地球環境問題の科学的側面の基礎的部分を学び、映像等により地球と生命の歴史、地球環境の現状を理解すると同時に、最新の科学的知見、国際的な取り組み(政治的側面)を把握するためにプリントを配るなどして、授業を進めていく。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	Introduction	地球環境問題を概観する								
	2	地球と生命の歴史	地球環境を考えるための基礎知識として、地球と生命の歴史を知る								
	3	地球システムの概観	エコシステム(生態系)について学ぶ								
	4	公害・環境汚染	足元の公害・環境汚染を学び、地球環境問題へと連続して捉える								
	5	地球環境問題の科学	地球環境問題(地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨 etc.)の科学的側面を学び、現状を理解する								
	6	エコシステム(生態系)の危機	地球温暖化の将来予測とエネルギー資源のあるべき姿を考える								
	7	地球環境問題の政治	“共通ではあるが差異のある責任がある”ことを認め、国際的にどう取り組むか								
	8	まとめ	“宇宙船地球号”の未来と“Think Globally, Act Locally”について考察する								
教 科 書	地球環境の教科書10講(東京書籍)										
参考書・参考資料等	地球白書、環境白書、国民衛生の動向										
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢(レポート等含む)(20%)、試験(80%)による総合評価										
オフィスアワー	連絡先:086-440-1149(人間環境科学研究室)										
受講上の留意事項	社会の動きを知ることは重要であり、新聞等をよく読むこと										

組織論 (Organization Studies)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	片山 昭彦 (Akihiko Katayama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>組織とは何でしょうか？みなさん自身もそれぞれの立場、役割でいくつかの組織に所属し、行動しています。それは、みなさんの意識無意識の関係なく、日々繰り返され継続されて、発展あるいは衰退していきます。そして重要なことは、組織は単なる人々の集まりだけではなく、目的を達成するために組織化された集団であるということです。組織に関して、客観的に観察し検討し、主観的にみなさん自身の視点から感覚的に考察し、問題発見、解決への方法論等を組織として考えます。組織、組織力に関して学習し、得た知識、思考方法等が、今後のみなさんのキャリアの一助となることを目的とします。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①組織および組織運営の基礎的な事項を説明することができる。</p> <p>②組織運営について実践的に思考することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>講義形式とグループワーク、グループディスカッション等を併用します。</p> <p>ケーススタディにおいては、ロールプレイングも行います。</p> <p>授業の進捗状況、環境等により、授業項目順番、内容を変更する場合があります。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	組織とは何か？	組織の概念								
		組織力とは何か？	組織力の概念								
	2	組織づくりのマネジメント	時間軸：タイムマネジメント								
			空間軸：環境設定 場をつくる								
	3～4	組織の中の個人	組織形態 ラインアンドスタッフ組織等								
			健全な競争意識								
			組織における個人としての行動								
			個人の動機づけ								
	5～6	組織の中の集団	個人の意思決定								
			組織における集団としての行動								
			人と人をつなぐコミュニケーション								
			リーダーシップの発揮								
	7	組織力を高める	組織の変革								
			組織のライフサイクル								
			生き物としての組織								
			物語性とバイアス								
	8	ケーススタディとまとめ	組織内のストレスとサポート								
			ケースから考察 まとめ								
教 科 書	特に指定はしません。										
参考書・参考資料等	「組織」に関して、時事的な資料等から情報入手しておいてください。関連資料等は、講義当日に配布します。										
成績評価の方法	グループワーク・グループディスカッションへの参加度(50%)、レポート(50%)により総合評価します。										
オフィスアワー	授業に関する質問等は、遠慮なくメールにて連絡してください。E-mail : kata@sg-u.ac.jp 授業当日、休憩時間、終了後も可能です。										
受講上の留意事項	グループワーク、グループディスカッション等もありますので、受講生みなさんの積極的な授業への参加を期待しています。										

チーム医療論 (Interdisciplinary Medicine)											
必修・選択の区別	必修(看護学科)、 選択(臨床検査学 科)	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	三木 佳子 (Yoshiko Miki)、國方 弘子 (Hiroko Kunikata)、塩田 敦子 (Atsuko Shiota)、行正信康 (Nobuyasu Yukimasa)、加村 晴美 (Harumi Kamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 多種多様な職種と協働が常態化している医療現場で、チーム医療を展開し質の高い医療サービスを提供が実践できるようになるために、チーム医療の意義と実際を理解し、多職種協働が行える基礎的能力を習得する。</p> <p>【到達目標】 ①信念が相違する多職種が協働することによる問題を解決する方法が説明できる。 ②チーム医療における看護師、臨床検査技師、医師、管理栄養士の役割が説明できる。 ③多種多様なチーム医療の意義と役割が説明できる。 ④チーム医療の課題について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	1回はテキストとチーム医療推進方を活用してチーム医療の概要の講義、2回でチーム医療を実践するための姿勢の講義を行う。1回終了後に課題テーマの希望調査を行いチーム編成、2回にテーマを決定する。3回～6回は、専門職の立場からチーム医療における職種の役割を理解するための講義となる。7回・8回では、チーム医療の実際と課題について検討しグループ発表を行う。課題発表の準備は時間外のグループ学習となる。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	チーム医療の概要	チーム医療とは、意義、課題(三木)								
	2	多職種協働の基本姿勢	信念対立解明アプローチ(國方)								
	3	看護師の役割	チーム医療をマネジメントする看護師の役割(三木)								
	4	臨床検査技師の役割	臨床検査技師のチーム医療への参画(行正)								
	5	医師の役割	医師の立場から、医師・歯科医師連携(塩田)								
	6	管理栄養士の役割	管理栄養士のチーム医療参画の実際(加村)								
	7	課題発表①	チーム医療の実際(三木)								
	8	課題発表②	チーム医療の課題(三木)								
教 科 書	チーム医療論(鷹野和美編著、医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	チーム医療推進のための基本的な考え方と実践的事例集(チーム医療推進方策検討ワーキンググループ、厚生労働省ホームページ) 信念対立アプローチ入門—チーム医療・多職種連携の可能性をひらく(京極真著、中央法規) チーム医療を成功させる10か条—現場に学ぶチームメンバーの心得(福原麻紀著、中山書店)										
成績評価の方法	毎回のコメントシート(40%)、グループの課題発表または運営(30%)、課題レポート(30%)										
オフィスアワー	随時相談 miki-y@chs.pref.kagawa.jp(三木)										
受講上の留意事項	わが国では、医療・看護・介護のあらゆる場面で、複数の職種が共働することが常態化されている。このため、チーム医療論は、臨地実習、実践を遂行するために基盤となる知識であることを理解し授業に望んで欲しい。										

瀬戸内圏環境論 (Environmental Studies of the Seto Inland Sea Region)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	平 篤志 (Atsushi Taira)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>本授業は、瀬戸内地域の自然的環境のみならず、人文社会的環境も同程度に視野に入れて、瀬戸内圏の環境を総合的に理解することを目標とする。分析の視点は、自然と人文を総合的に扱ってきた地理学的な視点を重視する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①環境の概念について説明できる。 ②瀬戸内海の特徴について説明できる。 ③瀬戸内地域の特徴と課題について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	まず、環境に関する基本的概念を整理し、つづいて瀬戸内海の特徴と人間活動による影響について考察する。合わせて瀬戸内海地域の自然的特徴を概観する。引きつづいて瀬戸内地域の社会的経済的発展と環境変化について、歴史的視点を交え考察する。最後に瀬戸内圏の美しさについて考察し、まとめとする。授業では、ビデオも使用し、視覚的にも瀬戸内地域と瀬戸内海の理解向上に努めたい。講義を主体とするが、一部アクティブラーニングも取り入れる。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	環境とは何か	自然的特徴、人文的特徴								
	2～3	瀬戸内海の特徴	地形的特徴と海水の運動、人間活動と環境変化								
	4	瀬戸内地域の歴史的発展	近世社会の発展と瀬戸内地域、農村地域社会の特徴								
	5～7	瀬戸内地域の発展と課題	まとめの小レポート								
	8	まとめ：瀬戸内圏環境の価値一次世代に残すために	工業活動の発展と地域開発、環境汚染と防止策の歴史、本州四国連絡橋と瀬戸内海新時代の到来、環境系新産業の創造、瀬戸内の美しさ								
教 科 書	特に定めない。										
参考書・参考資料等	参考となる文献は、授業中に紹介する。										
成績評価の方法	授業への取り組みとレポートの総合評価 授業への取り組み10%、レポート(授業の内容理解)90%										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	2日間の集中講義であるので、単位取得には両日出席が求められる。										

生涯発達学 (Lifelong Developmental Studies)											
必修・選択の区別	選択	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	松村 恵子 (Keiko Matsumura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 人間の生涯に起こる機能的・形態的・構造的変化と普遍、人間の可塑性などの現象について生涯発達学の視点から学び、人生の Producers としての個人と対峙するとともに、保健・医療・福祉の領域で活動する専門職者の役割について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①人間の発達に関する自らの学習内容を記述し整理できる。 ②生涯発達について説明できる。 ③現代社会に生きる人間の生活に起こっている現象と生涯発達の関係について説明できる。 ④人間の可塑性について説明できる。 ⑤人生のproducersとしての個人についての考えを説明できる。 ⑥生涯における性の発達から現代社会の様相と性役割について、問題、課題、理想について発表できる。 ⑦生涯発達の視点から、いのちと対峙する・知る・為す・他者と共に生きる・人間としてよりよく生きることについて自らの考えを記述できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義では、視聴覚教材 (パワーポイント、DVDなど) を用いて知識や学生自らの考えが深まるように説明する。演習では、学生・教員間での討論によって自らのライフコース・ライフデザインを構想できるようにする。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	人間の発達	人間の生涯と発達の概念 ①発達とは								
	2	生涯発達の概念	発達と成長と発育の関係								
	3	現代社会と生涯発達	長くなった人生 ①生涯発達という現実								
	4	人間のしなやかさと生涯発達におけるライフデザイン	自らの発達を Produce する人生								
	5	人生の Producers としての個人	人間の可塑性 ①可塑性の限界 ②ライフコースにおける獲得と喪失								
	6	生涯における性役割	発達理論からの考察								
	7	性アイデンティティ	人間の生涯における機能的・形態的・構造的変化と普遍 ①性と性別 ②性役割 ③性類型化								
	8	専門職者の生涯における発達<演習:自らのライフデザインの構想>	Produce する生涯発達 ①生涯発達への支援								
教 科 書	「発達支援のための生涯発達心理学」前原武子編(松村恵子 共著) (ナカニシヤ出版)										
参考書・参考資料等	授業において適宜紹介する。										
成績評価の方法	授業に臨む学習姿勢、討論での発言など、学習過程における段階的な評価を重要視する。具体的には、形成的評価(学習課題に対する考察内容など)30%、単元毎に提出された課題内容20%、総括的評価(終講後の課題論文)50%とする。										
オフィスアワー	・在室時、所用や来訪者がいなければ、いつでも応対します。										
受講上の留意事項	母性看護学Ⅰ・Ⅱ、母性看護学実習履修後の選択科目として、さらに人間の生涯発達に関する知識と理論に基づいて考える力を、楽しく豊かに育てられるようとする姿勢と、現代社会における問題の在り処や、保健・医療・福祉に携わる専門職者としての生涯発達支援について深く考えようとする姿勢に期待します。										

4 専門科目

看護学科

看護学原論 I (Principles of Nursing I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	平木 民子 (Tamiko Hiraki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 看護とは何か、看護職の役割は何か、看護学とはどのような学問なのか、このような問いを視点として多角的に探求し、今後の看護学全体を学ぶ上での土台づくりと動機づけをはかることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①看護とは何かを探求する姿勢をもち、自分で考え自分の言葉で表現できる。 ②看護の歴史的背景と、現代社会における看護の意義について説明できる。 ③看護の基本的概念(健康、環境、人間、看護)について説明できる。 ④看護の活動の場とそこでの役割について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>「講義を聴く」「文献を読む」「考えをまとめて発表する」「人と意見交換する」「レポートを書く」などの学習活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業後、「得た知識を活用して自分の考えをまとめる」の課題に取り組む ・グループプレゼンテーションでは、プレゼンを聞いて同僚評価を行う ・レポートの書き方に沿って期末レポートを書く 										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	看護とは	看護の本質、看護の役割と機能								
	2	看護とは	看護の継続性と情報共有								
	3	看護の対象の理解	人間のこころと身体、生涯発達し続ける人間								
	4	看護の対象の理解	人間の暮らし、人間と環境								
	5	健康の捉え方	健康とは何か								
	6	職業としての看護	ナイチンゲールの功績								
	7	看護職の教育の歴史	戦後の日本の看護教育の歴史								
	8	看護職の就業状況	法的規定と看護教育制度								
	9	看護職の役割拡大	社会ニーズと看護の専門性								
	10	看護サービス提供	サービスとしての看護、診療報酬								
	11	演習発表①	<11~15回>								
	12	演習発表②	7人/1グループで、各課題に関する発表ができるように準備して当日のパフォーマンスに発揮する。								
	13	演習発表③									
	14	演習発表④									
	15	演習発表⑤									
教 科 書	ナーシング・グラフィカ「看護学概論」(メディカ出版)										
参考書・参考資料等	授業開講時に資料および文献リストを配布する。										
成 績 評 価 の 方 法	<p>○授業後の課題小レポート(30%)</p> <p>○グループワーク発表(30%)</p> <p>「主張がはっきりしている」「理由の説明がわかりやすい」「例やデータを適切に引用している」 「序論・本論・結論が明解」「発想が独創的で興味深い」「声(大きさ・スピード・間)」「アイコンタクト」 「スライドの分量と流れ」「スライドの見やすさ」「チームワークが良い」</p> <p>○期末レポート(40%)</p> <p>「全体の論理性」「内容に相応しいサブテーマ」「動機が明確」「見出しの適切性とレポート全体構成」 「効果的なパラグラフ展開」「句読点の使い方と簡潔明瞭な文章」「他者の意見と自分の意見の区別」 「読み手が納得できる説明説得主張」「探究したことから看護に対する考えの深まり」 「文献資料の活用と引用」</p>										
オフィスアワー	適宜、対応する										
受講上の留意事項	大学で「看護学」を学ぶ導入科目です。看護とは何かを自ら探求し、批判的に考える力や言葉で表現する力を鍛えていきましょう。										

看護学原論Ⅱ (Principles of Nursing Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	堀 美紀子 (Mikiko Hori)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>看護専門職の役割、機能、活動について倫理的諸問題と関連づけて理解する。特に看護の対象である人間の尊厳や価値を重視し、対象者の権利擁護について考察する。本科目で学ぶ看護倫理は、看護として良いあり方を模索する学問であり、看護の知識・技術をどのように提供するかという態度や行動に関わる看護学の土台である。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①看護の対象である人間の尊厳や価値、対象者の権利擁護について理解できる。</p> <p>②看護倫理のアプローチについて理解できる。</p> <p>③看護実践における倫理的問題にはどのようなものがあるか、社会の中でどのような議論の視点があるか理解し、自分なりの意見を持ち意見交換することができる。</p> <p>④倫理的問題に対応するための思考過程を知り、倫理的問題と向き合う姿勢を身につけることができる。</p> <p>⑤看護専門職の役割、機能、活動について倫理的諸問題と関連づけて考察できる。</p> <p>⑥看護専門職のあり方、個々の看護観等、自分の考えを深めることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	まず、「講義」で看護倫理の基礎を学ぶ。その後、ドラマを視聴し、その倫理事例から倫理的問題、その解決策等をグループで意見交換する。また、倫理事例のディベートに向けてグループワークし、発表、討論を行う。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	看護倫理とは	授業ガイダンス、看護倫理を学ぶ意義、価値・価値観の形成								
	2	専門職の倫理	看護の倫理原則、看護実践上の倫理的概念、看護実践と倫理								
	3	〃	専門職に求められる倫理、看護職の法的責任、倫理的責任								
	4	〃	基本的人権、人間の尊厳、患者の権利、医療過誤								
	5	生命倫理とは	生命倫理とは、自己決定権とインフォームド・コンセント、守秘義務								
	6	生殖の生命倫理	優生思想、人工妊娠中絶、出生前診断、生殖補助技術								
	7	死の生命倫理	終末期の諸問題、生活の質 (QOL)								
	8	〃	脳死と臓器移植、尊厳死、安楽死の諸問題								
	9	ライフステージの生命倫理	ライフステージにおける健康問題と倫理的諸問題								
	10	倫理的問題へのアプローチ	看護実践における倫理的諸問題								
	11	〃	倫理的シナリオ、倫理的問題へのアプローチ								
	12	事例分析	倫理事例のディベート①②								
	13	〃	倫理事例のディベート③④								
	14	〃	倫理事例のディベート⑤								
	15	世界の健康問題と倫理	世界の健康問題と倫理的諸問題、まとめ								
教 科 書	系統看護学講座 別巻 看護倫理 (医学書院)										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	授業参加度 (20%)、ディベート (10%)、筆記試験 (70%) により総合的に評価する。										
オフィスアワー	質問や相談等がある場合は研究室に来てください。										
受講上の留意事項	教養教育科目の「哲学」・「倫理学」・「法学」などの学修は、本科目の理解をより深めることにつながると思います。										

看護学方法論 I (Nursing Methodology I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	堀 美紀子 (Mikiko Hori)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 「看護における援助的人間関係を形成する」ために必要な「コミュニケーション・対人関係・援助的人間関係」に関する理論的知識を得ると共に、実践に活かすための「コミュニケーション技法・態度」を習得する。自分のコミュニケーション能力を高める方法を知って、今後の「日常生活、社会生活、看護の実践場面(看護学実習+看護職に就いてからの実践)」で活かせるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コミュニケーション、援助的人間関係の基本的な考え方が理解できる。 ② 自分を知り、自分を受け入れることができる。 ③ 相手の話を聴き、相手を受け入れる姿勢を身につけることができる。 ④ 対人関係を発展させるためのコミュニケーション技法を体験する。 ⑤ 集団の中でのコミュニケーション技法を体験する。 ⑥ 患者－看護師関係と看護師の関わりの意義について理解できる。 										
授 業 の 進 め 方	「講義」と「演習」を組み合わせる授業を行う。まず、講義でコミュニケーションの基礎を学ぶ。その後、課題によって2～4人のグループになり、グループで自由にコミュニケーション演習を行い、その振り返りをする。授業の終わりに演習での振り返りをレポートにして提出する。演習時のグループ編成は、毎回変える。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1～2	コミュニケーションとは	授業ガイダンス、コミュニケーションの構成要素 人間と人間の相互交流のしくみ、人間関係の難しさ								
	3～4	自己理解	自己理解と自己受容 アサーションとエゴグラム								
	5～8	コミュニケーションスキル	相手の話を聴く、相手を理解する、受容する 話を聴く心構えとスキル(質問、雰囲気、要約、感情表現) 明確に話す、感情をあつかう、共感する 自己開示する、自分を表現する、会話を発展させる								
	9～12	看護場面のコミュニケーション	患者の情報収集、患者のニーズ把握、全体像把握 患者の行動を促す、動機づける プロセスレコードの目的と分析方法 看護師としてのコミュニケーション能力を高める方法								
	13～14 15	集団の中でのコミュニケーション 実習に向けて	集団コミュニケーション(グループ・ダイナミクス、グループワーク)、集団規範とリーダーシップ、集団討議のスキル 教員、実習指導者、看護師、患者との関係								
教 科 書	基礎看護技術、南江堂										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	授業参加度(30%)と演習課題(70%)により総合に評価する。										
オフィスアワー	質問や相談等がある場合は研究室に来てください。										
受講上の留意事項	本授業では、人間の特性や自分らしさを活かしながら、実際の日常場面や看護場面で活用できるコミュニケーション技術を学びます。講義と演習に集中して取り組みます。										

看護学方法論Ⅱ (Nursing Methodology Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	松村 千鶴 (Chizuru Matsumura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 看護の対象となる人の生活上の基本的ニーズについて学び、健康的な日常生活行動(活動と休息、環境調整、身体の清潔、感染予防、栄養と食事、排泄)を促進する基本的な援助技術について習得する。さらには、対象者に安全で安楽な看護技術が提供できるわざを磨き、看護専門職としての応用力や態度を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人体の構造と機能の知識が対象者の観察に活用できる。 ② Evidence-Based Nursing (EBN) の理念と必要性が説明できる。 ③ 看護援助の実証研究結果の活用ができる。 ④ 事例の演習を通して、日常生活援助が必要な対象者に対し適切な援助方法を考え、具体的な援助技術を身につけることができる。 ⑤ 対象者の立場に立った安全と安楽に対する知識と行動を身につけることができる。 ⑥ 自分の行った看護援助を客観的に評価し、相手を尊重する態度を身につけることができる。 										
授 業 の 進 め 方	まず「講義」、「VTR鑑賞、デモストレーション」で援助技術の基礎を学ぶ。その後「技能演習と事例を用いた応用演習」を通してその「振り返りおよび評価」を行う。 様々な技術を学ぶので、時間外の自己練習により技術の習得に努めること。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～4	看護技術とは、授業の進め方、環境に働きかける援助	<ol style="list-style-type: none"> ① 病床環境を知る(環境測定) ② 快適な病床環境をつくる(ベッドメイキング) 								
	5～8	活動と休息に関する援助	<ol style="list-style-type: none"> ① 生活リズムの調整と休息・睡眠を促す ② 安全で安楽な体位変換と体位を知る(体位・体位変換) ③ 安全で安楽な移動、輸送をする(移動・輸送) 								
	9～14	清潔・身だしなみの援助	<ol style="list-style-type: none"> ① 全身の清潔について知る(口腔ケア、手浴、足浴) ② 安楽で快適な清潔援助を行う(全身清拭、陰部洗浄) ③ 安楽に寝衣・寝具を交換する(寝衣と寝具交換) ④ 安楽な洗髪を行う(洗髪) 								
	15～18	感染・事故防止を促進する援助	<ol style="list-style-type: none"> ① 感染とその予防について知る(手洗い、薬液消毒) ② 滅菌物の取り扱いを体験する(無菌操作) 								
	19～22	食事・栄養摂取に関する援助	<ol style="list-style-type: none"> ① 食べることと栄養摂取について知る(経管栄養法) ② 安全で安楽な食事の援助を行う(食事摂取への援助) 								
	23～26	排泄に関する援助	<ol style="list-style-type: none"> ① 排泄のメカニズムを知る(便器・尿器使用法) ② 安全で安楽な排泄の援助を行う(浣腸、導尿) 								
	27～30		まとめ(履修実技のチェック)								
教 科 書	資料を配布 基礎看護技術-看護過程の中で技術を理解する-(香春知永編集、南江堂)										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。 写真でわかる実習で使える看護技術(吉田みつ子、インターメディカ)										
成績評価の方法	授業態度、筆記試験、実技チェック、レポート等により総合評価(筆記試験50%、レポートなど50%)										
オフィスアワー	常時可能です。										
受講上の留意事項	人体の構造と機能、「疾病と治療」、「看護学原論Ⅰ」等、関連科目で習得した知識をもとに学習を進めます。提供する看護技術が効率的で安全・安楽であるために、時間外の自己練習も含めて主体的に基礎的知識・技術・態度を学ぶことを期待しています。										

看護学方法論Ⅲ (Nursing Methodology Ⅲ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	小林 秋恵 (Akie Kobayashi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 適切な看護実践を導く根拠となる対象者の健康に関する情報、特に身体的情報を的確に収集しアセスメントするための専門的知識と技術を習得する。この学びから看護専門職における専門的知識、コミュニケーション技術、観察・測定技術、判断技術を発展させていく態度を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護実践における対象者の身体的な健康状態を把握する必要性について説明できる。 ② 生命維持の基盤となる循環器・呼吸器系の構造と機能および関連する生活行動について説明できる。 ③ 循環器・呼吸器系の状態を判断するために必要な観察・測定技術を実施できる。 ④ 対象者の循環器・呼吸器系に関するニーズを把握し、看護技術を提供する過程について考えることができる。 ⑤ 対象者の循環器・呼吸器系に関するニーズ充足のための看護技術を実施できる。 										
授 業 の 進 め 方	「講義と技術演習」、「小テストと技術試験」、「グループワーク」で目標が達成できるようにする。本科目は、「人体の構造と機能」の知識が基盤となるので予習・復習をして臨むこと。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	ヘルスアセスメント	看護におけるヘルスアセスメントの意義								
	2	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントの目的・方法・基本技術								
	3	バイタルサイン、循環器・呼吸器系のアセスメント	循環器・呼吸器系の構造と機能[小テスト]								
	4～5	バイタルサインのアセスメント	バイタルサインの測定とアセスメント								
	6～7	循環器・呼吸器系のアセスメント	循環器・呼吸器系のフィジカルアセスメント								
	8～9	バイタルサインのアセスメント	技術試験：バイタルサインの測定とアセスメント								
	10～11	循環器・呼吸器系のアセスメント	技術試験：循環器・呼吸器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント								
	12～13	体温を調節する技術 安楽を確保する技術	体温に関するニーズと援助技術 安楽を確保する技術								
	14～15	呼吸を楽にする技術	呼吸に関するニーズと援助技術								
教 科 書	基礎看護技術-看護過程のなかで技術を理解する- 改訂第2版 香春知永他編集(南江堂) フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 山内豊明(医学書院)										
参考書・参考資料等	看護形態機能学-生活行動からみるからだ- 第3版 菱沼典子(日本看護協会出版会)										
成績評価の方法	期末試験(40%)、小テスト(20%)、技術試験(30%)、グループワーク等の参加度(10%)で総合的に評価する。										
オフィスアワー	常時対応します。										
受講上の留意事項	講義の内容を理解するためには「人体の構造と機能」の知識は必修です。正確な技術の習得ができるよう、仲間と協力しながら主体的に練習することを期待しています。										

看護学方法論Ⅳ (Nursing Methodology Ⅳ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義, 演習
担 当 教 員	松村 千鶴 (Chizuru Matsumura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>疾病や障害が引き起こす生活機能の低下についてアセスメントし、対象者に最適な看護を行うための援助方法について学ぶ。この学びが、今後の臨地実習での的確なヘルスアセスメントの実施と、それに基づく判断・行動および援助の計画・実施に結びつくことをねらう。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①健康障害のある対象者の日常生活行動についてアセスメントし、安全で安楽な生活が送れるためのフィジカルイグザミネーションの基本的な援助技術を身につけることができる。</p> <p>②看護実践の場に即した事例の演習を通して、個々の対象者の日常生活行動を看護専門職者の観点で確実にアセスメントし、疾病による生活機能レベルに応じた援助がイメージできる。</p>										
授 業 の 進 め 方	「小テスト」、「講義」、「VTRの鑑賞およびデモンストレーション」、「技能習熟のための演習と事例を用いた応用演習」、「評価」で、到達目標を達成する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2	消化・吸収および排泄に障害がある対象者の生活援助①	消化器系のアセスメント								
	3～4	消化・吸収および排泄に障害がある対象者の生活援助②	消化器系のアセスメント								
	5～6	活動・運動機能に障害がある対象者の生活援助①	筋・骨筋系のアセスメント								
	7～8	活動・運動機能に障害がある対象者の生活援助②	脳神経系のアセスメント								
	9～10	活動・運動機能に障害がある対象者の生活援助③	脳神経系のアセスメント								
	11～12	事例演習	グループワーク								
	13～15	事例演習 アセスメントと援助	事例演習発表								
教 科 書	資料を配布 フィジカルアセスメントガイドブック(山内豊明著、医学書院)										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	授業態度、筆記試験、実技チェック、小テスト等により総合評価(筆記試験60%、小テスト40%など)										
オフィスアワー	研究室の方に来てください。常時可能です。										
受講上の留意事項	「人体の構造と機能」、「疾病と治療」、「看護学方法論Ⅱ」等、関連科目で習得した知識をもとに学ぶことが重要です。さらには、看護実践の場に応じたより確実な援助技術の習得ができるような主体的な取り組みを期待しています。										

看護学方法論Ⅴ (Nursing Methodology Ⅴ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	小林 秋恵 (Akie Kobayashi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 看護の対象者が診療(診察・検査・治療)を受ける上で生じるニーズについて理解を深め、対象者の安全・安楽を守りながら倫理的な態度で看護を提供するための専門的知識と技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 診察・検査・治療をうける対象者のニーズと看護の役割について説明できる。 ② 薬物療法の種類・目的・方法を理解し、対象者へ提供する過程について説明できる。 ③ 各与薬法を安全・安楽・正確に実施できる。 ④ 皮膚・創傷を管理する援助技術を考えることができる。 ⑤ 一次救命処置の基本技術を実施できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	「講義と技術演習」、「小テストと技術試験」、「グループワーク」で目標が達成できるようにする。本科目は、薬理学の知識が必要であるので予習をして臨むこと。また、与薬技術は生体に侵襲を及ぼすので、主にモデル人形やシミュレータを用いて技術演習を行う。なお、技術試験の前には小テストで知識の確認をする。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	診療に伴う看護	診療・検査・治療をうける対象者のニーズと看護の役割、法的根拠								
	2～3	検査に伴う看護	検査の種類・目的と採血の正確な看護技術、リスクマネジメント								
	4～5	薬物療法に伴う看護	薬物療法の種類・目的と与薬の正確な看護技術(経口・外用・注射)								
	6～7	検査・薬物療法に伴う看護	技術試験:検査・薬物療法に伴う看護(静脈血採血、筋肉注射、皮下注射)								
	8～9	薬物療法に伴う看護	薬物療法の種類・目的と与薬の正確な看護技術(点滴静脈内注射、輸血)								
	10～11	薬物療法に伴う看護	診療をうける対象者への看護の検討								
	12～13	薬物療法に伴う看護	技術試験:点滴静脈内注射をうける対象者の看護								
	14	創傷管理技術	皮膚の構造と機能、創傷の治癒過程								
	15	一次救命処置	一次救命処置								
教 科 書	基礎看護技術-看護過程のなかで技術を理解する-改訂第2版 香春知永他編集(南江堂) 写真でわかる実習で使える看護技術 吉田みつ子他編集(インターメディカ)										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	期末試験(30%)、小テスト(30%)、技術試験(30%)、グループワーク等の参加度(10%)で総合的に評価する。										
オフィスアワー	常時対応します。										
受講上の留意事項	正確な技術の習得ができるよう、主体的な取り組みを期待しています。										

看護学方法論VI (Nursing Methodology VI)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	平木民子 (Tamiko Hiraki)、堀美紀子 (Mikiko Hori) 松村千鶴 (Chizuru Matsumura)、小林秋恵 (Akie Kobayashi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>健康上の障害や問題をもつ対象者を全体的に理解し、生活上の諸問題を抽出し、その解決に向けた的確な援助を提供するための問題解決のプロセス、すなわち「看護過程」を学ぶ。看護過程は、看護師が個別性ある看護を根拠に基づいて実践するための思考方法である。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①看護過程の定義と「情報のアセスメント－計画－実施－評価」の循環サイクルについて説明できる。 ②患者情報のアセスメント(解釈・判断・推論)を行う思考方法が理解できる。 ③患者の全体像(情報の統合と長期目標、問題抽出と優先順位)把握の考え方が理解できる。 ④看護計画立案(問題解決のためのアクションプラン)の考え方が理解できる。 ⑤実習記録用紙を使って事例患者の情報アセスメントから看護計画立案までの記述ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	①簡単な小事例を使いながら講義をする ②講義で得た知識を活用してグループで事例患者のアセスメントと看護計画立案に取り組む(5～6人/12グループとして、4つの事例に取り組む) ③個人で別の事例患者の看護計画立案に取り組む										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1 2 3 4 5 6 7～14 15	看護過程とは 問題解決思考 アセスメント枠組み 全体像の描写 看護計画の立案 臨床での思考方法 事例A:グループ発表 事例A:議論と講評 事例B:グループ発表 事例B:議論と講評 事例C:グループ発表 事例C:議論と講評 事例D:グループ発表 事例D:議論と講評 まとめ	看護過程に必要なクリティカルシンキング 看護理論、看護過程、看護診断の関係 全体像把握のための看護アセスメント枠組み 看護実践における情報収集の方法 看護実践における臨床推論と臨床判断 全体像の描写と目標設定と健康問題の抽出 看護計画立案方法 <7～14>:事例を用いて以下の内容を実施し発表する ・事例患者の情報と情報分類 ・アセスメント(データの解釈・分析・推理推論) ・アセスメント結果から全体像の描写 ・全体像から健康上の諸問題の抽出 ・健康問題に対する看護計画の立案								
教 科 書	基礎看護技術(香春知永編集、南江堂) 臨床看護総論(系統看護学講座、医学書院)										
参考書・参考資料等	授業開始時に資料配布し参考文献を紹介する。										
成績評価の方法	グループ演習(30%) + 個別演習(70%) <評価の視点> ・病態治療に関する医学情報の解釈理解ができている ・医学情報を生活上の健康機能アセスメントに活かしている ・数個の情報から先を見据えた推論を試みている ・情報を統合していく思考ができている ・問題の原因に焦点化した解決策を検討している ・意思決定する際の根拠にこだわっている										
オフィスアワー	適宜、対応します										
受講上の留意事項	実習記録の書き方を知ること、知識と思考を活用した推論ができることは別です。この授業は、根拠に基づく看護を行うための思考法の基礎を学ぶことがねらいです。これから臨床経験を積む中で、徐々に臨床的思考力が身についていきますので、まずは、看護を考えることが楽しいと思えるような授業にしたいと思います。										

看護教育(Nursing Education)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	平木 民子(Tamiko Hiraki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 わが国の看護教育制度は多様で複雑である。またその制度は時代の要請と共に変化している。多様な教育背景をもつ看護職者が混在する組織の中に入って、生涯に渡って自らのキャリアを形成していくために、この授業では、看護教育制度の現状や変遷を理解するとともに、大卒看護職としての自分自身の看護観や課題を明確にする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①看護教育の動向について広い視野で理解し説明できる。 ②看護専門職の生涯教育のあり方について理解でき自分の課題が述べられる。 ③得た知識を活用して自分自身の看護職としての価値観や成長について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	学習目標が達成できるように講義を進めながら適宜デスカッションする。自分の考えをまとめて期末レポートで記述表現する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	看護学教育とは	「今日の看護学教育をめぐる動向」								
	2	看護専門職とは	「看護専門職の具体像」								
	3	看護教育制度	わが国の看護教育制度の歴史の変遷								
	4	看護系大学拡充要因	看護教育機関設置基準の比較と大学								
	5	看護実践能力とは	看護実践能力の定義								
	6	実践能力とリフレクション	看護実践能力の成長を支えるリフレクション								
	7	看護職のアイデンティティ	看護学生の自我同一性形成								
	8	看護職のキャリア開発	キャリア開発の概念と実践への活用								
教 科 書	特に使用しない										
参考書・参考資料等	資料と文献リストを開講時に提示する。										
成績評価の方法	<p>○授業への参加度(20%) ○期末レポート(80%) 「看護専門職としての私のキャリア開発の課題」A4サイズ3000字程度。 授業で学んだことを参考にして自分の考えを論理的にまとめる。 〈レポート評価基準〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識を活用して自己理解を深めている ・課題内容が現実的で具体的である ・構成に工夫があり読みやすく文章表現が適切である 										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	看護学生から看護職に移行する時期を迎えた4年生のみなさんは、卒業後、各自が看護組織に入り、看護専門職人として成長するという課題をもっています。自分が置かれている社会に視点を向け自分自身を見直すための授業です。興味関心をもってデスカッションし見識を深めていきましょう。										

看護管理(Nursing Management)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	平木 民子(Tamiko Hiraki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 看護管理学の基礎的な理論的知識を理解する。地域包括ケア推進に向けた看護実践の場において、「看護学生」「看護スタッフ」「部署看護師長」それぞれの立場に求められるマネジメントとリーダーシップの在り方について、実際のマネジメント実践に照らして理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護スタッフや看護管理者に求められるリーダーシップ・マネジメントについて説明できる。 ②看護学生としての看護ケアのマネジメントの実践について説明できる。 ③看護における安全管理のしくみについて説明できる。 ④リーダーシップ理論を理解し、リーダーによる理念の形成と浸透について説明できる。 ⑤リーダーシップ理論を理解し、人と集団を動機付け変化させる管理実践について説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	看護管理学に関する諸理論を概説した後、マネジメントとリーダーシップの具体的実践例を使って意見交換する。または小レポートを書く。期末レポートでは、これまでの実習の中の1事例を取り上げて、自分が看護実践したことと、看護ケアのマネジメントとして実践すべきことを記述し比較考察する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	看護とマネジメント	看護管理学とは、看護におけるマネジメントとは								
	2	看護ケアのマネジメント	看護過程と看護ケアのマネジメント								
	3	安全管理	安全管理のしくみ								
	4	チーム医療	チーム医療と連携協働								
	5	看護サービス管理	サービスとは、看護サービス提供のしくみ作り								
	6	リーダーシップと変革	リーダーシップの概念と組織の調整								
	7	リーダーシップと交渉	看護管理の実践例①								
	8	問題解決と意思決定	看護管理の実践例②								
教 科 書	「看護管理」(系統看護学講座、医学書院)										
参考書・参考資料等	授業で適宜紹介する。										
成績評価の方法	<p>○授業参加度と小レポート(30%) ○期末レポート(70%) <評価視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習事例の概要が読み手によく伝わるように記述できている ・紹介した事例に即して、実践すべき内容が焦点され記述できている ・マネジメントの知識を活用して、自分の主張が明解に述べられている ・簡潔明瞭な文章表現で読みやすい ・テキストの意見と自分の意見を区別している ・項立ての工夫が適切でパラグラフが論理的に展開されている 										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	4年次後期、病院での看護「総合実習」に臨む上での必修科目です。保健師選択していない人は必ず選択して下さい。										

地域看護学 I (Community of Nursing I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	高嶋 伸子(Nobuko Takashima)										
授 業 の 目 的	<p>【授業目的】 地域看護の歴史的発展過程や中心的概念を学び地域看護の概要を理解する。また、対象が生活者であることや健康に影響する要因を学び、健康レベルとQOLの向上に寄与する看護活動であることを理解する。さらに、先進地域や発展途上国の地域看護活動を知ることで、国際的視野や高い倫理観をもった地域看護のあり方を考察できる。</p> <p>【到達目標】 ①地域看護が時代とともに発展した過程を説明できる。 ②看護の対象が生活者として捉えられ、健康レベルに応じたQOLの向上を旨とした看護活動を説明できる ③国際的視野をもって地域看護を行う意義を説明できる。 ④地域で生活する人々へに求められる公平公正な看護活動について考察できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	主として講義形式で行い質疑応答を交えた授業とする。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～2	地域看護の発展過程	わが国の地域看護の変遷と時代背景								
	3～4	地域看護の理念	地域看護・公衆衛生の理念 地域看護学・在宅看護学・公衆衛生看護学の理念と目的								
	5～6	地域看護学の中心的概念	健康、地域、生活、予防								
	7～8	地域看護活動の対象	個人、家族、集団、組織、地域								
	9～10	「健康」に影響を与える要因	健康と自然、文化、社会的要因								
	11～12	地域看護活動の展開 地域看護における研究	地域看護活動の計画・実践・評価 研究への取り組み								
	13～14	国際協力と地域看護	米英国の地域看護活動 国際機関、国際協力の実際								
	15	地域看護の倫理	対象の意思の尊重、対象の情報活用や方法								
教 科 書	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論(医学書院) 国民衛生の動向										
参考書・参考資料等	ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障(1):健康と社会・生活(メディカ出版)										
成績評価の方法	定期試験90%、授業参加姿勢10%										
オフィスアワー	必要に応じて対応する。										
受講上の留意事項	地域で生活する存在として看護の対象を理解し、広い視野で看護をとらえられるようになるために重要な科目です。積極的に授業に参加しよう。										

地域看護学Ⅱ (Community of NursingⅡ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	高嶋 伸子(Nobuko Takashima)、三木佳子(Yoshiko Miki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 看護の対象を生活者として捉え、健康レベルやライフステージに応じた看護を継続的に提供することの重要性を理解できる。また、各分野における地域看護活動の実際を学び、対象者のQOL向上に必要なネットワーク形成やシステム化など地域包括ケアシステムが理解できる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①看護の対象を生活者として捉えられる。 ②公衆衛生看護、在宅看護、施設内看護の継続の必要性と意義を検討できる。 ③地域における地域包括支援センターや病院における退院支援部門の役割について説明できる。 ④産業保健分野や学校保健分野の活動と関係機関との連携について説明できる。 ⑤地域包括ケアシステムについて事例検討し、その実際を想起できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>主として講義形式で行うが、講義終盤において、実習で受け持った患者が地域生活する場合のQOL向上に必要なシステムやネットワーク等についてグループワークを行い地域包括ケアシステムの理解を深める。 地域における看護活動(産業保健活動及び学校保健活動)については、特別講義受講することによって健康レベルやライフステージに応じた看護の継続性を考察する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	地域の人々健康と保健活動	生活環境の変化と健康問題の捉え方								
	2	動	地域の人々の保健行動の捉え方								
	3	関係職種との連携地域に	保健医療福祉サービスを行う機関・職種								
	4	おける社会資源	地域看護活動の対象と場								
	5	地域看護活動の実際と看	地域看護活動の実際								
	6	護の継続性	①地域行政機関における地域看護活動 ②病院における地域看護活動(三木)								
	7		③職域における地域看護活動(外部講師)								
	8		④学校における地域看護活動(外部講師)								
	9										
	10										
	11										
	12										
	13	地域包括ケア	地域包括ケアシステム								
	14		患者のQOLと地域包括ケア(グループワーク)								
	15	これからの地域看護	今後の地域保健医療福祉の方向								
教 科 書	看護師教育のための地域看護概説(NOUELLE HIROKAWA) 標準保健師講座1公衆衛生看護学概論(医学書院)										
参考書・参考資料等	国民衛生の動向										
成績評価の方法	定期試験(80%)、授業・演習への参加度(20%)										
オフィスアワー	随時対応します。										
受講上の留意事項	地域看護活動に関する新聞や雑誌記事等に関心を持つようにしましょう。										

地域看護学Ⅲ (Community of Nursing Ⅲ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	高嶋伸子 (Takashima Nobuko)、植原 千明 (Chiaki Uehara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業目的】 生活者である対象者が主体的に健康に向かう力や能力を引き出す看護職者の保健指導技術について理解し支援方法を検討し実践できる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①保健指導の基本となる理論や概念を説明できる。 ②個人および集団を対象とした保健指導技術を身につけることができる。 ③患者教育の方法を説明でき実践に活用できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義形式、演習を組み合わせる。 演習では、各自で患者教育に使用する指導案や媒体等を作成し実施する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2	保健指導の基本	保健指導の意義・目的、定義、対象、看護職の役割 (高嶋) 保健指導の基本姿勢								
		保健指導に活用できる理論・概念	セルフケアモデル、エンパワメント、グループダイナミクス (高嶋)								
	3～4	健康相談	健康相談の目的、方法、種類 (植原)								
		健康診査	健康診査 (特定健康診査・特定保健指導 (植原))								
	5～6	家庭訪問	家庭訪問の目的、実際 (植原)								
		家庭訪問の実際									
	7～8	患者教育	患者教育 (植原)								
9～10	地域組織活動	セルフヘルプグループの種類・特徴・機能 組織化活動 (構造・組織化・展開方法)									
11～12	地域ケアシステムの構築とネットワーク	地域ケアシステムの構築とネットワーク (植原)									
13～15	保健指導の実際	看護職が行う保健指導の実際 (植原)									
教 科 書	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 (医学書院)										
参考書・参考資料等	医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 (医歯薬出版株式会社) 松本千明										
成績評価の方法	定期試験80%、学習態度、グループ学習の参加状況・プレゼンテーション20%										
オフィスアワー	在室時に対応します										
受講上の留意事項	看護学実習で展開させることを念頭において学んでください。										

公衆衛生看護学 I (Public Health Nursing I)											
必修・選択の区別	選択	学年次	3	学 期	後期	単位数	3.0	時間数	60	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	辻 よしみ (Yoshimi Tsuji)、林 佳子 (Yoshiko Hayashi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 公衆衛生看護の概要、基礎理論と公衆衛生看護の展開過程について理解し、地域診断のアセスメントができる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①公衆衛生看護の理念、歴史、機能、役割および活動の概要について説明できる。 ②地域診断の展開過程を理解し、科学的根拠に基づく実践的アセスメント能力を高めることができる。 ③地域の健康課題を住民と協働して取り組む意義について理解できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護の概要および地域診断の基礎を講義・演習で学ぶ。 ・フィールド(近隣地域)の地域診断過程を様々な地域診断手法を用いて体験する。 ・地域の関係者による地域特性及び施策化に関する講義を受け理解を深める。 ・既存の資料や地区視診によって得られた情報の分析を通して地域特性を捉える。 ・地域診断演習は、4年次の看護研究および総合実習と関連づけて進めるため、関心のあるテーマで編成されたグループで行う。 										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2 3～4 5～6 7～8 9～10 11～12 13～14 15～16 17～18 19～20 21～22 23～24 25～26 27～28 29～30	公衆衛生看護の理念 地域診断 公衆衛生看護の展開	<p>公衆衛生看護の理念・概念・歴史・目的、機能と役割 (辻)</p> <p>地域診断の概念、地域診断の過程 (辻)</p> <p>地域診断関連モデル (辻)</p> <p>地域診断の方法 (辻)</p> <p>地域診断演習(既存資料の分析) (辻、外部講師)</p> <p>地域診断演習(地域の特性) (辻)</p> <p>地域診断演習(地区視診) (辻、外部講師)</p> <p>地域診断演習(実態調査) (辻)</p> <p>地域診断方法(フォーカスグループインタビュー) (辻)</p> <p>地域診断方法(地区分析、診断) (辻)</p> <p>公衆衛生看護の展開過程 (辻)</p> <p>地域診断結果の資料化(演習) (辻、林)</p> <p>地域診断結果の資料化(演習) (辻、林)</p> <p>地域診断結果の資料化(演習) (辻、林)</p> <p>地域診断結果の報告、課題、方向性の検討 (辻、林)</p>								
教 科 書	<p>最新保健学講座5公衆衛生看護管理論(メヂカルフレンド社)</p> <p>標準保健師講座1公衆衛生看護学概論(医学書院)</p> <p>ETアンダーソン・J・マクファーレン編 コミュニティアズパートナー(医学書院)</p>										
参考書・参考資料等	<p>金川克子編:地域看護診断[第2版](東京大学出版会)</p> <p>佐伯和子編著:地域看護アセスメントガイド アセスメント・計画・評価のすすめかた(医歯薬出版)</p>										
成績評価の方法	試験70%、地域診断等の演習30%として総合的に行う。										
オフィスアワー	在室時に対応します。										
受講上の留意事項	4年次の公衆衛生看護学実習、総合実習(フィールド実習)、看護研究に連動させて学ぶ。										

公衆衛生看護学Ⅱ (Public Health Nursing Ⅱ)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	前期	単位数	3.0	時間数	60	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	辻 よしみ (Yoshimi Tsuj)、高嶋伸子 (Nobuko Takashima)、植原 千明 (Chiaki Uehara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>地域の健康増進力を高めるための個別支援技術および個人・家族の健康課題を集団、地域へと発展させる公衆衛生看護活動の考え方を学び、コミュニティエンパワメントについて理解する。また、感染症、難病等の健康課題別公衆衛生看護活動について理解する。</p> <p>【授業の目標】</p> <p>①保健指導の基本や個別支援技術について説明できる。</p> <p>②保健師の家庭訪問展開方法を理解できる。</p> <p>③個別の健康問題から集団の健康問題へと発展させる考え方を理解できる。</p> <p>④健康課題別の公衆衛生看護活動について理解できる。</p> <p>⑤保健師の家庭訪問技術(乳幼児)を身につけることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>対象の生活の場における個別支援技術を家庭訪問のロールプレイや訪問技術演習をとおして習得する。家庭訪問演習は、乳児のいる家庭を想定して行う(乳幼児期の発育に関する観察項目や観察方法等既習内容を活用する。家庭訪問等で用いる保健師ノートを各自で作成する。)保健師の公衆衛生看護技術である個別の健康課題を集団、地域へと発展させる技術については、事例を用いた演習をとおして理解する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～2	保健指導の基本	保健指導の基本、保健師の個別支援技術								
	3～4	保健指導の展開	個人・家族への公衆衛生看護技術(家庭訪問の理念、目的)								
	5～6		個人・家族への公衆衛生看護技術(家庭訪問の展開過程)								
	7～8		個人・家族への公衆衛生看護技術(倫理、記録)								
	9～10		個別の健康課題を集団・地域へと発展させる技術								
	11～12		個別の健康課題を集団・地域へと発展させる技術(演習)								
	13～14	健康課題別活動	健康課題別公衆衛生看護活動(感染症・難病)(外部講師)								
	15～17		健康課題別公衆衛生看護活動(事例検討)								
	18～20		乳幼児の発育・発達の観察の視点(植原)								
	21～22		乳幼児の観察技術(外部講師・植原)								
	23～24	個別支援技術	家庭訪問演習(デモスト等)(植原)								
	25～26		家庭訪問演習(ロールプレイ等)(植原)								
	27～30		家庭訪問演習(技術チェック)(植原、高嶋、辻)								
教 科 書	<p>最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術(メヂカルフレンド社)</p> <p>標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(医学書院)</p> <p>国民衛生の動向(厚生統計協会)</p>										
参考書・参考資料等	標準保健師講座2 地域看護技術(医学書院)										
成績評価の方法	試験70%、演習、授業参加度30%として総合的に行う。										
オフィスアワー	在室時に対応します。										
受講上の留意事項	関連する既習科目の復習やテキストの予習を行うなど主体的な学習姿勢で臨んで下さい。										

公衆衛生看護学Ⅲ (Public Health NursingⅢ)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	辻 よしみ (Yoshimi Tsuji)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 保健師に求められる看護管理機能の実際が理解できる。 看護管理は地域保健活動が円滑に行われ、地域住民が自らの健康管理ができるように支援する活動であることが検討できる。</p> <p>【授業の目標】 ①看護管理と公衆衛生看護管理について理解できる。 ②公衆衛生看護実習を踏まえ、公衆衛生看護管理について説明できる。 ③公衆衛生看護管理の質保証について検討できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教員や外部講師からの講義を受講し、その後全体討議を実施し理解を深める。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	公衆衛生看護管理とは	看護管理と公衆衛生看護管理の定義・保健師の責務 (辻)								
	2～3	公衆衛生看護学実習経験から考える地域ケアの質保証	公衆衛生看護実習の経験からの公衆衛生看護管理の内容 (辻)								
	4	特別講義	地域における保健師の役割 (特別講義)								
	5～6	グループディスカッション	公衆衛生看護管理における質保証とは (辻)								
	7～8	グループ発表・討議	地域ケアの質保証における保健師の役割 (辻)								
教 科 書	最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論(メヂカルフレンド社)										
参考書・参考資料等	適宜、紹介します。										
成績評価の方法	レポート70%、学習態度、プレゼンテーション30%										
オフィスアワー	在室時に対応します。										
受講上の留意事項	公衆衛生看護学実習の経験や学びから学習を深めてください。										

在宅看護学 I (Home Care Nursing I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	片山 陽子(Yoko Katayama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 在宅療養者と家族の生活と生き方を理解し、住み慣れた地域においてその人らしく自立・自律的に生きていくことができるように、療養者と家族の尊厳を守り、QOLの維持・向上に貢献できる在宅看護の理論的基盤と思考の枠組みを学ぶ。また、地域包括ケアシステムの理念と方略を学び看護の役割を考究する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①在宅医療・看護の目的、必要性和その背景、理論的考え方が説明できる ②生活者としての療養者と家族のLIFEを支援するあり方を考究し表現できる ③在宅で生きる、生活することの意味を探究し自分の言葉で説明できる ④地域包括ケアシステムを理解し、その中での看護の役割を説明できる ⑤在宅医療・ケアの関連制度や政策について説明できる ⑥多様な生活の場における看護の役割と活動を列挙できる</p>										
授 業 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回授業時に事前学習課題と学習マップを提示し、事前学習の準備の上で講義とグループワークを中心に展開する ・視聴覚教材の活用や実際の臨床事例を紹介し、在宅看護学への知的関心を高めるとともに、教材から提示した学習テーマに関するディスカッションを行い、授業時間内にミニレポートを作成し学習の統合をはかる 										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	授業概要の説明	在宅看護学の位置づけと学ぶ意味								
	2	在宅看護学の考え方	在宅看護の理念と定義、在宅看護の必要性和背景								
	3	在宅看護の目的と役割	在宅医療・看護の目的とその役割								
	4	在宅ケアの特徴と対象	在宅看護目的及び対象としての個人・家族・地域								
	5	在宅医療と看護の実際	在宅医療と看護の実践活動の実際								
	6	在宅看護の姿勢と倫理	在宅看護実践者の姿勢と倫理的思考								
	7	生活者の意味:在宅で生きることの考究	在宅で生きること、生活者の意味を考える								
	8	LIFEをささえる看護実践のあり方	在宅療養者と家族のLIFEの理解と生き方をささえる意思決定支援								
	9	地域包括ケアシステムと看護の役割	地域包括ケアシステムの必要性和多職種連携及び看護の役割								
	10	在宅ケアの関連制度	在宅ケアにおける関連諸制度、社会保障システム								
	11	社会資源の活用と課題	社会資源の定義・活用とケアマネジメント								
	12	生活と医療の統合	生活と医療を統合するマネジメントの考え方								
	13	多様な生活の場での看護(1)	在宅看護の方略としての訪問看護・外来看護の意義と役割								
	14	多様な生活の場での看護(2)	多様な場で展開する看護実践:ホームホスピス、暮らしの保健室など								
	15	在宅看護学の展望と課題	在宅看護学の課題と今後の展望								
教 科 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシンググラフィカ在宅看護論① 地域療養を支えるケア 第5版 メディカ出版 ・ナーシンググラフィカ在宅看護論② 在宅療養を支える技術 第1版 メディカ出版 										
参考書・参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅ケア学 第1巻～第6巻、日本在宅ケア学会編(ワールドライフプランニング)2015 ・生命と人生の倫理、清水哲郎他、放送大学教育振興会2005、その他、適宜紹介する 										
成績評価の方法	ミニレポート(40%)、ディスカッション・プレゼン(10%)、定期試験(50%)で総合的に評価する										
オフィスアワー	授業終了後、および在室時には対応する										
受講上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学、生命倫理学に関する学習は準備性を高めることに重要なため関連書籍を読んでおくこと ・提示した事前学習は各自主体的に学習したうえで授業に参加する姿勢を求める ・在宅看護領域に関連する新聞記事やニュース等にも着目し自ら調べ、積極的に活用することをすすめる 										

在宅看護学Ⅱ (Home Care Nursing Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	片山 陽子(Yoko Katayama)、諏訪 亜季子(Akiko Suwa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>在宅で生活している又は在宅生活への移行期にある療養者と家族の固有の価値観や生活課題を理解した上で、科学的な根拠に基づく臨床判断を基軸にした在宅看護実践の思考枠組みと生活支援の視点を基盤にした在宅看護技術の展開方法を学ぶ。さらに在宅看護が担う多様な場で看護師が展開する医療と生活を統合するための方略と看護マネジメントの考え方や多職種と協働するチームアプローチの展開方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①在宅看護過程の理論的基盤を理解し、事例をもとに展開できる ②生活者である対象を時間軸・包括性・主体的存在の視点で説明できる ③基本的な在宅療養者を支援する基礎技術を習得できる ④人生の最終段階の支援に必要な理論を理解し基本的支援技術を習得できる ⑤地域でのチームマネジメント・合意形成の方略を説明できる</p>										
授 業 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、演習、グループワークを通して上記の学習目的を達成する ・個々に学習MAPと探究課題を設定し、実習での実践統合に向けた探究学習を行う ・既習の知識・技術を基盤に、在宅での生活支援に焦点を置いた在宅看護の特微的思考枠組みを学べるように統合学習を行う 										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	授業概要説明・探究課題	学習課題と進め方・在宅看護実践の特微と探究課題(片山)								
	2	在宅で生きることの支援	在宅で生きる(生活する)ことの支援(片山)								
	3	在宅看護の対象と特徴	在宅看護の対象と特徴(片山)								
	4~5	在宅看護過程①②	生活と医療を統合する目標志向型の看護実践①②(片山)								
	6	目標志向型看護実践	意思決定支援と目標志向型看護実践の関係(片山)								
	7	小児在宅ケア	小児在宅ケアの現状と課題(諏訪)								
	8~10	事例展開Ⅰ①②③	在宅看護過程の展開:事例で考える①②③(片山・諏訪)								
	11~12	在宅での呼吸管理	在宅での呼吸管理の基本と実際(諏訪)								
	13~14	在宅訪問歯科	在宅歯科診療の実際と口腔ケア・嚥下評価(非常勤)								
	15	在宅EOLケア	在宅でのエンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割(片山)								
	16	在宅での栄養管理	食を食べることの意味と在宅での栄養管理(片山)								
	17~18	事例展開Ⅱ①②	事例展開:GW①②(片山)								
	19	在宅終末期医療	在宅終末期医療・緩和ケアの実際(非常勤)								
	20	生きるを支援する看護	生きるを支援する看護:日常性の継続への支援(片山)								
	21	介護家族の理解	介護家族の理解とケア(片山)								
	22	在宅での排泄ケア	在宅での排泄ケアの基本と実際(片山)								
	23~24	事例展開Ⅱ③④	事例展開:GW③④(片山)								
	25~26	地域包括ケア	地域包括ケアと様々な在宅の場、在宅移行の支援(片山)								
	27~28	事例展開Ⅱ⑤⑥	事例展開:GW⑤⑥(片山・諏訪)								
	29	在宅でのリスク管理	在宅でのリスクマネジメントと災害時の支援(片山)								
	30	学びの統合	在宅看護学Ⅱの学びと探究課題の実習での統合(片山)								
教 科 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシンググラフィカ在宅看護論①② メディカ出版(在宅看護学Ⅰ同様) ・生活と医療を統合する継続看護マネジメント、長江弘子編著(医歯薬出版株式会社)2013 										
参考書・参考資料等	在宅ケア学 第1巻~第6巻、日本在宅ケア学会編(ワールドライフプランニング)2015 その他、適宜紹介する										
成績評価の方法	GW・演習成果(20%)・ミニレポート(30%)・定期試験(50%)で総合的に評価										
オフィスアワー	授業終了後および在室時には対応する。										
受講上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護学Ⅰをはじめとして既習の学習内容を自己学習して授業に臨む。 ・各自で学習課題と在宅看護学(実践)の特微を踏まえた探究課題を設定し、主体的に学習を進めることを求める。常にクリティカルな思考をもち取り組むことが重要である。 										

精神看護学 I (Psychiatric Nursing I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、土岐 弘美(Hiromi Toki)、多田羅 光美(Terumi Tatara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>心の構造や働き、心の発達・健康及び心に影響をもたらす環境的要因について学習するとともに、看護師自身の自己活用が効果的に行われるために体験学習を通して自分自身への気づきを得る。また、精神看護の意義、目的、役割機能について精神に病を持つ人やその家族のみならず、全てのライフサイクルにある人を対象として理解し援助するために必要な基礎的知識を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 社会の変化がメンタルヘルスにどのように影響し、どのような心の問題が生まれているのかを理解できる。</p> <p>② 精神障害をもつ人の体験から、体験の苦しみを学ぶとともに、精神障害は、特殊なものでないことを理解できる。</p> <p>③ 人格の発達に関する代表的な理論を学び、自分の発達史をいずれかの発達理論を用いて振り返ることができる。</p> <p>④ 危機とストレス対処とは何か、個人がストレスに適切に対処し、危機を乗り越え成長していくためには何が必要か、どのような支援が必要か理解できる。</p> <p>⑤ 家族における問題のあるコミュニケーション、家族役割について学び、家族が一つのシステムであることを理解できる。</p> <p>⑥ 体験学習を通して、個人としての自分を知ることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>1. 講義、演習を組み合わせる。</p> <p>2. 学生自身が授業内容をとらえて、自分及び自分を取り巻く環境(家族、学校、社会など)について振り返る。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	精神保健と精神看護学	1. 心のケアと現代社会								
	2	”	2. 精神看護学とその課題								
	3	精神の健康と障害	3. 精神の健康とは								
			4. 精神障害の捉え方								
			5. 精神障害を持つ人の体験								
			6. 精神看護学の基本的な考え方								
	4	人間の心のしくみと人格の発達	7. 人間の心の働き(人格、気質、知能、認知、感情、行動)								
	5	”	”								
	6	”	8. 心のしくみと人格の発達(フロイトの精神分析と精神力動理論)								
	7	”	”								
	8	”	9. 心のしくみと人格の発達(エリクソンの漸成的発達理論、対象関係論)								
	9	”	”								
	10	”	10. 心のしくみと人格の発達(コフートの自己心理学、愛着理論)								
	11	危機状況と心の働き	11. 危機状況とは、ストレス対処とソーシャルサポート、医療現場・特殊な状況での危機、危機を乗り越え成長するための支援と力								
	12	”	12. 発達段階での危機と介入(学生プレゼンテーション)								
13	関係の中の個人	13. 全体としての家族、人間と集団									
14	”	14. 自分を知るための体験学習(価値観の解明、モデルとしての能力、愛他主義)									
15	”	15. 自身のメンタルヘルスを保つために									
教 科 書	資料を配布。精神看護学[1]精神看護の基礎(医学書院)、精神看護学[2]精神看護の展開(医学書院)										
参考書・参考資料等	適宜、紹介する。										
成績評価の方法	定期試験80%、演習の状況20%で総合的に評価する。										
オフィスアワー	金曜日 午後										
受講上の留意事項	一つの現象を様々な視点から考える力と、その考えを他者に伝え、学びを深める努力を期待する。										

精神看護学Ⅱ (Psychiatric Nursing Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、土岐 弘美(Hiromi Toki)、多田羅 光美(Terumi Tatara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>精神の健康障害や精神症状に影響を受けながら生活している対象者の理解を深めるために必要な知識を理解し、対象者のもつ強みやセルフケア促進を支援する具体的な看護技術について理解する。また、精神医療と精神看護実践の変遷や地域精神保健活動と看護について、世界の精神保健医療福祉の動向を踏まえ、日本の現状と課題について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①精神看護実践モデルについて理解できる。 ②精神症状をもつ対象者の体験を理解できる。 ③対人関係理論を理解し、プロセスレコードにより自己の対応の分析ができる。 ④セルフケア理論を理解し、自己のセルフケアを分析することができる。 ⑤精神疾患における基本的な看護ケアを理解できる。 ⑥精神医療福祉における法律や制度について理解できる。 ⑦精神保健医療における倫理とリスクマネジメントについて理解できる。 ⑧ストレングスモデルを理解し、対象のストレングスを生かすための分析ができる。 ⑨日本と世界の精神保健医療について理解でき、将来の日本の精神保健福祉医療の在り方を考えることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義、演習、グループプレゼンテーション、自己学習を組み合わせた学習を行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	精神看護実践の捉え方	1.精神看護QOLモデル (國方)								
	2	演習	2.幻覚妄想の疑似体験 (國方、土岐、多田羅)								
	3	精神看護実践の理論と技術	3.対人関係のプロセスである看護の理解と技術 (土岐) 課題:プロセスレコード								
	4~11	セルフケア促進のための理論と技術	4. セルフケア理論における看護過程の理解 (土岐) 1)自己のセルフケアをアセスメントする (土岐) 2)基本付の要素、MSEをアセスメントする (土岐) 3)アセスメントと臨床の展開技術 (土岐) グループプレゼンテーション (統合失調症、気分障害、不安障害、強迫性障害、適応障害、摂食障害、せん妄、パーソナリティ障害、アルコール症等) 4)精神科領域における社会資源の理解と活用								
	12	精神医療と精神看護実践の変遷	5. 精神保健福祉法と医療観察法 (土岐)								
	13	倫理とリスクマネジメント	6. 倫理とリスクマネジメント (土岐)								
	14	ストレングスの視点から理解する	7. ストレングスモデルの理解 (國方) 1)個人のストレングス 2)環境のストレングス								
	15~16	日本と海外の精神医療状況	8. 日本の地域精神保健医療福祉活動と看護 (土岐) 1)地域活動の実際 (土岐) 2)イタリアと北欧(デンマーク)の精神保健医療福祉 (國方)								
教 科 書	資料を配布。精神看護学[1]精神看護の基礎(医学書院)、精神看護学[2]精神看護の展開(医学書院)										
参考書・参考資料等	適宜、紹介する。										
成績評価の方法	定期試験70%、グループプレゼンテーション20%、レポート10%で総合的に評価する。										
オフィスアワー	金曜日										
受講上の留意事項	ますます、こころのケアが求められている社会になっています。精神看護学Ⅱでは、基本的な知識に基づき、どんなケアが提供できるか自己で検討する授業を中心に行います。皆さんの積極的な授業への参加を期待しています。										

精神看護学Ⅲ (Psychiatric Nursing Ⅲ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、土岐 弘美(Hiromi Toki)、多田羅 光美(Terumi Tatara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 精神看護学Ⅱの学習を踏まえ、対人関係の理論とリラクセーションの理論ならびにその技術を習得する。また、当事者や家族、支援者、学生によるシンポジウムをとおして、精神に病を持つ人の地域生活支援を考える。さらに、精神看護学Ⅲの学びから特定のテーマについて学生間で討論を行い、精神看護技術について科学的な思考と理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域生活をしている精神障害当事者(家族を含む)の生活の様子(生活の楽しさ・しづらさ・工夫していること)を教えてもらい、当事者(家族を含む)を理解し、同じ地域で住む人として、自分は何をするか考えることができる。 ② リラクセーションの機序を理解し、機序を説明できる。 ③ 精神看護学で利用するリラクセーション(呼吸法、漸進的筋弛緩法、タッチング、ハンドケアリング)の方法と効果を理解し、それらの技法を効果的に実施できる。 ④ 対人関係の技術の理論的背景であるコミュニケーション理論を理解できる。 ⑤ 対人関係の技術の理論的背景であるクライアント中心療法(カウンセリング理論)を理解できる。 ⑥ 認知行動理論を理解できる。 ⑦ 自己に認知的技法を適用し、認知再構成法を実施できる。 ⑧ 認知行動理論を用いた治療的コミュニケーションスキルを使うことができる。 										
授 業 の 進 め 方	講義、演習、グループワーク、シンポジウムへの参加を組み合わせを進める。 シンポジウムでは、精神に病を持つ当事者やその家族、そして支援者の立場から、病気体験やそれぞれの体験に基づいた自立、社会参加などについての考えを聴き、その上で学生が本テーマについて話し合い、地域生活支援について考える機会とする。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1 2 3～8 9～15	精神障がい者の地域生活支援 リラクセーションの理論と技術 対人関係の理論と技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当事者、家族、支援者、学生によるシンポジウムとグループワーク テーマ:精神の病をもちながら、地域で生活すること (國方、土岐、多田羅) 2. リラクセーションの理論と技術 <ol style="list-style-type: none"> 1)リラクセーションの理論 (國方) 2)呼吸法、漸進的筋弛緩、タッチング、セラピューティックケアの技術と演習 (國方、土岐、多田羅) 3)リラクセーション技術における科学的な検討と看護への応用 グループワーク・発表 (國方、土岐) 3. 対人関係技術の理論と技術 (國方) <ol style="list-style-type: none"> 1)対人関係の理論 (コミュニケーション理論、クライアント中心療法、認知行動理論) 2)非言語的コミュニケーションの演習 3)認知行動療法の演習 4)面接のプログラム学習を用いて、クライアント中心療法としての治療的コミュニケーションの学習 5)治療的コミュニケーションの演習 グループワークによるロールプレイ 								
教 科 書	資料を配布。精神看護学[1]精神看護の基礎(医学書院)、精神看護学[2]精神看護の展開(医学書院)、自分を好きになるためのワークブック;シートを使って進める自尊心回復グループ認知行動看護療法(ふくろう出版)										
参考書・参考資料等	適宜、紹介する。										
成績評価の方法	グループワーク20%、レポート50%、演習課題の理解30%。										
オフィスアワー	金曜日 午前										
受講上の留意事項	当事者を交えたシンポジウムでは、積極的な質問や意見交換をしてください。技術演習で、確かな技術を身につけていきましょう。										

成人看護学 I (Adult Health Nursing I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	内海 知子 (Tomoko Utsumi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】青年期から向老期におよぶ成人期は、成熟から衰退へと変化する身体を体験するとともに、様々な社会的役割を担う。また結婚、出産、退職などの人生の転機(ライフイベント)を経験し、育児や介護などの家庭での役割も担うが、家族形態の変化や少子高齢化、雇用形態の変化など、変動し不安定な現代社会の中で多くのストレスにさらされている。このような時期にある人とその家族を、身体、心理、社会的側面から特徴をとらえ、健康問題との関連を学ぶとともに、成人期にある人を看護するうえで必要な概念、理論を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①成人期にある人の発達段階、健康動向、生活の特徴を説明できる。 ②成人期にある人の健康と生活の関連を説明できる。 ③成人期にある人の健康状態に応じた看護の基本を説明できる。 ④成人期にある人の看護に有用な概念を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>1~5回の授業は、成人期にある8つの事例について、事前学習、講義をもとに、生活の状況や健康への影響について個人及びグループワークを通して考え、6回の授業でその成果について発表し、知識や考え方を共有する。事前学習の範囲等については、1回の授業で周知する。7回の授業は中間試験を行う。8~15回の授業では、授業の冒頭で示された課題について、講義、グループ討議で考え、発表し、知識を共有するとともに多様な考え方に触れ、自分の考えを明確にする。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	成人期にある人の理解	成人期にある人をとらえる視座、ライフサイクルと発達課題								
	2	〃	成人をとりまく今日の状況(家族、仕事、日常生活スタイル)								
	3	〃	成人期にある人の健康(生活習慣病、職業疾患)								
	4	〃	成人期にある人の健康(生活ストレスに関連する健康障害、セクシュアリティ・更年期に関連した健康障害)								
	5	〃	成人期にある人の健康の動向と政策、がん看護								
	6	〃	事例発表								
7	〃	中間試験									
8~9	健康状態に応じた看護と看護のための基本的な考え方	健康の保持増進・疾病予防に向けた看護、自己効力、エンパワメント									
10~11	〃	急性の状態にある人への看護、リハビリテーション看護、危機理論、ストレスコーピング									
12~13	〃	慢性的な経過をたどる健康障害を有する人の看護、セルフケア、成人学習									
14~15	〃	人生の最期のときを迎える人への看護、悲嘆と喪失									
教 科 書	成人看護学 成人看護学概論(南江堂)										
参考書・参考資料等	図説 国民衛生の動向 最新版(財団法人厚生統計協会)										
成績評価の方法	個人及びグループで取り組む課題(40%)、定期試験(中間試験30%、期末試験30%、試験は筆記)により評価する。										
オフィスアワー	9:00~17:00で研究室に来てください。都合が合う時はいつでも対応します。										
受講上の留意事項	大学の授業は事前・事後の自己学習が前提です。そのうえで授業に積極的に参加し、自分で学習を進めていきましょう。また、成人看護学 I は2年次以降の成人看護学 II・III、成人看護学実習の基礎となる、重要な科目です。授業の中で出てくるキーワードをしっかりと理解しておきましょう。										

成人看護学Ⅱ (Adult Health Nursing II)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	内海 知子 (Tomoko Utsumi)、岩本 真紀 (Maki Iwamoto)、岡西 幸恵 (Sachie Okanishi)、新井 恵津子 (Etsuko Arai)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生命の危機状態にある成人期の対象や、手術により機能を喪失したり形態が変化する状態にある成人期の対象の特性を理解し、科学的思考を基盤とした問題解決のための看護実践に必要な基礎的知識・技術を習得する。学習過程を通して、健康状態が急激に変化する人々のQOLを高め、尊厳を守るための看護と倫理についての考えを深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①急性期にある人やその家族の特性が説明できる。 ②麻酔や手術侵襲による生体反応と術後の回復過程が説明できる。 ③周手術期にある人に対する周手術期過程に応じた看護が説明できる。 ④救急看護を必要とする人に対する生命の維持と回復のための支援について説明できる。 ⑤少ない情報から既習の知識とフィジカルアセスメントをもとに、緊急度・重症度を判断し看護展開する思考過程が習得できる。 ⑥急性期にある人に対する基本的な看護技術を習得できる。 										
授 業 の 進 め 方	視聴覚教材を活用した講義・グループワーク・総合演習を通して、上記のような対象の特徴や健康問題、倫理的課題、看護を理解する。グループワークでは、学んだ知識を実践に活用することをふまえ、常に疑問を持って主体的に取り組む。総合演習では、術後や集中治療を受ける状況を、シミュレーターやME機器で設定し、変化する身体状況を科学的思考を用いてアセスメントする等、臨床現場をイメージした学習を行う。事前学習は、1回と15回の授業でその範囲や学習方法を説明する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1 2～3 4 5～6 7～14 15～16 17～18 19～20 21～22 23～24 25 26～30	周手術期看護 " " " 総合演習Ⅰ：急性期にある人々への看護実践 救急看護 " " " " " 総合演習Ⅱ：急性期にある人々への看護実践	周手術期にある人とその家族の特性（岩本） 周手術期過程に応じた看護（術前）（岩本） 周手術期過程に応じた看護（術中）（岩本） 周手術期過程に応じた看護（術後）（岩本） 周手術期看護技術演習（内海・岩本・岡西・新井） 救急看護学概論、救急外来における看護（腹痛の事例）（内海） 救急外来における看護（胸痛の事例）、救命救急処置（内海） 入院患者の急変における看護（頭痛の事例）（内海） 集中治療下での看護（心不全の事例）（内海） 集中治療下での看護（呼吸不全の事例）（内海） 集中治療下での看護（熱傷の事例）、災害看護概論（内海） 周手術期看護技術演習、救急看護技術演習（内海・岩本・岡西・新井）								
教 科 書	成人看護学 周手術期看護論（ヌーヴェルヒロカワ）、成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護（南江堂） 成人看護学 成人看護技術（南江堂）										
参考書・参考資料等	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2-9（医学書院） ナーシング・グラフィカ周手術期看護（MCメディカ出版） 周手術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護（医学書院） 写真でわかる基礎看護技術（インターメディカ）、写真でわかる臨床看護技術①②（インターメディカ） 写真でわかる実習で使える看護技術（インターメディカ）										
成績評価の方法	周手術期看護50%（筆記で行う定期試験25%、実技で行う総合演習25%） 救急看護50%（小テスト10%、グループ課題10%、筆記で行う定期試験15%、実技で行う総合演習15%）										
オフィスアワー	9:00～17:00で研究室に来て下さい。都合の合う時はいつでも対応します。										
受講上の留意事項	教員を有効に活用し、常に教科書や参考資料に当たることで、授業で得た知識を深めていきましょう。関連する既習科目の内容と統合させていきましょう。										

成人看護学Ⅲ (Adult Health NursingⅢ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	通年	単位数	3.0	時間数	90	授業形態	講義, 演習
担 当 教 員	細原 正子 (Masako Hosohara)、内海 知子 (Tomoko Utsumi)、岩本 真紀 (Maki Iwamoto)、岡西 幸恵 (Sachie Okanishi)、新井 恵津子 (Etsuko Arai)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>慢性疾患を抱え生涯にわたりセルフコントロールを必要とする成人やその家族を対象とし、ライフサイクルや疾患・治療をふまえた上で全人的に理解し、問題解決に向けた看護実践に必要な理論および科学的根拠に基づいた知識・技術を習得する。また、生命を脅かす疾患による問題に直面している対象の苦痛に対して、早期から緩和を目指して行う身体的・心理社会的・スピリチュアルなアプローチについて学習する。家族・遺族に対する看護実践への理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ライフサイクルや疾患・治療をふまえ、対象の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる ② 病状・疾患認識・自己管理の状況から対象の健康問題を抽出できる ③ 生涯にわたる疾病管理や療養生活管理に向けた看護支援に必要な知識・技術を説明できる ④ 終末期にある対象を全人的に捉え、その人らしさを支える看護支援を考えることができる ⑤ 早期から行う全人的苦痛の緩和方法を説明できる ⑥ 家族・遺族への支援や社会資源の活用について考えることができる 										
授 業 の 進 め 方	<p>小テスト・講義・演習・グループワーク・DVD視聴等を通して以下のことを学ぶ。</p> <p>疾患・治療等から健康問題や看護ケアが具体的にイメージできるように、病態生理と看護を関連付けて学ぶ。事前に『人体の構造と機能』や『疾病と治療』等専門基礎知識を整理しておくことが望ましい。また、紙上事例を用いた看護過程の展開により、さまざまな慢性疾患において必要な支援の特徴を理解し、科学的な思考力を養う。</p> <p>緩和ケアでは、緩和ケアを取り巻く状況を理解した上で、全人的苦痛緩和の実践方法を学ぶ。関連トピックスや倫理的な諸問題について、学生それぞれが深く考察した上でグループワークを行い、自己の看護観を深め倫理的感性を高める機会とする。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	授業概要の説明	・オリエンテーション (細原)								
	2	慢性看護・リハビリテーション看護	・慢性看護とリハビリテーション看護の概念 (細原)								
	3~4	セルフマネジメント	・セルフマネジメントを支える諸理論 (細原)								
	5~8		・セルフマネジメントを推進する看護 (細原)								
	9~12	呼吸機能障害看護	・呼吸疾患の病態治療と看護援助 (細原・岡西)								
	13~15		・患者教育が必要な呼吸に関するセルフケア演習 (細原)								
	16~18	循環機能障害看護	・心疾患の病態治療と看護援助 (内海)								
	19~26	生体防御機能障害看護 内部環境調整障害看護 終末期・緩和ケア	・血液・造血器疾患の病態治療と看護援助 (細原・新井) ・腎疾患の病態治療と看護 (細原) ・終末期・緩和ケアの概念 (細原) ・全人的苦痛の理解と緩和ケア (細原) ・家族・遺族ケア (細原)								
	27~30		・がん看護における倫理的課題 (細原)								
	31~35		・苦痛緩和に向けた症状マネジメントの実際 (細原)								
	36~38	脳機能障害看護	・脳血管疾患の病態治療と看護援助 (内海)								
	39~44	事例展開 栄養・代謝機能障害看護 セルフマネジメントへの支援	・事例展開 (内海、細原、岩本、岡西、新井) ・肝疾患の病態治療と看護援助 (細原) ・糖代謝疾患の病態治療と看護援助 (細原) ・患者教育が必要な糖尿病に関する演習 (細原・岡西・新井)								
	45	まとめ	・学びの共有 (細原)								
教 科 書	成人看護学[2]~[8](医学書院)、ナーシング・グラフィカ成人看護学⑥緩和ケア(MCメディカ出版)										
参考書・参考資料等	慢性期看護論(ヌーヴェルヒロカワ)、緩和・ターミナルケア看護論(ヌーヴェルヒロカワ) 糖尿病食療法のための食品交換表(日本糖尿病協会・文光堂)、ナーシング・グラフィカ成人看護学③セルフマネジメント(MCメディカ出版)、②健康危機状況/セルフケアの再獲得(MCメディカ出版)										
成績評価の方法	定期試験など(60%)、小テスト(10%)、課題など(20%)、平常点(10%)により総合的に評価する。定期試験を受けるには4/5以上の出席があることが前提である。										
オフィスアワー	随時対応する。										
受講上の留意事項	日頃より医療福祉・看護に関する記事や報道等に関心を持ち、自分なりに考えてみる。また授業で新しく学んだ知識や理解が不十分な点について自己学習するなど主体的な学習態度で臨むこと。										

老年看護学 I (Gerontological Nursing I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	吉本 知恵(Chie Yoshimoto)、竹内 千夏(Chinatsu Takeuchi)、平井 智重子(Chieko Hirai)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>高齢者および高齢社会に対する理解を深めるために、老年期の特徴、高齢者の加齢に伴う変化の特徴および高齢社会の現状と課題、高齢者の生活、高齢者に関する保健医療福祉制度、倫理的課題等について学ぶ。さらに、老年看護の理念、老年看護の場と看護の役割について学び、高齢者や高齢社会に貢献する老年看護を探求する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①高齢者について身体的・精神的・社会的・時間的側面から説明できる。 ②高齢者を取りまく社会の現状と課題について説明できる。 ③老年看護の理念や老年看護の場と看護の役割について説明できる。 ④高齢者や高齢社会に貢献する老年看護について考えることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>授業開始時に10分程度の小テストを実施する。</p> <p>視聴覚教材を用いた講義、グループワーク、体験学習を組み合わせる。</p> <p>高齢者理解を深めるため、「高齢者疑似体験グッズを着用したADL体験学習」と「高齢者へのライフインタビューおよびライフレビューブック作成」後にレポートを課す。なお「高齢者へのライフインタビューおよびライフレビューブック作成」は時間外に実施する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	ライフサイクルにおける老年期	老いるということ、加齢に関する理論 高齢者の発達課題、ライフレビュー (吉本)								
	2	加齢に伴う変化①	加齢に伴う身体・生理的变化と観察 (吉本)								
	3	加齢に伴う変化②	加齢に伴う精神・心理的变化と観察 加齢に伴う社会生活面の変化と観察 (吉本)								
	4~5	高齢者疑似体験	高齢者体験グッズを着用したADL体験学習 (吉本、竹内、平井)								
	6	高齢社会の理解	高齢社会の現状と課題、諸外国との比較 (吉本)								
	7	高齢者の生活	高齢者の生活と意識、諸外国との比較 (吉本)								
	8~10	高齢者の保健・医療・福祉対策	保健医療福祉制度の変遷 老人福祉法、高齢者医療確保法、介護保険法 社会資源活用における看護職の役割 (吉本)								
	11	高齢者と倫理的課題	高齢者差別、権利擁護、高齢者虐待、身体拘束 (吉本)								
	12~13	老年看護の理念	老年看護の定義、老年看護の要素、高齢者のQOL 老年看護実践の特徴 (吉本)								
	14	老年看護の場と看護の役割	保健医療福祉施設における看護 (吉本)								
15	高齢者と性	高齢者のセクシュアリティへの理解と看護師の役割 (吉本)									
教 科 書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 老年看護学 ①高齢者の健康と障害(メディカ出版)</p>										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(20%)、レポート(20%)、授業参加度(10%)により総合的に評価する。但し、定期試験の受験には2/3以上の出席が前提となる。										
オフィスアワー	研究室に連絡を下さい。その際、時間等調整します。										
受講上の留意事項	高齢者および高齢社会に対する理解を深めるために、日常生活の中で高齢者やその家族の言動や心情に関心を持つと共に、社会における高齢者に関する情報に目を向け、学習に活用しましょう。										

老年看護学Ⅱ (Gerontological Nursing Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	吉本 知恵(Chie Yoshimoto)、竹内 千夏(Chinatsu Takeuchi)、平井智重子(Chieko Hirai)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 高齢者の加齢による変化および健康障害を理解し、高齢者が生きてきた過程における潜在的・顕在的な能力を最大限に発揮し、高齢者自身の価値観を尊重した日常生活を送れるための看護実践に必要な知識と技術を習得する。</p> <p>【到達目標】 ①加齢や疾患および健康障害が高齢者におよぼす身体的影響および日常生活への影響を説明できる。 ②加齢や健康障害による排泄、活動の状況を理解し、個別性のある援助方法について説明できる。 ③高齢者の食事(栄養)の実態を理解し、加齢や健康障害に応じた食事援助技術を実施できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>視聴覚教材やシミュレーターおよび資料を用いる。高齢者の加齢による変化および高齢者の特性や健康障害を踏まえた日常生活上の看護について明確にし、日常生活を支援する知識・技術を習得することを目的にグループ討議、意見交換の機会を設ける。</p> <p>演習と小テスト・課題の実施により、個々の学習課題を明確化しながら理解を深める。なお、事前に、老年看護学教科書を自己学習して授業に臨むこととする。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	高齢者の日常生活上の看護 ①	授業概要の説明 高齢者のコミュニケーションの特性と看護 (竹内)								
	2	②	高齢者の清潔の特性と看護 (平井)								
	3	③	高齢者の栄養の特性と看護 (竹内)								
	4	④	高齢者の特性を踏まえた食事援助 (吉本、竹内、平井)								
	5	⑤	高齢者の排泄の特性と看護① (平井)								
	6	⑥	高齢者の排泄の特性と看護② (平井)								
	7	⑦	高齢者の運動/移動の特性と看護 (平井)								
	8	⑧	高齢者の活動と休息の特性と看護 (竹内)								
教 科 書	老年看護学(医学書院)、老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠(ヌーヴェルヒロカワ) ナーシンググラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害(メディカ出版)										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(20%)、事前課題・レポート(20%)、授業参加度(10%)により、総合的に評価する。但し、定期試験の受験には3分の2以上の出席を前提とする。										
オフィスアワー	研究室に連絡を下さい。その際、時間等を調整します。										
受講上の留意事項	既習した学習内容と参考書・文献等を活用し、レディネスを向上した上で講義・演習に参加してください。また、学生個々の学習課題を明確にして、主体的に学ぶ姿勢をもつことを期待します。										

老年看護学Ⅲ (Gerontological Nursing Ⅲ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	吉本 知恵(Chie Yoshimoto)、片山 陽子(Yoko Katayama)、三木 佳子(Yoshiko Miki)、竹内 千夏(Chinatsu Takeuchi)、平井智重子(Chieko Hirai)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>高齢者が生きてきた過程や価値観を理解した上で、ホリスティックな視点をもって、人生の統合期にある高齢者への看護の方向性を探究する。加齢による生活機能の変化と、健康問題をもちながら生活する高齢者の身体・心理・社会的特徴を踏まえた上で、包括的アセスメントを基盤に生活特性を活かした看護過程の展開を学ぶ。また、高齢者とその家族の生活の継続性および人生の統合への支援を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①加齢や疾患および健康障害が高齢者におよぼす身体・心理・社会的特徴を説明できる。</p> <p>②認知症高齢者の日常生活援助を説明できる。</p> <p>③病院から在宅・施設へ移行する高齢者に対する退院支援を説明できる。</p> <p>④高齢者を包括的にアセスメントし個性のある看護問題および看護計画を立案できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	視聴覚教材や模擬高齢者および資料を用いる。 高齢者に多い疾患と、加齢および健康障害に伴う生活機能の変化を踏まえた高齢者に対する看護を理解と科学的思考力を基盤に、高齢者とその家族を対象とした看護過程の展開方法について理解を深めることを目的に、講義には模擬高齢者による演習や事例を用いた個人学習・グループ討議・発表等の機会を設ける。 小テスト・個人課題の実施により個人の学習課題を明確にしながらか理解を深める。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	高齢者のアセスメント	授業ガイダンス、包括的アセスメントとアセスメントツール (竹内)								
	2	高齢者の疾患と看護	高齢者に多い脳血管障害のアセスメントと看護 (竹内)								
	3	看護過程の展開①	事例に基づく看護過程の展開① (吉本、竹内、平井)								
	4～5	高齢者の疾患と看護	高齢者に多い運動器障害・呼吸器障害のアセスメントと看護 (竹内)								
	6～7	看護実践演習	高齢者の移動と廃用症候群の予防に関する看護技術 (吉本、竹内、平井)								
	8	〃	褥瘡のアセスメントと看護の実際 (吉本、三木、竹内、平井)								
	9	高齢者の治療と看護	高齢者の入院、検査、治療と看護 (竹内)								
	10	高齢者と家族看護	高齢者と家族看護 (吉本)								
	11	高齢者と死	End-of-Life care、尊厳死 (片山)								
	12	施設における看取り	高齢者の看取り (竹内)								
	13	療養の場の移行支援	移行の支援と継続看護マネジメント (竹内)								
	14	看護過程の展開②	事例に基づく看護過程の展開② (吉本、竹内、平井)								
	15	看護過程の展開③	事例に基づく看護過程の展開③ (吉本、竹内、平井)								
	16	認知症の理解と看護	認知症高齢者の理解と看護① (竹内)								
	17	〃	認知症高齢者の理解と看護② (竹内)								
	18	人生の統合への支援	回想法とライフレビュー (竹内)								
	19	看護過程の展開④	事例に基づく看護過程の展開④ (吉本、竹内、平井)								
	20	レクリエーション活動	高齢者のレクリエーション (竹内)								
	21	看護過程の展開⑤	事例に基づく看護過程の展開⑤ (吉本、竹内、平井)								
	22～23	看護過程の展開⑥⑦	事例に基づく看護過程の展開⑥⑦ (吉本、竹内、平井)								
	教 科 書	老年看護学(医学書院)、看護観察のキーポイントシリーズ 高齢者(中央法規出版)、老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠(ヌーヴェルヒロカワ)									
	参考書・参考資料等	適宜紹介する。									
成績評価の方法	定期試験(50%)、小テスト(20%)、レポート(20%)、授業参加度(10%)により総合的に評価する。但し、老年看護学Ⅲは演習と考え、定期試験の受験には授業全体の5分の4以上の出席を前提とする。										
オフィスアワー	研究室に連絡を下さい。その際、時間等を調整します。										
受講上の留意事項	既習した学習内容を活用し、主体的に講義・演習等に参加してください。授業は、テーマ討議や活発な意見交換を基盤に運営しますので、積極的な姿勢で取り組むことを期待します。										

母性看護学 I (Maternity Nursing I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	松村 恵子(Keiko Matsumura)、榮 玲子(Reiko Sakae)、植村 裕子(Yuko Uemura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 人間の生涯における性の発達と健康について学び、生命と性と生殖についての考えを深め、新しい家族の誕生期にある人々の健康生活を支援する母性看護について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①生命と法と生命倫理・Reproductive・Health／rightsについて考えを深めることができる。 ②母性と父性の概念について学び、子育てとの関係について説明できる。 ③女性と男性のライフステージにおける発達課題と健康について説明できる。 ④母子保健の動向について衛生統計、行政と法規のしくみの視点から説明できる。 ⑤母性看護の意義と役割、歴史的変遷、母子保健施策からみた現況について説明できる。 ⑥ライフサイクルからみた女性の健康と看護について説明できる。 ⑦現代社会における子育てをめぐる問題と課題およびその支援について考えることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	担当教員2人が視聴覚教材(パワーポイント、DVDなど)を用いた26時間の授業は、講義と演習の授業形態である。その後、母性看護学 I・小児看護学 I の合同演習(グループワークと発表、全体討議)を4時間行い、グループ学習で課題を達成する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	生命と法と倫理	1. 生命倫理・母性看護実践、 母性看護における倫理(松村)								
	2	Reproductive・ Health／rights	2. 概念と実際 女性と男性のReproductive・Health/rights(松村)								
	3	性の発達と健康	3. 性の概念(松村)								
	4	母性と父性と子育て	4. 子育ての概念と変遷、今日的課題 母性、父性、親性、育児性など(松村)								
	5	人間の生涯発達と子育て支 援	5. 生涯発達と子育て支援(松村)								
	6	女性と男性のライフステー ジ	6. 発達課題と健康(松村) 女性と男性のライフステージからみた健康支援								
	7	母児を取り巻く環境	7. 今日の環境における問題と課題(松村)								
	8	母子保健の動向	8. 衛生統計、行政と法規のしくみ(松村)								
	9	母性看護の意義と役割	9. 母性看護の概念(榮)								
	10	母性看護の歴史的変遷	10. 日本と諸外国における母性看護の変遷(榮)								
	11	母性看護の現況	11. 母性看護に関する組織と法律(榮) 母子保健施策からみた現況								
	12～13	ライフサイクルからみた女 性の健康と看護	12～13 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題および看護(榮)								
	14～15	現代社会における子育てを めぐる問題と課題およびそ の支援	14～15 <母性看護学・小児看護学合同演習> 母子とその家族の健康と子育て支援(榮、松村、植村)								
教 科 書	系統看護学講座 専門分野24 母性看護学 I (医学書院)										
参考書・参考資料等	授業において適宜紹介する。										
成績評価の方法	評価は、診断的評価と形成的評価(単元毎のテストなど)20%、総括的評価(終講試験)80%とする。 終講試験の配分は、授業項目1～8に関する試験内容50%、授業項目9～15に関する試験内容50%とする。										
オフィスアワー	在室時、所用や来訪者がいなければ、いつでも対応します。										
受講上の留意事項	母性看護学 I の単位取得の後、母性看護学 II の履修に進みます。 母性看護学に関する知識や理論に基づいて深く考え、主体的に学習する姿勢に期待します。										

母性看護学Ⅱ (Maternity Nursing Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	松村 恵子 (Keiko Matsumura)、榮 玲子 (Reiko Sakae)、植村 裕子 (Yuko Uemura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 周産期の妊娠・分娩・産褥における生理的・病理的現象、妊産褥婦と新生児の生理と病理、形態と機能など特徴について学び、母性看護に必要とされる理論、知識、技術など基礎的な看護について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①妊娠・分娩・産褥経過、新生児期の経過の生理的・病理的現象が説明できる。 ②妊婦、産婦、褥婦、新生児の健康状態のアセスメントに基づいた看護が説明できる。 ③ハイリスク対象を理解した看護が説明できる。 ④母性看護に必要とされる理論、知識、技術が修得できる。 ⑤生命を慈しむ人間性と看護について考えを深めることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	担当教員3人が授業を進める。妊婦の看護、産婦の看護、褥婦の看護、新生児の看護、親と子の看護は講義形式の授業形態である。看護過程展開は、講義と個人学習で事例の看護過程を展開する。看護実践演習は、小児看護学Ⅲと合同演習を行い、グループ学習で課題を達成し、演習後に実技試験、講義演習後に終講試験を行う。なお、実技試験合格後、終講試験とし、いずれも合格後に母性看護学実習に進むことができる。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	1. 妊婦の看護 (植村)	1. 妊娠経過と生理的・病理的現象								
	2		2. 妊婦と家族および社会								
	3		3. 妊婦の看護アセスメント・妊婦の needs に基づいた看護								
	4	2. 産婦の看護 (植村)	4. 妊娠中のマイナートラブルとその対応・ハイリスク妊婦の看護								
	5		5. 分娩経過と生理的・病理的現象								
	6		6. 産婦と家族および社会								
	7	3. 褥婦の看護 (榮)	7. 産婦の看護アセスメント・産婦の needs に基づいた看護								
	8		8. ハイリスク産婦の看護								
	9		9. 産褥経過と生理的・病理的現象								
	10	4. 新生児の看護 (松村)	10. 褥婦の身体的、心理的、文化・社会的特徴								
	11		11. 褥婦と家族および社会								
	12		12. 褥婦の看護アセスメント・褥婦の needs に基づいた看護								
	13	5. 親と子の看護 (松村)	13. ハイリスク褥婦の看護								
	14		14. 新生児期の経過と生理的・病理的現象								
	15		15. 新生児の特徴と健康診査								
	16	6. 看護過程展開 (松村、榮、植村)	16. 新生児の看護アセスメント・新生児の needs に基づいた看護								
	17		17. 新生児と家族および社会								
	18		18. ハイリスク新生児の看護								
	19	7. 看護実践演習 (松村、榮、植村)	19. 母児のコミュニケーション・母児相互作用の支援								
	20		20. 地域における親と子と家族								
	21		21. 母性看護実践におけるウェルネス事例に基づく看護過程								
	22～25	22～25. 看護過程の展開									
	26	26. 妊婦の健康診査(視診・計測診・触診・聴診)と必要な看護									
	27	27. 褥婦の健康診査(視診・計測診・触診・聴診)と必要な看護									
	28	28. 新生児の健康診査(視診・計測診・触診・聴診)と必要な看護									
	29	29. 新生児の沐浴(ビデオ撮影後自己評価、教員による他者評価)									
	30	30. 妊産褥婦・新生児の健康教育・生活の援助									
	教 科 書	系統看護学講座 専門分野25 母性看護学Ⅱ (医学書院)									
	参考書・参考資料等	母子健康手帳、その他、授業において適宜紹介する。									
	成績評価の方法	評価は、形成的評価(小テストなど20%)、総括的評価(終講試験80%)とする。 終講試験は、実技試験に合格していることを前提に受験できることとする。 終講試験の配分は、妊婦の看護20%、産婦の看護20%、褥婦の看護30%、新生児の看護30%とする									
オフィスアワー	在室時、所用や来訪者がいなければ、いつでも対応します。										
受講上の留意事項	母性看護学Ⅱは、疾病と治療Ⅲ・Ⅴ、母性看護学Ⅰの単位取得が履修条件となっています。 母性看護学Ⅰでの学習内容を復習して授業に臨むこととします。 母性看護学実習の履修には、本科目の単位取得が履修条件となっています。 母性看護学に関する知識や理論に基づいて深く考え、主体的に学習する姿勢に期待します。										

小児看護学 I (Pediatric Nursing I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	舟越 和代(Kazuyo Funakoshi)、三浦 浩美(Hiromi Miura)、松本 裕子(Yuko Matsumoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 人間のライフサイクルの中での小児期の特徴や子どもの成長・発達、小児看護の役割と課題について学ぶ。母子保健、医療、福祉の動向や、現代社会における子どもと家族の健康に関する諸問題について理解し、子どもの権利を守る看護者の役割について広い視野で考えることができる。</p> <p>【到達目標】 ①小児期各期の子どもの成長発達が理解できる。 ②小児期各期の子どもの特徴を踏まえたケア方法について考えることができる。 ③現代社会における子どもと家族の健康に関する諸問題に関心を持ち、子どもの権利を守る看護職の役割について自分の意見を述べるができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>小児看護の対象である小児期の子どもたちが具体的にイメージできるように視聴覚教材を用いて成長発達過程を理解するとともに、子どもの成長発達を保障する関わり方を学習する。その上で、現代社会の子どもをとりまく家族や地域の理解、また子どもの権利を保障できる看護について考える。</p> <p>小児看護学 I・母性看護学 I の合同演習(グループワークと発表による全体討議)を行う。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	小児看護の特徴と理念	国内外における小児看護の歴史と役割 (舟越)								
	2		小児看護を支える基本理念と関連理論 (舟越)								
	3		子どもの権利と小児看護 (舟越)								
	4	子どもの成長発達と看護	成長・発達の原則 (舟越)								
	5		乳児期の子どもの成長発達と看護 (舟越)								
	6		幼児期の子どもの成長発達と看護 (舟越)								
	7		学童期の子どもの成長発達と看護 (舟越)								
	8		思春期の子どもの成長発達と看護 (舟越)								
	9		発育の評価 (舟越)								
	10		小児の保健・福祉施策の 推移と課題	疾病構造の変化と小児看護 (舟越)							
	11	社会環境の変化と小児看護 (舟越)									
	12	学校保健・病児教育 (舟越)									
	13	小児と家族 (舟越) (小児看護学・母性看護学合同演習)									
	14	母子とその家族の健康と子育て支援の問題と課題 (全教員)									
	15	母子とその家族の健康と子育て支援の方法 (全教員)									
教 科 書	系統看護学講座 専門分野22 小児看護学1(医学書院)、 ナーシング・グラフィカ28 小児看護学 小児の発達と看護(メディカ出版)										
参考書・参考資料等	適宜講義で紹介しします。										
成績評価の方法	定期試験(90%)、課題(10%)により評価します。										
オフィスアワー	質問があればいつでも来て下さい。										
受講上の留意事項	子どもへの興味と感心を持って、ボランティア等自主的な活動の機会を持つことを期待しています。 現代の子どもがおかれている社会や周囲の状況を理解し、子どもとその家族の健全な成長・発達の支援について考えながら、看護職の役割が何かを常に探求していきましょう。										

小児看護学Ⅱ (Pediatric Nursing Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	三浦 浩美(Hiromi Miura)、松本 裕子(Yuko Matsumoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>さまざまな健康レベルにある子どもとその家族が抱える問題を、子どもの成長発達段階と関連させて理解し、問題解決に向けた看護援助を理論や知識をもとに考える。</p> <p>また、子どもの権利条約と倫理的配慮に基づいた援助の必要性や国内外での方法を学び、小児看護における看護者の役割について考えることができる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①子どもが健康障害をどのように理解するかを発達上の特徴と関連させて考えることができる。</p> <p>②子どもの権利を尊重した援助の方法について考えることができる。</p> <p>③子どもがどのような医療環境におかれているか理解し、看護の課題について考えることができる。</p> <p>④各健康レベルにある子どもの身体的・心理的・社会的特徴を理解し、援助を考えることができる。</p> <p>⑤健康障害のある子どもをもつ家族の身体的心理的・社会的特徴を理解し、援助を考えることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>既習の学習内容や基礎的な用語・知識は、事前学習・自己学習を前提とする。自己学習の習得状況の確認のため、授業の最初に個人小テスト、グループテストを行うことがある。なお、テストを行う場合は、必ず事前に試験範囲などの周知を行う。</p> <p>授業では、知識の理解を深めるための応用課題を、グループワークを中心にして行う。グループでの意見交換が活発にできるためにも、事前学習を必ずしておくこと。</p> <p>視聴覚教材や模型等を見たり触れたりしながら、病気の子どものイメージし、子どもへの援助を考える。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	授業概要説明	学習課題と進め方の説明(三浦)								
	2	既習項目の理解度確認	小児看護学で用いる看護理論など既習項目の確認テスト(三浦)								
	2	健康障害のある子どもへの看護	健康障害に対する子どもの理解と反応(三浦)								
	3	子どもの看護と倫理	健康障害のある子どもの健康問題(三浦)								
	3	子どもへの倫理的配慮に基づいた看護援助	子どもへの倫理的配慮に基づいた看護援助(三浦)								
	3	状況に特徴づけられる看護Ⅰ	入院中の子どもと家族の看護(三浦)								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	外来における子どもと家族の看護(三浦)								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	レポート課題:子どもの救急医療における問題と対策								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	急性期にある子どもと家族の看護(三浦、松本)								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	個人小テスト:子どもの体の解剖・生学的特徴								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	グループテスト:子どもに起こりやすい症状								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	グループワーク:肺炎で入院した子どもと家族の事例の検討								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	周手術期にある子どもと家族の看護(三浦、松本)								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	グループワーク:ファロー四徴症で手術をする子どもの周手術期の看護								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	慢性期にある子どもと家族の看護(三浦、松本)								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	グループワーク:1型糖尿病、ネフローゼ症候群の子どもと家族の事例の検討								
	4~7	各健康レベルに応じた子どもと家族の看護	終末期にある子どもと家族の看護(三浦、松本)								
	8	状況に特徴づけられる看護Ⅱ	災害を受けた子どもと家族の看護(三浦、松本)								
教 科 書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1](医学書院)、 ナーシング・グラフィカ 小児看護学[1] 小児の発達と看護(メディカ出版)										
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	小児看護ケアモデル実践集(へるす出版) 小児外科看護の知識と実際(メディカ出版) ココからはじめる小児がん看護(へるす出版)										
成 績 評 価 の 方 法	個人小テスト(10%)、グループテスト(10%)、グループ課題への取り組み(10%)、提出課題(20%)、定期試験(50%)により評価します。										
オ フ ィ ス ア ウ ー	質問があればいつでも来てください。都合が合う時はいつでも対応します。										
受 講 上 の 留 意 事 項	特に『疾病と治療Ⅴ』『小児看護学Ⅰ』での学習内容の復習が重要です。原則として毎時間グループ単位で小テストや応用課題をしますので、各個人が事前学習をして授業に臨み、グループワークで力を発揮してください。また、子どもの反応や援助をイメージしやすいようにビデオ等を使いますが、プライベートでも子どもとの関わりを増やしたり、過去の自分の経験を思い出しながら、考えを深めてください。										

小児看護学Ⅲ(Pediatric Nursing Ⅲ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	三浦 浩美(Hiromi Miura)、舟越 和代(Kazuyo Funakoshi)、松本 裕子(Yuko Matsumoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>疾病や障がいがある子どもと家族を全人的に統合して捉え、アセスメントし看護ケアを実践するための知識や理論について学習する。また、子どもの特性を理解し、健全な成長発達を保障する看護技術が提供できるように、日常生活援助技術及び検査・処置時の看護技術について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①子どもに特有な症状について、解剖生理の特徴を踏まえたメカニズムと、必要な看護ケアを理解できる。 ②子どものフィジカルアセスメントについて、子どもの特徴を踏まえたうえで、援助技術を習得できる。 ③子どもと家族を対象とした看護過程の展開方法について理解し、科学的思考力を養うことができる。 ④特別な状況にある子どもと家族を理解し、必要な看護について考えることができる。 ⑤グループで協力して学びあうことにより、主体的な学習ができ、自己の課題に気づくことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>講義、グループワーク、演習を通して上記の到達目標を達成する。病気の子どもと家族、そして看護者として関わる自分自身を、いかに具体的にイメージできるかがポイントである。そのために、講義では視聴覚教材や模型を活用する。講義で学習したことが一般的知識に終わらないよう、肺炎の事例(A児)を一貫して用いて、A児の場合の適応を常に考える。グループワークや演習においては、各自が自己学習したうえで意見交換し、A児像をより具体的に、適切な方法を創造性を発揮しつつ考え、繰り返し練習する。グループメンバーで子ども役、家族役、看護師役に分かれてロールプレイを行う。シミュレーターやモデル人形を活用し、状況設定に応じた援助技術を繰り返し練習する。</p> <p>フィジカルアセスメントの技術においては、演習期間中に技術試験を行って、一定のレベルの習得を図る。また、実技の様子を動画撮影し、より客観的な自己評価を行う。</p> <p>子どもの権利を保障する看護について常に問い続けながら学習を進める。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～5	(講義) 症状を示す子どもの看護	一般状態、痛み、発熱、呼吸・循環、消化器症状、水分・電解質異常、血液、神経・筋症状、発疹 (三浦)								
	6・7	特別な状況にある子どもと家族の看護	障がいのある子どもと家族の看護 (舟越) 在宅療養が必要な子どもと家族の看護 (舟越) ハイリスク新生児と家族の看護 (舟越)								
	8～12	子どもの看護に必要な看護技術	援助関係を形成する技術 (三浦) 環境を調整する技術 (三浦) 生活援助技術 (三浦) 症状・生体機能の管理技術 (松本) 呼吸・循環を整える技術 (松本) 与薬の技術 (舟越) 救急救命の技術 (三浦)								
	13～16	看護過程の展開 (演習)	事例による看護過程の展開 (三浦・松本・舟越)								
	17～22	子どもの看護に必要な技術	乳幼児の観察とバイタルサイン測定 (三浦・松本・舟越) 乳幼児の身体計測 (舟越・三浦・松本) 乳幼児の与薬 (松本・舟越・三浦) プリパレーションの計画と実施 (三浦・松本・舟越)								
教 科 書	系統看護学講座 専門分野22, 23 小児看護学1, 2(医学書院) ナーシング・グラフィカ29, 小児看護学 小児看護技術(メディカ出版)										
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程, 荃津智子編(医歯薬出版) 発達段階からみた小児看護過程 病態関連図, 石黒彩子・浅野みどり編(医学書院) 根拠と事故防止からみた小児看護技術 浅野みどり編(医学書院) 病と共に生きる子どもの看護, 及川郁子監修(メヂカルフレンド社) 小児看護実習ガイド, 筒井真優美監修(照林社) 等										
成 績 評 価 の 方 法	定期試験70%、看護過程10%、演習への取り組み姿勢及びレポート20%、で評価します。										
オ フ ィ ス ア ウ ー	質問はいつでも受け付けます。積極的に教員を活用してください。										
受 講 上 の 留 意 事 項	対象が子どもであることを念頭におき、子どもの権利の保障について考えながら、子どもとその家族の発達を視野に入れた支援について考えていくようにしましょう。										

看護研究方法論 (Methodology of Nursing Research)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	三木 佳子(Yoshiko Miki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 専門ゼミナールで研究テーマの設定から研究の公表に至るまでの全過程で自律的に取り組めるように、研究プロセスの各ステップでの意義を理解し、方略を選択し、実施する基礎的な能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護研究の本質を理解し、実現可能な研究テーマを段階的に絞り込むことができる。 ②文献検討の意義と活用方法が理解できる。 ③研究目的に適した研究デザイン、データ収集・分析方法を選択でき、研究計画書が記述できる。 ④読み手、聞き手の立場にたった研究の公表の方法が理解できる。 ⑤研究の倫理的配慮の意義と方法が理解できる。 										
授 業 の 進 め 方	1回は、看護研究の意義と概要についての講義を行い、研究の流れを解説し研究テーマの絞り込みを開始する。2回は文献の意義と文献検索方法、整理方法について演習を行う。3回は、研究デザインと選択と倫理的配慮の意義と方法について講義し、全体で考えながら研究テーマの絞り込みシートと研究計画作成を個人で記述する。4回、5回は質的研究5回、6回は、量的研究のデータ収集と分析方法の講義と演習を行う。8回で公表の仕方の講義でまとめとする。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	看護研究の意義と概要	看護研究の意義と研究テーマの絞り込みと研究プロセス概要								
	2	文献の意義と文献整理	文献の意義と文献検索方法、整理方法								
	3	研究デザイン	研究デザインと選択と倫理的配慮の意義と方法								
	4	質的データ収集方法	質的データの観察法								
	5	質的データ分析方法	抽象化の意義とカテゴリー化								
	6	量的データ収集方法	概念枠組みと質問紙作成方法								
	7	量的データ分析方法	分析目的に応じた統計的手法の選択								
	8	研究成果の公表の仕方	論文の書き方とプレゼンテーションの留意点								
教 科 書	看護における研究 第2版(南裕子編著、日本看護協会出版会)										
参考書・参考資料等	よくわかる質的研究の進め方・まとめ方、看護研究のエキスパートをめざして(グレッグ美鈴、麻原きよみ、横山美江編著、医歯薬出版) パソコンで進めるやさしい看護研究(富田真佐子著、オーム社) その他は適宜紹介する。										
成績評価の方法	コメントシート(40%)、研究テーマの絞りこみシート(30%)、看護研究計画書(30%)										
オフィスアワー	随時相談 miki-y@chs.pref.kagawa.jp(三木)										
受講上の留意事項	専門ゼミナールでの看護研究の実際に繋がるように、専門ゼミナールのオリエンテーションおよび図書館司書による文献検索方法の説明会が並行してあります。この2つを受けることを前提に授業を進めます。成績評価となる演習課題は、授業の全過程で仕上げられるようにするため、配布資料はファイルし、テキストと同様に毎回持参していただく効率的な学習に繋がります。										

専門ゼミナール(Nursing Research Seminar)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	通年	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担 当 教 員	看護学科教員										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 専門ゼミナールでは看護研究方法論で学んだ知識に基づいて、各々の関心課題に焦点をあて看護研究の展開を演習する。これらの研究過程をとおして研究的思考と倫理的姿勢を基盤に看護研究への関心を深め、看護研究に関する基礎的能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 専門ゼミナールの到達目標は以下のとおりである。</p> <p>① 研究論文の作成について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護現象における研究課題の選定ができる 2) 先行研究をレビューし、研究の背景を明確にできる 3) 研究の目的・意義・必要性を明確にできる 4) 研究目的を導くための適切な方法を選択し探求できる 5) 上記1～4の内容を研究計画書として記述できる 6) 研究の倫理的配慮を遵守し、研究を実施できる 7) 研究の独自性・創造性について理解できる 8) 論文は論理性・明瞭性・一貫性を考慮して記述できる 9) 研究成果に意義のある(有用な)知見を含むことができる 10) 形式的条件を充たすことができる <p>② 研究に取り組む主体性と基本的研究能力の習得について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護専門職が研究を実施する意義を理解し説明できる 2) 基本的な看護研究プロセスへの理解を深めながら研究を進めることができる 3) メンバーや教員とのディスカッションでは主体的かつ建設的に意見を述べ、議論の深まりに貢献できる 4) 研究グループ又は領域で効果的なメンバーシップを発揮できる 5) 全過程を通して、真摯かつ主体的に研究に取り組むことができる 										
授 業 の 進 め 方	各担当教員の指導のもと、グループまたは個人で研究課題を選定して研究を実施する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～15	研究の実施	<研究ガイドラインに沿って看護研究を実際に行う> 各担当教員の指導のもと 1. 文献的考察を行う 2. 研究課題を明確化し研究計画書を立案する 3. 学部生看護研究倫理審査(看護学科)に申請し承認を得る 4. 選択した研究デザインを用いて研究データの収集・分析を行う 5. 結果をまとめる 6. 論文を作成する 7. 研究成果を発表する								
教 科 書	指定しない										
参考書・参考資料等	各担当教員から適宜紹介する										
成績評価の方法	各担当教員が看護研究評価表として提示した評価視点に基づいて評価し単位認定する										
オフィスアワー	担当教員に事前にアポイントを取り、都合を確認してください										
受講上の留意事項	一連の研究プロセスに主体的に取り組むことで、研究的思考力や判断力、意思決定力を養っていきましょう										

看護トピックス(Topics in Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	舟越 和代(Kazuyo Funakoshi)、内海 知子(Tomoko Utsumi)、岩本 真紀(Maki Iwamoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】「がん看護」と「小児障がい看護」に焦点を当て、これらの看護実践の基本となる理論に基づいた看護、人間の生活の質の向上と社会の動向に対応できる看護について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①がんに関する社会の動向とがん看護における課題を説明できる。</p> <p>②がんサバイバーシップの考え方を知り、サバイバーとその家族への看護を説明できる。</p> <p>③社会の動向をふまえた小児障がい看護の専門性や実践能力を高めるための知識と技術について知り、その概要を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	「がん看護」と「小児障がい看護」について、学生個々で課題を持って授業に臨む。授業では研究成果や政策などの最新の情報を用いた講義、学生間での討議を通して学生個々が持つ課題についての理解と考えを深める。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	がん看護	がんに関する社会の動向、がんの統計 (内海)								
	2	〃	がんサバイバーシップ、がん体験者の理解(小児, 成人, 老年期での体験の特徴と課題) (内海)								
	3~4	〃	がんの治療と療養過程に焦点を当てた看護実践 (岩本)								
	5	小児障がい看護	障がいや疾病で長期療養を必要とする小児の動向と特徴 (舟越)								
	6	〃	医療的ケアを必要とする小児が示すおもな症状と看護 (舟越)								
	7	〃	障がいや疾病で長期療養を必要とする小児の在宅生活を支える家族および介護者への支援 (舟越)								
	8	〃	地域の社会資源の理解と活用 (舟越)								
	教 科 書	必要時は、資料を配布する。									
参考書・参考資料等	随時紹介する。										
成績評価の方法	レポートによって評価する。レポートは、受講にあたって設定していた課題のうち「がん看護」と「小児障害看護」のどちらかをテーマとして選択し、自分の考えを5,000字程度にまとめる。										
オフィスアワー	研究室に在室時、都合が合えばいつでも対応します。										
受講上の留意事項	がん看護: 今は2人に1人ががんにかかるといわれています。ぜひ履修して、卒業後の看護実践に活かしましょう。 小児障がい看護: 授業支援者も交えての講義です。当事者の方々との交流から看護観が深められることを望みます。										

家族看護論 (Family Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	三木 佳子 (Yoshiko Miki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 家族が自立的自律的に家族機能を維持・向上できるように、家族看護諸理論と必要な用語を理解し、家族看護を 実践できる能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 家族の理解と実践に必要な家族看護理論の知識を習得できる。 ② 家族環境図、家族関連図を用いたアセスメントを行い、ターゲットファミリーの家族看護問題を抽出することが できる。 ③ ターゲットファミリーの家族看護支援計画を立案できる。 ④ 意思決定の場面を通じて看護実践する能力を習得できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	1回は家族の捉え方を中心に家族看護論の概要を説明し家族環境図を作成する。2回から7回はグループワーク で、事例を用いて家族環境図、家族関連図を用いたアセスメントを行い、ターゲットファミリーの家族看護問題を抽 出し、家族介入方法を考える。8回は家族の意思決定支援の実際を理解するために、家族、看護師を演じる演習を 実施し、全体のまとめを行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	家族看護論の概要	家族の定義と家族環境図作成								
	2	急性期・回復期の家族看	急性期・回復期の家族の理解と家族問題看護								
	3	護									
	4	高齢者介護を行う家族の	家族関連図を用いた家族アセスメントのしかた								
	5	看護									
	6	小児をもつ家族の家族支	家族問題への介入方法								
	7	援									
	8	家族の意思決定支援	家族の意思決定支援方法								
		まとめ	まとめ								
教 科 書	新しい家族看護学—理論・実践・研究 (法橋尚宏編著、メディカルフレンド社)										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	毎回のコメントシート(20%)、グループワーク参加度と発表(20%)、試験問題(60%)										
オフィスアワー	随時相談 miki-y@chs.pref.kagawa.jp (三木)										
受講上の留意事項	母親や介護者への家族員を対象とした家族看護のみならず、家族を一個の集団と捉えた新しい家族看護学を学 習する。家族を一個の集団としての視方は、すべての看護の科目に通じるものであると捉えて授業に臨んで欲し い。										

看護政策論(Nursing Policy)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義、グループワーク
担 当 教 員	井伊 久美子(Kumiko Ii)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>医療の高度化・複雑化に伴う看護業務の増大など、医療・看護を取り巻く環境が変化するなか、看護職に期待される役割は拡大しています。しかし、「人々に安全・安心の医療・看護」を提供するための環境は十分とは言えません。看護の質や現場を変える制度づくりのために、現場の声をどのように看護政策に反映していくかを学びます。政治的な関心や看護政策の基礎知識を持ち、時代が求める看護職の活動のために政策活動に参画できる基礎づくりの一つとします。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①看護政策につながる身近な課題を説明することができる。</p> <p>②現行制度と看護政策課題の関連を説明することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>難しくなりがちな看護政策を身近に感じ、興味深く学べるようにします。</p> <p>講義で基礎的な事項を学び、現在の看護をめぐるさまざまな情勢を紹介し、身近な事項についての政策過程をたどります。また、実践現場で日々の活動を支える法律について、その狙いや意図するところを理解し、法的背景がいかに重要かを理解します。</p> <p>最近の関連の出来事を分析し、法律や看護政策を身近にとらえます。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	看護の社会的責務と法的根拠	法令と法体系								
	2	看護関係法	保健師助産師看護師法等								
	3	医療政策が決まる仕組み	医療介護総合確保推進法を例にとって 他								
	4	看護関連法律のできるまで	特定行為に係る研修制度を例にとって 他								
	5	看護関連法律と現場①	診療報酬制度から								
	6	看護関連法律と現場②	入院基本料の構造から 看護職員確保対策 ナースセンターの役割と法的背景								
	7	現場の思いから政策へ	看護職者の政策過程への参画 グループワーク								
	8	まとめ	発表								
教 科 書	看護職者のための政策過程入門(日本看護協会出版会)										
参考書・参考資料等	看護管理学習テキスト 看護制度・政策論(日本看護協会出版会)、 私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法(日本看護協会出版会)、 看護六法(新日本法規)										
成績評価の方法	グループワークの参加度、課題レポートにより総合的に評価します。 課題レポート60%、グループワークの参加度40%										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	看護政策を身近なものとして、また、看護実践の基礎となる領域として位置付けて、主体的に学んでください。										

災害看護論 (Disaster Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	松本 登紀子 (Tokiko Matsumoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が人々の健康や社会生活に及ぼす影響と障害について理解を深める。 ・自らの防災意識を高め、日常の災害対策について考える。 ・災害に対して看護職者が果たす役割や災害時の看護実践について学習する。 ・組織的、制度的災害対策について知る。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 災害や災害医療について理解できる。 ② 災害が人々の健康や社会生活に及ぼす影響と障害について理解できる。 ③ 災害時の看護職者の役割と機能を理解できる。 ④ 災害時の被災者への援助やこころのケアについて理解できる。 ⑤ 自らの防災意識を高め、日常の災害対策・防災対策について考えることができる。 										
授 業 の 進 め 方	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外で発生した災害事例や災害救護活動を紹介しながら、上記の目的が達成できるよう講義や演習を進める。 ・災害について具体的にイメージできるようにビデオ等を活用したい。 										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1		災害とは ・災害の定義・分類、・災害医療の歴史								
	2		災害が人々の健康や社会生活に及ぼす影響								
	3		災害医療とは								
	4		災害時の看護職者の役割と機能								
	5		被災者への援助								
	6		災害時のこころのケア								
	7		災害対策・防災対策								
	8		まとめ								
教 科 書	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学										
参考書・参考資料等	授業において適宜紹介する。										
成績評価の方法	平常点(10%)、授業への参加度(10%)、課題レポート(80%)により総合的に評価する。										
オフィスアワー	平日8:40～17:20、高松赤十字病院TEL:087-831-7101(代表)										
受講上の留意事項	災害に遭遇する可能性は誰もが持っています。他者の援助を考えることは、自分や家族の防災・減災について考える機会になると思って講義を受けてください。										

国際看護論 (International Nursing)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	平木 民子 (Tamiko Hiraki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>グローバル化の進展に伴い、看護の世界でも国際化が進んでいる。わが国でも文化や民族の異なった人々が増え、このような人への看護を提供する機会が増えている。また、日本で働く看護職者が国際協力の場で活躍することも期待されている。そこでこの授業では、国際化時代を生きる上で求められる異文化を見る目を養い、また、国際協力に関する看護活動について具体的に知り、国際貢献の仕方とそのため求められる能力について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 国際的な視点や視野で看護を考える重要性と意味を理解し説明できる。 ② 国際看護活動に関連する組織機構について説明できる。 ③ 国際協力に関する看護活動の実際を知り、求められる能力について説明できる。 ④ 国際看護活動を行うための異文化理解と看護実践の共通性について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>学習目標が達成できるよう、講義を進めながら適宜ディスカッションする。資料やビデオも適宜活用する。渡航したい国を取り上げて、「国の紹介と異文化理解あるいは健康支援の実行計画」について、授業時間内に各自がプレゼンテーションする。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	国際看護を学ぶ意義	国境を超える感染症、身近にある国際看護								
	2	国際協力と国際機関	人々の健康と国際機関、ミレニアム開発目標								
	3	日本の国際協力機関	国際協力と日本のODA、NGO								
	4	異文化への対応	異文化とは、多文化共生とは								
	5	在日外国人への看護	日本で経験する文化の違いと支援								
	6	国際看護の第一歩	国際的体験と安全対策								
	7	国際看護活動の実際	具体的事例に対する意見交換								
	8	国際看護活動の実際	具体的事例に対する意見交換								
教 科 書	国際看護学 (メジカルフレンド社)										
参考書・参考資料等	資料と文献リストを開講時に提示する。										
成績評価の方法	<p>○授業への参加度 (40%)</p> <p>○プレゼンテーション (60%)</p> <p>「内容の興味深さ」「資料のみやすさ」「説明のわかりやすさ」「考えの深まり」</p>										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	国際看護に興味をもつ人が積極的に参加することを期待します。										

基礎看護学実習 I (Fundamental Nursig Practice I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担 当 教 員	平木 民子 (Tamiko Hiraki)、堀 美紀子 (Mikiko Hori) 松村 千鶴 (Chizuru Matsumura)、小林 秋恵 (Akie Kobayashi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 保健・医療・福祉サービス提供の場における看護職者の実際の活動に触れて、チーム医療における看護職の役割、専門性、やりがい、課題などについて理解を深める。個人およびグループによる情報収集-分析-まとめ-発表の学習過程を通して、“看護とは何か”を主体的に探究する能力を習得し、看護に対する興味関心を高める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護職者がどのような役割を遂行して地域の人々の健康生活に貢献しているか理解できる。 ②看護職者の実際の活動内容を把握し、看護の専門性について理解できる。 ③「健康の保持増進・疾病回復・再発予防」の一連の健康づくりの視点から看護の継続について考察できる。 ④社会人としてのマナーやルールを守り、周囲の人々と良い人間関係を築くことができる。 ⑤グループメンバーと協力して主体的に学習を進めることができる。 										
授 業 の 進 め 方	実習時期：平成31年2月4日(月)～2月15日(金)5～6人/1Gに編成し、グループで学習を進める。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1週目	看護職の仕事の見学	<p><1週目>看護職者の説明や活動の見学を通して理解する。 ・香川県立中央病院、高松赤十字病院、香川大学医学部附属病院のいずれかの病棟にて、急性期病院の看護師の活動に触れる。 ・急性期病院以外の施設(保健所、地域包括支援センター、産業保健、訪問看護ステーション、リハセンター、助産院など)のいずれかの場で 看護職者の活動に触れる。</p>								
	2週目	まとめと発表	<p><2週目>学内でまとめをして発表会をもつ。 ・個人レポートは「目指したい看護専門職像」とし、内容を焦点化して記述する</p>								
教 科 書	実習のための教科書はないが、看護学原論と看護学方法論で使った教科書を活用する。										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	<p>○実習参加度(10%) ○グループワーク発表(40%) <評価の視点> 「発表の内容が興味深い」「発表工夫しわかりやすい」「発表のパフォーマンスが良い」 「考察が的確である」「チームワークを発揮している」</p> <p>○個人レポート(50%) <評価の視点> 「形式的条件」「主題目的の明確さ」「論旨の一貫性」「簡潔明瞭な文章」「自己の考えの深まり」</p>										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	「将来、看護職に就く自分」を意識して「目指したい看護専門職像」を明確にしてみましょう。										

基礎看護学実習Ⅱ (Fundamental Nursig Practice Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担 当 教 員	平木 民子 (Tamiko Hiraki)、堀 美紀子 (Mikiko Hori)、 松村 千鶴 (Chizuru Matsumura)、小林 秋恵 (Akie Kobayashi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 健康障害をもつ個人を対象に問題解決アプローチ(看護過程)を用いて、対象がもつ固有な健康問題の解決に向けた個別性のある看護を考え実施する。この実践過程を通して、看護を科学的に思考し実践する能力、主体的に行動する能力、援助的人間関係を形成する能力の基本を身につけることを主たる目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 対象者(患者家族)と援助的人間関係を形成し発展させることができる。 ② 対象者を身体的・心理的・社会的な側面をもち変化成長する生活者として全体的に理解することができる。 ③ 問題解決アプローチ(看護過程)を用いて看護を科学的に思考し実践することができる。 ④ 看護援助を実施する際には、既習の知識スキルを応用して、その場の状況に応じた判断と行為ができる。 ⑤ 臨地の場で直面する様々な問題解決に積極的に取り組み、その経験を内省し意味づけることができる。 										
授 業 の 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> ① 香川県立中央病院、高松赤十字病院、香川大学医学部附属病院のいずれかの病棟に、1グループ6～7名の学生を配置して2週間の実習を行う。 ② 各グループには、教員と臨床指導者が双方の役割分担に基づいて連携しながら指導にあたる。 ③ 学生一人が一人の患者を受持ち、実習目的・目標に沿って看護を行う。 										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル		看護過程の理論と実践の統合 臨床判断の修得 実習での学習方法の修得	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学んだ看護過程の方法論を実際の臨床で展開してみる。 2. 実習1週目には、受け持ち患者の全体像を発表し意見交換し、実習最終日には、行った看護とその評価について効果的に要約発表し意見交換する。 3. 対象者の状態や変化に対応するための実践での思考過程を学ぶ。 4. 臨床の看護師の思考や行動を見て解釈して自分に採り入れる 5. 実習での経験から学習する方法を身につける 6. グループの学生や教員や看護スタッフと協働学習する方法を学ぶ。 7. 実習終了後には、行った看護実践の中から重要な出来事を焦点化しをまとめ、本実習経験の意義を考察する。 								
教 科 書											
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	<p>○実習参加度(10%)、 ○看護実践能力を評価する自己評価表(60%) 各行動目標に沿って4点(ほぼ達成)、3点(ほぼ達成)、2点(どうにか達成)、達成困難(1点)で評価する。 ○課題レポート(30%) 「目的と動機の明確さ」「論旨の一貫性」「言語表現の的確さ」 「形式的条件の充足」「看護に対する考えの深まり」</p>										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	看護過程は、それ自体が目的ではなく、個別的な看護を提供するための手段です。常に変化している臨床状況に合った看護ができるように、実習記録用紙を有効に活用しましょう。臨床で遭遇する問題場面の対応方法を学びましょう。臨床看護師の優れた判断や行動をよく観察分析し、自分が見習うべきことは何かを探究しましょう。										

公衆衛生看護学実習 (Public Health Nursing Practicum)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	前期	単位数	4.0	時間数	180	授業形態	実習
担 当 教 員	高嶋 伸子 (Nobuko Takashima)、辻 よしみ (Yoshimi Tsuji)、林 佳子 (Yoshiko Hayashi)、植原 千明 (Chiaki Uehara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 地域特性を踏まえ、地域で生活する個人・家族・集団・地域を対象に、保健医療福祉の一員として住民と協働して行う公衆衛生看護活動の展開に必要な基本的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①地域特性を踏まえ、地域の実態に応じた公衆衛生看護活動の展開が説明できる。 ②地域で生活する個人・家族・集団を対象とした公衆衛生看護活動が実践できる。 ③地域の健康課題解決に必要な社会資源を検討できる。 ④保健所および保健センター、地域包括支援センターの機能を知り、保健医療福祉のヘルスケアシステムの中で保健師が果たす総合的調整機能を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>1. 東讃保健福祉事務所、小豆総合事務所、中讃保健福祉事務所、西讃保健福祉事務所及び高松市、小豆島町、東かがわ市、丸亀市、綾川町、多度津町、観音寺市のいずれかで実習する。 2. 学生2名を1組として、1保健所あたり1～3組に分かれて実習する。 3. 実習計画は、保健所、市町、大学が協議し、作成する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール		実習前	<ul style="list-style-type: none"> ・学内オリエンテーションを受け実習目的、目標、方法等を理解する。 ・実習地区の既存資料や地区視診等により地域特性や地域の健康課題を分析する。地域診断ファイルを作成し、担当教員および実習指導者に提出する。 ・実習計画をふまえて保健師ノートを作成する。 								
		実習中	<ul style="list-style-type: none"> ・1週目は、現地オリエンテーションや臨地講義を受けたり、地区視診を行い地域特性や住民の生活・健康状態の理解を深めるとともに、実習計画に関する事前学習を十分に行う。産業保健活動の実際を臨地で学ぶ。 ・2～4週目は、実習計画に基づき、地域の保健活動に参加する。また、保健師の指導・助言のもとに、地域住民に対する保健指導を体験する。さらに、カンファレンスをととして、学生個々の体験をグループ全体の学びに発展させる。 ・事例検討では、経験した訪問事例の看護場面を再構築し、地域生活者としての対象理解や保健師固有の支援技術を明確にする。 ・成果報告会を担当教員及び実習指導者等の出席のもと実習施設において行う。学生2名1組で地域診断過程や公衆衛生看護活動の意義をプレゼンテーションし、学びを共有する。 								
		実習後(学内)	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員との個別面接によって実習評価を行う。 ・課題レポート、地域診断ファイル、各種記録を担当教員に提出する。(詳細は、実習要項参照) 								
教 科 書	公衆衛生看護学及び地域看護学、専門基礎科目等で用いた教科書や参考書を活用する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	実習評価表60%、健康教育15%、カンファレンス参加状況10%、記録5%、レポート10%により、総合的に評価する。										
オフィスアワー	実習中は、拠点にしている実習施設及び帰校日に随時対応します。										
受講上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次のフィールド演習の体験を活かし、実習前から担当地区の地域診断を各自で進める。 ・実習要項の内容を十分に理解し、目的をもって主体的に取り組む。 ・学生間、実習指導者、関係者、教員等との連絡調整を密に行い充実した実習をめざす。 										

在宅看護学実習 (Home Care Nursing Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担 当 教 員	片山 陽子 (Yoko Katayama)、三木 佳子 (Yoshiko Miki)、諏訪 亜季子 (Akiko Suwa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>生活者としての在宅療養者および家族への理解を深め、療養者と家族のその人らしい生き方や生活を支援するために必要な看護を考えることができる。また、療養者の病態と医療の必要性を把握した上で、個々の価値観に基づいた固有の生活と尊厳を守るための医療とケアのあり方を理解する。そして、事例展開と課題探究を通して在宅看護に必要な思考の枠組みと在宅看護実践の基礎的能力を身につける。さらに、在宅療養者と家族を支援するために必要な社会資源のあり方とチームアプローチの必要性及び協働の実際を学び、保健・医療・福祉の包括的支援と地域包括ケアの必要性を考究する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①生活者としての在宅療養者と家族への理解を深め説明できる</p> <p>②居宅において療養者と家族が望む生活を継続するために、必要な生活と医療の統合および看護のあり方を考究し説明できる</p> <p>③在宅療養者の病態と医療の必要性を把握した上で、目標志向型看護実践である在宅看護過程の基礎的な展開能力を身につけ受け持ち療養者について展開できる</p> <p>④療養者と家族の生活と価値観を尊重できる看護実践者としての態度と実施方略を説明できる</p> <p>⑤療養者と家族を支援するための社会資源のあり方と地域包括ケアにおける多職種連携とチームアプローチの実際を説明できる</p>										
授 業 の 進 め 方	事前学習したうえで訪問看護STにおいて継続訪問が可能な1事例を受け持ち、看護過程の展開を中心に学習する。訪問は訪問看護師と同行訪問する形態で行う。金曜日は学内実習日として全体及びグループカンファレンスを実施し、課題探求の統合学習を行う。受け持ち事例の展開を通して継続看護や地域包括ケアの必要性と多職種協働のチームアプローチを学ぶため地域連携会議等には機会があれば参加する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール		実習場所	以下の要領で実習を行う: 詳細は実習要項を参照する								
		実習期間	1. 実習施設: 訪問看護ステーション(香川県看護協会高松訪問看護ステーション(以下ST)、香川県看護協会訪問看護STこくぶ、訪問看護STQちゃん、他 全8ST)								
		実習方法	2. 実習期間: 平成30年5月21日(月)~7月13日(金) 1クール2週間×4クール 学生配置: 各訪問看護ステーションには、学生2~4名を配置する								
			3. 展開方法								
			①受け持ち事例の看護過程の展開: 個別学習								
			②在宅看護の思考枠組みをアクティブラーニングで学ぶ『探究テーマ』を設定し、課題探求学習: ペア学習+グループワーク								
			③チームアプローチ: 受け持ち事例を中心に個別学習								
教 科 書	在宅看護学 I・II で用いた教科書・参考書・資料等を活用する										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
成績評価の方法	レポート課題(20%)、カンファレンスや発表の内容と貢献度を含めた実践を評価する自己評価表(80%)に基づき総合的に評価する。詳細は実習要項を参照										
オフィスアワー	実習拠点とする訪問看護事業所及び学内にて随時対応する										
受講上の留意事項	学生間でのメンバーシップ、受け持ち対象や訪問看護事業所のスタッフ、教員と積極的にコミュニケーションをとりながら学びを深める。 受け持ち対象の生活の場で学習者として学ばせていただくことを認識し、実習に臨むこと。 心身の健康管理、実習施設までの安全確保などに留意すること。										

精神看護学実習 (Psychiatric Nursing Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担 当 教 員	國方 弘子(Hiroko Kunikata)、土岐 弘美(Hiromi Toki)、多田羅 光美(Terumi Tatara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目標】</p> <p>精神に障害を持つ人々は地域で生活するということを前提に、対象者の精神的・身体的・心理社会的な側面を含めた包括的理解を深め、治療的コミュニケーション技法を用いた援助的人間関係の発展をめざす。さらに、セルフケア理論とストレングス理論に基づいたアセスメントを行い、対象者のストレングスを生かしながら自己を治療の道具として用い、精神看護を実践する。また、対象者が特別な施設の中だけで生活するのではなく、できるだけ地域とのつながりを保ちながら生活し、個人のストレングスや地域資源をとどのように活用しているかを観察し、対象者の希望や願望に沿った生活支援を提案することができる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①精神疾患を持つ対象者を精神的・身体的・心理社会的側面から理解することができる。</p> <p>②対象者への治療的コミュニケーションを通して、援助的人間関係の発展、さらには自己を治療の道具として生かすことの重要性を理解することができる。</p> <p>③対象者の症状についての理解と症状が対象者の生活に及ぼす影響について考え支援することができる。</p> <p>④対象者が持つ個人と環境のストレングスを対象者と共に考えることができる。</p> <p>⑤チームの一員としての認識をもち、チームワークの重要性を理解することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	目的、到達目標に沿って、実習を展開する。実習は、香川県立丸亀病院、NPO法人なごみの会関連施設で行なう。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル			<p>1. 9グループ(5~6名)で、病棟・病院DC・病院訪問看護・地域精神保健福祉施設の4か所に分かれ、2週間の実習を行う。</p> <p>2. 実習に先立ち、施設等の概要を学内にて全体オリエンテーションを行う。学生は事前学習を十分に行う。実習直前にグループ別実習オリエンテーションを行う。</p> <p>3. 病棟実習では対象者1名を受け持ち、セルフケア理論とストレングス理論に基づいたアセスメントを行い、看護の方向性を提案する。 また、援助的人間関係の構築を図るためにプロセスレコードを用いた記録を行うと共に、個人面接及びグループでの意見交換を行う。</p> <p>4. DC・病院訪問看護・地域精神保健福祉施設では、利用者の活動に学生と一緒に参加することで、病をもちながら地域で生活するということがどのようなことかを知り、考える。そして、対象者が地域で生活し続けるためには対象者の個人・環境のストレングスをどのように活かしたらよいかを対象者ととも考える。</p> <p>5. 対象者が地域で生活するということを前提に、対象者及び家族に対し、人間的な関心を持って看護を実践する。</p> <p>6. 毎日、カンファレンスをもち、対象者の看護上の問題、対象者とのかわり方について討議を行い、学習効果を高める。</p> <p>7. 学内実習においてまとめを行い、学習課題をレポートにして提出する。</p>								
教 科 書											
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開(医歯薬出版) オレムのセルフケアモデルを用いた看護過程の展開(廣川出版) ストレングスモデル精神障害者のためのケースマネジメント(金剛出版)										
成 績 評 価 の 方 法	自己評価表60%、課題レポート20%、実習態度等20%により総合的に評価する。										
オ フ ィ ス ア ウ ー	適宜対応する。										
受 講 上 の 留 意 事 項	自己の五感をとおして対象者から感じようとする。また、自分自身に生じる感情を大切に、それを意識しながら実習を展開することを望む。										

成人看護学実習 (Adult Health Nursing Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	通年	単位数	6.0	時間数	270	授業形態	実習
担 当 教 員	内海 知子 (Tomoko Utsumi)、細原 正子 (Masako Hosohara)、岩本 真紀 (Maki Iwamoto)、岡西 幸恵 (Sachie Okanishi)、新井 恵津子 (Etsuko Arai)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>成人期にある患者と家族を対象として、全人的に理解し、健康レベルに応じた看護実践を行い、対象者のQOLを高めるための基礎的能力を養う。その過程を通して、援助の人間関係を発展させると共に、問題解決のための科学的根拠に基づいた判断力、多職種と連携して問題解決に当たる調整能力、対象者の尊厳を擁護する基盤となる看護観を育成する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①成人期にある対象者を全人的に理解できる。 ②成人期にある対象者との援助的人間関係を発展できる。 ③健康レベルに応じた看護が実践できる。 ④成人期にある対象者の健康問題に対して、科学的思考に基づいた看護実践およびそのプロセスや結果について系統的、論理的に記述し説明ができる。 ⑤看護実践は、安全安楽に留意し、対象者の状況に応じて創意工夫すると共に、臨機応変な対応ができる。 ⑥医療施設内外の多職種と連携して問題解決を図るための看護の機能および継続看護について理解できる。 ⑦周囲の人々と建設的人間関係を構築し、看護学生として責任を果たせる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 香川県立中央病院、高松赤十字病院、香川大学医学部附属病院のいずれかで、1グループ6～7名の学生を配置して、実習A及び実習Bそれぞれ3週間の実習を行う。 実習Aでは慢性的な健康障害を有する対象者を継続的に1名受け持ち、病棟で2週間の実習を行う。 実習Bでは周手術期にある対象者を継続的に1名受け持ち、受け持ち対象者の治療場に合わせて病棟・手術室・ICUで2週間の実習を行う。また、第3週目に救急看護実習としてICU実習を行う。 教員及び指導看護師等の指導を受けながら、受け持ち対象者の健康レベルに応じて看護過程を展開する。 カンファレンスや学習成果発表会において、病態を含めた経過と看護について発表し、対象者のQOLを高める看護について討議する。 実習Aでは実習を通して得られた関心事項についてテーマレポートを、実習Bでは受け持ち対象者へ展開した看護についてケースレポートをまとめる。 実習前は学内で学んだ講義や演習で学習内容を整理しておく。別途配布する課題に沿って事前学習を行い、技術チェックを受けた上で実習に臨む。 実習期間中は受け持ち対象者の経過を予測し、計画的・意図的に看護展開できるよう主体的に学習を進める。 										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	第1週～3週	実習A	<p>[実習前]学内で全体オリエンテーションを受け、実習目的・目標、実習方法を理解する。別途配布する事前課題に沿って学習し、技術チェックを受ける。実習前週に提示する受け持ち対象者の情報に基づいて事前学習を十分に行う。</p> <p>[実習1週目]初日は、学内オリエンテーション、個別に事前学習の確認を受ける。2日目は、病棟オリエンテーション、患者紹介を受け、看護展開する。4、5日目は、看護過程カンファレンスで受け持ち対象者の全体像及び看護計画を発表し、指導や助言を受ける。</p> <p>[実習2週目]看護計画に沿って展開し、受け持ち対象者の状態変化に応じて計画の評価、修正、実施を行う。学内日は、中間評価に基づき課題に取り組む。最終日は、まとめのカンファレンスで看護実践と評価、学びを発表する。</p> <p>[実習3週目]実習Aは、学内実習で学習成果発表、レポート作成、面接を行う。実習Bは、ICU実習を1日行い、学内実習で学習成果発表、レポート作成、面接を行う。 (詳細は実習要項参照)</p>								
教 科 書											
参考書・参考資料等	成人看護学で用いた教科書および参考書、関連する専門雑誌等										
成績評価の方法	看護実践(45%)、カンファレンス等の参加度(10%)、学習成果発表の内容と方法(15%)、レポート(15%)、個人情報への取扱い(5%)、実習態度(10%)										
オフィスアワー	オリエンテーション時に周知する。										
受講上の留意事項	受け持ち対象者の状態変化に合わせて時間外学習も多くなりますが、心身の健康管理に気をつけながら、看護の現場を楽しみましょう。また、特に受け持ち対象者に対して誠実な学習者であることを期待しています。										

老年看護学実習 (Gerontological Nursing Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	通年	単位数	3.0	時間数	135	授業形態	実習
担 当 教 員	吉本 知恵 (Chie Yoshimoto)、竹内 千夏 (Chinatsu Takeuchi)、平井智重子 (Chieko Hirai)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>人生の統合期にある高齢者について、対象がもつ固有な健康問題の解決に向けた個別性のある看護を実践する。さらに病院、施設、在宅・地域との連携や看護の場における看護者の機能と役割を学ぶ。これらの実習を通して、老年看護を実践する能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 高齢者と家族の発達段階や健康レベルを踏まえた援助的人間関係を形成できる。 ② 老年期にある対象者を身体的、心理的、社会的な側面も含めた全体的な存在として理解できる。 ③ 老年期にある対象者へ加齢による変化や健康障害を考慮した看護過程の展開ができる。 ④ 老年期にある対象者の個別的特徴や場の条件に合った看護援助を実施し、適切な評価によって技術を向上できる。 ⑤ 実際の看護の場で直面する様々な問題を主体的且つ建設的に解決するよう努力できる。 ⑥ 高齢者を取りまく保健・医療・福祉に関わるシステム、看護の機能およびチームでの協働・連携を理解できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>① 実習に先だって実習オリエンテーションを受け、必要な事前学習を十分に行う。 ② 特別養護老人ホームまたはリハビリテーション病院において、入所・入院している高齢者1名を受け持ち、看護を実践する。 ③ 入所・入院している高齢者を対象に、グループで集団レクリエーションを企画・実施・評価する。 ④ デイサービスにおいて、地域で生活する高齢者を対象に1日実習を行う。 ⑤ リハビリテーションセンターにおいて、多職種の講義の受講および施設見学などの1日実習を行う。 ⑥ 実習3週目には、学内報告会を行い、各施設の特徴やお互いの学びを共有する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1週目		実 習 1日目:学内オリエンテーション、受け持ち高齢者をイメージした看護技術演習を行う。 実習2~4日目:入所・入院している高齢者1名を受け持ち、情報収集・アセスメントを行い、健康問題を抽出する。 実 習 5日目:個別性のある看護計画を立案する。集団レクリエーションの企画・準備を行う。(学内実習)								
	2週目		実 習 6日目:受け持ち高齢者のケースカンファレンスを行う。 実 習 7日目:看護計画に基づき実施・評価を行う。 実 習 8日目:看護計画の修正を行う。(学内実習) 実 習 9日目:看護計画に基づき実施・評価を行う。 実 習10日目:高齢者へのケアの実践や実習体験を通しての学びを共有するため、最終カンファレンスを行う。								
	3週目		デイサービス実習:地域で生活する高齢者を対象に1日実習を行う。 リハビリテーションセンター実習:講義・施設見学等1日実習を行う。 学内報告会:2グループ合同で受け持ち高齢者のケース発表および報告会(施設の特徴や学び)を行い、学びを共有する。 (詳細は実習要項を参照する)								
教 科 書											
参考書・参考資料等	老年看護学で用いた教科書および参考書、関連する専門図書等										
成績評価の方法	自己評価表(60%)、課題レポート(20%)、実習態度等(20%)により総合的に評価する。										
オフィスアワー	帰校日に必要に応じて対応します。										
受講上の留意事項	特別養護老人ホームおよびリハビリテーション病院では認知症や障害をもつ高齢者の方々との出会いを通して、非言語的コミュニケーションや観察の重要性を学び、受け持ち高齢者の生活史を踏まえた看護援助を行いましう。 高齢者の看護を行うにあたり、学生自身の心身の健康管理に十分配慮しましょう。										

母性看護学実習 (Maternity Nursing Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	通年	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	臨地実習
担 当 教 員	松村 恵子 (Keiko Matsumura)、榮 玲子 (Reiko Sakae)、植村 裕子 (Yuko Uemura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 妊産褥婦と新生児、父親など家族を含めた周産期における対象の健康に関する基本的な看護実践能力を自ら育てる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 妊娠期・胎児期の特徴を理解し、妊婦の看護ができる。 ② 分娩期の特徴を理解し、産婦の看護ができる。 ③ 産褥期の特徴を理解し、褥婦の看護ができる。 ④ 新生児期の特徴を理解し、新生児の看護ができる。 ⑤ 地域で生活する妊産褥婦および乳幼児とその家族への看護が理解できる。 ⑥ 保健医療チームの連携・協働と看護者の役割が理解できる。 ⑦ 女性/男性の性と生殖に関する生命倫理について考察できる。 										
授 業 の 進 め 方	母性看護学実習は、成人看護学実習、老年看護学実習、小児看護学実習をローテーションする実習である。全体オリエンテーションは、実習前に学内で実施する。母性看護学実習オリエンテーションは、2つのグループ一緒に実習初日の午前に学内で実施する。午後は、看護実践を中心とした学内演習をする。1週目は妊産褥婦および新生児の看護、2週目は母子保健活動とし、1週ごとにローテーションする。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	90時間	母性看護学実習	<p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産褥婦および新生児の看護(実習施設で4日間) 妊産褥婦と新生児を受け持ち看護過程を展開する。受け持ち対象は、実習施設で決定する。妊産褥婦と新生児の健康生活をめざした基本的な看護技術を実践する。実習最終日に1事例のテーマカファレンスを行う。 2. 母子保健活動(2つの内容をそれぞれ2日間) <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の助産所における母性看護を実習する。 ② グループで地域における様々な母子保健活動を概観し、学習課題をまとめる。 <p>【学習方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義と演習の学習内容を整理し実習に活用する。 2. 課題に基づいた事前学習を充分に行う。 3. 実習目的・目標、実習方法を理解して展開する。 4. 毎日のミーティングとカンファレンスなどを活用し共同学習する。 5. 日々の実習を振りかえり看護場面を再構成するなど、学習のまとめを毎日行う。 6. 毎日、グループで生じた問題や課題を提起し、問題解決や課題達成につとめる。 7. 実習後、総合カンファレンスにより学びの統合をはかる。 <p>【実習施設】</p> <p>高松赤十字病院、香川県立中央病院の産科病棟 いのちの応援舎(助産所、デイケア、おやこ広場)</p>								
教 科 書	母性看護学 I・II の授業で紹介する。										
参考書・参考資料等	実習において事例等に対応して紹介する。										
成績評価の方法	実習評価項目・基準に基づいた評価表75点、課題論文は評価項目に基づいて25点とする。 実習後、個人面接で形成的評価を行い、担当教員全員で総括的評価を行う。 2日以上欠席の場合は、学生からの届出により補習実習が可能である。										
オフィスアワー	在室時、所用や来訪者がいなければ、いつでも対応します。										
受講上の留意事項	実習では、学生間のチームワーク、受け持ち対象、教員やスタッフとのコミュニケーション、自己学習の充実が「鍵」である。健康管理を充分に行い、自己学習を深め、協力し合って、楽しく充実した達成感のある実習をめざすことができるように、一人ひとりの努力に期待します。										

小児看護学実習 (Pediatric Nursing Practic)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	通年	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担 当 教 員	舟越 和代(Kazuyo Funakoshi)、三浦 浩美(Hiromi Miura)、松本 裕子(Yuko Matsumoto)										
授 業 の 目 的	<p>【実習目的】 子どもとその家族の健康レベルや発達段階を踏まえて子どもを総合的に理解し、子どもとその家族の健康の保持、増進、回復にむけた看護援助を実践する基礎的能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 子どもとその家族との関わりを通して、健康レベルや発達段階を踏まえた援助的人間関係が形成できる。 ② あらゆる健康レベルの子どもを、成長・発達過程の中で総合的に捉え、援助の具体的な方法が理解できる。 ③ 入院している子どもと家族を受持ち、子どもの発達段階を考慮した看護過程の展開ができる。 ④ 入院している子どもを対象として、小児看護に特有な検査や処置、特殊技術について経験し、子どもの危機的な状況を理解すると共に、子どもへのインフォームド・コンセントやプレパレーションの重要性について考えられる。 ⑤ 子どもにとって安全・安楽な環境を整えることの重要性を理解できる。 ⑥ 他職種たおの連携および社会資源(保健・医療・福祉・教育等)の活用について理解できる。 ⑦ 子どもとその家族や他職種および保健医療チームと自己との相互作用を通して、自己の子ども観を深めるとともに、看護者としてのあり方について考えられる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>実習目標の達成をめざして、2週間の実習を展開する。 医療機関で4日間、保育所で3日間、臨地で実習する。 各施設での様々な経験を、グループで共有し統合するために、学内実習やテーマカンファレンスを行う。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル			<ul style="list-style-type: none"> ・実習に先だって実習オリエンテーションを受け、実習目標に沿った事前学習を充分に行う。 ・保育所では、所長及び担当保育士の指導のもと担当クラスで乳幼児の生活や遊びの援助を行う。 担当クラスで集団遊びを企画・実施する。 乳幼児の保育において家族との連携や、地域での保育所の役割について学ぶ。 ・医療機関では子ども1名を受け持ち、子ども及びその家族への看護を実践する。 小児特有の検査や処置、特殊技術について経験する。 ・学生主体でカンファレンスを行い、小児とその家族の理解を深めるとともに、看護上の問題解決のための具体策について討議し、学習効果を高める。 ・実習後には、自己の子ども観についてレポートする。 								
教 科 書	小児看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで用いた教科書および参考書、関連する専門雑誌等										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
成績評価の方法	実習目標達成度(65%)、学内実習(5%)、課題レポート(20%)、実習態度等(10%)により総合的に評価する。										
オフィスアワー	在室時、所要や来訪者がいなければ、いつでも対応します。										
受講上の留意事項	<p>事前に感染症に対する予防接種歴、抗体価の調査を行います(状況に応じて、何らかの対策が必要な場合があります)。</p> <p>臨地での具体的な現象の中で、子どもの権利を守るために看護者としてどうすべきかについて主体的に考える姿勢を維持すること。</p>										

地域連携看護学実習 (Community Relation Nursing Practice)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	通年	単位数	3.0	時間数	135	授業形態	実習
担 当 教 員	三木佳子 (Yoshiko Miki)、堀美紀子 (Mikiko Hori)、松村千鶴 (Chizuru Matsumura)、小林秋恵 (Akie Kobayashi)、多田羅光美 (Terumi Tataru)、植原千明 (Chiaki Uehara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>疾病や障害を抱えて地域で生活しながら通院治療を受けている人を理解し、それらの人々への看護のあり方を考察することで、地域包括ケアシステムへの理解を深め、今後の課題を検討し、自分の提言を述べることができる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①地域で生活しながら治療や検査を受ける患者の身体的・精神的・社会的負担を理解し、セルフケア能力を高める看護の役割について考察できる。</p> <p>②地域で生活する患者の生活の質を向上するために社会資源の活用や関係機関との連携についての説明できる。</p> <p>③地域包括ケアシステムの中で医療・看護の果たす役割についての考えを深められる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>実習施設：県立中央病院、高松赤十字病院</p> <p>実習期間：9月</p> <p>実習方法：対象学生46名、1病院6グループ(各グループ4～5人)</p> <p>実習部門：一般外来、地域連携部門、腎センター、通院治療センター、看護専門外来(ストーマ、リンパ浮腫、糖尿病、HOTなど)、チームラウンド(緩和ケア、褥瘡対策、NST、認知症など)</p> <p>実習方法：前半に患者の視点を理解する一般外来患受診患者との同行実習、後半は、専門性の高い看護実習する。中間カンファレンスと最終カンファレンスで課題について合同カンファレンスを実施する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール		実習前 実習中 前半実習 中間カンファレンス 後半実習 最終カンファレンス 実習後	<p>事前自己学習についてオリエンテーション</p> <p>1日目に学内でオリエンテーション、2日目は患者視点を深める病院探索、看護師の看護実践のミニ講義</p> <p>各学生は、患者の視点を理解する一般外来患受診患者との同行実習</p> <p>1日はグループワークか自己学習</p> <p>地域で暮らす患者が活用している社会資源を全体で比較し特徴と多様性の理解を深める</p> <p>専門性の高い看護を理解する実習</p> <p>地域包括ケアシステムへの提言について検討</p> <p>個人課題レポート</p>								
教 科 書	特に指定しない。これまでの既習科目の教科書を活用する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	自己評価(48%)、課題レポート(20%)、カンファレンス発表(20%)、確認テスト(12%)										
オフィスアワー	随時相談 miki-y@chs.pref.kagawa.jp(三木)										
受講上の留意事項	これまでの既習科目を統合し、地域包括ケアシステムに対する提言ができる能力を習得する。この実習で習得した能力は、総合実習で患者を生活者として捉えて実施する退院時のマネジメント能力に結びつけることを目指す。										

総合実習 (Synthesised Nursig Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	通 年	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担 当 教 員	高嶋 伸子 (Nobuko Takashima)、辻 よしみ (Yoshimi Tsuji)、林 佳子 (Yoshiko Hayashi)、植原 千明 (Chiaki Uehara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 近隣町をフィールドとして、地域の健康課題を抽出し、住民・関係者と協働して課題解決に取り組む公衆衛生看護活動の展開過程の体験をとおして実践能力を養うと共に、保健師の専門性、役割を考察し、自己の課題を明確にする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域概況や特性、住民の生活状況、保健行動等について情報収集できる。 ② 住民の健康状況について情報収集し、地域の顕在的・潜在的な健康課題を見出すことができる。 ③ 地域の健康課題を解決するための保健活動の展開方法を理解し、社会資源の活用ができる。 ④ 地域の健康課題を住民や関係者と協働で分析し、結果を反映した活動計画を立案し、課題の解決・改善に向けて検討できる。 ⑤ 公衆衛生看護活動における住民や関係者と立案した活動計画の実施・評価ができる。 										
授 業 の 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高松市牟礼地区をフィールドに選定し、高松市保健センター牟礼保健センター・地域包括支援センターサブセンター牟礼、コミュニティセンター、公民館等の協力を得て行う。 2. グループ実習とする。3グループ制とし、各グループに1名の教員を充てる。 3. 実習形態は、公衆衛生看護領域の特性から集中実習ではなく、8～11月にかけて週2回程度の地域活動と学内演習(情報分析や資料作成、事例検討、カンファレンス等)を組み合わせる。 4. 実習計画は、学生が主体となって関係者との調整を行いながら立案する。 5. 地区担当保健師や関係者、教員が連携して実習指導にあたる。 										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール		実習前	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド演習における既存資料の分析や地区視診等の学習を当該実習につなげ、効果的に地区診断を深める。 ・コミュニティアセスメントワークブックに沿って演習を実施しまとめる。 								
		実習中	<ul style="list-style-type: none"> ・想定した健康課題に対する対象地域や集団、関係機関を担当教員と共に選定し、地区担当保健師に相談すると共に助言を得る。 ・対象地域や集団で実施される保健事業や地域組織活動への参加、家庭訪問等によって、住民・関係者のニーズ(QOL)や住民の健康と生活との関連を把握する。 ・対象地域や集団の住民に対するアンケート調査やインタビュー等による実態把握や既存資料の分析等により健康課題を抽出し、活動計画を作成する。 ・地域分析から活動計画案作成までの過程を住民や保健師等関係者に発表する。 								
		実習後	<ul style="list-style-type: none"> ・住民や関係者との意見交換を基に現実妥当な計画を立案する。 ・実習報告会を行い、体験を共有し全体の学びにつなげる。 ・グループの学習過程は、全員でファイルにする。 ・各自で地域診断ファイルを作成するとともに、保健師の専門性・役割についてレポートする。 <p>(詳細は、実習要項参照)</p>								
教 科 書	最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論(メヂカルフレンド社) 公衆衛生看護学及び地域看護学等で用いた教科書や参考書を活用する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	実習評価表75%、地域診断・地域活動計画・発表状況(中間・最終発表)10%、記録7.5%、レポート7.5%により、総合的に評価する。										
オフィスアワー	担当教員が随時対応します。										
受講上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド演習及び公衆衛生看護学実習の体験を活かし主体的継続的に地域診断に取り組む。 ・チームを形成し、学生間及び教員等とのディスカッションを十分に行い、学びが深まるように取り組む。 ・地域住民、関係者との関係形成を大事にして学習する。 										

総合実習 (Synthesised Nursig Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	通年	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担 当 教 員	平木 民子 (Tamiko Hiraki)、堀 美紀子 (Mikiko Hori) 松村 千鶴 (Chizuru Matsumura)、小林 秋恵 (Akie Kobayashi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 これまで習得した看護の知識と経験を統合し、看護チームの一員としての看護学生の自覚と責任をもって、入院中の受け持ち患者に対して主体的に看護ケアを提供する。この実習では、看護ケアを提供する過程で必要となる「看護ケアのマネジメント能力」の習得を主たる目的とする。また最終実習における自己の看護実践能力を適切に評価し、卒業時の自己課題を明確にする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①受け持ち患者に対して患者中心の個別性ある看護ケアが提供できる。 ②看護ケアを安全に提供するために、チームの中の看護学生として適切に判断し行動できる。 ③対象を取り巻く医療・看護チームの人々と連携協働できる。 ④チーム医療の実現を目指して、自分の考えを明確に表現し、効果的に意見交換できる。 ⑤自分が行った看護実践を客観的に捉え直し、経験を意味づけ仲間と共有することができる。 										
授 業 の 進 め 方	10/15～2週間、香川県立中央病院(4病棟)と高松赤十字病院(4病棟)で、学生約6人/1病棟を配置して、チームの一員として受け持ち患者の看護ケアを実践する。3週目は、各自の看護実践をナラティブ様式で記述し発表する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル		1. 患者中心の個別性ある看護ケアの提供	1)患者の権利の尊重の視点で対象の自己決定への支援をする 2)対象のQOLを目指した長期目標を対象の意見を踏まえて描く 3)対象の強みを活かした現実的な看護計画を看護チームに提案 4)対象との信頼関係の構築								
		2. 安全なケア提供に向けての適切な判断行動	1)フィジカルアセスメントを確実に 2)リスクアセスメントによる危険予知と予防行動 3)状況に応じた安全安楽な看護技術の実施 4)自分の能力を適切に評価し、必要時には助けを求める								
		3. 医療・看護チームの人との連携協働	1)看護チームメンバーの役割と情報の伝達共有方法の把握 2)看護チームの中で、自分の考えを述べて意見交換する 3)病棟の方針や文化を理解し、目的を共有する 4)時期と相手を適切に選び、報告・連絡・相談する								
		4. 看護チームの中で、効果的に意見交換	1)簡潔明瞭なプレゼンテーション 2)日々のチームカンファレンスでの情報提供 3)看護ケアを要約評価し、継続内容を伝達する 4)事例ケースとしてまとめる								
		5. 自己の看護実践の再構成と意味づけ									
教 科 書											
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	<p>○実習参加度(10%) ○看護実践能力を評価する自己評価表(60%) 各行動目標に沿って4点(ほぼ達成)、3点(ほぼ達成)、2点(どうか達成)、達成困難(1点)で評価する。 ○ナラティブ記述レポート(30%) <評価視点> ①発表資料(構成が明確、内容がわかりやすい) ②発表スキル(聞きやすさ、態度、アイコンタクト) ③実践の焦点化と具体性(伝えたいことが伝わる) ④自己の考えの深まり(経験の意味づけ、看護観の深化) ⑤内省の深さ(真摯に自分を振り返る、自己課題の明確化)</p>										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	保健師教育課程を選択していない学生の必修科目										

Ⅲ 専門教育科目

臨床検査学科

1 臨床検査学科専門教育科目の履修にあたって

臨床検査学は、臨床検査技術を駆使して病態を解析し、診断、治療方針の決定、経過の観察、予後の判定などに寄与する学問である。科学の進歩とともに大きく発展した臨床検査は、今や臨床医学の中で極めて重要な役割を果たしており、日常の診療に不可欠であるばかりでなく、臨床検査なくして臨床医学は成り立たないといっても過言ではない。

臨床検査学は、従来から、臨床生理学、臨床生化学、臨床血液学、臨床免疫学、臨床微生物学、病理組織細胞学、輸血学に大別されていたが、近年、医療情報学、分子生物学、画像診断学などの分野も含まれるようになった。

現在、臨床診療で利用されている検査項目は1000種類を超えているが、医学の進歩とともにその数はさらに増加する勢いにある。また、検査技術や測定法も多様化、かつ高度化してきている。

臨床検査学科においては、このような現状を踏まえて、個々の検査の意義や測定法など、臨床検査に関する専門的な知識や技術を習得することはもとより、医療の高度化・多様化に適切に対応できる基礎的能力や臨床検査の専門家として他の医療従事者と協働し、保健・医療・福祉の様々な分野で活躍することのできる能力を身につけた人材を育成することを目的とし、カリキュラムに以下のような特徴を持たせている。

- ・科学的思考力や問題解決能力、基礎的研究能力を習得する目的で、「専門ゼミナール」、「卒業研究」などについては小人数教育を一貫して実践する。
- ・臨床検査技師を目指す学生が、早期に学習への興味やモチベーションを高めることを目的として、1年次生の授業科目に、専門科目の「検査学概論」、「臨床検査体験実習」、「病理病態学」、「臨床医学Ⅰ」を配置している。さらに2年前期には、検査学の基礎技術を学ぶ「基礎検査技術学演習」を配置し、学内実習・臨地実習などでは、より実践的な学習を行えるように工夫している。
- ・臨床検査の結果を総合的・多角的に判断する能力や管理、運営できる基礎的能力を習得する目的で、「検査分析システム学」、「検査情報解析学」、「臨床検査管理運営学」などを検査総合管理学として体系的に学習する。
- ・医療の高度化・多様化に対応するため、「遺伝子検査学」、「生殖補助医療技術学」、「先端医療技術学」など臨床検査に関する高度な専門知識・技術を学習する。
- ・臨床検査技師等に関する法改正（平成27年4月1日施行）に伴うカリキュラム改正を受け、平成28年度入学生から専門科目に「医療安全管理学」を必修科目として配置している。
- ・臨床検査の専門家として、保健・医療・福祉の幅広い分野で活躍できる多角的能力を習得するため、専門教育の多様化を図り、「環境・食品検査学」、「健康食品学」、「検診検査学」などについても学習する。
- ・臨床検査についての専門的な知識・技術とともに、生命の尊厳を畏敬する豊かな人間性

や、医療チームの一員としての臨床検査技師の役割、他職種との連携を学習する。

授業科目表をみればわかるように、履修すべき内容は多岐にわたっているが専門科目のそのほとんどが必修科目である。卒業後の個人の目標や夢を実現するには可能な限り選択科目も多く履修することが望ましい。さらに、資格取得後は保健医療従事者の一人として社会に貢献できるよう学生時代からの準備を期待したい。

卒業要件

(単位)

	必修	選択	計
教養教育科目	8	20 以上	28 以上
専門基礎科目	21	6 以上	27 以上
専門科目	64	5 以上	69 以上
計	93	31 以上	124 以上

2-1 授業科目表【臨床検査学科：平成30年度以後入学生に適用】

専門基礎科目(臨床検査学科)

○必修

科目名	担当教員	共通	単位	単位			時間	配当年次		卒業要件	ページ
				必修	選択	計		前期	後期		
解剖学Ⅰ	古山達雄		①	1		1	30	1		8単位以上	133
解剖学Ⅱ	古山達雄		①	1		1	30	1			134
解剖学実習	古山達雄、新美健太		①	1		1	30		1		135
生理学Ⅰ	古山達雄		①	1		1	30	1			136
生理学Ⅱ	古山達雄		①	1		1	30	1			137
生理学実習	古山達雄、新美健太		①	1		1	30	2			138
生化学Ⅰ	加太英明		①	1		1	30	1			139
生化学Ⅱ	加太英明		①	1		1	30		1		140
生化学実習	加太英明、新美健太		①	1	1	1	30	2			141
生命科学概論	中村文洋		①	1		1	30	1		5単位以上 (選択1単位以上)	142
微生物学	奥田潤		①	1		1	30		1		143
病理病態学	平川栄一郎		①	1		1	30		1		144
検査機器概論	太田安彦、立石謹也、末澤千草、山口航、行正信康、小河佳織、森西起也		①	1		1	30		1		145
薬理学 ▲	二宮昌樹、小坂信二、芳地一	○	①	1	1	1	30		2		146
実験動物学演習	加太英明、新美健太		①	1	1	1	15	2			147
公衆衛生学Ⅰ(保健)	須那滋		①	1		1	30	2			10単位以上 (選択5単位以上)
公衆衛生学Ⅱ(疫学)	須那滋		①	1		1	15	2		149	
公衆衛生学Ⅲ(環境)	須那滋		①	1		1	30	2		150	
食品衛生学 ▲	中内康起		①	1	1	1	15	2		151	
環境・食品検査学実習	眞鍋紀子、氏家あけみ、安藤友継、多田薫、植田晶子、小河佳織		①	1		1	30		2	152	
社会福祉学	岩城由幸	○	①	1	1	1	30		1	153	
保健医療制度論Ⅰ	星川洋一、筒井茂子	○	①	1	1	1	15	4		154	
医療経済学	十川聖三	○	①	1	1	1	15		4	155	
医療概論	中村文洋	○	①	1		1	15	1		156	
瀬戸内圏環境論	平篤志	○	①	1	1	1	15	1		157	
国際保健論	太田安彦、新田恭子、依田健志、末澤千草、岡西幸恵	○	①	1	1	1	15	1		158	
国際環境論	浅川富美雪	○	①	1	1	1	15		1	159	
組織論	片山昭彦	○	①	1	1	1	15	1		160	
チーム医療論	三木佳子、國方弘子、塩田敦子、行正信康、加村晴美	○	①	1	1	1	15	2		161	
人間工学	神邊篤史	○	①	1		1	30		1	4単位	162
医用電子工学	生越重章		①	1		1	30		1		163
医用電子工学演習	生越重章、山口航		①	1		1	30		1		164
医療情報処理学	横井英人、西本尚樹	○	①	1		1	30	2			165
計				21	12	33	825				
卒業要件単位数				21	6	27				27単位以上 (必修21単位) (選択6単位以上)	
進級要件単位数	2年次(2年←1年)			15	1	16					
	3年次(3年←2年)			6	3	9					
	4年次(4年←3年)					0					

▲：健康食品管理士認定試験受験資格上必修科目

科目名	担当教員	共通	単位	単位			時間	配当年次		卒業要件	ページ
				必修	選択	計		前期	後期		
分析検査学	臨床化学検査学	多田達史	①	1		1	30	2		17単位	167
	生体試料分析検査学	多田達史	①	1		1	30	2			168
	病態化学分析検査学	多田達史	①	1		1	30		2		169
	生体試料分析検査学実習	多田達史、太田安彦	②	2		2	60	3			170
	一般検査学	眞鍋紀子、多田達史	①	1		1	30		2		171
	一般検査学実習	眞鍋紀子、多田達史、森西起也	①	1		1	30	3			172
	放射性同位元素学	保田定利	①	1		1	15	3			173
	分子生物学	中村丈洋	①	1		1	30	2			174
	分子生物学実習	中村丈洋、（ ）	①	1		1	30		2		175
	臨床遺伝子検査学	中村丈洋	①	1		1	30	3			176
	臨床遺伝子検査学実習	中村丈洋、（ ）	①	1		1	30	3			177
	生体防御検査学	行正信康	①	1		1	30	2			178
	高感度分析検査学	行正信康	①	1		1	30		2		179
	高感度分析検査学実習	行正信康、（ ）	①	1		1	30		2		180
輸血・移植検査学	行正信康	①	1		1	30	3		181		
輸血・移植検査学実習	行正信康、（ ）	①	1		1	30	3		182		
形態検査学	微生物検査学	奥田潤	①	1		1	30	2		14単位以上 (選択1単位以上)	183
	細菌検査学実習	奥田潤、末澤千草	②	2		2	60		2		184
	ウイルス・真菌検査学実習	末澤千草、生田和良、根ヶ山清	①	1		1	30	3			185
	医動物検査学演習	末澤千草、原田正和	①	1		1	30		2		186
	病理病態学演習	平川栄一郎、森西起也	①	1		1	30		2		187
	病理検査学	平川栄一郎	①	1		1	30	3			188
	病理検査学実習	平川栄一郎、森西起也	②	2		2	60	3			189
	血液検査学Ⅰ	眞鍋紀子	①	1		1	30	2			190
	血液検査学Ⅱ	田中輝和	①	1		1	30		2		191
	血液検査学実習	眞鍋紀子、山口航	②	2		2	60	3			192
顕微鏡技術論	眞鍋紀子、田中隆明、平川栄一郎、太田安彦、末澤千草、山口航、森西起也	1		1	1	15	1		193		
写真技術論	田中康弘	1		1	1	15	2		194		
検査情報解析検査学	生体画像情報検査学	和田晋一	②	2		2	45	2		19単位	195
	生体制御機能検査学	樋本尚志、和田晋一	②	2		2	45		2		196
	生体機能検査学実習Ⅰ	樋本尚志、和田晋一、山口航、小河佳織	②	2		2	60		2		197
	生体機能検査学実習Ⅱ	樋本尚志、和田晋一、太田安彦、末澤千草、小河佳織	②	2		2	60	3			198
	臨床医学Ⅰ	樋本尚志	①	1		1	30		1		199
	臨床医学Ⅱ	樋本尚志	②	2		2	45	2			200
	病態生理機能検査学	樋本尚志、中村丈洋、舛形尚、森下朝洋、小原英幹	①	1		1	30		2		201
	病態代謝機能検査学	樋本尚志	②	2		2	45	3			202
	検査精度保証管理学	立石謹也	①	1		1	30	3			203
	検査分析システム学	立石謹也	②	2		2	60		3		204
	検査情報解析学	立石謹也	①	1		1	15	4			205
	臨床検査管理運営学	立石謹也	①	1		1	15	4			206
総合検査学	検査学概論	眞鍋紀子、戸塚実	①	1		1	15	1		12単位以上 (選択4単位以上)	207
	臨床検査学体験実習	眞鍋紀子、平川栄一郎、奥田潤、中村丈洋、多田達史、行正信康、和田晋一、太田安彦、末澤千草、山口航、（ ）、小河佳織、森西起也	1		1	1	15		1		208
	基礎検査技術学演習	眞鍋紀子、（ ）	①	1		1	15	2			209
	専門ゼミナール（臨床検査）	眞鍋紀子、平川栄一郎、奥田潤、樋本尚志、中村丈洋、立石謹也、多田達史、行正信康、和田晋一、加太英明、古山達雄、末澤千草	①	1		1	30		3		210
	臨床検査関係法規	須那滋	①	1		1	15	4			211
	先端医療技術学	眞鍋紀子、平川栄一郎、古山達雄、奥田潤、樋本尚志、中村丈洋、塩田敦子、片山陽子、立石謹也、行正信康、多田達史、和田晋一	②	2		2	30		4		212
	医療安全管理学	眞鍋紀子、多田達史、古山達雄、樋本尚志、平川栄一郎	①	1		1	15		4		213
	検診検査学	藤田純子	①	1		1	15		4		214
	救急医学概論	萩田昌信	1		1	1	15		4		215
	生殖補助医療技術論	塩田敦子、小河佳織、中澤留美	1		1	1	15		3		216
	リスクマネジメント	十川聖三	1		1	1	15		4		217
	遺伝子分析科学	中村丈洋、（ ）	1		1	1	30		4		218
	健康食品学 ▲	立石謹也、藤井映子、眞鍋紀子、多田達史、太田安彦	2		2	2	30	3			219
	健康食品学関係法規 ▲	太田安彦、立石謹也、末澤千草、山口航	1		1	1	15	3			220
卒業研究	臨床検査学科教員、加太英明、古山達雄	3		3	3	135	4		221		
臨地実習	臨床検査総論臨床実習	多田達史	①	1		1	45		3	7単位	222
	病理組織細胞学臨床実習	平川栄一郎	①	1		1	45		3		223
	臨床生理検査学臨床実習	樋本尚志、和田晋一	①	1		1	45		3		224
	臨床化学検査学臨床実習	多田達史	①	1		1	45		3		225
	臨床血液検査学臨床実習	眞鍋紀子	①	1		1	45		3		226
	臨床微生物検査学臨床実習	奥田潤	①	1		1	45		3		227
	臨床免疫検査学・輸血移植免疫検査学臨床実習	行正信康	①	1		1	45		3		227
計				64	13	77	2115				
卒業要件単位数				64	5	69			69単位以上 (必修64単位) (選択5単位以上)		
進級要件単位数	2年次（2年←1年）			2		2					
	3年次（3年←2年）			26	1	27					
	4年次（4年←3年）			29		29					

▲：健康食品管理士認定試験受験資格上必修科目

2-2 授業科目表【臨床検査学科：平成28・29年度入学生に適用】

専門基礎科目(臨床検査学科)

○必修

科目名	担当教員	共通	単位	単位			時間	配当年次		卒業要件	ページ
				必修	選択	計		前期	後期		
解剖学Ⅰ	古山達雄		①	1		1	30	1		8単位以上	133
解剖学Ⅱ	古山達雄		①	1		1	30	1			134
解剖学実習	古山達雄、新美健太		①	1		1	30		1		135
生理学Ⅰ	古山達雄		①	1		1	30	1			136
生理学Ⅱ	古山達雄		①	1		1	30	1			137
生理学実習	古山達雄、新美健太		①	1		1	30	2			138
生化学Ⅰ	加太英明		①	1		1	30	1			139
生化学Ⅱ	加太英明		①	1		1	30		1		140
生化学実習	加太英明、新美健太		①	1	1	1	30	2			141
生命科学概論	中村文洋		①	1		1	30	1			5単位以上 (選択1単位以上)
微生物学	奥田潤		①	1		1	30		1	143	
病理病態学	平川栄一郎		①	1		1	30		1	144	
検査機器概論	太田安彦、立石謹也、末澤千草、山口航、行正信康、小河佳織、森西起也		①	1		1	30	2		145	
薬理学 ▲	二宮昌樹、小坂信二、芳地一	○	①	1	1	1	30		2	146	
実験動物学演習	加太英明、新美健太		①	1	1	1	15	2		147	
公衆衛生学Ⅰ(保健)	須那滋		①	1		1	30	2		10単位以上 (選択5単位以上)	
公衆衛生学Ⅱ(疫学)	須那滋		①	1		1	15	2			149
公衆衛生学Ⅲ(環境)	須那滋		①	1		1	30	2			150
食品衛生学 ▲	中内康起		①	1	1	1	15	2			151
環境・食品検査学実習	眞鍋紀子、氏家あけみ、安藤友継、多田薫、植田晶子、小河佳織		①	1		1	30		2		152
社会福祉学	岩城由幸	○	①	1	1	1	30		1		153
保健医療制度論Ⅰ	星川洋一、筒井茂子	○	①	1	1	1	15	4			154
医療経済学	十川聖三	○	①	1	1	1	15		4		155
医療概論	中村文洋	○	①	1		1	15	1			156
瀬戸内圏環境論	平篤志	○	①	1	1	1	15	1			157
国際保健論	太田安彦、新田恭子、依田健志、末澤千草、太田安彦、岡西幸恵	○	①	1	1	1	15	1			158
国際環境論	浅川富美雪	○	①	1	1	1	15		1		159
組織論	片山昭彦	○	①	1	1	1	15	1			160
チーム医療論	三木佳子、國方弘子、塩田敦子、行正信康、加村晴美	○	①	1	1	1	15	2			161
人間工学	神邊篤史	○	①	1		1	30		1		4単位
医用電子工学	生越重章		①	1		1	30		1	163	
医用電子工学演習	生越重章、山口航		①	1		1	30		1	164	
医療情報処理学	横井英人、西本尚樹	○	①	1		1	30	2		165	
計				21	12	33	825				
卒業要件単位数				21	6	27				27単位以上 (必修21単位) (選択6単位以上)	
進級要件単位数	2年次(2年←1年)			14	1	15					
	3年次(3年←2年)			7	3	10					
	4年次(4年←3年)					0					

▲：健康食品管理士認定試験受験資格上必修科目

科目名	担当教員	共通	単位	単位			時間	配当年次		卒業要件	ページ
				必修	選択	計		前期	後期		
分析検査学	臨床化学検査学	多田達史	①	1		1	30	2		17単位	167
	生体試料分析検査学	多田達史	①	1		1	30	2			168
	病態化学分析検査学	多田達史	①	1		1	30		2		169
	生体試料分析検査学実習	多田達史、太田安彦	②	2		2	60	3			170
	一般検査学	眞鍋紀子、多田達史	①	1		1	30		2		171
	一般検査学実習	眞鍋紀子、多田達史、森西起也	①	1		1	30	3			172
	放射性同位元素学	保田定利	①	1		1	15	3			173
	分子生物学	中村丈洋	①	1		1	30	2			174
	分子生物学実習	中村丈洋、（ ）	①	1		1	30		2		175
	臨床遺伝子検査学	中村丈洋	①	1		1	30	3			176
	臨床遺伝子検査学実習	中村丈洋、（ ）	①	1		1	30	3			177
	生体防御検査学	行正信康	①	1		1	30	2			178
	高感度分析検査学	行正信康	①	1		1	30		2		179
	高感度分析検査学実習	行正信康、（ ）	①	1		1	30		2		180
形態検査学	輸血・移植検査学	行正信康	①	1		1	30	3		181	
	輸血・移植検査学実習	行正信康、（ ）	①	1		1	30	3		182	
	微生物検査学	奥田潤	①	1		1	30	2		183	
	細菌検査学実習	奥田潤、末澤千草	②	2		2	60		2	184	
	ウイルス・真菌検査学実習	末澤千草、生田和良、根ヶ山清	①	1		1	30	3		185	
	医動物検査学演習	末澤千草、原田正和	①	1		1	30		2	186	
	病理病態学演習	平川栄一郎、森西起也	①	1		1	30		2	187	
	病理検査学	平川栄一郎	①	1		1	30	3		188	
	病理検査学実習	平川栄一郎、森西起也	②	2		2	60	3		189	
	血液検査学Ⅰ	眞鍋紀子	①	1		1	30	2		190	
	血液検査学Ⅱ	田中輝和	①	1		1	30		2	191	
	血液検査学実習	眞鍋紀子、山口航	②	2		2	60	3		192	
	顕微鏡技術論	眞鍋紀子、田中隆明、平川栄一郎、太田安彦、末澤千草、山口航、森西起也	1		1	1	15	1		193	
	写真技術論	田中康弘	1		1	1	15	2		194	
検査情報解析検査学	生体画像情報検査学	和田晋一	②	2		2	45	2		195	
	生体制御機能検査学	樋本尚志、和田晋一	②	2		2	45		2	196	
	生体機能検査学実習Ⅰ	樋本尚志、和田晋一、山口航、小河佳織	②	2		2	60		2	197	
	生体機能検査学実習Ⅱ	樋本尚志、和田晋一、太田安彦、末澤千草、小河佳織	②	2		2	60	3		198	
	臨床医学Ⅰ	樋本尚志	①	1		1	30		1	199	
	臨床医学Ⅱ	樋本尚志	②	2		2	45	2		200	
	病態生理機能検査学	樋本尚志、中村丈洋、舩形尚、森下朝洋、小原英幹	①	1		1	30		2	201	
	病態代謝機能検査学	樋本尚志	②	2		2	45	3		202	
	検査精度保証管理学	立石謹也	①	1		1	30	3		203	
	検査分析システム学	立石謹也	②	2		2	60		3	204	
	検査情報解析学	立石謹也	①	1		1	15	4		205	
	臨床検査管理運営学	立石謹也	①	1		1	15	4		206	
	総合検査学	検査学概論	眞鍋紀子、戸塚実	①	1		1	15	1		207
		臨床検査学体験実習	眞鍋紀子、平川栄一郎、奥田潤、中村丈洋、多田達史、行正信康、和田晋一、太田安彦、末澤千草、山口航、（ ）、小河佳織、森西起也	1		1	1	15		1	208
基礎検査技術学演習		眞鍋紀子、（ ）	①	1		1	15	2		209	
専門ゼミナール（臨床検査）		眞鍋紀子、平川栄一郎、奥田潤、樋本尚志、中村丈洋、立石謹也、多田達史、行正信康、和田晋一、加太英明、古山達雄、末澤千草	①	1		1	30		3	210	
臨床検査関係法規		須那滋	①	1		1	15	4		211	
先端医療技術学		眞鍋紀子、平川栄一郎、古山達雄、奥田潤、樋本尚志、中村丈洋、塩田敦子、片山陽子、立石謹也、行正信康、多田達史、和田晋一	②	2		2	30		4	212	
医療安全管理学		眞鍋紀子、多田達史、古山達雄、樋本尚志、平川栄一郎	①	1		1	15		4	213	
検診検査学		藤田純子	①	1		1	15		4	214	
救急医学概論		萩池昌信	1		1	1	15		4	215	
生殖補助医療技術論		塩田敦子、小河佳織、中澤留美	1		1	1	15		3	216	
リスクマネジメント		十川聖三	1		1	1	15		4	217	
遺伝子分析科学		中村丈洋、（ ）	1		1	1	30		4	218	
健康食品学 ▲		立石謹也、藤井映子、眞鍋紀子、多田達史、太田安彦	2		2	2	30	3		219	
健康食品学関係法規 ▲		太田安彦、立石謹也、末澤千草、山口航	1		1	1	15	3		220	
卒業研究	臨床検査学科教員、加太英明、古山達雄	3		3	3	135	4		221		
臨地実習	臨床検査総論臨床実習	多田達史	①	1		1	45		3	222	
	病理組織細胞学臨床実習	平川栄一郎	①	1		1	45		3	223	
	臨床生理検査学臨床実習	樋本尚志、和田晋一	①	1		1	45		3	224	
	臨床化学検査学臨床実習	多田達史	①	1		1	45		3	225	
	臨床血液検査学臨床実習	眞鍋紀子	①	1		1	45		3	226	
	臨床微生物検査学臨床実習	奥田潤	①	1		1	45		3	227	
	臨床免疫検査学・輸血移植免疫検査学臨床実習	行正信康	①	1		1	45		3	227	
計				64	13	77	2115				
卒業要件単位数				64	5	69			69単位以上 （必修64単位） （選択5単位以上）		
進級要件単位数	2年次（2年←1年）			2		2					
	3年次（3年←2年）			26	1	27					
	4年次（4年←3年）			29		29					

▲：健康食品管理士認定試験受験資格上必修科目

2-3 授業科目表【臨床検査学科：平成27年度入学生に適用】

専門基礎科目(臨床検査学科)

○必修

科目名	担当教員	共通	単位	単位			時間	配当年次		卒業要件	ページ
				必修	選択	計		前期	後期		
解剖学Ⅰ	古山達雄		①	1		1	30	1		8単位以上	133
解剖学Ⅱ	古山達雄		①	1		1	30	1			134
解剖学実習	古山達雄、新美健太		①	1		1	30		1		135
生理学Ⅰ	古山達雄		①	1		1	30	1			136
生理学Ⅱ	古山達雄		①	1		1	30	1			137
生理学実習	古山達雄、新美健太		①	1		1	30	2			138
生化学Ⅰ	加太英明		①	1		1	30	1			139
生化学Ⅱ	加太英明		①	1		1	30		1		140
生化学実習	加太英明、新美健太		①	1	1	1	30	2			141
生命科学概論	中村丈洋		①	1		1	30	1			5単位以上 (選択1単位以上)
微生物学	奥田潤		①	1		1	30		1	143	
病理病態学	平川栄一郎		①	1		1	30		1	144	
検査機器概論	太田安彦、立石謹也、末澤千草、山口航、行正信康、小河佳織、森西起也		①	1		1	30	2		145	
薬理学 ▲	二宮昌樹、小坂信二、芳地一	○	①	1	1	1	30		2	146	
実験動物学演習	加太英明、新美健太		①	1	1	1	15	2		147	
公衆衛生学Ⅰ(保健)	須那滋		①	1		1	30	2		148	
公衆衛生学Ⅱ(疫学)	須那滋		①	1		1	15	2		149	
公衆衛生学Ⅲ(環境)	須那滋		①	1		1	30	2		150	
食品衛生学 ▲	中内康起		①	1	1	1	15	2		151	
環境・食品検査学実習	眞鍋紀子、氏家あけみ、安藤友継、多田薫、植田晶子、小河佳織		①	1		1	30		2	152	
社会福祉学	岩城由幸	○	①	1	1	1	30		1	153	
保健医療制度論Ⅰ	星川洋一、筒井茂子	○	①	1	1	1	15	4		10単位以上 (選択5単位以上)	154
医療経済学	十川聖三	○	①	1	1	1	15		4		155
医療概論	中村丈洋	○	①	1		1	15	1			156
瀬戸内圏環境論	平篤志	○	①	1	1	1	15	1			157
国際保健論	太田安彦、新田恭子、依田健志、末澤千草、岡西幸恵	○	①	1	1	1	15	1			158
国際環境論	浅川富美雪	○	①	1	1	1	15		1		159
組織論	片山昭彦	○	①	1	1	1	15	1			160
チーム医療論	三木佳子、國方弘子、塩田敦子、行正信康、加村晴美	○	①	1	1	1	15	2			161
人間工学	神邊篤史	○	①	1		1	30		1		162
医用電子工学	生越重章		①	1		1	30		1		4単位
医用電子工学演習	生越重章、山口航		①	1		1	30		1	164	
医療情報処理学	横井英人、西本尚樹	○	①	1		1	30	2		165	
計				21	12	33	825				
卒業要件単位数				21	6	27				27単位以上 (必修21単位) (選択6単位以上)	
進級要件単位数	2年次(2年←1年)			14	1	15					
	3年次(3年←2年)			7	3	10					
	4年次(4年←3年)					0					

▲：健康食品管理士認定試験受験資格上必修科目

専門科目（臨床検査学科）

○必修

（平成27年度入学生に適用）

科目名	担当教員	共通	単位			時間	配当年次		卒業要件	ページ
			必修	選択	計		前期	後期		
分析検査学	臨床化学検査学	多田達史	①	1	1	30	2		17単位	167
	生体試料分析検査学	多田達史	①	1	1	30	2			168
	病態化学分析検査学	多田達史	①	1	1	30		2		169
	生体試料分析検査学実習	多田達史、太田安彦	②	2	2	60	3			170
	一般検査学	眞鍋紀子、多田達史	①	1	1	30		2		171
	一般検査学実習	眞鍋紀子、多田達史、森西起也	①	1	1	30	3			172
	放射性同位元素学	保田定利	①	1	1	15	3			173
	分子生物学	中村丈洋	①	1	1	30	2			174
	分子生物学実習	中村丈洋、（ ）	①	1	1	30		2		175
	臨床遺伝子検査学	中村丈洋	①	1	1	30	3			176
	臨床遺伝子検査学実習	中村丈洋、（ ）	①	1	1	30	3			177
	生体防御検査学	行正信康	①	1	1	30	2			178
	高感度分析検査学	行正信康	①	1	1	30		2		179
	高感度分析検査学実習	行正信康、（ ）	①	1	1	30		2		180
輸血・移植検査学	行正信康	①	1	1	30	3		181		
輸血・移植検査学実習	行正信康、（ ）	①	1	1	30	3		182		
形態検査学	微生物検査学	奥田潤	①	1	1	30	2		14単位以上 (選択1単位以上)	183
	細菌検査学実習	奥田潤、末澤千草	②	2	2	60		2		184
	ウイルス・真菌検査学実習	末澤千草、生田和良、根ヶ山清	①	1	1	30	3			185
	医動物検査学演習	末澤千草、原田正和	①	1	1	30		2		186
	病理病態学演習	平川栄一郎、森西起也	①	1	1	30		2		187
	病理検査学	平川栄一郎	①	1	1	30	3			188
	病理検査学実習	平川栄一郎、森西起也	②	2	2	60	3			189
	血液検査学Ⅰ	眞鍋紀子	①	1	1	30	2			190
	血液検査学Ⅱ	田中輝和	①	1	1	30		2		191
	血液検査学実習	眞鍋紀子、山口航	②	2	2	60	3			192
	顕微鏡技術論	眞鍋紀子、田中隆明、平川栄一郎、太田安彦、末澤千草、山口航、森西起也	1		1	15	1			193
写真技術論	田中康弘	1		1	15	2		194		
検査情報解析検査学	生体画像情報検査学	和田晋一	②	2	2	45	2		19単位	195
	生体制御機能検査学	樋本尚志、和田晋一	②	2	2	45		2		196
	生体機能検査学実習Ⅰ	樋本尚志、和田晋一、山口航、小河佳織	②	2	2	60		2		197
	生体機能検査学実習Ⅱ	樋本尚志、和田晋一、太田安彦、末澤千草、小河佳織	②	2	2	60	3			198
	臨床医学Ⅰ	樋本尚志	①	1	1	30		1		199
	臨床医学Ⅱ	樋本尚志	②	2	2	45	2			200
	病態生理機能検査学	樋本尚志、中村丈洋、舛形尚、森下朝洋、小原英幹	①	1	1	30		2		201
	病態代謝機能検査学	樋本尚志	②	2	2	45	3			202
	検査精度保証管理学	立石謹也	①	1	1	30	3			203
	検査分析システム学	立石謹也	②	2	2	60		3		204
	検査情報解析学	立石謹也	①	1	1	15	4			205
臨床検査管理運営学	立石謹也	①	1	1	15	4		206		
総合検査学	検査学概論	眞鍋紀子、戸塚実	①	1	1	15	1		11単位以上 (選択4単位以上)	207
	臨床検査学体験実習	眞鍋紀子、平川栄一郎、奥田潤、中村丈洋、多田達史、行正信康、和田晋一、太田安彦、末澤千草、山口航、（ ）、小河佳織、森西起也	1	1	1	15		1		208
	基礎検査技術学演習	眞鍋紀子、（ ）	①	1	1	15	2			209
	専門ゼミナール（臨床検査）	眞鍋紀子、平川栄一郎、奥田潤、樋本尚志、中村丈洋、立石謹也、多田達史、行正信康、和田晋一、山口航、加太英明、古山達雄、末澤千草	①	1	1	30		3		210
	臨床検査関係法規	須那滋	①	1	1	15	4			211
	先端医療技術学	眞鍋紀子、平川栄一郎、古山達雄、樋本尚志、奥田潤、中村丈洋、塩田敦子、片山陽子、立石謹也、行正信康、多田達史、和田晋一	②	2	2	30		4		212
	検診検査学	藤田純子	①	1	1	15		4		213
	救急医学概論	萩池昌信	1	1	1	15		4		214
	生殖補助医療技術論	塩田敦子、小河佳織、中澤留美	1	1	1	15		4		215
	リスクマネジメント	十川聖三	1	1	1	15		4		216
	遺伝子分析科学	中村丈洋、（ ）	1	1	1	30	4			217
	健康食品学 ▲	立石謹也、藤井映子、眞鍋紀子、多田達史、太田安彦	2	2	2	30	3			218
	健康食品学関係法規 ▲	太田安彦、立石謹也、末澤千草、山口航	1	1	1	15	3			219
	卒業研究	臨床検査学科教員、加太英明、古山達雄	3	3	3	135	4			220
臨地実習	臨床検査総論臨床実習	多田達史	①	1	1	45		3	8単位	221
	病理組織細胞学臨床実習	平川栄一郎	①	1	1	45		3		222
	臨床生理検査学臨床実習	樋本尚志、和田晋一	①	1	1	45		3		223
	臨床化学検査学臨床実習	多田達史	①	1	1	45		3		224
	臨床血液検査学臨床実習	眞鍋紀子	①	1	1	45		3		225
	臨床微生物検査学臨床実習	奥田潤	①	1	1	45		3		226
	臨床免疫検査学・輸血移植免疫検査学臨床実習	行正信康	①	1	1	45		3		227
	環境・食品検査学臨地実習	眞鍋紀子	①	1	1	45		3		228
計			64	13	77	2145				
卒業要件単位数			64	5	69			69単位以上 (必修64単位) (選択5単位以上)		
進級要件単位数	2年次（2年←1年）			2	2					
	3年次（3年←2年）			26	1	27				
	4年次（4年←3年）			30	30					

▲：健康食品管理士認定試験受験資格上必修科目

3 專門基礎科目

臨床検査学科

解剖学 I (Anatomy I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	古山 達雄 (Tatsuo Furuyama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 人体の構造と機能を十分に理解しておくことが専門科目を習得していくための基本となる。人体を構成する器官系のうち呼吸器系、消化器系、泌尿・生殖器系について、それらを構成する組織、器官の成り立ちとその果たす生理機能を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 呼吸器系、消化器系、泌尿・生殖器系の基本的な構造とその生理機能について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書を中心に最低限必要な部分を授業で取り上げる。スライドと配布プリントを用いてすすめる。各章の最後に最低限の知識が身についているかを確認するため小テストを行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	呼吸器系の解剖1	上気道を構成する器官と構造、喉頭と発声								
	2	呼吸器系の解剖2	気管と肺の構造								
	3	呼吸器系の機能1	外呼吸の仕組みと呼吸調節								
	4	呼吸器系の機能2	ガス交換とガス輸送								
	5	消化器系の解剖1	消化器系の総論・口腔・咽頭・食道								
	6	消化器系の解剖2	胃・小腸・大腸の構造								
	7	消化器系の機能1	肝臓・膵臓の構造と機能								
	8	消化器系の機能2	消化・吸収の仕組み								
	9	泌尿器系の解剖1	泌尿器系の総論								
	10	泌尿器系の解剖2	腎臓の構造								
	11	泌尿器系の機能1	尿の産生の仕組み								
	12	泌尿器系の機能2	尿細管による塩濃度・pH・浸透圧の調製の仕組み								
	13	生殖器系の解剖1	男性生殖器の構造								
	14	生殖器系の解剖2	女性生殖器の構造								
	15	生殖器系の機能	ホルモンと性周期								
教 科 書	トートラ 人体の構造と機能 第3版(丸善出版)										
参考書・参考資料等	組織細胞生物学 著者 A.L. キルゼンバウム (南江堂)、グレイ解剖学 訳者 塩田浩平他 (エルゼビア)、Langman人体発生学 安田峯生、沢野十蔵訳 (MSI)、Moore人体発生学 山村英樹、瀬口春道訳 (医歯薬出版)										
成績評価の方法	小テスト20%、定期試験80%										
オフィスアワー	12:00-13:00 研究室35										
受講上の留意事項	授業でわからないところや疑問があるときは放っておかず可能な限り早く相談に来ること										

解剖学Ⅱ (Anatomy Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	古山 達雄 (Tatsuo Furuyama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>人体の構造と機能を十分に理解しておくことが専門科目を習得していくための基本となる。人体を構成する器官系のうち骨格系、筋系、神経系、感覚系について、それらを構成する組織、器官の成り立ちとその果たす生理機能を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>骨格系、筋系、神経系、感覚系の基本的な構造と、その生理機能について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書を中心にして最低限必要な部分を授業で取り上げる。スライドと配布プリントを用いてすすめる。各章の最後に最低限の知識が身についているかを確認するため小テストを行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	細胞	細胞の構造・機能								
	2	組織	組織の成り立ち・種類								
	3	骨格系1	骨組織の構造・機能・発達								
	4	骨格系2	軸骨格を構成する骨								
	5	骨格系3	付属肢骨格を構成する骨・関節の構造と種類								
	6	筋系1	筋組織の構造・機能								
	7	筋系2	筋収縮の仕組み								
	8	筋系3	上,下半身を構成する筋肉								
	9	神経系1	神経組織の構造・機能								
	10	神経系2	脊髄と脊髄神経								
	11	神経系3	脳の構成と各部位の構造と機能								
	12	神経系4	脳神経、自律神経系								
	13	感覚系1	視覚系の構造と機能								
	14	感覚系2	聴覚系の構造と機能								
	15	発生	人の発生過程								
教 科 書	トートラ 人体の構造と機能 第3版 (丸善出版)										
参考書・参考資料等	組織細胞生物学 著者 A.L. キルゼンバウム (南江堂)、グレイ解剖学 訳者 塩田浩平他 (エルゼビア)、Langman人体発生学 安田峯生、沢野十蔵訳 (MSI)、Moore人体発生学 山村英樹、瀬口春道訳 (医歯薬出版)										
成績評価の方法	小テスト20%、定期試験80%										
オフィスアワー	12:00-13:00 研究室35										
受講上の留意事項	授業でわからないところや疑問があるときは放っておかず可能な限り早く相談に来ること。細胞・組織の項目については十分な時間が取れないため、生物学、化学の履修が望ましい。										

解剖学実習 (Anatomy Laboratory)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実習
担 当 教 員	古山 達雄 (Tatsuo Furuyama)、新美 健太 (Kenta Niimi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 人体の構造を十分に理解しておくことが専門科目を習得するための基本になる。組織標本、人体模型などを用いたスケッチなどを実際に行うことで本の知識を体験を通して身に着ける。</p> <p>【到達目標】 解剖学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を利用できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	人体模型、組織標本を肉眼および顕微鏡で観察しノートにスケッチ並びに演習書で色塗りをする。これを実習後に提出し見るべきポイントを正しく観察しているかを教員が確認する。適宜、小テストを行う。実習のうちの1回は香川大学医学部において系統解剖学実習がおこなわれた御遺体を見学する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	組織学実習1	骨組織								
	2	肉眼解剖学実習1	骨系								
	3	組織学実習2	関節								
	4	肉眼解剖学実習2	筋系								
	5	組織学実習3	肝臓								
	6	肉眼解剖学実習3	神経系								
	7	組織学実習4	膵臓・肺								
	8	肉眼解剖学実習4	循環系								
	9	組織学実習5	食道-胃								
	10	肉眼解剖学実習5	呼吸器系								
	11	組織学実習6	胃幽門部-十二指腸								
	12	肉眼解剖学実習6	消化器系・内分泌系								
	13	組織学実習7	腎臓								
	14~15	解剖実習見学	3大学連携事業による香川大学医学部において実施								
教 科 書	人体解剖カラーリングブック 監訳 天野修ら (丸善出版)、トートラ 人体の構造と機能 第3版 (丸善出版)										
参考書・参考資料等	カラーアトラス機能組織学 著者 J.B.カー (南江堂)、最新カラー組織学 石村和敬、井上貴夫監訳 (西村書店)、グレイ解剖学アトラス 訳者 塩田浩平他 (エルゼビア)										
成績評価の方法	実習レポート										
オフィスアワー	古山:12:00-13:00 研究室35										
受講上の留意事項	予習をしてから実習に望むこと。スケッチ用ノート、12色程度の色鉛筆および教科書は必ず持参すること、さらに必要に応じて上記参考書を持参すること(参考書は図書館にあるものを借りてください)										

生理学 I (Physiology I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	古山 達雄 (Tatsuo Furuyama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 人体の構造と機能を十分に理解しておくことが専門科目を習得していくための基本となる。人体を構成する器官系のうち内分泌系、循環系、免疫系の構造と機能と、体液、代謝について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ① 内分泌系、循環系、免疫系の基本的な構造と、その生理機能について説明できる。 ② 体液、代謝の基本事項を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書を中心にして最低限必要な部分を授業で取り上げる。スライドと配布プリントを用いてすすめる。各章の最後に最低限の知識が身についているかを確認するため小テストを行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	内分泌腺の局在	内分泌系の役割と内分泌腺の存在部位								
	2	ホルモン作用機序	ホルモン作用のメカニズム(受容体と細胞内情報伝達)								
	3	視床下部と下垂体	視床下部と下垂体が分泌するホルモンの役割と調節機構								
	4	甲状腺・副甲状腺・膵島・副腎	甲状腺、副甲状腺、膵島、副腎ホルモンの役割と調節機構								
	5	性腺	性腺が分泌するホルモンの役割と調節機構								
	6	血液の成分と機能	血液の構成成分とその機能								
	7	血液凝固と血液型	血液凝固、線溶系について。血液型物質について								
	8	心臓の構造と機能	心臓の役割と調節機構、房室刺激伝導系と心電図の関係								
	9	血管の構造と機能	動脈・毛細血管・静脈の構造と役割								
	10	血圧と血流の調節	自律神経や内分泌系による血流の調節機構								
	11	血管の分布	体内各部位における血管の分布								
	12	リンパ系と免疫	リンパ球による免疫機構								
	13	代謝と栄養(I)	糖・脂質・タンパク質の代謝								
	14	代謝と栄養(II)	体温調節機構、ビタミン・ミネラルの役割								
	15	体液、電解質と酸塩基平衡	体液の組成とその調節機構								
教 科 書	トートラ 人体の構造と機能 第3版 (丸善出版)										
参考書・参考資料等	組織細胞生物学 著者 A.L. キルゼンバウム (南江堂)、ギャノング 生理学 監訳 岡田泰伸 (丸善出版)、標準生理学 福田康一郎 監修 (医学書院)										
成績評価の方法	小テスト20%、定期試験80%										
オフィスアワー	12:00-13:00 研究室35										
受講上の留意事項	授業でわからないところや疑問があるときは放っておかず可能な限り早く相談に来ること。代謝、体液についてのより詳細な事項は生化学で履修する。										

生理学Ⅱ (Physiology Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	古山 達雄 (Tatsuo Furuyama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>人体の構造と機能を十分に理解しておくことが専門科目を習得していくための基本となる。人体を構成する器官系のうち筋系、神経系、感覚系について、それらを構成する組織、器官の成り立ちとその果たす生理機能とのつながりを学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 興奮性細胞である筋細胞、神経細胞の構造と生理機能について説明できる。</p> <p>② 神経系、感覚系の基本的な構造と、その生理機能について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書を中心にして最低限必要な部分を授業で取り上げる。スライドと配布プリントを用いてすすめる。各章の最後に最低限の知識が身についているかを確認するため小テストを行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	細胞	細胞の構造・機能								
	2	膜電位と興奮	膜電位と興奮性細胞の特徴								
	3	筋収縮1	筋細胞の構造と収縮の仕組み								
	4	筋収縮2	筋収縮の生理								
	5	神経細胞の電気信号	神経細胞の興奮と伝導・伝達								
	6	脊髄の生理機能	脊髄の構造と反射								
	7	運動系1	錐体路・錐体外路								
	8	運動系2	大脳基底核と小脳の機能								
	9	自律神経系	自律神経系の構造と機能								
	10	大脳皮質の機能1	機能局在								
	11	大脳皮質の機能2	記憶学習・睡眠								
	12	感覚系1	体性感覚路								
	13	感覚系2	感覚器総論・嗅覚・味覚の生理								
	14	感覚系3	視覚の生理								
	15	感覚系4	聴覚の生理								
教 科 書	トートラ 人体の構造と機能 第3版 (丸善出版)										
参考書・参考資料等	組織細胞生物学 著者 A.L. キルゼンバウム (南江堂)、ギャノング 生理学 監訳 岡田泰伸 (丸善出版)、標準生理学 福田康一郎 監修 (医学書院)										
成績評価の方法	小テスト20%、定期試験80%										
オフィスアワー	12:00-13:00 研究室35										
受講上の留意事項	授業でわからないところや疑問があるときは放っておかず可能な限り早く相談に来ること。細胞のより詳細な事項について学習するために生物学を履修することを勧める。										

生理学実習 (Physiology Laboratory)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実習
担 当 教 員	古山 達雄 (Tatsuo Furuyama)、新美 健太 (Kenta Niimi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生体の生理的機能について、生体の反応や摘出組織の反応を観察と記録をおこない、そのメカニズムを理解する。</p> <p>【到達目標】 生理学I,IIで学んだ知識を、実習を体験する中で利用できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	班に分かれての実習										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2	心電図	心電図の測定、各種タスクによる自律神経系の影響								
	3～4	血圧	血圧の測定、各種タスクによる自律神経系の影響								
	5～6	内分泌	マウスを用いてのインスリンの血糖値への影響								
	7～8	代謝	体温の測定と発汗機構、最大酸素摂取量の測定								
	9～10	体性感覚	皮膚知覚・深部知覚の測定								
	11～12	特殊内臓知覚	味覚の測定(ろ紙ディスク・電気味覚検査法)と嗅覚測定(基準嗅覚検査法)、味覚受容体の構造と機能								
	13～15	筋電図	体肢筋表面筋電図/負荷筋電図/誘発筋電図および神経伝導速度の測定								
教 科 書	プリントを配布する トートラ 人体の構造と機能 第3版(丸善出版)										
参考書・参考資料等	佐藤照夫著 スタンダード生理学 (シュプリンガー・フェラーク東京)、大地睦夫著 生理学テキスト (文光堂)、坂東武彦・小山省三監訳 バーン/レヴィーカラー基本生理学 (西村書店)										
成績評価の方法	各実験終了後のレポート、学習態度等により判定する。 実習であるため、配点についてはその時の状況に従う。										
オフィスアワー	古山:12:00-13:00 研究室35										
受講上の留意事項	実験に適した服装で出席すること。 同じ班の人に迷惑をかけますので遅刻・欠席をする場合は、連絡を入れること。 あらかじめプリントを読んで理解し、手順書を作成しておくことが望ましい。										

生化学 I (Biochemistry I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	加太 英明(Hideaki Kabuto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生命の基礎的現象を理解するための基本として、生体構成成分の性質と働きを学ぶ。具体的には、糖質、脂質、タンパク質、核酸、ビタミン、生体分子などの性質、機能、立体構造、また分析方法について講義する。</p> <p>【到達目標】 生体を形成する物質について概説できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	導入	生化学の基本事項								
	2	糖質	糖の定義と分類、糖の異性体								
	3	糖質	糖の異性体と誘導體、糖の結合								
	4	糖質	多糖類								
	5	脂質	脂質の定義と分類、脂肪酸								
	6	脂質	トリグリセリド、ステロール								
	7	脂質	リン脂質、糖脂質、脂質の性質								
	8	ヌクレオチドと核酸	ヌクレオチドの定義、核酸の構造と性質								
	9	タンパク質とアミノ酸	アミノ酸の定義と分類								
	10	タンパク質とアミノ酸	アミノ酸の解離、アミノ酸の結合								
	11	タンパク質とアミノ酸	タンパク質の構造								
	12	酵素	化学反応、酵素の働き								
	13	酵素	速度反応論								
	14	酵素	酵素の阻害と調節								
	15	栄養生化学	食生活と栄養素の生化学的側面								
			(教科書第I、II、VI章の範囲)								
教 科 書	「臨床検査学講座 生化学」阿南功一・阿部喜代司・原論吉 著(医歯薬出版) 必要に応じてプリントを配布する。										
参考書・参考資料等	「シンプル生化学」南江堂 ISBN:4-524-22233-2 ヴォート 生化学(上) (東京化学同人) マクマリー 生物有機化学II 生化学編 (丸善)										
成績評価の方法	小テスト(約20%)、中間・期末試験(約80%)										
オフィスアワー	随時。メール(kabuto-h@chs.pref.kagawa.jp)でも受け付ける。										
受講上の留意事項	様々な生化学の教科書が出版されており、説明方法もそれぞれ異なる。指定教科書以外の本も読んで理解を深めて欲しい。										

生化学Ⅱ (Biochemistry Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	加太 英明 (Hideaki Kabuto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生化学Ⅰで得られた知識をもとに、生命の基本単位である細胞レベルでの生体物質の代謝、および個体が生命活動を営むためそれぞれの特異な作業を分担している器官の生化学的特徴について講義する。</p> <p>【到達目標】 ①生命現象を理解する上で必要な生化学的知識を身につけることができる。 ②また、生体内にある物質がどのような役割を持っているか、病態とどう関連するかを考える習慣を身につけることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>パワーポイントを用いて示された資料や講義内容を基に要約し、ノートをとる。 講義時間のはじめに、前回の復習をおこない、各章終了時に小試験をおこなって、理解の確認をおこなう。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	代謝の概要	代謝の定義と、糖、脂質、タンパク質代謝の相互関連								
	2	糖質代謝(Ⅰ)	糖質の消化吸収と細胞内取り込み・グリコーゲン合成								
	3	糖質代謝(Ⅱ)	解糖系とTCAサイクル								
	4	脂質代謝(Ⅰ)	脂質の消化吸収とリポタンパク								
	5	脂質代謝(Ⅱ)	脂質の合成と分解								
	6	タンパク質代謝(Ⅰ)	タンパク質の消化、アミノ酸の吸収・合成、分解								
	7	タンパク質代謝(Ⅱ)	尿素サイクルとアンモニアの処理								
	8	エネルギー代謝(Ⅰ)	高エネルギー化合物とATP								
	9	エネルギー代謝(Ⅱ)	ミトコンドリアとエネルギー生産(電子伝達系)								
	10	基礎代謝	基礎代謝量・基礎代謝率・活動代謝率の測定								
	11	核酸代謝	核酸の消化・吸収とヌクレオチドの合成・分解								
	12	情報伝達物質	情報伝達物質と伝達機構、細胞内情報伝達系								
	13	水・電解質	体液と血液の組成と働き								
	14	血液の生化学	ヘモグロビンの合成と分解								
	15	組織の生化学	各組織に特徴的なタンパク質の構造と機能								
教 科 書	臨床検査学講座 生化学 阿南功一・阿部喜代司・原論吉 著(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	ヴォート・生化学(東京化学同人) ハーパー・生化学(丸善)										
成績評価の方法	小テスト(約20%)、中間・期末試験(約80%)										
オフィスアワー	随時。捕まらない場合は“kabuto-h@chs.pref.kagawa.jp”へmailすること。										
受講上の留意事項	生化学Ⅰの内容を踏まえたうえでの講義です。 様々な生化学の教科書が出版されており、説明方法もそれぞれ異なる。指定教科書以外の本も読んで理解を深めて欲しい。										

生化学実習 (Biochemistry Laboratory)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実習
担 当 教 員	加太 英明 (Hideaki Kabuto)、新美 健太 (Kenta Niimi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生化学 I・II で学んだ知識をもとにして、脂質、糖質、タンパク質、核酸などを実際に生体から取り出し、分離、精製、反応、測定などの実習を通して、生体物質の性質や代謝の理解を深め、分離法、分析技術などを習得する。</p> <p>【到達目標】 生体物質を扱う上での姿勢、手技を学び、適切な実験報告(レポート)を書くことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	班に分かれての実習										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2	炭水化物の同定	さまざまな糖について定性反応をおこなう。								
	3～4	糖の加水分解と定量	グリコーゲンをを用いて、酸および唾液アミラーゼによる加水分解をおこなう。								
	5～6	脂質の抽出・分離同定	卵黄、マウス脳から脂質の抽出を行い、薄層クロマト法により分離・同定をおこなう。								
	7～8	タンパク質の定量	紫外線法、ビウレット法、ローリー法によりタンパク質の定量をおこなう。								
	9～11	タンパク質の分子量測定	SDS-PAGEによるタンパク質の分子量測定をおこなう。								
	12～13	PCR法による遺伝子型の同定-1	髪の毛からDNAの抽出をおこない、PCR法によりアルデヒドデヒドロゲナーゼ遺伝子の増幅をおこなう。								
	14～15	PCR法による遺伝子型の同定-2	前回増幅させたDNAの遺伝子型を確認する。								
教 科 書	プリントを配布する。										
参考書・参考資料等	実験で学ぶ生化学 D.P.Plummer 著、廣海啓太郎 他 訳(化学同人)										
成績評価の方法	学習態度、各実験終了後のレポート、実習試験等により判定する。 実習であるため、あらかじめ配点割合は決められない。										
オフィスアワー	加太: 随時。kabuto-h@chs.pref.kagawa.jp 新美: 随時。niimi-k@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	実験に適した服装で出席すること。 同じ班の人に迷惑をかけるので遅刻・欠席をする場合は、連絡を入れること。 あらかじめプリントを読んで理解し、手順書を作成しておくことが望ましい。										

生命科学概論(Introduction to Life Science)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	中村 丈洋(Takehiro Nakamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生命現象の科学的営みを深く包括的に理解するために、分子生化学、生物の進化、細胞の発生・分化・増殖に関する基本事項を学ぶ。さらに、これらを応用した再生医療、細胞のクローン技術、遺伝子治療、オーダーメイド医療の概要を知る。また学生主導型授業を導入しており、グループ学習にて最先端の事項について自ら学ぶことで理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①生命の起源を説明できる。 ②細胞の構造と機能を説明できる。 ③生体の構造と機能を説明できる。 ④細胞の分裂と増殖について説明できる。 ⑤ヒトの発生について説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	スライドを用い視覚的理解を深める。一部で学生主導型授業を導入しており、グループごとに与えられたテーマに関して学生自ら学習し発表する。可能であればe-learningを併用し、反転授業を予定している。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	生命の起源と進化	生命の誕生から今日に至る進化の経路をたどる。								
	2	生体の構成物質 1	生体の構成物質であるタンパク、糖、脂質、核酸、ビタミン、ミネラル、								
	3	生体の構成物質 2	ホルモンなどの役割を2回に分けて概説する。								
	4	細胞の構造と機能	細胞膜および細胞内器官の働きを理解する。								
	5	生体の構成と機能	組織および器官について理解する。								
	6	エネルギー産生	生体のエネルギー産生経路について学ぶ。								
	7	細胞増殖と分裂	遺伝子複製と細胞分裂について理解する。								
	8	核酸の機能と発現	核酸の種類、複製から翻訳まで理解する。								
	9	ヒトの発生～誕生	ヒト配偶子形成から生命の誕生までの概要を理解する。								
	10	グループ作業・発表準備	学生主導型授業の準備を行う。								
	11	再生医療	学生主導型授業1:再生医療の対象や方法の概要を学ぶ。								
	12	クローン技術	学生主導型授業2:クローン動物の作製法の概要を理解する。								
	13	遺伝子治療	学生主導型授業3:遺伝子治療の方法と実際について学ぶ。								
	14	オーダーメイド医療	学生主導型授業4:臨床応用されている個別化医療について学ぶ。								
	15	遺伝子工学	学生主導型授業5:核酸抽出法と遺伝子検査の流れを理解する。								
教 科 書	最新臨床検査学講座 遺伝子・染色体検査学(医歯薬出版株式会社)										
参考書・参考資料等	サブテキストを配布またはe-learning教材として公開する。										
成績評価の方法	演習(20%)、学生主導型授業での発表内容(30%)、期末筆記試験(50%)										
オフィスアワー	適宜受け付ける。事前アポイントメントを取ることを勧める。										
受講上の留意事項											

微生物学 (Microbiology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	奥田 潤 (Jun Okuda)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 微生物の分類、形態、構造と機能、増殖と観察、遺伝と変異、遺伝子操作法、滅菌・消毒と抗菌化学療法、薬剤耐性などについて学ぶ。さらに、感染症とその病因や感染免疫等について学ぶことにより、感染症の発症機構を理解するために必要な科学的思考力を養う。また、過去の国家試験問題を実際に解くことで、早くから国家試験問題のレベルや解き方を理解する。</p> <p>【到達目標】 ①授業で習ったことを説明できる。 ②授業で出題した過去の国家試験問題を完全に解くことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	毎回、配布資料を配布し、教科書だけでは不十分な部分を補いながら、講義を中心に授業を進める。重要な項目については配布資料に過去の国家試験問題を含めるので、講義での解説前に必ず予習する。さらに、質問等によって講義内容についての理解をより深める。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	微生物とは	微生物の歴史、生物学的位置(原核生物と真核生物)								
	2	微生物の分類、形態	系統分類、命名法、微生物の形態								
	3	微生物の構造と性状	グラム陽性菌とグラム陰性菌の相違点、細胞壁の構造と成分								
	①										
	4	微生物の構造と性状	細胞壁の機能、外膜の構造と成分、細胞内構造体、細胞外構造体								
	②										
	5	微生物の構造と性状	真菌の構造と性状、ウイルスの構造と性状								
	③										
	6	微生物の発育①	細菌および真菌の代謝と増殖、栄養素、環境因子、ウイルスの増殖								
	7	微生物の発育②と観察	培地と培養法、培養環境、増殖測定法、増殖フェーズ、観察法								
	8	遺伝と変異	遺伝子の基本構造、遺伝子伝達現象、変異の種類								
	9	滅菌および消毒	滅菌と消毒の概念、滅菌・消毒法の種類と特性								
	10	化学療法①	抗菌薬の種類、選択毒性、作用機序、抗菌スペクトル、抗菌薬耐性、薬剤耐性菌								
	11	化学療法②	抗菌薬の適正使用(ブレイクポイント、TDM、PK-PD)、細菌の薬剤感受性検査法、抗真菌薬、抗ウイルス薬								
	12	感染と発症①	常在細菌叢、微生物の病原因子、感染の発現(顕性・不顕性感染、キャリア)、感染経路								
13	感染と発症②	生体防御機構(自然免疫・獲得免疫、補体系、抗体、サイトカイン)									
14	感染と発症③	現代の感染症(市中感染症、日和見感染症、菌交代症、院内感染症、輸入感染症、人獣畜共通感染症、性感染症、新興・再興感染症、食中毒)									
15	感染と発症④	バイオセーフティー、感染の予防と対策(ワクチン、院内感染対策、標準予防策、手洗い法、個人防護具)、感染制御とICT活動、感染症法、精度管理									
教 科 書	最新臨床検査学講座 臨床微生物学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	配布資料										
成績評価の方法	定期試験 (90%) 平常点 (10%)										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	膨大な量の病原微生物学に関する知識を短期間で学習する必要があるため、使用する教科書や配布資料の重要事項に絞って講義を行う。理解を深めるために、予習・復習を行うことが望ましい。										

病理病態学 (Pathology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	平川 栄一郎 (Eiichiro Hirakawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 疾患・健康逸脱状態の病態生理および病変の主要因についての知識を学び、病因論に論及する。各疾患の病理病態に共通する総論・各論について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①第1回から第5回までは病理学総論として、細胞と組織の障害、循環障害の病態、免疫や代謝障害の基礎、腫瘍の特徴について説明できる。</p> <p>②第6回以降は病理学各論として、心血管障害、呼吸器疾患、消化器疾患について説明できる。</p> <p>③内分泌疾患や生殖器・乳腺疾患では、各種疾患とともにホルモンとの関連について説明できる。</p> <p>④造血・リンパ疾患、腎・泌尿器疾患、脳神経の疾患では、各種疾患の病態を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	スライドとプリント、教科書を用いて授業を進めるが、病理学は幅広い知識が必要となる学問であるので、教科書を予習しておくこと。また講義中に理解度の確認のための質疑応答の時間を設ける。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	病理学序説	細胞組織とその障害、再生と修復								
	2	循環障害、炎症	循環障害の病理病態、炎症の意味と臓器障害								
	3	免疫、感染	免疫のしくみと役割、各種感染症								
	4	代謝異常	代謝異常による病理病態								
	5	腫瘍	腫瘍の分類、発がんメカニズム、がんの特徴								
	6	循環器疾患	虚血性心疾患、心疾患の病理病態、動脈硬化								
	7	呼吸器疾患	呼吸器の病理病態、肺炎、肺癌								
	8	消化器疾患1	消化器(胃、大腸)の病理病態、腫瘍								
	9	消化器疾患2	消化器(肝、胆、膵)の病理病態、腫瘍								
	10	内分泌疾患	内分泌臓器の機能亢進症、機能低下症、内分泌腫瘍								
	11	造血・リンパ疾患	造血器疾患の病理病態、貧血、白血病、悪性リンパ腫								
	12	腎・泌尿器疾患	代表的な糸球体疾患、尿路感染症と尿路の閉塞、悪性腫瘍								
	13	生殖器・乳腺疾患	前立腺疾患、精巣腫瘍、子宮頸癌と体癌、乳腺疾患								
	14	脳神経等の疾患	脳梗塞、脳出血、変性疾患、脳腫瘍								
	15	病理検査	病理組織検査、細胞診、病理解剖								
教 科 書	カラーで学べる病理学(ヌーヴェルヒロカワ)										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	定期試験および小テスト等により総合的に判断する。 定期試験(90%)、小テスト(10%)										
オフィスアワー	随時:管理研究棟3階 研究室34 メール:hirakawa@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	小テストを行うので予習、復習をしておくこと。										

検査機器概論(Introduction to Laboratory Instruments)											
必修・選択の区別	必修	学年次	カリキュラムにより異なります。	学 期	カリキュラムにより異なります。	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	太田 安彦(Yasuhiko Ohta)、立石 謹也(Kinya Tateishi)、末澤 千草(Chigusa Suezawa)、山口 航(Wataru Yamaguchi)、行正 信康(Nobuyasu Yukimasa)、小河 佳織(Kaoru Ogo)、森西 起也(Tatsuya Morinishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 今日に至る臨床検査の飛躍的な発展は、さまざまな検査機器の進歩によるものであるといっても過言ではない。そのため、検査に必要な基本的な機器や装置に関する知識の習得は欠くことのできないものであることから、本講義により検査機器の発展の歴史や最新の医療・分析機器などの構造・原理と特徴、取り扱いと保守管理について総論的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 化学容量器、各測定機器、各部門における検査機器の原理や正しい扱い方を理解し、測定値の精度を上げることが習得できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書やプリントを用いて講義するが、パワーポイントやビデオも適宜利用する。また、演習により機器・器具の正しい使い方を習得できる。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	検査機器学総説	手法と検査機器 (立石)								
	2	化学容量器	フラスコ、ピペット等 (立石)								
	3	分離分析装置	クロマトグラフィ、電気泳動装置 (太田)								
	4	測光装置	分光光度計、炎光光度計、原子吸光光度計 (太田)								
	5	電気化学装置	pHメータ、各種電極 (太田)								
	6	秤量装置、遠心分離装置、攪拌装置	天秤の種類と原理、遠心分離器の原理と種類、攪拌装置の概要と各種攪拌機 (太田)								
	7	恒温装置、乾燥機、保冷装置	恒温装置の概要、恒温水槽、乾燥機、冷蔵・冷凍装置 (太田)								
	8	血液検査用機器	自動血球計数装置、自動白血球分類装置等 (山口)								
	9	化学検査用機器	自動分析装置 (太田)								
	10	病理検査用機器	自動固定包埋装置、包埋センターマイクローム等 (森西)								
	11	微生物検査用機器	滅菌装置、培養装置、同定検査・薬剤感受性検査・遺伝子検査・抗原検査に用いる機器等 (末澤)								
	12	免疫血清・遺伝子検査用機器	水平回転機、ダイリューター、ELISA法測定装置、プロットング装置、PCR増幅装置、DNAシーケンサー等 (行正)								
	13	生理検査用機器	心電計、心音計、脈波計、脳波計、超音波装置等 (小河)								
	14	演習1	化学容量器演習(ピペットの検定)1 (立石・太田)								
	15	演習2	化学容量器演習(ピペットの検定)2 (立石・太田)								
教 科 書	最新臨床検査学講座 検査機器総論(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	Medical Technology 臨時増刊 最新臨床検査機器のすべて(医歯薬出版)										
成績評価の方法	演習実技(10%)・期末筆記試験(90%)により総合的に評価する。										
オフィスアワー	質問や相談等がある場合は担当教員が研究室にて随時対応する。										
受講上の留意事項	<p>予習・復習をしっかりとしておくこと。実習室での講義および演習は10分前までに白衣を着用し、入室すること。入室後は私語を慎み、演習書をよく読み直し、演習内容を把握しておくこと。実習室での履物は運動靴もしくはそれに準ずるものとする。</p> <p>なお、平成29年度入学生は2年次前期配当、平成30年度以後入学生は1年次後期配当なので、注意すること。</p>										

薬理学 (Pharmacology)											
必修・選択の区別	必修(看護学科)、 選択(臨床検査学 科)	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	二宮 昌樹(Masaki Ninomiya)、小坂 信二(Shinji Kosaka)、芳地 一(Hitoshi Houchi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>ヒトの生理機能と病態及び薬物の作用機序を理解し、薬物治療へ適用する薬に関する知識を習得する。臨床でよく用いられる薬について、薬効と副作用を体系的に理解し、服薬指導・看護の注意点を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①薬効に影響するヒトの代謝機能と相互作用を説明できる。 ②抹消神経系の化学伝達物質を説明できる。 ③中枢神経系の疾患に適用する薬物の作用機序と看護の注意点を説明できる。 ④呼吸器・消化器系の疾患に適用する薬物の作用機序と看護の注意点を説明できる。 ⑤免疫/エネルギー/皮膚/眼の疾患に適用する薬物の作用機序と看護の注意点を説明できる。 ⑥感染症/循環器系の疾患に適用する薬物の作用機序と看護の注意点を説明できる。 ⑦代謝系の疾患に適用する薬物の作用機序と看護の注意点を説明できる。 ⑧抗がん剤の作用機序と看護の注意点を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	パワーポイントとプリントを用いて授業を進行する。授業は教科書を用いて行うので、教科書をしっかり読み学習することが大切である。講師は徳島文理大学香川薬学部(二宮)、香川大学部附属病院薬剤部(芳地・小坂)が担当する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2 3～4 5～6 7～8 9～10 11～12 13～14 15	第1部 5章 6章 8章 3・4・10章 1・7章 9・14章 2章	薬理学総論 (芳地) 末梢神経系に作用する薬物 (芳地) 中枢神経系に作用する薬物 (二宮) 呼吸器・消化器系に作用する薬物 (二宮) 免疫/アレルギー/皮膚/眼に作用する薬物 (小坂) 感染症・循環器系に作用する薬物 (小坂) 代謝系に作用する薬物・輸液 (二宮) 抗がん剤 (小坂)								
教 科 書	系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[3]薬理学 (医学書院)										
参考書・参考資料等	NEW薬理学(南江堂)										
成績評価の方法	課題レポート80%(課題は別途指定する)、授業態度 20% で評価する。 レポート課題は別途、二宮から指定する。										
オフィスアワー	授業の質問・相談は、徳島文理大学・二宮までメールで連絡してください(随時)。 E-mail:m-nino@kph.bunri-u.ac.jp										
受講上の留意事項	薬の薬理作用には、病気の治療に役立つ作用(有効性)と期待しない作用(副作用)がある。 薬物治療に際しては、副作用が少なく有効性の高い薬物が好ましく、もし副作用が発現した時はその初期症状に対処できる看護のポイントを習得し、臨地実習に役立ててください。										

実験動物学演習 (Experimental Animal Science Laboratory)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	演習
担 当 教 員	加太 英明(Hideaki Kabuto)、新美 健太(Kenta Niimi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>実験動物学とは試験研究や実験のために使用するすべての動物ならびにそれらの動物についての実験法に関する科学である。動物実験とは人体で試みることのできない実験や研究を動物の体を借りて行うことであり、ヒトの疾病に関する知識や検査技術の向上、新薬の開発、生体メカニズムの解明に必要不可欠のものである。本演習では、実験動物についての知識、動物実験を行うにあたっての注意点、倫理について講義を行うとともに、実際にマウスもしくはラットを用いて簡単な実験をおこない、その取り扱い方の実習をおこなう。</p> <p>【到達目標】</p> <p>動物実験の意義、倫理面での配慮、実験を行う上での基本姿勢、手技を学び、適切に実習をおこなうことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>前半8時間：パワーポイントによる資料や講義内容を基に、その内容についてノートをとる。また講義のはじめに行われる小試験により理解度の確認をおこなう。</p> <p>後半8時間：班に分かれて実際にマウスを用いて実習をおこなう。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	動物実験の意義と実験動物	なぜ動物実験が必要か。その意義について学ぶ。								
	2	実験動物の分類	実験に使用される動物の種と、それぞれの種の特徴。								
	3	実験動物の疾病	動物がかかる病気について。特に人獣共通感染症について。								
	4	倫理	動物実験を行う上での倫理規定と法律について。								
	5～7	動物実験法	動物の扱い方、採血・薬物投与を実際にやってみる。								
	8	実習試験	実際にできるようになったか、確認する。								
教 科 書	プリント配布										
参考書・参考資料等	<p>実験動物学(朝倉書店)</p> <p>新生化学実験講座19 動物実験法(東京化学同人)</p> <p>図説動物実験の手技手法(共立出版)</p> <p>動物実験法概論(朝倉書店)</p>										
成績評価の方法	<p>学習態度、小試験、実習試験、期末試験より判定する。</p> <p>講義形式の授業と実習が混ざるため、あらかじめ配点の割合は決めていない。</p>										
オフィスアワー	<p>加太：随時。kabuto-h@chs.pref.kagawa.jp</p> <p>新美：随時。niimi-k@chs.pref.kagawa.jp</p>										
受講上の留意事項	<p>実習に適した服装で出席すること。</p> <p>同じ班の人に迷惑をかけますので遅刻・欠席をする場合は、連絡を入れること。</p>										

公衆衛生学 I (Public Health I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	須那 滋 (Shigeru Suna)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 公衆衛生の目的は、組織的な社会の活動と努力を通じて、地域に暮らす全ての人々の健康を保持増進することである。公衆衛生学では、そのための理論と実際について学ぶが、公衆衛生学 I では、わが国における公衆衛生制度の展開と保健活動の実際について学習する。</p> <p>【到達目標】 ①わが国における公衆衛生制度と保健活動について説明できる。 ②国民集団(地域・学校・職場)の健康水準、健康問題が説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	公衆衛生学 I (保健)では、まず公衆衛生の成り立ちと発展、保健・医療における疾病予防の概念、わが国の健康水準等について学習し、さらに、地域、学校、産業の場における公衆衛生の制度と保健衛生活動の実際について学習していく。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	健康と公衆衛生	公衆衛生の定義、健康の概念、リスクファクター、憲法・法・制度								
	2	健康と公衆衛生	包括的保健医療、人類と健康の歴史、ヘルスプロモーション								
	3	人口・保健統計	人口ピラミッド、出生、死亡、死因構造、人口動態・静態								
	4	人口・保健統計	平均寿命、生命表、国民の傷病と健康								
	5	感染症	感染症の歴史、感染症対策、感染症の動向、検疫								
	6	地域保健	地域保健法、保健所、市町村保健センター、母子保健								
	7	地域保健	学校保健、学齢期の健康、保健管理と保健教育、学校環境衛生、学校給食								
	8	地域保健	成人・老人保健、老人福祉、がん対策、がん検診、喫煙対策、メタボリックシンドローム、国民健康栄養調査、日本人の食事摂取基準、健康増進対策、日常生活習慣、介護保険								
	9	地域保健	精神保健福祉対策								
	10	地域保健	労働安全衛生法、労働衛生行政、労働衛生管理								
	11	産業保健	健康保持増進対策、労災補償、職業病、作業関連疾患								
	12	産業保健	作業環境管理、作業管理、生物学的モニタリング								
	13	産業保健	健康管理、産業中毒、産業疲労ほか								
	14	産業保健	健康管理、産業中毒、産業疲労ほか								
	15	まとめ	人類の健康、化学物質リスク、世界行動計画								
教 科 書	シンプル衛生公衆衛生学 鈴木庄亮・久道茂/監修 小山 洋・辻 一郎/編集(南江堂)、国民衛生の動向(最新版)(厚生統計協会)…必携別に講義資料を配布する。										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	レポート(試験成績不足分10点以内)、期末試験等により評価する。										
オフィスアワー	随時。メール可。 E-mail: suna-s@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	公衆衛生学は自然科学から社会科学まで、きわめて広範囲の応用科学より成り立つ実践的な学問である。このため総合的な理解力が要求されることを念頭に置き、学習してほしい。										

公衆衛生学Ⅱ (Public Health Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	須那 滋 (Shigeru Suna)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 疫学は、人間集団における疾病発生に関与する諸要因を明らかにする基礎科学であり、保健・医療にわたり、社会における健康問題に関わる調査・研究の有用な手段である。本教科では、健康影響を評価するために必要な疫学 の概念と分析手法の基礎を習得する。</p> <p>【到達目標】 ①健康・疾病事象成立に寄与する因子の抽出から因果関係の証明に至るまでの過程を疫学方法論的に説明できる。 ②統計学的推定と検定を疫学方法論に應用できる。 ③疫学調査における誤差を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	現代における疫学(調査)の必要性、意義を理解した後、疫学方法論において各種疫学手法を学習する。さらに、疫学調査や統計解析の実際を学習する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	疫学の目的	疫学の定義と意義、疫学3要因、疫学の歴史								
	2	疫学指標	確率とオッズ、リスクとリスク比、罹患率、死亡率、有病率、年齢調整								
	3	疫学方法論	観察研究と介入研究、臨床治験、RCT、二重盲検、プラセボ、記述疫学と分析疫学、コホート研究、症例対照研究								
	4	疫学方法論	疫学調査における誤差、偶然誤差とバイアス、交絡、標本抽出、乱数表、層別								
	5	疫学方法論	集団スクリーニング検査、特異度、敏感度、陽性反応的中度、ROC曲線								
	6	統計解析の基礎	疫学調査と倫理、調査票、データの種類、データ整理、単純集計とクロス集計、データ分布と代表値、散布度、理論分布								
	7	統計解析の基礎	点推定と区間推定、検定と危険率、帰無仮説、ノンパラメトリック検定								
	8	統計解析の基礎	独立性の検定、食中毒の原因推定、相関と回帰ほか								
教 科 書	<p>シンプル衛生公衆衛生学 鈴木庄亮・久道茂/監修 小山 洋・辻 一郎/編集 (南江堂)</p> <p>国民衛生の動向(最新版)(厚生統計協会)…必携</p> <p>別に講義資料を配布する。</p>										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	レポート(試験成績不足分10点以内)、期末試験等により評価する。										
オフィスアワー	随時。メール可。sunas@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	公衆衛生学Ⅰと同様である。										

公衆衛生学Ⅲ (Public Health Ⅲ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	須那 滋 (Shigeru Suna)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 地球生態系に暮らす人間の健康と環境の関係を総合的に理解し、さまざまな環境因子による健康影響と規制対策についての知識を身につけるとともに、環境リスク評価能力を養う。</p> <p>【到達目標】 ①人間の日常活動を取り巻く環境の成り立ちとあるべき姿を総合的に理解できる。 ②環境と健康の関係を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	過去の人類の歴史に遡って時系列的に考察する中で、古代医療、産業革命、近代医療、環境汚染・公害問題等の展開を通じて人間生活における環境の重要性を理解する。ついで、環境と人間の相互関係、環境規制の方式について学習し、空気・水環境、下水廃棄物処理、栄養・食環境、屋内・屋外環境（一般生活環境、学校環境、労働環境）における環境リスクの現状と課題、環境リスクモニタリング・評価手法等について学習する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	総論1	人類の健康と社会・環境								
	2	総論2	環境の概念、人間-環境系、生態系、物質循環、食物連鎖								
	3	総論3	環境因子、曝露、吸収・代謝・排泄、蓄積、量-反応(影響)関係、環境毒性学、環境と規制の方式、リスクアセスメント・マネジメント、								
	4	総論4	環境汚染・公害、公害・健康被害・補償、環境問題の変遷、								
	5	総論5	地球環境問題、環境化学物質問題、化審法、内分泌攪乱化学物質、ダイオキシン問題								
	6	空気・水環境1	エアロゾル、大気汚染物質、健康影響調査、大気環境基準、浮遊粒子状								
	7	空気・水環境2	物質、微粒子・ナノ粒子								
	8	空気・水環境3	大気発がん物質、石綿問題、								
	9	空気・水環境4	水質汚濁指標、排水基準、上水道、水道水質基準、下水道・し尿、排水対策(下水道・浄化槽)、廃棄物対策、医療廃棄物、悪臭、土壌汚染								
	10・11	栄養・食環境	栄養・食品衛生、食品の機能、食品添加物、ADI、残留農薬								
12・13	屋内・屋外環境1	化学・生物学的環境と健康、VOCs、シックハウス問題、環境タバコ煙、レジオネラ症、ラドン、酸素欠乏、職場化学物質管理、環境管理手法、環境測定評価、管理濃度、許容濃度									
14・15	屋内・屋外環境2	物理学的環境と健康、温熱指数、熱中症問題、騒音、振動、光									
教 科 書	シンプル衛生公衆衛生学 鈴木庄亮・久道茂/監修 小山 洋・辻 一郎/編集(南江堂)、国民衛生の動向(最新版)(厚生統計協会)…必携別に講義資料を配布する。										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	レポート(試験成績不足分10点以内)、期末試験等により評価する。										
オフィスアワー	随時。メール可。 E-mail:suna-s@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	公衆衛生学 I と同様である。										

食品衛生学 (Food Hygiene)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	中内康起 (Yasuki Nakauchi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>食品衛生とは、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し安全性を確保することにより、消費者が安心して食品を摂取し、健康の保護を図ることにある。</p> <p>食物環境では、食中毒の発生、食品に起因する新しい微生物による感染症、BSE、遺伝子組み換え食品、食物アレルギーなど多くの問題をかかえており、これらを学び深く追求することにより知識の幅を拡大する。</p> <p>食品を介して起こり得る健康被害の発生とその防止のために、今何が行われているかについて理解し、食をとりまく安全性の確保のあり方と食品衛生管理者・食品衛生監視員の養成コース(卒業後資格取得)として学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 食中毒について説明できる。</p> <p>② 食品に係る衛生管理について理解し対応できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	本講義では、プリントに沿って、各論の講義をすすめるとともに、視覚的理解を容易にするために、パワーポイントによるプレゼンテーションを基本とする。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	食品行政・法規	食品衛生行政の沿革と関連法規								
	2	食品と微生物	食品中の微生物と由来								
	3	食品による健康被害	微生物による食中毒発生状況と予防								
	4	食品による健康被害	自然毒などによる食中毒発生状況と予防								
	5	食品による健康被害	食品による感染症と寄生虫病								
	6	食品による健康被害	化学物質による汚染や食品の変質								
	7	添加物・表示	食品添加物、食品の表示、食品の器具、容器包装及び台所洗剤の規格と基準								
	8	衛生管理・食の現状	食品の衛生管理、わが国及び世界の食を取り巻く状況								
教 科 書	特に指定しない。プリントを配布する。										
参考書・参考資料等	「食べ物と健康食品衛生学」、管家祐輔・白尾美佳編著：(光生館)等										
成績評価の方法	授業態度等を参考にして、基本は期末試験により評価する。										
オフィスアワー	連絡先(087-867-0719) mail : yasuki-n@mxi.netwave.or.jp										
受講上の留意事項	要望や質問は講義中、講義後に受け付ける。										

環境・食品検査学実習 (Environment and Food Inspection Laboratory)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実習
担 当 教 員	眞鍋 紀子 (Noriko Manabe)、氏家 あけみ (Akemi Ujike)、安藤 友継 (Tomotsugu Ando)、多田 薫 (Kaoru Tada)、植田 晶子 (Akiko Ueda)、小河 佳織 (Kaoru Ogo)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 公衆衛生学に関連する検査手技を学ぶことによって、公衆衛生に関する幅広い知識の習得と検査の必要性を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 公衆衛生学に関連する検査技術および検査の重要性について、説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	大気検査・騒音等の測定、河川の水質検査、食品添加物・食品微生物等の化学分析および微生物検査の基礎について、オムニバス方式で講義と実習を行い、結果について考察させレポートを提出させる。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2 3～4 5～6 7～10 11～15	環境関係 環境関係 水質関係 食品関係 食品衛生規制、 食品微生物検査	騒音測定について (多田) 公害について 大気汚染物質の測定 (安藤) 水環境について 全窒素・全りん分析 (植田) 油脂の化学的変敗について (酸価・過酸化価の分析) 食品添加物の使用基準について (発色剤 亜硝酸ナトリウムの分析) (氏家) 食品衛生法・規格基準・指導基準・GMP・HACCP (ふきとり検査、乳酸菌数、生菌数、大腸菌群数 等) (眞鍋)								
教 科 書	最新臨床検査学講座 公衆衛生学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	食品衛生法、食品衛生検査指針 (厚生労働省) 衛生試験法・注解 日本薬学会編 臨床検査技術学3 公衆衛生学 (医学書院)										
成績評価の方法	レポート・実習態度 (基準: レポート80%・実習態度等20%)										
オフィスアワー	研究室、実習室等で適宜対応 (11～15)										
受講上の留意事項	レポート提出期限を遵守すること。 参考書等を参考にして、よく考察したレポートになるよう努力すること。										

社会福祉学 (Social Welfare)											
必修・選択の区別	必修(看護学科)、 選択(臨床検査学 科)	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	岩城 由幸 (Yosiyuki Iwaki)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 人が生きて行く上で生じる、様々な生活課題の解決に向け、福祉と医療の連携が重視されている現状を踏まえ、将来医療現場で働く事になる学生の皆さんが、わが国の社会福祉制度についての理念や現状、また、児童福祉や障害福祉等の社会福祉の個別対策について、その基礎的知識を理解・学ぶ事を目指します。</p> <p>【到達目標】 ①社会福祉の思想を理解できる。 ②医療と福祉の連携を理解できる。 ③児童虐待等を発見し、通報することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	看護師等、医療職にとって必要なわが国の社会福祉を中心とした社会保障制度に関する法制度やその置かれている現状をテキスト及び関連資料またDVDや新聞記事を活用して、わかりやすく授業を行います。(2回に1度程度、映像により現状を紹介します)										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	オリエンテーション	授業計画や社会福祉とは何かについて総論的な講義、								
	2	社会福祉の現状Ⅰ	現在社会の家族の現状やその変化								
	3	社会福祉の現状Ⅱ	現在社会の地域社会の現状やその変化								
	4	社会福祉の現状Ⅲ	日本国憲法と社会福祉法制								
	5	社会福祉の現状Ⅳ	ノーマラーゼーション等の社会福祉の理念								
	6	諸外国の福祉の歴史	イギリス・アメリカ等における社会福祉の歩み								
	7	日本の福祉の歴史	日本における社会福祉の古代から社会福祉の歩み								
	8	社会福祉ニーズとは	社会福祉ニーズについての考え方								
	9	児童福祉	児童福祉法等の児童福祉制度について								
	10	児童虐待	児童虐待防止法等の児童虐待への対策について								
	11	障害者福祉	障害者総合支援法等の障害者福祉の制度について								
	12	高齢者福祉	介護保険法等の高齢者福祉制度について								
	13	母子及び寡婦福祉	母子寡婦福祉法等の母子、寡婦福祉制度について								
	14	低所得者福祉	生活保護法等の低所得者福祉制度について								
	15	社会保障	年金等の社会保障制度について								
教 科 書	4訂版 社会福祉概論-その基礎学習のために-(中央法規出版)										
参考書・参考資料等	関係資料を授業の際、配布予定です。										
成績評価の方法	平常点及び筆記試験により評価を行います。										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	新聞・テレビ等で社会福祉関連の記事・報道が出た時は出来るだけ、気をつけて見ておいて下さい。										

保健医療制度論 I (Healthcare Systems I)											
必修・選択の区別	必修(看護学科)、 選択(臨床検査学 科)	学年次	カリキュ ラムに より異 なりま す。	学 期	前 期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	星川 洋一 (Yoichi Hoshikawa)、筒井 茂子 (Shegeko Tsutsui)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 保健医療活動の根拠法令や労働関係の法規や制度に関する基本的知識を習得し、安全・安心して業務に携る保健医療従事者の役割を理解する。</p> <p>【到達目標:星川】 ①法の基礎知識を理解し、衛生法の概念・沿革・分類、厚生行政の仕組みについて説明できる。 ②医療法、医療関係資格法、保健衛生法等を理解し、医療提供体制について説明できる。 ③感染症法の基本を理解し、院内感染防止対策の重要性について説明できる。</p> <p>【到達目標:筒井】 ①看護関係法令を理解し、看護職の役割が正しく認識できる。 ②医療サービスを理解し、医療の安全について説明できる。 ③労働関係法令についての基本的知識を身につけて説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	各領域の法制度に精通した専門職が、保健医療福祉及び労働に関連する法律や様々な制度、各種計画など社会を支えている仕組みについて、行政の実際を交えて講義を行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	法の概念	衛生法の意義・沿革・分類、厚生行政のしくみ、医療法、医療提供の理念・定義 (星川)								
	2	医療サービス供給体制	医療機関の開設、医療計画等医療提供体制の確保、医療関係資格法、医療制度を支える法 (星川)								
	3	医療サービス供給体制	病院等の監督:立ち入り検査、診療記録・情報公開、薬事法:薬局の種類と機能 (星川)								
	4	感染症予防、環境法	院内感染、病原体等管理の適正化、医療廃棄物について (星川)								
	5	保健師助産師看護法	目的・定義、免許、業務、守秘義務、個人情報保護、他職種と職務範囲の違い(筒井)								
	6	医療過誤	医療過誤と行政処分、毒劇物取り扱い (筒井)								
	7	看護職員の確保・労働と関係法規①	看護師等人材確保の促進に関する法律、看護体制と診療報酬(筒井)								
	8	看護職員の確保・労働と関係法規②	労働安全衛生法、労働基準法、育児休業、介護休業ワークライフバランス (筒井)								
教 科 書	系統看護学講座 看護関係法令(医学書院) 看護六法(新日本法規)										
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介する。										
成績評価の方法	期末試験により評価する。										
オフィスアワー	質問がある場合は、毎回の授業終了時に申し出てください。										
受講上の留意事項	新聞報道などで話題となっていること、トピックス、保健・医療や労働・生活に関連するできごとに関心を持ち、社会人として、保健医療の専門技術職として、考える習慣を身につけてほしい。また、保健医療従事者として、常識的・社会的に必要な用語も身につけてほしい。										

医療経済学 (Health Economics)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	十川 聖三 (Seizou Sogawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>経済学の基本は『もの』を売り買いして互いに利益を求め、その価値は売る側と買う側に平等に分配される対称性がある。</p> <p>一方、医療は、生命の尊厳性から命や臓器は売り買い出来ない「非営利」であり、また、正しい医療行為を受けても必ずしも満足する結果になるとは限らない「非対称性」となるなど経済学とは本質的に異なる分野であった。故に、医療は生命の尊厳性を重視した質的向上を目指すあまり、経済性を無視した設備投資や技術スタッフの増員などは、バブルの崩壊と同時に経営が破綻する傾向が生じてきた。</p> <p>この経営改善に取り組んだのは医療と経済・経営管理学が歩み寄り「医療経済学」という新しい学問であった。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①マクロ、ミクロなど経済学の基礎を学び、顧客、マーケティング、サービスなど経営管理学を理解することができる。</p> <p>②医療法の変遷や看護学・検査学の発展と推移を理解することができる。</p> <p>③医療と経済社会との効率、効果、安心・安全などのマッチングを理解することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>まず、経済学の総論について学び、経済の発展が国民生活にどのように還元されるのかを統計学などから理解する。また、医療の本質と今日までの医療の歴史を考え、経済の発展による生活の向上が医療との関係を深め、新しい学問に発展してきた医療経済学の本質を学ぶ。</p> <p>さらに、医療を支える経済、会計、法律などを学び、よりよい医療の発展を支える医療経済学を学ぶ。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	経済社会の背景や動向について	日本と国際社会がもたらす背景を学ぶ								
	2	マクロ・ミクロ経済学とは何か	需要と供給などの経済学の基礎を学ぶ								
	3	医療分野の特質と問題点	医療活動から見た社会性								
	4	医療における経営管理学の導入	経済が医療経済に及ぼす影響を学ぶ								
	5	経済・文化・暮らしと医療経営について	顧客原理に基づく需要とサービスの供給など医療との関係を学ぶ								
	6	皆保険と診療点数	診療点数(レセプト)について学ぶ								
	7	医療の経営管理の組織について	医療の人的資源の活用について								
	8	マネージメントとオペレーション機能	計画と実行、投資と利益について								
教 科 書	各毎 レジユメ配布										
参考書・参考資料等	<p>大学4年間の経済学が10時間で学べる 井堀利宏 中経出版</p> <p>経営学原理 小椋慶宏 学文社</p> <p>経営管理の倫理 宮坂純一 晃洋書房 高松大</p> <p>医療安全の経済分析 安川文朗 勤草書房</p>										
成績評価の方法	レポート提出(A-4 2枚以上)、授業態度を加味する										
オフィスアワー	随時 メール(090-9170-3100)										
受講上の留意事項	授業の要点について質問があります。										

医療概論(Introduction to Medicine)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	授業、グループ学習
担 当 教 員	中村 丈洋(Takehiro Nakamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>医学・医療の様々な問題点を考える事で、医学の発展や疾病構造の変化、国民の健康に対する意識の向上に伴う医療及び医療従事者に対する考え方の変化、予防医学の重要性などを学習し、さらに、現在社会的に問題になっている種々の医療について学ぶことにより、医療従事者に求められる倫理性や社会的使命を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 医療の歴史の概要を理解できる。 ② 医療事故および対策について理解できる。 ③ 生殖医療の概要を理解できる。 ④ 先進医療について説明できる。 ⑤ 患者権利について説明できる。 ⑥ 予防医学について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>大学生の学びへ対する基本的な姿勢は自らが主体となることである。本科目は数名からなる各グループの全員が与えられたテーマに対し、インターネット、図書館、各種マスメディアから情報を得、全員でその内容を理解した上で整理、調整し、発表するものである。このことにより未知の領域へのアプローチの仕方、方法を学び、今後の授業に対する基礎を形成するものである。また同時に他グループの発表に対して、自分の理解できないことに関する疑問の発信、質問の仕方をも習得する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	総論	医学・医療とは何か								
	2	歴史	医学・医療の歴史とその考え方の変化								
	3	医療事故	医療事故とその防止策								
	4	生殖医療	生殖医療の動向								
	5	先進医療	先進医療と遺伝子治療								
	6	終末期医療	終末期医療(ターミナルケア)								
	7	患者権利	脳死と臓器移植やがん告知								
	8	予防医学	予防医学と生活習慣病								
教 科 書	適宜紹介する。										
参考書・参考資料等	図書館、インターネット、新聞などのメディア等で調査する。										
成績評価の方法	グループ調査内容(50%)および発表(50%)。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	原則として、学生自身が調査を行い、レポートにまとめ、分かりやすく発表する。詳細については、授業時に発表する。										

瀬戸内圏環境論 (Environmental Studies of the Seto Inland Sea Region)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	平 篤志 (Atsushi Taira)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>本授業は、瀬戸内地域の自然的環境のみならず、人文社会的環境も同程度に視野に入れて、瀬戸内圏の環境を総合的に理解することを目標とする。分析の視点は、自然と人文を総合的に扱ってきた地理学的な視点を重視する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①環境の概念について説明できる。 ②瀬戸内海の特徴について説明できる。 ③瀬戸内地域の特徴と課題について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	まず、環境に関する基本的概念を整理し、つづいて瀬戸内海の特徴と人間活動による影響について考察する。合わせて瀬戸内海地域の自然的特徴を概観する。引きつづいて瀬戸内地域の社会的経済的発展と環境変化について、歴史的視点を交え考察する。最後に瀬戸内圏の美しさについて考察し、まとめとする。授業では、ビデオも使用し、視覚的にも瀬戸内地域と瀬戸内海の理解向上に努めたい。講義を主体とするが、一部アクティブラーニングも取り入れる。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	環境とは何か	自然的特徴、人文的特徴								
	2～3	瀬戸内海の特徴	地形的特徴と海水の運動、人間活動と環境変化								
	4	瀬戸内地域の歴史的発展	近世社会の発展と瀬戸内地域、農村地域社会の特徴								
	5～7	瀬戸内地域の発展と課題	まとめの小レポート								
	8	まとめ：瀬戸内圏環境の価値一次世代に残すために	工業活動の発展と地域開発、環境汚染と防止策の歴史、本州四国連絡橋と瀬戸内海新時代の到来、環境系新産業の創造、瀬戸内の美しさ								
教 科 書	特に定めない。										
参考書・参考資料等	参考となる文献は、授業中に紹介する。										
成績評価の方法	授業への取り組みとレポートの総合評価 授業への取り組み10%、レポート(授業の内容理解)90%										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	2日間の集中講義であるので、単位取得には両日出席が求められる。										

国際保健論 (Global Health)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	太田 安彦 (Yasuhiko Ohta)、新田 恭子 (Yasuko Nitta)、依田 健志 (Takeshi Yoda)、末澤 千草 (Chigusa Suezawa)、岡西 幸恵 (Sachie Okanishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 先進国と発展途上国における健康・いのち・医療・生活・教育・環境・収入等の格差を知り、その諸要因を考察し、さまざまな解決策を自分なりに紡ぎ出すことができる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 発展途上国における健康に関する諸問題について説明できる。 ② 国境を越えた健康に関する諸問題について説明できる。 ③ 健康水準の国家間・地域間格差とその要因について説明できる。 ④ 問題解決の手段や活動について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義の他に、受講者数次第で可能であれば討論を加えたい。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1		ODAとNGO、NPO その特性について (新田)								
	2		国際保健概論 (依田)								
	3		感染症コントロールへの取り組み (末澤)								
	4		リプロダクティブヘルス・栄養・労働衛生 (依田)								
	5		ミレニアムゴールとNGOの取り組み、香川のNGOによるカンボジアの保健医療分野での活動事例 (新田)								
	6		国際保健医療の研究と実践の方法 (依田)								
	7		JICAボランティア事業(ガーナ、ボリビア)について (太田、岡西)								
	8		元JICA隊員による講演								
教 科 書	国際保健医療学 第2版(杏林書院)										
参考書・参考資料等	国際保健医療のお仕事 改訂2版(南山堂) 安全保障の今日的課題(朝日新聞社)										
成績評価の方法	全8回の講義の中から1つを選択し、その内容についてレポートを提出する。 提出されたレポートを評価する(表題や名前のないもの、インターネットからのコピー&ペースト、自身の意見のないもの、字体の統一がされていないもの等は減点対象となる)。										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	ときには世界に目を転じ、国際社会が抱えるいのちと生きる機会の不平等・不公正や理不尽さに「なぜなのか」と関心をもって考えてみましょう。										

国際環境論 (Global Environment)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	浅川 富美雪 (Fumiyuki Asakawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>われわれを取り巻く環境と、環境と人間の相互作用について学び、環境の変化を地球規模で理解し、地球環境問題の国際的な関連について理解する。</p> <p>これを通じ、環境に対する畏敬と良好な環境維持のために努力する心と具体的活動について考える姿勢を培い、人類が共存してゆくべき方法を探究する。また、日常的に実践するための基礎的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>人々の健康が環境とのかかわり(生態系)の中で成り立っていることを理解し、とくに地球環境問題の科学的側面(基礎的部分)と国際的な取り組み(政治的側面)の学習を通じて、将来、医療人として人々の健康生活のために考え、行動することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	宇宙船地球号の一員として、どのように考え行動すべきか各自が判断して実践することができるよう、テキストで地球環境問題の科学的側面の基礎的部分を学び、映像等により地球と生命の歴史、地球環境の現状を理解すると同時に、最新の科学的知見、国際的な取り組み(政治的側面)を把握するためにプリントを配るなどして、授業を進めていく。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	Introduction	地球環境問題を概観する								
	2	地球と生命の歴史	地球環境を考えるための基礎知識として、地球と生命の歴史を知る								
	3	地球システムの概観	エコシステム(生態系)について学ぶ								
	4	公害・環境汚染	足元の公害・環境汚染を学び、地球環境問題へと連続して捉える								
	5	地球環境問題の科学	地球環境問題(地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨 etc.)の科学的側面を学び、現状を理解する								
	6	エコシステム(生態系)の危機	地球温暖化の将来予測とエネルギー資源のあるべき姿を考える								
	7	地球環境問題の政治	“共通ではあるが差異のある責任がある”ことを認め、国際的にどう取り組むか								
	8	まとめ	“宇宙船地球号”の未来と“Think Globally, Act Locally”について考察する								
教 科 書	地球環境の教科書10講(東京書籍)										
参考書・参考資料等	地球白書、環境白書、国民衛生の動向										
成績評価の方法	授業に取り組む姿勢(レポート等含む)(20%)、試験(80%)による総合評価										
オフィスアワー	連絡先:086-440-1149(人間環境科学研究室)										
受講上の留意事項	社会の動きを知ることは重要であり、新聞等をよく読むこと										

組織論 (Organization Studies)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	片山 昭彦 (Akihiko Katayama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>組織とは何でしょうか？みなさん自身もそれぞれの立場、役割でいくつかの組織に所属し、行動しています。それは、みなさんの意識無意識の関係なく、日々繰り返され継続されて、発展あるいは衰退していきます。そして重要なことは、組織は単なる人々の集まりだけではなく、目的を達成するために組織化された集団であるということです。組織に関して、客観的に観察し検討し、主観的にみなさん自身の視点から感覚的に考察し、問題発見、解決への方法論等を組織として考えます。組織、組織力に関して学習し、得た知識、思考方法等が、今後のみなさんのキャリアの一助となることを目的とします。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①組織および組織運営の基礎的な事項を説明することができる。</p> <p>②組織運営について実践的に思考することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>講義形式とグループワーク、グループディスカッション等を併用します。</p> <p>ケーススタディにおいては、ロールプレイングも行います。</p> <p>授業の進捗状況、環境等により、授業項目順番、内容を変更する場合があります。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	組織とは何か？	組織の概念								
		組織力とは何か？	組織力の概念								
	2	組織づくりのマネジメント	時間軸：タイムマネジメント 空間軸：環境設定 場をつくる								
			組織形態 ラインアンドスタッフ組織等								
	3～4	組織の中の個人	健全な競争意識 組織における個人としての行動								
			個人の動機づけ								
	5～6	組織の中の集団	個人の意思決定 組織における集団としての行動								
			人と人をつなぐコミュニケーション リーダーシップの発揮								
7	組織力を高める	組織の変革 組織のライフサイクル 生き物としての組織									
		物語性とバイアス									
8	ケーススタディとまとめ	組織内のストレスとサポート ケースから考察 まとめ									
教 科 書	特に指定はしません。										
参考書・参考資料等	「組織」に関して、時事的な資料等から情報入手しておいてください。関連資料等は、講義当日に配布します。										
成績評価の方法	グループワーク・グループディスカッションへの参加度(50%)、レポート(50%)により総合評価します。										
オフィスアワー	授業に関する質問等は、遠慮なくメールにて連絡してください。E-mail : kata@sg-u.ac.jp 授業当日、休憩時間、終了後も可能です。										
受講上の留意事項	グループワーク、グループディスカッション等もありますので、受講生みなさんの積極的な授業への参加を期待しています。										

チーム医療論 (Interdisciplinary Medicine)											
必修・選択の区別	必修(看護学科)、 選択(臨床検査学 科)	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	三木 佳子 (Yoshiko Miki)、國方 弘子 (Hiroko Kunikata)、塩田 敦子 (Atsuko Shiota)、行正信康 (Nobuyasu Yukimasa)、加村 晴美 (Harumi Kamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 多種多様な職種と協働が常態化している医療現場で、チーム医療を展開し質の高い医療サービスを提供が実践できるようになるために、チーム医療の意義と実際を理解し、多職種協働が行える基礎的能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①信念が相違する多職種が協働することによる問題を解決する方法が説明できる。 ②チーム医療における看護師、臨床検査技師、医師、管理栄養士の役割が説明できる。 ③多種多様なチーム医療の意義と役割が説明できる。 ④チーム医療の課題について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	1回はテキストとチーム医療推進方を活用してチーム医療の概要の講義、2回でチーム医療を実践するための姿勢の講義を行う。1回終了後に課題テーマの希望調査を行いチーム編成、2回にテーマを決定する。3回～6回は、専門職の立場からチーム医療における職種の役割を理解するための講義となる。7回・8回では、チーム医療の実際と課題について検討しグループ発表を行う。課題発表の準備は時間外のグループ学習となる。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	チーム医療の概要	チーム医療とは、意義、課題(三木)								
	2	多職種協働の基本姿勢	信念対立解明アプローチ(國方)								
	3	看護師の役割	チーム医療をマネジメントする看護師の役割(三木)								
	4	臨床検査技師の役割	臨床検査技師のチーム医療への参画(行正)								
	5	医師の役割	医師の立場から、医師・歯科医師連携(塩田)								
	6	管理栄養士の役割	管理栄養士のチーム医療参画の実際(加村)								
	7	課題発表①	チーム医療の実際(三木)								
	8	課題発表②	チーム医療の課題(三木)								
教 科 書	チーム医療論(鷹野和美編著、医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	<p>チーム医療推進のための基本的な考え方と実践的事例集(チーム医療推進方策検討ワーキンググループ、厚生労働省ホームページ)</p> <p>信念対立アプローチ入門—チーム医療・多職種連携の可能性をひらく(京極真著、中央法規)</p> <p>チーム医療を成功させる10か条—現場に学ぶチームメンバーの心得(福原麻紀著、中山書店)</p>										
成績評価の方法	毎回のコメントシート(40%)、グループの課題発表または運営(30%)、課題レポート(30%)										
オフィスアワー	随時相談 miki-y@chs.pref.kagawa.jp(三木)										
受講上の留意事項	わが国では、医療・看護・介護のあらゆる場面で、複数の職種が共働することが常態化されている。このため、チーム医療論は、臨地実習、実践を遂行するために基盤となる知識であることを理解し授業に望んで欲しい。										

人間工学(Human Engineering)											
必修・選択の区別	選択(看護学科)、 必修(臨床検査学 科)	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	神邊 篤史(Atsushi Kanbe)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>医療職には判断や行動の誤りが許されない場面が数多く存在する。また、患者の身体を支えるような、医療職自身に大きな負荷が生じる場面も多い。人間工学は人間の特性に合わせた職務や機器の設計方法を探求する分野であり、医療のさまざまな場面で人間工学的なアプローチによる問題の解決が図られている。この授業では、人間の身体的、心理的特性について、加齢に伴う特性の変化も含めて学習する。そして、人間の特性に合わせた環境の設計、構築方法について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①人間の身体的、心理的特性を理解したうえで、医療業務において労働災害の防止や医療安全に対し人間の特性が考慮されている点を説明できる。</p> <p>②身の回りにおける人間工学的課題を探し、その課題の解決方法を提案できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	基本的には講義形式で実施する。講義の中では、基礎知識として人間の身体的・心理的特性を説明したうえで、医療分野をはじめさまざまな身の回りの人間工学的課題を例示し、その解決方法を説明する。なお、随時グループワークやレポートなどを通して、課題解決方法について受講学生が自らの考えを表出する機会も設ける。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	イントロダクション	人間工学とは、その対象は								
	2	身の回りの人間工学的課題	人間の誤り、機械の故障、対人関係などから生じる、身の回りで起こるトラブルを考える								
	3	腰痛対策(1)	生体システムとは、生体システムから見た作業のあり方								
	4	腰痛対策(2)	ボディメカニクスと看護動作、作業分析による労働管理								
	5	人体計測	人間工学における計測の目的、マルチン式計測法、モーションキャプチャなど静的・動的に人間を測る方法								
	6	生理学的測定法(1)	筋電図、心拍数								
	7	生理学的測定法(2)	脳波、脳血流								
	8	生理学的測定法(3)	皮膚発汗、フリッカ一値、エネルギー代謝率、眼球運動								
	9	心理学的測定法	比較判断法、質問紙法								
	10	計測データの分析方法	統計学的手法の説明、データ分析演習								
	11	ヒューマンエラー	ヒューマンエラーとは、その要因は、リスクマネジメント								
	12	人間の認知とその情報処理	実例を体験して人間の視覚情報処理の特性を考える、人間中心設計								
	13	高齢者や障害者の特性	加齢に伴う心身の変化や、心身のさまざまな障害を理解する								
	14	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの概念、事例								
	15	心身に障害のある人を支える技術/授業の総括	アシスティブテクノロジー、テクノロジーで変わる障害者のQOL/医療福祉分野における人間工学の役割を総括								
教 科 書	講義に必要な資料は、授業中に配布します。										
参考書・参考資料等	小川鑛一:「イラストで学ぶ看護人間工学」(東京電機大学出版局)2008 佐藤幸光、佐藤久美子:「必携 医療安全に活かす医療人間工学」(医療科学社)2007										
成績評価の方法	原則としてレポート(60%)、期末試験(40%)により総合的に評価する。 質問や意見発表などを通して特に積極的に授業に参加していると認められる場合は加点することがある。 なお、期末試験の再試験は実施しない。										
オフィスアワー	随時メール(a-kanbe@sea.plala.or.jp)にて質問などを受け付けます。										
受講上の留意事項	レポートには、授業で説明した内容を幅広く包含した課題を提示する予定なので、毎回の授業の要点について復習を心がけてください。										

医用電子工学(Medical Electronics Engineering)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	生越 重章(Shigeaki Ogose)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 臨床検査業務における医用機器の取り扱いに際して、その動作原理の理解は不可欠である。本講義では、動作原理理解のための基礎知識としての電子技術一般について学ぶとともに、電気的安全対策について学び、検査の精度や信頼性の向上と安全性確保を指向した考え方を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①電子素子、電気・電子回路の動作原理・特性について説明できる。 ②生体の電気的特性について説明できる。 ③医用機器の電気的安全性確保の必要性とその対策について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	主として教科書に基づいた板書による講義を行う。必要に応じて、電子素子などの実物に触れ、理解を深める。まず、医用電子工学にかかわりの深いエレクトロニクスの基礎について解説する。つぎに、臨床検査において使用される医用センサや医用機器の種類と原理、および被験者に対する安全対策の原理等について概説する。あわせて、情報処理技術に関して、コンピュータの構成、デジタル信号の取り扱い方などについて解説する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～4	電磁気学の基礎	電荷と電場、静電誘導、電流と磁場、電磁誘導など								
	5～7	電気回路の基礎	直流回路、交流回路等(インダクタンスほか)など								
	8～10	電子回路の基礎	増幅器、発振器、電源回路など								
	11～12	半導体と半導体回路	半導体の特徴・特性、ダイオード・トランジスタなど								
	13	医用センサ・画像診断装置	医用各種センサの種類と動作原理など								
	14	情報処理技術	コンピュータの構成、論理演算など								
	15	生体と電気的安全・機器の安全対策	生体の電気的特性、医用機器の安全対策など								
教 科 書	臨床検査学講座 医用工学概論(医歯薬出版) 補足説明のためのプリントを適宜配付										
参考書・参考資料等	大内淳義・松尾正之 医用電子回路(コロナ社)、中島章夫編 臨床工学講座 医用電子回路(医歯薬出版)、三島清・荻原利彦 基礎から学ぶ医用工学(大竹出版)										
成績評価の方法	期末試験(80点満点)、レポート(20点満点)の合計が60点以上を合格とする。										
オフィスアワー	疑問点はできる限りその場で解決すること。 授業時間外の質問は、別途周知する方法で受け付ける。										
受講上の留意事項	三角関数、微分・積分などの数式を取り扱うものについては予習・復習が望まれる。複素数・ベクトルなどを高校で習っていないことを前提に授業を進めることは時間的に難しいので相応の自学が必要である。										

医用電子工学演習 (Medical Electronics Engineering Laboratory)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	生越 重章 (Shigeaki Ogose)、山口 航 (Wataru Yamaguchi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>臨床検査業務における医用機器の取り扱いに際して、その動作原理の理解は不可欠である。本演習では、「医用電子工学」での学修内容に基づいて、データの精度・信頼性の判断、医療機器の故障や安全性に対処できるように、基本的な電子計測技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 基本的な電子回路を扱うことができる。</p> <p>② オシロスコープなどの基本的な測定器を用いて計測ができる。</p> <p>③ 電子回路や医療機器に関する計測結果に基づいて、動作原理・特性について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	実験形式の授業である。まず、実験に関するガイダンスを行う。次に、オシロスコープなど基本的な測定器の使用法を学ぶとともに、実験レポートの書き方(データ取り扱いの注意点など)を学ぶ。その後、班分けに従って、与えられた電子回路に関するテーマについてローテーションにより実験を行う。その結果をレポートとしてまとめて提出する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	実習概論	基本的な測定器の使用法(オシロスコープ実験)とレポートの書き方								
	2~15	実習	ダイオードの特性、トランジスタの特性、交流増幅回路の特性、オペアンプ回路の特性、差動増幅回路の特性、センサ回路の特性、医用機器の電気的安全試験の7テーマについて、2~3人で構成される班で実験する。								
教 科 書	プリント(実験手引・レポートの書き方、実験実施上の注意事項等)配付予定										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	全テーマについて実験を行い、提出されたレポートの評価が60点以上(100点満点)を合格とする。レポートは必ず自分で作成するものとし、他者のファイル(同一班で取得した数値データを除く)を使用してはいけない。万一、その事実が判明したときは、提供者とともに不合格となる。(パソコンでのレポート作成可否については、2回目までに周知する。)										
オフィスアワー	疑問点はできる限りその場で解決すること。 授業時間外の質問は、別途周知する方法で受け付ける。										
受講上の留意事項	(1)実験に支障のない服装で参加し、事故のないようにすること。 (2)実験装置は精密機器であるので取り扱いには十分注意すること。誤配線などによる実験装置類の破損事故が多発しているので慎重に取り組むこと。 (3)時間内の実験終了のため、予め実験内容を理解しておくとともに要領よく実施すること。										

医療情報処理学 (Medical Informatics)											
必修・選択の区別	選択(看護学科)、 必修(臨床検査学 科)	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	横井 英人(Hideto Yokoi)、西本 尚樹 (Naoki Nishimoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 医療情報学とは、コンピュータの進歩・普及によって成立した比較的新しい学問体系である。さらに、近年の急速なICT化により大きな変化が起きている分野である。本講義では、病院や地域医療に活用されている医療情報システムについての見識を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①医療に関する情報を批判的に吟味し、自分で情報の善し悪しを判断できる。 ②医療情報に関する数字の意味を理解できる。 ③科学論文に記載されている方法を理解し、解析方法をトレースできる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業では、配布資料の内容を中心に行う講義と、グループごとに関連分野の課題発表を行うこととする。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	医療情報学総論	導入、スケジュールと課題の説明 医学文献の探し方 医療・健康に関する問題設定 科学と疑似科学								
	2	医療情報と倫理	セキュリティの3要素 ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート タスキギー事件、サリドマイド事件 事例検討、議論								
	3	EBM	エビデンスレベル 批判的吟味								
	4	医療制度と関連法規									
	5	地域医療と行政データ									
	6	中間発表	調査内容(リサーチクエスション)の検討								
	7	電子カルテ総論	標準化 電子保存の3原則								
	8	電子カルテ各論(部門 システム)									
	9	臨床試験方法論									
	10	表計算ソフトの応用	データの要約 ヒストグラムの描画と解釈 比、割合、率								
	11	事例検討	栄養剤広告の批判的吟味								
	12	プレゼンテーションソ フトによる課題作成(1)									
	13	プレゼンテーションソ フトによる課題作成(2)									
	14	発表									
	15	まとめ									
教 科 書	新版 医療情報 医療情報システム編(篠原出版新社)										
参考書・参考資料等	必要なものは講義内でその都度指示、紹介する。										
成績評価の方法	講義中の質問(約30%)、課題に対するレポート(約30%)、演習課題(約40%)により総合的に評価する。										
オフィスアワー	当講義は、全て非常勤講師によって行われるため、質問等は原則として、講師来学中に行って頂きたい。										
受講上の留意事項											

4 専門科目

臨床検査学科

臨床化学検査学 (Clinical Chemistry Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	多田 達史 (Satoshi Tada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業目的】 臨床検査は、患者の病態を理解し、診断と治療を行うために、生体成分の分析が行われている。臨床化学検査学では、生体成分を化学的に分析する基本的な事項についての知識を理解し、習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①臨床化学検査の特徴を理解し、測定値の単位や基準値、変動要因について説明できる。 ②分光光度分析法を説明できる。 ③分離分析法の種類と特徴が説明できる。 ④免疫化学分析法について説明できる。 ⑤酵素活性測定法を理解し、酵素活性測定法・測定単位について説明できる。 ⑥自動分析法、POCTなどについて説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	<p>講義では、臨床化学検査の特徴、臨床検査データの精密度、正確性の評価について、精度管理、分析の標準体系を学ぶ。これらの知識を基準にして、各種分析方法の原理、生体成分の分離技術、基礎技術を応用した自動分析法について学習する。</p> <p>講義の前に、前回の講義についての小試験を行う。</p> <p>講義は教科書、プリント資料、パワーポイントを用いて行う。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	臨床化学概論	臨床化学検査の歴史、意義、特徴								
	2	臨床化学の単位と標準物質	臨床化学検査領域で使用する単位、標準物質の規格、種類								
	3	測定値の管理	精度管理方法、基準範囲、測定値変動要因、臨床判断値								
	4	分析の標準体系	分析の標準化、物質濃度、活性分析の標準体系								
	5	分光光度分析法	分光光度分析の原理と種類								
	6	化学的分析方法	化学的分析方法の特徴と種類								
	7	分離分析法Ⅰ	クロマトグラフィ法の特徴と種類								
	8	分離分析法Ⅱ	電気泳動法、マススペクトロメトリ等								
	9	免疫化学分析法	免疫化学分析法の特徴と原理								
	10	電気化学分析法	イオン選択・電量滴定・酵素電極法								
	11	酵素的分析方法	基質と酵素反応速度、酵素法共通検出反応について								
	12	酵素活性測定法	酵素活性測定の基本、単位、共存物質の影響								
	13	自動分析法	自動分析法の種類と構成、パラメータ、ドライケミストリー法								
	14	簡易検査法	小型簡易測定器、POCTについて								
	15	その他の基礎技術	超遠心法など								
教 科 書	最新臨床検査学講座 臨床化学検査学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	臨床検査技術学 臨床化学 (医学書院)										
成績評価の方法	授業態度(積極性など)20%、小テスト10%、定期試験70% 総合的に評価する。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	臨床化学検査項目について、予習しておくこと。										

生体試料分析検査学 (Biosample Analytical Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	多田 達史 (Satoshi Tada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 各種生体試料の測定分析、検査の意義、疾患との関連性についての知識を習得する。また、分析方法と検査結果の基準値と異常値、検査法の特徴と注意点を理解し、習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①糖質・糖化タンパク質検査について測定法、臨床的意義について説明できる。 ②タンパク質の臨床化学検査について測定法、臨床的意義について説明できる。 ③非タンパク性窒素検査について測定法、臨床的意義について説明できる。 ④脂質関連の臨床化学検査について測定法、臨床的意義について説明できる。 ⑤各種酵素活性分析について測定法、臨床的意義について説明できる。 ⑥内分泌検査、骨代謝マーカー、ビタミン、電解質、微量元素の測定法、臨床的意義について説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	<p>講義では、各生体成分の化学的性質、代謝を理解し、成分に対する各種測定方法の原理、特徴を学ぶ。さらに基準範囲、臨床的意義について学習する。</p> <p>授業の前に、前回の講義について小試験を行う。</p> <p>講義は教科書とプリント資料、パワーポイントを用いて行う。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	糖質	グルコースの代謝、分析法、変動因子など								
	2	糖化タンパク質	グリコヘモグロビン、グリコアルブミンの臨床的意義、分析法など								
	3	タンパク質	総タンパク、アルブミン、タンパク分画など								
	4	その他のタンパク質	免疫グロブリン、急性相反応性タンパクなどの分析法、臨床的意義								
	5	非タンパク性窒素	尿素窒素、クレアチニン、ビリルビンの代謝、分析法、臨床的意義								
	6	脂質 I	各種リポパク質の代謝、分析法、臨床的意義								
	7	脂質 II	各脂質成分の代謝、分析法、臨床的意義								
	8	酵素 I	臨床酵素と酵素活性測定方法								
	9	酵素 II	各酵素活性測定-AST、ALT、LD								
	10	酵素 III	各酵素活性測定-ALP、 γ -GT、CHE、CK								
	11	酵素 IV	各酵素活性測定-AMY、リパーゼ等								
	12	電解質	Na、K、Cl、アニオンギャップ、Ca、IP等								
	13	微量元素	鉄、銅、亜鉛、その他の微量元素等								
	14	ホルモン	視床下部・下垂体系、甲状腺、副腎系、性腺・胎盤系、など								
	15	骨代謝マーカー、ビタミン	骨形成、骨吸収マーカー、ビタミンの種類と性質、作用と欠乏症								
教 科 書	最新臨床検査学講座 臨床化学検査学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	臨床検査技術学 臨床化学 (医学書院)										
成績評価の方法	授業態度(積極性など)20%、小テスト10%、定期試験70% 総合的に評価する。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	生化学、臨床化学検査学の知識が基礎となるので、十分に予習しておくこと。										

病態化学分析検査学 (Pathochemical Analytical Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	多田 達史 (Satoshi Tada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生体成分を科学的に分析したデータを解析する能力を学び、各種病態を理解するための知識を習得する。臨床化学検査データと病態の関連性について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 内分泌機能検査について理解し、各種疾患と検査データについて説明できる。 ② 肝機能検査としての臨床化学検査の意義を理解し、疾患との関連性を説明できる。 ③ 循環器疾患における臨床化学検査の意義を理解し、疾患との関連性を説明できる。 ④ 腎疾患の臨床化学検査の意義を理解し、疾患との関連性を説明できる。 ⑤ 酸塩基平衡について学び、血液ガスデータについて理解し、解析できる。 ⑥ 骨代謝、炎症、腫瘍マーカーについて説明できる。 ⑦ 栄養管理と臨床化学データの関連性を説明できる。 ⑧ 薬物モニタリング検査について説明できる。 ⑨ チーム医療を含む診療支援業務における臨床化学検査の意義について説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	<p>講義では、臓器の生理的機能を学び、各種病態における生体成分の測定値と臓器機能との関係を理解する。また、栄養状態、薬物モニタリング、さらにチーム医療としての診療支援についての知識を習得する。</p> <p>講義の前に、前回の講義についての小試験を行う。</p> <p>講義は教科書とプリント資料、パワーポイントを用いて行う。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	内分泌機能	視床下部・下垂体、甲状腺機能、副腎、性腺機能など								
	2	内分泌疾患 I	下垂体機能異常、甲状腺疾患など								
	3	内分泌疾患 II	副腎機能異常、性腺機能異常、その他内分泌疾患、各種負荷試験								
	4	肝機能 I	肝疾患の原因と臨床、肝機能検査の有用性								
	5	肝機能 II	脂肪肝、肝炎、肝硬変、その他の肝疾患と臨床化学検査								
	6	循環器系機能 I	心筋梗塞、心不全マーカーなど								
	7	循環器系機能 II	動脈硬化性疾患とその予防、リポ蛋白質との関係								
	8	腎機能	腎機能マーカー、クリアランスなどの腎機能検査								
	9	腎疾患	慢性腎臓病など腎疾患の分類と臨床検査								
	10	酸塩基平衡機能	酸一塩基平衡機能障害の基本と血液ガスの読み方								
	11	骨代謝機能	骨のリモデリング、骨形成マーカーと骨代謝マーカー								
	12	炎症、腫瘍マーカー	炎症と炎症性サイトカイン、炎症・腫瘍マーカーの種類と疾患								
	13	栄養管理	栄養アセスメントにおける臨床化学検査の意義								
	14	薬物モニタリング	モニタリング対象薬物の特徴、種類、分析方法など								
	15	診療支援	診療支援に必要な検査診断、パニック値の対応など								
教 科 書	最新臨床検査学講座 臨床化学検査学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	臨床検査技術学 臨床化学 (医学書院)										
成績評価の方法	授業態度(積極性など)20%、小テスト10%、定期試験70%など 総合的に評価する										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	関連検査項目は非常に多いです。実際の臨床に役立てる事を念頭に、集中して理解するようにしてください。										

生体試料分析検査学実習(Biosample Analytical Technology Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	実習
担 当 教 員	多田 達史(Satoshi Tada)、太田 安彦(Yasuhiko Ohta)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生体の多成分試料から特定の成分を正確に測定するために、正確な検量方法、標準的測定方法を理解し、各種測定方法の原理、測定技術、手技を学び、測定結果を考察、判断する能力を習得する。さらに自動分析装置の原理・使用方法などについて理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①分光分析、酵素反応分析について理解し、正確に測定できる。 ②各実習項目の測定原理を理解し、異常反応を含めた注意点について説明できる。 ③分離分析法について説明と測定ができ、データを解釈できる。 ④測定結果と病態を結び付けた考察ができる。 ⑤実験結果について考察し、課題を見いだすことができる。 										
授 業 の 進 め 方	<p>小人数の班に分け、各実習項目の目的、方法を説明した後、班単位で試薬を調整し、各自が実験を行う。得られたデータから実験目的、測定項目の意義、結果について考察し、レポートを提出する。各実習において、必要に応じて生化学自動分析装置を使用する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	ガイダンス	生体試料分析の基礎および実習機器使用方法								
	2	化学分析の基礎	分光光度計・吸収スペクトル測定								
	3	糖質・糖化タンパク質	グルコース測定、酵素的測定法の理解、HbA1c測定								
	4~5	タンパク質、タンパク質電気泳動	総タンパク測定、アルブミン定量(BCG,BCP改良法)、セルロース・アセテート膜電気泳動法								
	6~7	非タンパク性窒素	クレアチニン:ヤッフエ法・酵素法(クレアチンクリアランス)、尿素窒素:ウレアーゼ・インドフェノール法、ビリルビン(ジアゾ法)								
	8	脂質	中性脂肪、コレステロール、HDL、Friedewald計算								
	9~10	酵素活性測定①	AST、ALT試薬調整								
			AST、ALT活性測定(用手法・自動分析法)								
	11~12	酵素活性測定②	ALP活性を利用したKm値測定								
			LD測定(用手法・自動分析法)、LDアイソザイム(電気泳動法)								
	13~14	無機質	カルシウム、無機リン、鉄								
	15	実技試験	実習手技確認								
教 科 書	最新臨床検査学講座 臨床化学検査学 (医歯薬出版) プリント資料										
参考書・参考資料等	臨床検査技術学 臨床化学 (医学書院)										
成績評価の方法	実習態度・レポート(30%)、試験(70%)で総合的に評価する。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	実習を始める前にテキストを読み、実習の操作手順を把握しておくこと。 臨地実習に臨むにあたり、実技能力の向上に努めてください。										

一般検査学 (General Specimen Analytical Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	眞鍋 紀子 (Noriko Manabe)、多田 達史 (Satoshi Tada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 一般検査は最も基本的な検査であり、スクリーニング検査として重要である事を認識し、各種体液測定の意味と測定方法を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①尿検体の取り扱い、性状について説明できる。 ②尿定性試験紙の原理を学び、説明できる。 ③尿中タンパク質、尿糖、潜血など各種尿一般検査の臨床的意義を説明できる。 ④腎機能検査としてのクリアランスについて説明できる。 ⑤各種穿刺液・体液・便の検査法と意義について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>講義では、尿、便、髄液、その他の体液の基本的知識を学び、測定値と病態との関連性について学習する。オムニバス方式で行う。</p> <p>講義は教科書とプリント資料を配布して行う。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	一般検査概論	一般検査の歴史・概要 (多田)								
	2	尿検査の基礎知識、一般性状	尿検査の基礎、検体の取り扱い方法、尿の性状 (多田)								
	3	尿定性試験紙	尿定性試験紙法の基礎、原理 (多田)								
	4	化学的検査法 I	蛋白質・糖質・ケトン体・ビリルビン (多田)								
	5	化学的検査法 II	ウロビリニン体・ポルフィリン体・潜血・妊娠反応 (多田)								
	6	腎機能検査	クレアチンクリアランス、パラアミノ馬尿酸クリアランス、推算糸球体濾過値 (eGFR) (多田)								
	7	細菌尿の定性	尿中白血球・亜硝酸塩など (多田)								
	8	尿沈査	標本作成手順と鏡検法 (眞鍋)								
	9	穿刺液検査、CAPD廃液	腹水、胸水、心嚢液、関節液検査 (眞鍋)								
	10	髄液検査	生成機序と組成、採取法、性状、細菌、化学検査 (眞鍋)								
	11	糞便検査、精液検査	性状、化学的検査、顕微鏡検査、虫卵、精子運動率、奇形率、濃度等 (眞鍋)								
	12	喀痰検査、気管支肺胞洗浄液、鼻汁好酸球検査	採取法、性状、顕微鏡検査、気管支肺胞洗浄液検査 (眞鍋)								
	13	胃液検査	分泌機序、採取法、性状、酸度測定法 (眞鍋)								
	14	十二指腸検査	胆汁検査、膵液検査 (眞鍋)								
	15	採血法、応用手技	翼状針採血、新生児マススクリーニング手順等 (眞鍋)								
教 科 書	最新臨床検査学講座 一般検査学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	一般検査技術教本 (一般社団法人日本臨床衛生検査技師会) (希望者共同購入) 尿沈渣検査法2010 (日本臨床検査技師)										
成績評価の方法	授業態度(積極性など)および試験(多田50%, 眞鍋50%)で総合的に評価する。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項											

一般検査学実習 (General Specimen Analytical Technology Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実習
担 当 教 員	眞鍋 紀子(Noriko Manabe)、多田 達史(Satoshi Tada)、森西 起也(Tatsuya Morinishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 一般検査学の講義で得た知識をもとに、臨床現場で測定可能な技術、および定性検査での正確な判断基準を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①尿の色調、混濁について説明できる。 ②尿試験紙法について説明でき、適切な使用と判定ができる。 ③尿タンパク、尿糖、潜血、妊娠反応の原理を説明でき、各方法の特徴および擬陽性、偽陰性について説明できる。 ④尿沈渣の項目、記載法、基本的な尿沈渣成分について説明できる。 ⑤便潜血検査、髄液検査の原理・方法・意義について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	小グループに班分けする。試薬は班単位で作成し各自で実験を行う。結果について考察し、レポート(orスケッチブック)を提出する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2	尿定性検査	色調、混濁、試験紙による定性検査実習 (多田)								
	3～4	尿比重、尿タンパク定性および定量	比重計法、蛋白半定量:試験紙法、煮沸法など 定量法:ピロガロールレッド法 (多田)								
	5～6	尿糖	半定量法:ベネディクト法 定量法:酵素法 共存物質の影響 (多田)								
	7～8	尿潜血、妊娠反応、ケトン体、ビリルビン、ウロビリノゲン	潜血反応の偽陰性・偽陽性、妊娠反応実習、ランゲ法、ロザン法、ワレス・ダイヤモンド法 (多田)								
	9～10	尿沈渣(健常検体)	作成法、染色法、スケッチ、成績報告法 (眞鍋)								
	11～12	尿沈渣(患者検体)	作成法、染色法、スケッチ、成績報告法 (眞鍋)								
	13～14	便潜血反応 髄液検査法	化学法、免疫法 細胞数等 (眞鍋)								
	15	尿沈渣	詳細項目、まとめ (眞鍋)								
教 科 書	最新臨床検査学講座 一般検査学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	一般検査技術教本:一般社団法人日本臨床衛生検査技師会 監修 (丸善出版) 尿沈渣検査法2010 (日本臨床検査技師会)										
成績評価の方法	実習態度(積極性など) レポートおよびスケッチ20%(多田10%、眞鍋10%)、 試験80%(多田40%、眞鍋40%)で総合的に評価する。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	実習には予習をして、臨むこと。										

放射性同位元素学 (Radioisotope Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	保田 定利 (Sadatoshi Yasuda)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>放射性同位元素(以下RI)は多種多様な目的のために利用されている。その中で医療・医学に応用され、RIを利用して、画像診断・放射線治療・臨床検査に貢献している。</p> <p>この授業では、臨床検査分野のRI利用の基礎から応用について学習する。この学習内容を習熟・理解して、学生が一般人に説明できるようになることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①放射線・RIの性質と特性について、放射線・RIの種類毎に具体的に説明できる。</p> <p>②放射線の生体作用について、教科書記載程度の内容について、一般人に具体的に説明できる。</p> <p>③臨床検査技師国家試験の放射性同位元素学の設問内容に対する解答を他の学生に、理解しやすく詳細に解説できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	この授業では放射性同位元素を利用する広範囲に渡る内容を、短時間で学ぶため、授業ではポイントを絞った事項のみとなる。本授業では、臨床検査に応用されるRIに関し、臨床検査技師国家試験に出題される内容に基づいたことが中心となる。時間外学習は教員が読むべき教科書の範囲を指示するので、熟読しておくこと。なお、具体的国家試験内容等については、教員が作成した問題を配布して、解説しながら授業を進める。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	放射性・RIの性質と特性	放射線と放射能の違い、放射性同位元素(RI)とは、X線、α線、β線、γ線、粒子線(教科書13p~42p)								
	2	測定器・生体作用	放射線の測定器と放射線の生体に対する作用(教科書45p~69p)								
	3	放射線の利用	医療目的で利用される放射線の概要と具体的事例(教科書73p~90p)								
	4	In Vivo検査	測定用放射性医薬品、測定原理、測定装置、利用核種(教員配布資料参照)								
	5	In Vivo検査	測定用放射性医薬品、測定原理、測定装置、利用核種(教員配布資料参照)								
	6	RI体内投与検査	鉄代謝、赤血球寿命、循環血液、シリングテスト(教員配布資料参照)								
	7	放射線・RIIに関する臨床検査技師国家試験問題	画像診断・放射線に関する国家試験問題(教員配布資料参照)								
	8	まとめ	放射性同位元素学のまとめ								
教 科 書	放射線の世界へようこそ(通商産業研究社)										
参考書・参考資料等	核医学技術総論 日本核医学技術学会編(山代印刷株式会社) 最新臨床核医学検査(金原出版)										
成績評価の方法	学習態度、期末試験により総合的に評価する。										
オフィスアワー	電話番号087-899-7231(徳島文理大学 保健福祉学部 診療放射線学科)										
受講上の留意事項	学問を習熟をするには、授業だけでなく、その前後の予習・復習が非常に大切である。学生が自分自身の思考で、理解しようとする努力・継続が重要事項である。										

分子生物学 (Molecular Biology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 1年次の生命科学概論を発展させ、遺伝子および分子レベルの理解を深める。遺伝子複製、発現と制御、翻訳、機能的タンパクの生成に至る経路とその調整機構について理解する。また学生主導型授業を導入しており、グループ学習にて最先端の事項について自ら学ぶことで理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 遺伝子の発現と制御について説明できる。 ② DNA損傷と修復について説明できる。 ③ シグナル伝達について説明できる。 ④ 細胞周期について説明できる。 ⑤ 最近の遺伝子工学について概説できる。 										
授 業 の 進 め 方	スライドを用い視覚的理解を深める。一部で学生主導型授業を導入しており、グループごとに与えられたテーマに関して学生自ら学習し発表する。可能であればe-learningを併用し、反転授業を予定している。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	分子生物学概論	分子生物学の歴史に触れ、核酸や遺伝様式を学ぶ。								
	2	遺伝子発現と制御1	遺伝子の複製、転写、翻訳、タンパク前駆体のプロセッシング、遺伝子								
	3	遺伝子発現と制御2	発現の制御とエピジェネティクスについて2回に分けて学ぶ。								
	4	DNA損傷と修復	DNA損傷の種類と原因を知り、修復機構について学ぶ。								
	5	シグナル伝達1	シグナル伝達による細胞間や細胞内のコミュニケーションの仕組み								
	6	シグナル伝達2	を2回に分けて学ぶ。								
	7	細胞周期	細胞周期とチェックポイントについて2回に分けて学ぶ。								
	8	遺伝子工学	遺伝子のクローニングの手段について学ぶ。								
	9	グループ作業・発表準備	学生主導型授業の準備を行う。								
	10	テロメア	学生主導型授業1: テロメアの存在意義について学ぶ。								
	11	エピジェネティクス	学生主導型授業2: 遺伝子の修飾について理解する。								
	12	p53	学生主導型授業3: アポトーシスなどで重要な分子p53を学ぶ。								
	13	シグナル伝達	学生主導型授業4: 細胞内の情報伝達の理解を深める。								
	14	細胞周期と制御	学生主導型授業5: 細胞周期のコントロールについて学ぶ。								
	15	まとめ	学生主導の討論会形式でまとめを行う。								
教 科 書	最新臨床検査学講座 遺伝子・染色体検査学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	サブテキストを配布またはe-learning教材として公開する。										
成績評価の方法	演習(20%)、学生主導型授業での発表内容(30%)、期末筆記試験(50%)										
オフィスアワー	随時受け付ける。事前アポイントメントを取ることを勧める。										
受講上の留意事項											

分子生物学実習 (Molecular Biology Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実習
担 当 教 員	中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 2年前期で学んだ分子生物学を基に、以下の5項目に関し基本的遺伝子検査技術を身に付ける。 1. DNA抽出、2. PCR、3. 塩基配列解析、4. RNA抽出、5. mRNA定量</p> <p>【到達目標】</p> <p>①DNA抽出とPCRの流れを理解できる。 ②電気泳動とライゲーションの流れを説明できる。 ③形質転換の手技を概説できる。 ④塩基配列の手技を概説できる。 ⑤RNAの抽出およびmRNAの定量の手技を説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	実習前に、実習の流れと操作上の注意点を理解する。各実習項目に関して、原理、意義、代替法について理解を深める。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	ガイダンス	目的、注意点について理解する。								
	2	DNA抽出とPCR1	ヒト末梢血よりDNAを抽出し、純度、濃度、収量を計算する。これを用いてヘモグロビンβ鎖のPCRを行う。								
	3	DNA抽出とPCR2									
	4	ライゲーション1	ヘモグロビンβ鎖のPCR産物をアガロース電気泳動で確認した後、プラスミドベクターに組み込む。								
	5	ライゲーション2									
	6	大腸菌の形質転換	PCR産物を組み込んだプラスミドで大腸菌の形質転換を行う。								
	7	RNA抽出	ヒト末梢血よりRNAを抽出し、純度、濃度、収量を計算する。								
	8	シーケンス反応1	PCR産物が挿入されたプラスミドベクターを大腸菌で増幅し、プラスミドを精製した後、シーケンス反応を行う。								
	9	シーケンス反応2									
	10	シーケンス逆転写1	シーケンス反応が終了した溶液をシーケンサーにアプライする。抽出したRNAから逆転写反応によりcDNAを作製する。								
	11	シーケンス逆転写2									
	12	シーケンス解析	シーケンスの解読を行う。								
	13	定量PCR	GAPDH mRNAの定量PCRを行う。								
	14	まとめ1	定量PCRの結果解析。								
	15	まとめ2	全実習のまとめ。								
教 科 書	実習テキストを配布する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	実習態度(30%)、期末試験(70%)										
オフィスアワー	適宜受け付ける。事前アポイントメントを取ることを勧める。										
受講上の留意事項											

臨床遺伝子検査学 (Clinical Genetic Testing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生命科学概論、分子生物学で学んだことを基に、遺伝子検査に利用されている主要な検査技術を学ぶ。実際に自ら遺伝子検査を行うことを想定して、検体の採取から検査結果の報告までの手順について理解する。また遺伝カウンセリングについても学び、医の倫理についても考える。また学生主導型授業を導入しており、グループ学習にて最先端の事項について自ら学ぶことで理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 遺伝子検査の工程について説明できる。 ② 個人情報の保護について十分に理解し概説できる。 ③ 遺伝子検査技術について概説できる。 ④ 染色体検査について概説できる。 										
授 業 の 進 め 方	スライドを用い視覚的理解を深める。一部で学生主導型授業を導入しており、グループごとに与えられたテーマに関して学生自ら学習し発表する。可能であればe-learningを併用し、反転授業を予定している。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	臨床遺伝子検査総論	検査の対象および分類について学ぶ。								
	2	遺伝子検査の工程1	検体採取から結果報告までの手順を理解する。								
	3	遺伝子検査の工程2	検査に用いる装置、器具、試薬について学ぶ。								
	4	個人情報の保護	遺伝子情報管理、遺伝カウンセリングについて学ぶ。								
	5	遺伝子検査技術1	検体の前処理、核酸の抽出、核酸の増幅、定量と定性、電気泳動、								
	6	遺伝子検査技術2	ハイブリダイゼーション、遺伝子変異の検出、塩基配列解析技術など								
	7	遺伝子検査技術3	を4回に分けて学ぶ。								
	8	遺伝子検査技術4									
	9	前半のまとめ	演習形式で前半のまとめを行う。								
	10	グループ学習・発表準備	学生主導型授業の準備を行う。								
	11	遺伝子検査 感染症	学生主導型授業の形式で感染症、先天異常、造血器腫瘍、固形腫瘍など								
	12	遺伝子検査 先天異常	の遺伝子多型や遺伝子発現について検査を4回に分けて学ぶ。								
	13	遺伝子検査 造血器腫瘍									
	14	遺伝子検査 固形腫瘍									
	15	後半のまとめ	演習形式で後半のまとめを行う。								
教 科 書	最新臨床検査学講座 遺伝子・染色体検査学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	サブテキストを配布またはe-learning教材として公開する。										
成績評価の方法	演習(20%)、学生主導型授業での発表内容(30%)、期末筆記試験(50%)										
オフィスアワー	適宜受け付ける。事前アポイントメントを取ることを勧める。										
受講上の留意事項											

臨床遺伝子検査学実習 (Clinical Genetic Testing Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実習
担 当 教 員	中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 2年後期で学んだ分子生物学実習を基に、以下の4項目に関し基本的遺伝子検査技術を身に付け、日常検査への応用を前提とした実習を行う。</p> <p>①白血球細胞の同定検査 ②αサラセミアのサザンブロットハイブリダイゼーションによる検出 ③ABO式血液型の遺伝子型 (遺伝子多型) ④染色体標本の作製と核型解析</p> <p>【到達目標】 ①DNA抽出およびPCRの流れを説明できる。 ②サザンブロットティングの手技を概説できる。 ③ハイブリダイゼーションの手技を概説できる。 ④染色体検査について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	実習前に、実習の流れと操作上の注意点を理解する。各実習項目に関して、原理、意義、代替法について理解を深める。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	ガイダンス	目的、注意点について理解する。								
	2	白血球細胞の検出1	K562細胞からDNAを抽出し、逆転写反応を行った後、PCRで増幅する。								
	3	白血球細胞の検出2									
	4	サザンブロットティング1	あらかじめ抽出したヒトゲノムDNAの制限酵素処理を行い、電気泳動後にゲルから膜にDNAを転写する。								
	5	サザンブロットティング2									
	6	ハイブリダイゼーション1	転写した膜から、ハイブリダイゼーションによりヘモグロビンα鎖を検出する。								
	7	ハイブリダイゼーション2	"								
	8	ABO遺伝子型1-1	ヒト頬粘膜よりDNAを抽出し、ABO遺伝子型決定領域をPCRで増幅する。								
	9	ABO遺伝子型1-2									
	10	ABO遺伝子型2-1	PCR産物を制限酵素処理し、電気泳動で制限酵素消化パターンを観察し、血液の遺伝子型を判定する。								
	11	ABO遺伝子型2-2									
	12	染色体検査1-1	ヒト末梢血を培養し、染色体標本を作製する。								
	13	染色体検査1-2									
	14	染色体検査2-1	染色体標本から核型を作成する。染色体標本を用いFISH検査を行う。								
	15	染色体検査2-2									
教 科 書	実習テキストを配布する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	実習態度(30%)、期末試験(70%)										
オフィスアワー	適宜受け付ける。事前アポイントメントを取ることを勧める。										
受講上の留意事項											

生体防御検査学 (Immunological Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	行正 信康 (Nobuyasu Yukimasa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 高感度分析検査学及び輸血・移植検査学を学ぶ上で基礎となる免疫機構、すなわち、免疫担当細胞・関連分子・関連遺伝子の機能等について学習し、生体防御機構(免疫の仕組み)を理解する。また、これが破綻した場合に発症する免疫疾患の概念を習得する。さらに、免疫疾患の診断や治療経過等の判定に実施する免疫血清検査法の骨子である抗原、抗体、補体などの機能、構造、特徴について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生体防御システムとしての免疫の概要を説明できる。 ② 免疫細胞の役割を表現できる。 ③ 非自己の認識機構を説明できる。 ④ T細胞・B細胞の抗原受容体の特徴を比較できる。 ⑤ 細胞内シグナル伝達機構を免疫細胞に応用できる。 ⑥ 免疫寛容と自己免疫の関連を説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	各回の講義の目的・習得目標を明らかにし、それに基づいて講義を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ① 免疫学特有の表現に惑わされないよう、生体防御における非自己認識メカニズムを目的に捉える。 ② 重要なポイントに関しては複数の資料を用いて繰り返し説明する。 ③ グループワークによる振り返り学習を実施する。 講義終了後は復習を行い要点を整理すること。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	免疫システムの概要	“免疫学”の歴史と免疫システムの概要								
	2	免疫細胞・組織	免疫細胞の発生と分化、相互作用と関連因子								
	3	自然免疫	自然免疫の生体防御機構								
	4	獲得免疫	獲得免疫の始動と特異性								
	5	抗原と抗体	抗原・抗体の定義と特性								
	6	補体	補体経路の活性化と生物学的作用								
	7	抗原情報の伝達	リンパ球抗原認識受容体と主要組織適合性遺伝子複合体(MHC)								
	8	多様性の創成	遺伝子再構成、クローン選択、自己反応性細胞の除去								
	9	T細胞とB細胞	中枢免疫組織におけるリンパ球の分化								
	10	種々の免疫応答	免疫細胞のエフェクター機能、リンパ球サブセット、抗体親和性成熟								
	11	自己反応性の制御	免疫寛容; アナジー、補助刺激因子、免疫反応の終結								
	12	自己免疫・アレルギー	自己免疫寛容の破綻、アレルギー反応								
	13	免疫記憶・自然炎症	免疫記憶、自然炎症、腸管免疫など								
	14	細胞内シグナル伝達	細胞内シグナル伝達の総論と免疫細胞のシグナル伝達								
	15	まとめ	振り返り学習(グループワーク)								
教 科 書	最新 臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版)、臨床免疫学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	「もっとよくわかる! 免疫学」(羊土社)、「Janeway's 免疫生物学」【原著第7版】(南江堂)										
成績評価の方法	期末筆記試験(75%)、参加度(20%)、レポート(5%) 再試験は原則行わない。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	高感度分析検査学及び輸血・移植検査学を学ぶ上で基礎となる科目です。 免疫学特有の表現・語句に惑わされないよう復習(課題を課すこともある)をしてください。										

高感度分析検査学 (Immunoassay Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	行正 信康 (Nobuyasu Yukimasa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>抗原抗体反応を利用した方法は一般的な検査法に比べて特異性や親和性が高く、かつ、測定感度に優れているため、生体内微量成分の定量測定に適している(高感度分析検査)。抗体と抗原の特性を利用した各種抗原抗体反応(沈降反応、凝集反応、溶血反応、免疫比濁反応、標識抗原抗体反応など)の原理及び検査法の特徴・意義・臨床応用について理解する。特に高感度分析が可能な標識イムノアッセイについてその原理や技術論を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 抗原抗体反応の臨床検査への応用原理を説明できる。 ② 抗原抗体反応を利用する臨床検査の特徴を説明できる。 ③ 標識抗原抗体反応と比色分析法の感度の違いを理論的に説明できる。 ④ 免疫血清検査項目の臨床的意義を説明できる。 ⑤ 免疫血清検査の精度保証と精度管理について説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	<p>各回講義の目的・習得目標を明らかにし、それに基づいて講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 抗原抗体反応を利用する臨床検査について、長所・短所を理解し、疾患との関りを考察する。 ② 関連するテーマについて、毎回グループワークを行い、科学的な問題解決力を向上する。 ③ 実際の日常臨床検査における検討例を、簡単な英文論文で例示し、要点を理解する。 <p>講義終了後は復習を行い要点を整理すること。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	抗原抗体反応概論	抗原抗体反応の特徴、高感度分析への応用								
	2	試験管内抗原抗体反	沈降反応、凝集反応、溶解反応、中和反応								
	3	応の特徴と応用	補体結合反応、非標識抗原抗体反応								
	4	高感度分析検査の原	標識抗原抗体反応と測定感度								
	5	理と理論	発光の理論と発光イムノアッセイ								
	6	感染症の免疫検査	細菌感染症								
	7	(細菌、ウイルス等)	ウイルス感染症								
	8	アレルギー検査	アレルギー分類とアレルギーの臨床検査								
	9	自己免疫疾患検査	自己免疫疾患の臨床検査								
	10	腫瘍マーカー検査	腫瘍免疫と腫瘍マーカー検査								
	11	血清蛋白質異常症	血清蛋白異常症、免疫不全、炎症マーカー								
	12	その他の免疫検査	電気泳動法、イムノプロット法、遺伝子検査法								
	13	臨床検査精度保証と診断	用手法から自動分析法への応用								
	14	薬の性能評価	免疫血清検査の精度保証と診断薬の性能評価、精度管理								
	15	まとめ	振り返り学習								
教 科 書	最新 臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版)、臨床免疫学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	異常値の出るメカニズム(医学書院)										
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、参加度(20%)、グループワークディスカッション(10%) 再試験は原則行わない。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	臨床検査室における免疫血清検査の基礎となる理論と各論を扱います。イムノアッセイの原理と検査の目的を明確にしながら知識を整理してください。この領域が国家試験の主要なポイントです。本格的な国家試験対策を始めてください。										

高感度分析検査学実習 (Immunoassay Technology Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実習
担 当 教 員	行正 信康 (Nobuyasu Yukimasa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 臨床検査技術で最も高感度測定が可能な方法に標識抗原抗体反応がある。この高感度測定法の開発にはさまざまな免疫検査技術が応用されている。実際に自ら試験管内抗原抗体反応を体験してみることにより抗原抗体反応の特徴を認識するとともに、その応用技術としてのイムノアッセイを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 免疫血清検査に必要な器具・試薬類を適正に取り扱うことができる。 ② 免疫血清検査の基盤となる測定原理と特徴を説明できる。 ③ 細菌感染症の特徴に基づく免疫血清検査を実施して結果の解釈ができる。 ④ ウイルス感染症の特徴に基づく免疫血清検査を実施して結果の解釈ができる。 ⑤ 自己免疫疾患診断のための免疫血清検査を実施して結果の解釈ができる。 ⑥ 炎症マーカーや血漿蛋白異常症に関する免疫血清検査を実施して結果の解釈ができる。 										
授 業 の 進 め 方	配布する実習テキストに基づき実習ノートを各自で用意する(予習および実習中の記録)。標準化されている方法などはテキスト・ノートを見ることなく実施することを心がける。免疫血清検査の特徴と原理および検出対象を明確にして正確な検査技術を身に着ける。最終的なレポート作成により検査技術と知識を整理する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	免疫血清検査概要	免疫血清検査に必要な器具と技術								
	2	赤血球凝集反応	直接赤血球凝集反応 (Paul-Bunnell反応)								
	3	凝集抑制反応	インフルエンザウイルス抗体価								
	4		インフルエンザウイルス抗原検出検査								
	5	梅毒血清反応	STS法: RPRカードテスト、ガラス板法、								
	6		TP抗体法: TPPAテスト								
	7	補体結合反応	血清補体価測定、								
	8		(Mayer変法)								
	9	ウイルス感染症	B型肝炎ウイルス等の免疫検査、								
	10		HBs抗原: イムノクロマトグラフィ、風疹抗体 (ELISA法)								
	11	自己抗体検査	抗核抗体検査、								
	12		(間接蛍光抗体法)								
	13	ゲル内沈降反応	免疫電気泳動、平板内二重免疫拡散法 (Ouchterlony法)、								
	14		平板内単純免疫拡散法 (SRID)								
	15	まとめ	振り返り学習								
教 科 書	最新 臨床検査学講座 免疫検査学 (医歯薬出版)、臨床免疫学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	高感度分析検査学実習テキスト (配布)										
成績評価の方法	参加度 (20%)、実習ノートの活用 (30%)、レポート (50%)										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	必ず実習ノート作成による予習を行ってください。実習中は教科書を開くことを禁止します。毎回、実施項目についての総合的レポートを作成し提出してください。										

輸血・移植検査学(Transfusion and Transplantation Immunology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	行正 信康(Nobuyasu Yukimasa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 免疫学的観点における輸血の基礎と、輸血医療の安全性にかかわる諸問題を理解する。輸血検査の原理と技術(血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験、HLAタイピング等)の内容を確実に習得する。また、移植医療の概要と、移植免疫の基礎的理論について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 血液型システムを説明できる。 ② ABO・Rh血液型とそのバリエーションについて説明できる。 ③ 臨床的意義のある抗血液型抗体を列挙し説明できる。 ④ 不規則抗体検査および交差適合試験の重要点を説明できる。 ⑤ 血液型以外の重要な細胞抗原について説明できる。 ⑥ HLAと移植医療について説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	<p>各回講義の目的・習得目標を明らかにし、それに基づいて講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 講義中、自己学習の成果を確認しながら理解を深める。 ② 講義による理解度を深めるために適宜、重要項目についてのまとめや討論を行い、小テストなどによる振り返りを行う。 ③ 適宜、映像や他の資料を用いて理解度を向上する。 <p>講義終了後は復習を行い要点を整理すること。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	輸血と血液製剤	輸血の歴史、輸血療法、血液製剤の種類								
	2	ABO血液型	血液型総論、ABO血液型								
	3	Rh血液型	Rh血液型								
	4	その他の血液型	その他の主な血液型								
	5	変異型と後天的変化	ABO亜型、Rh変異型、後天的変化								
	6	輸血前検査	輸血前検査の方法と意義								
	7	血液型と抗体検査	不規則抗体検査								
	8	輸血の安全管理	成分輸血の意義と適応								
	9	供血者の選択	交差適合試験、供血者の選択								
	10	輸血副作用	輸血に伴う副作用・合併症								
	11	血液型不適合妊娠	血液型不適合妊娠と新生児溶血性疾患								
	12	ヒト白血球抗原	ヒト白血球抗原(HLA)・主要組織適合性抗原複合体(MHC)								
	13	血小板抗原・顆粒球抗原	血小板特異的抗原、顆粒球抗原と対応抗体の検査								
	14	移植医療	移植の検査、造血幹細胞移植、臓器移植								
	15	まとめ	振り返り学習								
教 科 書	臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版)、臨床免疫学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	輸血・移植検査 技術教本 (日本臨床衛生検査技師会監修・丸善出版)、スタンダード輸血検査テキスト(認定輸血検査技師協議会編・医歯薬出版)										
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、参加度(20%)、レポート等(10%) 再試験は原則行わない。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	講義内容を実際の検査に活かすことが重要です。内容を理解するため予習・復習を行ってください。										

輸血・移植検査学実習(Transfusion and Transplantation Immunology Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実習
担 当 教 員	行正 信康(Nobuyasu Yukimasa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 免疫学的観点における輸血の基礎と輸血医療の安全性にかかわる諸問題を理解する。輸血検査の検査法(血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験、HLAタイピング等)を実施し、その原理、技術、判定法及び検査の意義を確実に習得する。さらに、病院輸血検査室における緊急性に対応できる能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 輸血検査のための検体処理と準備ができる。 ② ABO血液型の検査と判定が確実にできる。 ③ Rh血液型の検査と判定が確実にできる。 ④ 不規則抗体検査の実施と判定が確実にできる。 ⑤ 交差適合試験の実施と判定が確実にできる。 ⑥ HLAタイピング検査の種類を列挙し説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	配布する実習テキストに基づき実習ノートを各自で用意する(予習および実習中の記録)。標準化されている方法をテキスト・ノートを見ることなく実施できるように心がける。輸血関連検査は検査過誤が許されない検査であることを念頭に置き正確な検査技術と判定能力を身に着ける。最終的なレポート作成により検査技術と知識を整理する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	総論と準備	器具・試薬の取り扱いと試薬調整								
	2	ABO血液型	ABO血液型:オモテ検査、ウラ検査(スライド法、試験管法、カラム法)								
	3	Rh血液型	Rh血液型判定(スライド法、試験管法、確認試験)								
	4	抗A・抗B凝集素価	抗A・抗B凝集素価測定、抗A・抗B被凝集素価測定								
	5	体液中型物質検出	唾液中の型物質測定、熱解離試験								
	6	糖鎖転移酵素活性①	血清中の糖鎖(A型物質)転移酵素活性測定								
	7	糖鎖転移酵素活性②	血清中の糖鎖(B型物質)転移酵素活性測定								
	8	不規則抗体検査①	不規則抗体スクリーニング								
	9	不規則抗体検査②	不規則抗体同定、直接クームス試験								
	10	交差適合試験	交差適合試験(主試験・副試験)								
	11	実技試験	実技試験実施								
	12	HLAタイピング①	HLA DNAタイピング:DNA抽出								
	13	HLAタイピング②	HLA DNAタイピング:SSP-PCR実施								
	14	HLAタイピング③	HLA DNAタイピング:アガロースゲル電気泳動による判定								
	15	まとめ	振り返り学習								
教 科 書	臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版)、臨床免疫学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	輸血・移植検査学実習テキスト(配布資料)、輸血・移植検査 技術教本(日本臨床衛生検査技師会監修・丸善出版)、スタンダード輸血検査テキスト(認定輸血検査技師協議会編・医歯薬出版)										
成績評価の方法	参加度(10%)、実習ノートの活用(30%)、レポート(50%)、実技試験(10%)										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	必ず実習ノート作成による予習を行ってください。実習中は教科書を開くことを禁止します。毎回、臨地実習に必要な輸血・移植検査法として活用できるレポートを作成し提出してください。										

微生物検査学 (Microbiological Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	奥田 潤 (Jun Okuda)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】病原微生物(細菌、ウイルス、真菌)の各論、培養方法、生化学的性状などについて学ぶ。また、検体の採取や取り扱い方法、各病原微生物の生化学的性状検査、免疫学的検査、毒性試験など、臨床の現場における病原微生物の分離・同定に必要な検査方法について学ぶ。さらに、過去の国家試験問題を実際に解くことで、早くから国家試験問題のレベルや解き方を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①授業で習ったことを説明できる。</p> <p>②授業で出題した過去の国家試験問題を完全に解くことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	毎回、配布資料を配布し、教科書だけでは不十分な部分を補いながら、講義を中心に授業を進める。重要な項目については配布資料に過去の国家試験問題を含めるので、講義での解説前に必ず予習する。さらに、質問等によって講義内容についての理解をより深める。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	細菌学各論①	好気性または通性嫌気性のグラム陽性球菌								
	2	細菌学各論②	好気性または通性嫌気性のグラム陰性球菌と球桿菌								
	3	細菌学各論③	グラム陰性、通性嫌気性の桿菌								
	4	細菌学各論④	グラム陰性、好気性の桿菌と微好気性のらせん菌								
	5	細菌学各論⑤	グラム陽性、好気性の桿菌								
	6	細菌学各論⑥	グラム陽性、抗酸性の桿菌、嫌気性菌								
	7	細菌学各論⑦	スピロヘータ、レプトスピラ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア								
	8	細菌学検査法①	無菌操作、検体検査法とその技術、検体別細菌検査法(血液、脳脊髄液検査、喀痰検査、糞便、尿、穿刺液、膿)								
	9	細菌学検査法②	嫌気性菌検査法、抗酸菌検査法、迅速診断技術(顕微鏡形態観察、レジオネラ・肺炎球菌尿中抗原検査、毒素・遺伝子の検出)								
	10	細菌学検査法③	免疫学的検査法、遺伝子・蛋白検査法、検査に関与する機器								
	11	ウイルス学各論①	DNAウイルス								
	12	ウイルス学各論②	RNAウイルス、プリオン								
	13	ウイルス学検査法	ウイルスの検査法(ウイルス粒子・抗原の検出、ウイルス遺伝子の検出、血清学的検査)								
	14	真菌学各論	真菌学各論(糸状菌、皮膚糸状菌、二形性真菌、酵母、その他の真菌)								
	15	真菌学検査法	真菌検査法の特徴と留意点、臨床材料別の病原真菌、真菌の検査法、深在性真菌症に対する免疫学的診断法、遺伝子診断								
教 科 書	最新臨床検査学講座 臨床微生物学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	配布資料										
成績評価の方法	定期試験 (90%) 平常点 (10%)										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	膨大な量の病原微生物学に関する知識を短期間で学習する必要があるため、使用する教科書や配布資料の重要事項に絞って講義を行う。理解を深めるために、予習・復習を行うことが望ましい。										

細菌検査学実習 (Bacterial Technology Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	実習
担 当 教 員	奥田 潤 (Jun Okuda)、末澤 千草 (Chigusa Suezawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】細菌の分類、形態、培養についての専門的な知識および技術を修得する。さらに、染色所見、分離培養所見、生化学的性状、免疫学的反応などによる病原菌の同定、薬剤感受性試験、遺伝子検査などについての専門的な知識や技術を修得することにより、医療の高度化に対応できる実践能力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①無菌操作、分離培養、染色など基本的な細菌学的実験技術を実施できる。</p> <p>②病原菌の同定、薬剤感受性試験、遺伝子検査について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	学生の一人ひとりが実習内容を確実に習得することができるように、小グループ(2人/1グループ)での実習を行う。実習中における質問やレポート等によって実習内容についての理解を深める。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	滅菌法・消毒法	培地の作製、無菌操作								
	2	細菌の培養方法	落下細菌、付着・常在細菌の培養と観察								
	3	細菌の増殖曲線	生菌数の測定と細菌の増殖曲線の作成								
	4	細菌の形態観察	単染色、グラム染色による染色と観察								
	5	細菌の形態観察	特殊染色(莢膜、鞭毛、芽胞等)による染色と観察								
	6	レンサ球菌	レンサ球菌鑑別のための各種性状試験								
	7	ブドウ球菌	ブドウ球菌鑑別のための各種性状試験								
	8	ヘモフィルス、ビブリオ	ヘモフィルス属菌、ビブリオ属菌鑑別のための各種性状試験								
	9~12	パルスフィールド電気泳動法	パルスフィールド電気泳動法による細菌の同定、嫌気性菌の形態観察								
	13	薬剤感受性試験	E-testを用いた薬剤感受性試験								
	14~15	腸内細菌	腸内細菌鑑別のための各種性状試験								
教 科 書	最新臨床検査学講座 臨床微生物学(医歯薬出版) 図解臨床細菌検査(文光堂)										
参考書・参考資料等	臨床検査法提要(金原出版)										
成績評価の方法	レポート(40%)、試験(40%)、平常点(20%)										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	生きた細菌を取り扱うので、汚染や感染のないように、細心の注意を払って実習を行うこと。実習に先立って、実習内容についての予習をしておくこと。細菌検査学実習専用の白衣を用意すること。										

ウイルス・真菌検査学実習 (Viral and Fungal Technology practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	実習
担 当 教 員	末澤 千草 (Chigusa Suezawa)、生田 和良 (Kazuyoshi Ikuta)、根ヶ山 清 (Kiyoshi Negayama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>ウイルス感染症の中には、臨床症状から特定困難なウイルスが多く存在し、実験室内診断が重要な位置を占める。検出には、感染症対策や適切な医療の提供等の観点から迅速性に優れた遺伝子検査の他に、酵素免疫測定法や主に研究に資するための細胞培養法が用いられる。ウイルス検査学実習では、これらの基本的な診断技術を習得する。</p> <p>真菌検査学実習では、酵母様真菌および糸状菌の検査法について理解を深め、基本的な技術を習得する。</p> <p>【到達目標:ウイルス検査学実習】</p> <p>①授業を通して、いろいろなウイルス感染症があること、そしてそれぞれのウイルス感染症によって特徴があることを知ることができる。</p> <p>②それぞれのウイルス感染症の特徴を知ることによって、的確な検査をすることができる。</p> <p>【到達目標:真菌検査学実習】</p> <p>一般的な真菌・酵母様真菌の検査法の進め方が理解できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>ウイルス検査学実習では、細胞培養法、核酸抽出法の基本操作について学習する。また、免疫学的診断法、分子生物学的診断法などによる病原ウイルスの同定およびバイオセーフティレベル3病原体取り扱い基準について学習する。</p> <p>真菌検査学実習では、染色・鏡検・培養・同定および感受性検査に関する一連の検査手技について実習する。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	ウイルス検査学実習①	病原ウイルスの実験室内診断法と基本技術、免疫学的診断法								
	2～3	ウイルス検査学実習②	細胞培養法 細胞の保存、無菌操作法、細胞の継代等								
	4～5	ウイルス検査学実習③	単層培養法によるウイルス分離 ウイルス接種、細胞変性効果観察等								
	6～7	ウイルス検査学実習④	分子生物学的診断法 RNAウイルスの核酸抽出法								
	8～9	ウイルス検査学実習⑤	分子生物学的診断法 RT-LAMP法								
	10～11	ウイルス検査学実習⑥	微生物実験施設技術実習 危険度による病原体等のレベル分類、物理的封じ込めの原理、P3実験室の設計・封じ込め装置、最近のBSL3病原体についての学習								
	12～13	真菌検査学実習①	酵母様真菌のグラム染色・培養・感受性検査、糸状菌の検体採取・培養 (スライドカルチャー)								
14～15	真菌検査学実習②	真菌の直接鏡検(湿標本・グラム染色・墨汁染色) 真菌の集落および形態学的観察と同定、感受性検査の判定									
教 科 書	臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	<p>ウイルス実験学総論、各論(丸善出版)</p> <p>免疫測定法 基礎から先端まで(講談社)</p> <p>したたかなウイルスたち(裳華房)</p> <p>病原真菌同定の指針(文光堂)</p> <p>病原性真菌ハンドブック(医薬ジャーナル)</p>										
成績評価の方法	平常点60%、レポート40%										
オフィスアワー											
受講上の留意事項	感染性因子を用い、実習を行うため、常に緊張感を持って望み、基本的な取り扱い操作を習得して欲しい。実習内容・目的を十分理解してから望む。バイオハザードに留意する。										

医動物検査学演習 (Laboratory Medical Zoology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義・実習
担 当 教 員	末澤 千草 (Chigusa Suezawa)、原田 正和 (Masakazu Harada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>医動物学は医学に関係のある動物を取り扱う学問であり、寄生虫学と衛生動物学により構成されている。前者は原虫、線虫、吸虫、条虫が、後者は、昆虫、ダニなどが含まれている。これらの分布、形態、生活史、病理、症状、検査、診断、治療などについて理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>教科書に載っている寄生虫、衛生動物各種について、分布、形態、生活史、病理、症状、検査、診断治療について理解し、検査依頼に対し適切な検査法を用いて同定あるいは適切な処理が出来る。</p>										
授 業 の 進 め 方	毎回それぞれの医動物についてスライドを中心に講義を行い、重要な語句を書き込むプリントを配布する。講義後の実習では代表的な標本をスケッチすることで、各医動物の形態・病理・検査法に関する理解を深める。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～3	医動物学総論、線虫類(1)	講義1 医動物学総論、線虫類総論、線虫類各論(1)、実習1 線虫類(1)								
	4～6	線虫類(2)	講義2 線虫類各論(2)、実習2 線虫類(2)								
	7～9	吸虫類	講義3 吸虫類総論、吸虫類各論、実習3 線虫類								
	10～12	原虫類	講義4 原虫類総論、原虫類各論、実習4 原虫類								
	13～15	条虫類	講義5 条虫類総論、条虫類各論、実習5 条虫類								
	16～18	衛生動物、検査法	講義6 衛生動物総論、衛生動物各論、実習6 虫卵検査法								
教 科 書	最新 臨床検査学講座 医動物学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	医動物学(南山堂) 図説人体寄生虫学(南山堂)										
成績評価の方法	試験80%、実習レポート20%										
オフィスアワー	必要に応じて対応します。E-mail: m2000harada@yahoo.co.jp										
受講上の留意事項	講義の情報量が多いことから、内容を良く理解するためには、講義前・講義後に教科書の該当部分を読んでおくことが望ましい。また、実習が所定時間内に終わるように全員が協力して欲しい。										

病理病態学演習 (Pathology Laboratory)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	演習
担 当 教 員	平川 栄一郎 (Eiichiro Hirakawa)、森西 起也 (Tatsuya Morinishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>病理病態学演習では、病理病態学講義に引き続き、主な疾病の病態とその形態学的変化、特徴について学ぶ。基本的な疾患については病理標本の顕微鏡観察を行い、病理組織学的な変化を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>主要な疾病の病理組織学的な特徴について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	プリントを事前に配布するので、教科書を参考にして予習をしてくる。前回講義分に対する小テストを行う。顕微鏡観察室での演習では、実際の病理組織標本を観察し、そのスケッチを行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	病理学総論	代謝異常(102講義室)								
	2	病理学各論(1)	循環障害(102講義室)								
	3	病理学各論(2)	炎症と免疫(102講義室)								
	4	病理学各論(3)	腫瘍(102講義室)								
	5	呼吸器疾患の病理	肺結核、肺扁平上皮癌、肺腺癌(102講義室)								
	6	呼吸器と消化器疾患の病理	肺小細胞癌、胃癌(顕微鏡観察室)								
	7	消化器疾患の病理	肝硬変と肝細胞癌(顕微鏡観察室)								
	8	甲状腺と泌尿器疾患の病理	甲状腺癌、膀胱癌(顕微鏡観察室)								
教 科 書	最新臨床検査学講座 病理学／病理検査学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	最新染色法のすべて(医歯薬出版)										
成績評価の方法	定期試験により総合的に判断する。 定期試験(100%)										
オフィスアワー	随時:管理研究棟3階 研究室34 メール:hirakawa@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	顕微鏡観察室での演習では12色以上の色鉛筆とスケッチ用ノートを持参すること										

病理検査学 (Pathological Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	平川 栄一郎 (Eiichiro Hirakawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 病理学的検査法の基本的な意義、役割、方法論を理解する。病理組織標本や特殊染色標本の意義、原理、作製法を習得する。さらには免疫組織化学的検査法や凍結切片作成法、細胞診検査法、病理解剖の役割についても学習する。</p> <p>【到達目標】 ①標本作製法では病理組織標本作製について説明できる。 ②各種染色法では、それぞれの特殊染色や免疫染色について説明できる。 ③細胞学的検査法とスクリーニングについては、細胞学的特徴とその実際について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	スライドとプリントを用いて、授業を進める。予習をしていくこと。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	標本作製法(1)	切りだしと包埋実習準備								
	2	標本作製法(2)	検体採取法、固定法、脱灰法								
	3	病理標本作製法	薄切、HE染色法、凍結標本作製法、脂質の染色								
	4	結合織の染色	アザン染色、マッソントリクローム染色								
	5	細網線維の染色	PAM染色、渡邊のトギン染色、組織内病原体の染色								
	6	内分泌細胞の染色、	グリメリウス染色、マッソフフォンタナ染色、ボディアン染色								
	7	粘液の染色	PAS染色、アルシアン青染色								
	8	神経線維の染色	PTAH染色、KB染色								
	9	免疫組織化学	酵素抗体法、蛍光抗体法								
	10	細胞学的検査法(1)	検体採取法、固定、パパンニコウ染色								
	11	細胞学的検査法(2)	呼吸器の細胞診								
	12	細胞学的検査法(3)	消化器(肝、胆、膵)、泌尿器(膀胱、前立腺、腎)の細胞診								
	13	細胞学的検査法(4)	女性性器(子宮頸部、子宮内膜)の細胞診、ホルモン細胞診								
	14	スクリーニングの実際	乳腺の細胞診、体腔液の細胞診								
	15	スクリーニングの実際	スクリーニング								
教 科 書	最新臨床検査学講座 病理学/病理検査学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	病理組織染色ハンドブック(医学書院) 最新染色法のすべて(医歯薬出版)										
成績評価の方法	定期試験および出席等により総合的に判断する。 定期試験(100%)										
オフィスアワー	随時:管理研究棟3階 研究室34 メール:hirakawa@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	予習、復習を行っていくこと										

病理検査学実習 (Pathological Technology Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	実習
担 当 教 員	平川 栄一郎 (Eiichiro Hirakawa)、森西 起也 (Tatsuya Morinishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>病理学的検査法の基本的な意義、役割、方法論を理解した上で、病理組織標本や特殊染色標本の意義、原理、作製法を学習する。さらには免疫組織化学的検査法や凍結切片作成法、細胞診検査法、病理解剖の役割についても理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①病理標本を作製し、各種染色を行うことができる。</p> <p>②細胞診検査において、標本作製と主要な疾患の推定診断を行うことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	プリントを参考に、試薬の調整、染色、作製を行い、顕微鏡観察によるスケッチを行う。細胞診検査法でも、同様に標本作製法と顕微鏡実習による観察、スケッチを行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	標本作製(1)	包埋、脱脂、脱灰								
	2	標本作製(2)	薄切、HE染色								
	3	結合組織の染色(1)	弾性線維(EVG染色)、脂肪(オイル赤O染色)								
	4	結合組織の染色(2)	膠原線維(マッソントリクローム染色、アザン・マロリー染色)								
	5	結合組織の染色(3)	細網線維(PAM染色)、真菌(グロコット染色)								
	6	中性粘液、酸性粘液の染色	中性粘液、糖原(PAS染色)、酸性粘液多糖類(アルシアン青染色)								
	7	細網線維の染色、内分泌の染色	細網線維の染色(渡辺の鍍銀法)、内分泌の染色(グリメリウス染色)								
	8	神経組織染色の観察	髄鞘と神経細胞の染色(KV染色)、軸索と神経線維の染色(ボディアソ染色)								
	9	免疫組織化学染色	抗原賦活法、酵素抗体法								
	10	細胞検査法(1)	細胞診の標本作製法(尿、喀痰)、Pap染色、ギムザ染色								
	11	細胞検査法(2)	婦人科非腫瘍性病変の細胞診								
	12	細胞検査法(3)	婦人科腫瘍性病変の細胞診								
	13	細胞検査法(4)	特別講義(予定)								
	14	細胞検査法(5)	呼吸器の細胞診								
	15	細胞検査法(6)	泌尿器、乳腺の細胞診								
教 科 書	病理検査学実習書 臨床検査学実習書シリーズ(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	病理組織染色ハンドブック(医学書院) 最新染色法のすべて(医歯薬出版)										
成績評価の方法	定期試験および小テスト等により総合的に判断する。 定期試験(70%)、小テスト(30%)										
オフィスアワー	随時:管理研究棟3階 研究室34 メール:hirakawa@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	白衣を着用すること。小テストを行うので予習をしてくること。 12色以上の色鉛筆とスケッチ用のノートを持参すること。										

血液検査学 I (Hematological Technology I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	眞鍋 紀子(Noriko Manabe)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 血液の成分や機能、その生成と崩壊等についての基本的事項を習得する。造血器官や血球分化形態についても学習し、血液疾患時の変化を理解する。また、止血作用や凝固線溶系の基礎と因子やマーカーの意義を理解する。</p> <p>【到達目標】 血球および造血器についての基本的事項、凝固線溶系、分子マーカーについて説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業は、配布するプリント資料(教科書および参考書の重要点を記載)によって進める。OHPを利用し、資料の詳細および追加資料の説明を加える。試験は前半、後半(試験期間中)に分けて2回実施する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	総論	血液学と検査血液学								
	2	総論	血球の産生・崩壊、血液成分について								
	3	血球各論 1)赤血球	分化と成熟、形態と特徴								
	4	" 2)ヘモグロビン	合成、分解、必要な栄養素と代謝								
	5	" 3)白血球1	分化と成熟								
	6	" 4)白血球2	形態と特徴、機能								
	7	" 5)血小板	母細胞、分化と産生様式、機能								
	8	造血器	骨髄、リンパ組織、胸腺、脾臓								
	9	各論まとめ	まとめ 試験(総論～造血器まで)								
	10	技師長講話	血液検査学の醍醐味								
	11	凝固線溶系 1)止血	血管、血小板の粘着、凝集、分泌、凝固学歴史								
	12	" 2)凝固1	凝固因子の種類と性質、凝固機序								
	13	" 3)凝固2	凝固機序詳細								
	14	" 4)凝固3	凝固抑制機序								
	15	" 5)線溶	線溶機序、線溶抑制機序								
教 科 書	最新臨床検査講座 血液検査学(医歯薬出版) 血液細胞アトラス 第5版(文光堂) プリント資料										
参考書・参考資料等	臨床検査技術学11 血液検査学第4版(医学書院)										
成績評価の方法	試験、授業態度 (基準:試験90%、授業態度等10%)										
オフィスアワー	研究室、実習室等で適宜対応										
受講上の留意事項	図書室在庫の参考書などで学習しておくこと。										

血液検査学Ⅱ (Hematological Technology Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	田中 輝和(Terukazu Tanaka)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 血液検査結果の評価(血液・造血器疾患)について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 骨髄の構造及び多能性(全能性)造血幹細胞から各血球への分化と成熟の課程を説明できる。 ② 血球の種類とそれぞれの血球の機能を説明できる。 ③ 貧血の種類、それぞれの貧血の概念及び診断に必要な検査とその結果について説明できる。 ④ 造血器腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性骨髄増殖性腫瘍及び骨髄異形成症候群)について、それぞれの疾患概念、診断に必要な検査とその結果及び治療と経過の判定について説明できる。 ⑤ 出血性素因(血小板及び凝固因子の異常)の種類、それぞれの疾患概念、診断に必要な検査とその結果について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>1. 講義の要点を記述したプリントを配布し、プリントの記述に従って順に講義を進める。 2. 講義の中で、教科書、血液細胞アトラスの対応する箇所について説明する。 3. 各講義時間の最初に、前回までの講義に関する質問時間を設ける。 4. 6回と11回目の講義時間内に、5回目まで及び10回目までの講義内容に関する小テスト(クイズ)を行う。 5. 講義終了時の試験については、再試験までは実施するが、レポートで試験の代用は絶対にしない。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	造血	造血のしくみ、造血幹細胞								
	2	赤血球系の異常	貧血総論、鉄代謝異常による貧血、二次性貧血								
	3		骨髄機能低下による貧血、巨赤芽球貧血								
	4		溶血性貧血、(小テスト1)								
	5	造血器腫瘍	白血病総論、急性骨髄性白血病								
	6		急性リンパ性白血病、急性白血病の診断と治療の進歩								
	7		慢性白血病、骨髄異形成症候群								
	8		悪性リンパ腫総論、ホジキンリンパ腫、非ホジキンリンパ腫								
	9		骨髄腫とその類縁疾患								
	10		白血球増加症、白血球減少症、(小テスト2)								
	11		慢性骨髄増殖性腫瘍								
	12		造血幹細胞移植								
	13	出血傾向と血栓傾向	血小板減少症、血小板増加症、血小板機能異常								
	14		凝固因子欠損症、凝固異常症								
	15		播種性血管内凝固、線溶亢進、血栓性素因								
教 科 書	最新臨床検査学講座 血液検査学(医歯薬出版) 血液細胞アトラス 第5版(文光堂)										
参考書・参考資料等	臨床検査技術学11 血液検査学 第4版(医学書院)										
成績評価の方法	小テストの成績-10% 筆記試験(講義終了後)-90%										
オフィスアワー	講義の最初及び講義終了後に質問の時間を設ける。(質問の希望があれば、前もって時間調整をして、講義以外の時も質問を受け付ける。)										
受講上の留意事項	1 配布プリントの講義予定部分を必ず予習すること。 2 講義の復習を、必ずその日の内に行い、疑問点は次回の講義の最初に質問をすること。										

血液検査学実習 (Hematological Technology Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	実習
担 当 教 員	眞鍋 紀子(Noriko Manabe)、山口 航(Wataru Yamaguchi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>血球計数の用手法と機器分析の実技、血球の染色実技と血球形態のスケッチ、疾病別の形態観察、各種の凝固線溶検査などについて、基本的な知識と技術を修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①血液検査に関する基礎的な知識について説明でき、基礎的な技術を使うことができる。</p> <p>②正常な末梢血・骨髄血の細胞同定ができる。凝固線溶検査法および各種マーカーについての説明ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>各回、講義・実習(実習講義・実習)・グループ討議・口頭試問の流れで行う。</p> <p>グループ討議を通して、各自が2年次の検査血液学Ⅰ、Ⅱの内容を再確認できるように進め、臨床実習に繋げる。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2	血球に関する検査Ⅰ	採血法、自動血球計数装置の使い方①、血球計による血球計数								
	3～4	血球に関する検査Ⅱ	メランジュールの使い方(概説)								
	5～6	血球に関する検査Ⅲ	自動血球計数装置の使い方②								
	7～8	血球に関する検査Ⅳ	血小板数測定、ヘモグロビン測定、ヘマトクリット								
	9～11	形態に関する検査Ⅰ	フローサイトメトリー法								
	12～14	形態に関する検査Ⅱ	血液薄層塗抹標本の作製練習								
	15～16	形態に関する検査Ⅲ	全血比重、赤血球抵抗試験、赤血球沈降速度								
	17～18	形態に関する検査Ⅳ	血液薄層塗抹標本作成テスト								
	19～20	血小板・凝固検査Ⅰ	普通染色(末梢血液像:白血球分類)、網赤血球染色スケッチ(網赤・白血球・赤血球・血小板)								
	21～22	血小板・凝固検査Ⅱ	骨髄像のスケッチ								
	23～24	血小板・凝固検査Ⅲ	骨髄像のスケッチ・簡易テスト								
	25～26	血小板・凝固検査Ⅳ	特殊染色(プレゼン5種:実習2種)								
	27～28	線溶検査	出血時間・凝固時間、PPP・PRP・吸着血漿の作成								
29～30	凝固線溶検査まとめ	血餅退縮・毛細血管抵抗試験・血小板凝集能、(血小板粘着能:概説)									
教 科 書	<p>最新臨床検査講座 第3版 血液検査学(医歯薬出版)</p> <p>血液細胞アトラス 第5版(文光堂)</p> <p>プリント資料</p>										
参考書・参考資料等	臨床検査技術学11 血液検査学第4版(医学書院)										
成績評価の方法	<p>課題レポート・試験・実習態度</p> <p>(基準:試験80%、レポート・実習態度等20%)</p>										
オフィスアワー	研究室、実習室等で適宜対応										
受講上の留意事項	課題レポートは、実習内容を詳細に理解するためなので、時間をかけて探求したレポート作成となるよう、各自努力すること。										

顕微鏡技術論 (Microscope Technology)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	眞鍋 紀子 (Noriko Manabe)、田中 隆明 (Takaaki Tanaka)、平川 栄一郎 (Eiichiro Hirakawa)、太田 安彦 (Yasuhiko Ohta)、末澤 千草 (Chigusa Suezawa)、山口 航 (Wataru Yamaguchi)、森西 起也 (Tatsuya Morinishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 組織、細胞、血液、微生物等の生物試料の形態学的特徴を捉えるための手段として用いられる生物顕微鏡とその各種観察法、写真撮影法について理解し、学ぶ。また、透過型、走査型電子顕微鏡の原理、技術についても学習する。</p> <p>【到達目標】 ①各種生物顕微鏡を用いて観察と撮影ができる。 ②また、各種生物顕微鏡の特徴やその使用目的について説明できる。 ③さらに、電子顕微鏡の原理、技術について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	スライドとプリントを用いて講義を中心に授業を進め、生物顕微鏡と写真撮影法については実習を行って具体的な操作方法を学ぶ。電子顕微鏡については、講義を行ったあとに電子顕微鏡の実際について見学を行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	電子顕微鏡総論	走査型電子顕微鏡、透過型電子顕微鏡								
	2	顕微鏡総論	講義: 光学顕微鏡の機能、原理、構成について								
	3	顕微鏡実習	実習: 生物顕微鏡の取り扱いについて								
	4	顕微鏡各論	講義: 各種観察法(暗視野、位相差、蛍光、偏光、微分干渉)の特徴と用途について								
	5	顕微鏡各論	実習: 各種観察法の操作実習								
	6	顕微鏡各論	講義: 写真撮影法 実習: 各種観察法の操作と写真撮影								
	7	顕微鏡各論	実習(つづき): 各種観察法の操作と写真撮影								
	8	顕微鏡各論	生物顕微鏡の全体のまとめと振り返り 試験								
教 科 書	顕微鏡の基礎知識 (オリンパステクノラボ編纂冊子) (実習の第1日目に販売)										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	試験および撮影顕微鏡写真等										
オフィスアワー	研究室、実習室等で適宜対応										
受講上の留意事項											

写真技術論 (Photograph Technology)											
必修・選択の区別	選択	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	田中 康弘 (Yasuhiro Tanaka)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 アナログ及びデジタル写真を扱う上で必要な基礎知識・技術を習得する。基本となる画像のデジタル・アナログ記録手段と特徴について理解する。カラー写真の原理を学習する。最後に実際の医用画像で代表的なX線画像の基礎を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①電磁波である可視光、X線、赤外線、紫外線の差異を説明できる。 ②加法混色と減法混色の原理を説明できる。 ③カメラの構造、レンズとピントの役割、絞りとシャッターの露光及び像質への影響を説明できる。 ④白黒フィルムの構造と感光剤の役割、現像作業の流れとそのメカニズムを説明できる。 ⑤医用画像取得に用いられる検出器の大まかな機構や特徴を説明できる。 ⑥カラーフィルムにおける発色機構と現像定着の特徴を大まかに説明できる。 ⑦デジタル画像における画像解像度や画像サイズの関係性を説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	講義資料を配付し、液晶プロジェクタを使った視覚教材を活用して授業を行う。アナログ記録手段であるフィルムと印画紙はデジタル化の中、姿を消しつつある。しかし、アナログ記録における概念はそのままデジタル記録に持ち込まれている。身近でなくなったアナログ記録について、詳しく学習する。一方、デジタル記録技術の発展は著しい。できる限り最新の装置・技術も授業内容に織り込んで、今後のデジタル写真技術にも対応できる知識を習得する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	画像の形成と認識	可視光、電磁波、加法混色と減法混色								
	2	カメラの原理	レンズ、ピント、露光、絞りとシャッター								
	3	フィルムの原理	フィルムの構造と特性、現像・停止・定着、感度と画質、写真特性の評価								
	4	医用画像の特徴	像を形成するためのプローブとその検出器								
	5	カラー写真の原理	カラー、ネガフィルムとポジフィルム、定着と漂白(脱銀)								
	6	デジタル画像の基礎	デジタルカメラ、スキャナ、画像解像度と画像サイズ、ファイルタイプと特徴、プリンタ								
	7	X線写真	X線の基礎、X線検出装置								
	8	まとめ、補足									
教 科 書	特に指定しない。講義時間に講義資料を配付する。										
参考書・参考資料等	改訂 写真工学の基礎-銀塩写真編- (社)日本写真学会編(コロナ社) 体系的に学ぶデジタルカメラのしくみ 第2版(日経BPソフトプレス)										
成績評価の方法	期末試験は行わない。課題・宿題40%、期末レポート60%の配分で評価する。										
オフィスアワー	講義後、または電話(087-864-2405)、E-mail(tanaka@eng.kagawa-u.ac.jp)										
受講上の留意事項	質問などは講義中、講義後に受け付ける。E-mail(tanaka@eng.kagawa-u.ac.jp)を使った質問も常時受け付ける。										

生体画像情報検査学 (Clinical Imaging Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義
担 当 教 員	和田 晋一 (Shin-ichi Wada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 循環器系の生理検査(心電図、心音図、脈波、血圧など)と超音波検査(心臓、腹部、体表、婦人科など)、MRI、熱画像検査など臨床検査技師が行う画像検査について、その基本的な理論と検査方法を理解する。</p> <p>【到達目標】 ①心電図を判読し緊急を要する場合は対処ができる。 ②超音波検査の異常画像が判断できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	授業は、スライドを使用し、教科書の内容を中心に講義する。また、できる限り、具体的な症例を呈示し学生自身が積極的に授業に参加していくようにする。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	生理機能検査総論	生理機能検査の種類								
	2～3	心臓の働き(1)～(2)	心臓の解剖と働き								
	4～7	心電図の基礎(1)～(4)	心電図の基礎、誘導法、正常心電図								
	8～11	異常心電図(5)～(8)	心疾患と異常心電図波形								
	12	運動負荷心電図	マスター、エルゴメータ、トレッドミル運動負荷心電図								
	13	ホルター心電図	誘導法、ホルター心電計、評価法								
	14	心音図、脈波検査	心音の成因、心音計、異常心音図								
	15	血圧検査	血圧の原理と測定方法								
	16	超音波検査の基礎	診断装置の原理と測定法、ドップラー法、アーチファクト								
	17	心臓超音波検査	臨床的意義、正常超音波と異常超音波								
	18	頸動脈・乳房超音波検査	臨床的意義、正常超音波と異常超音波								
	19	腹部超音波検査	臨床的意義、正常超音波と異常超音波								
	20	婦人科・産科超音波検査	臨床的意義、正常超音波と異常超音波								
	21	甲状腺超音波検査	臨床的意義、正常超音波と異常超音波								
	22	MRI検査	診断装置の原理と測定法、正常MRIと異常MRI像								
	23	熱画像検査法	診断装置の原理と測定法、正常画像と異常画像								
教 科 書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	配布資料 臨床検査技術学7 生理検査学・画像検査学(医学書院)										
成績評価の方法	筆記試験(80%)、授業態度(20%)により総合的に評価する。										
オフィスアワー	質問等は随時受け付け可能。										
受講上の留意事項	将来、臨床生理学検査を実施するうえで必要である。										

生体制御機能検査学 (Clinical Regulatory Physiology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義
担 当 教 員	樋本 尚志 (Takashi Himoto)、和田 晋一 (Shin-ichi Wada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生体の生命現象を制御している呼吸、体液、神経などの生理機能について、各生理機能を把握するための検査法（呼吸機能検査法、血液ガス、脳波、筋電図など）の基本的な理論と検査方法を理解するとともに、個々の検査法の臨床的意義、検査結果の分析と評価法などについて学習する。また、検査時の急変への対応についても学習する。</p> <p>【到達目標】 筋電図、脳波および呼吸機能検査を行う目的が述べられ、それぞれの検査結果の評価ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	① プリントやパワーポイント、ビデオ、DVDを用いた講義を聞く ② 理解度を把握するため、また、その向上を図る目的で講義終了前に適宜まとめの問題を解く										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	末梢神経の機能	(樋本#1～#13.#23) 運動神経、感覚神経の機能								
	2	末梢神経伝導検査	運動神経伝導検査、感覚神経伝導検査								
	3	筋電図	針筋電図、単一線維筋電図検査								
	4	反復神経刺激試験	臨床的意義								
	5	神経・筋疾患	主な神経・筋疾患の概説								
	6～7	脳波検査の基礎	脳波発現の機序、基礎的要素<δ波、θ波、α波、β波、棘波>、脳波計、電極配置部位								
	8～9	賦活法	開閉眼、閃光、睡眠、過呼吸の各賦活法の実際								
	10～11	アーチファクト	生体、測定機器または環境に起因するもの								
	12	異常脳波	てんかん、Creutzfeldt-Jakob病、肝性脳症、脳死判定								
	13	誘発脳電位	臨床的意義、聴覚<ABR>、視覚<VEP>、体性感覚誘発電<SEP>、事象関連電位<ERP>								
	14～16	呼吸器系の基礎	(和田#14～#22) 呼吸調節、ガス交換、気体の法則								
	17～19	換気機能検査	臨床的意義、肺気量分画、フローボリューム曲線、クロージングボリューム、機能的残気量、呼吸抵抗								
	20	肺胞機能検査	肺内ガス分布、肺拡散能力、呼気ガス分析、評価法								
21	血液ガスの基礎	臨床的意義、検体の取り扱い、測定上の留意点、分析装置									
22	血液ガス検査	検査法、酸塩基平衡、ガス交換									
23	急変時の対応	救急措置の適応、バイタルサイン、1次救急法、2次救急法									
教 科 書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	生理機能検査学 実習書 (医歯薬出版) 標準臨床検査学 生理検査学・画像検査学 (医学書院)										
成績評価の方法	筆記試験、授業態度により総合的に評価する。学期中に小試験をおこなうことがある。										
オフィスアワー	質問等は随時受け付け可能。										
受講上の留意事項	次の授業までに復習をしておくこと。										

生体機能検査学実習 I (Physiological Technology Practice I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	実習
担 当 教 員	樋本 尚志(Takashi Himoto)、和田 晋一(Shin-ichi Wada)、山口 航(Wataru Yamaguchi)、小河 佳織(Kaoru Ogo)										
授 業 の 目 的	<p>【実習の目的】 循環器、神経・筋、感覚器、画像検査の生理機能検査について、その実技を指導し、結果の分析、評価も併せて実習する。また、検査機器の取扱い方や検査上の留意事項などについても学習する。</p> <p>【到達目標】 心電図、筋電図、腹部超音波検査を理解し、検査結果を正しく評価できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>① 学生は交互に検者と被検者になって検査を実習し、患者の立場からも生理機能検査の理解に努める。</p> <p>② 実技を施行していない学生は、課題について自習し、その後、討論する。</p> <p>③ 適宜、レポートを書く。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～5	循環器系の生理機能検査	心電図、運動負荷心電図(マスター)、ホルター心電図について、機器の扱い方や電極の装着、波形の導出、検査結果の評価法などを実習する。(和田、小河)								
	6～10	神経・筋、感覚器系の生理機能検査	神経伝導速度検査、聴性脳幹反応検査、平衡機能検査、眼底検査について、機器の取扱い方や実技、検査結果の評価法などを実習する。(樋本、山口)								
	11～15	画像検査	腹部超音波検査について、機器の取扱い方や各腹部臓器の標準的な画像描出法、検査結果の評価法などを実習する。(和田、小河)								
	実習に際しては、学生は3グループに分かれ、各生理機能検査を5週間ずつ学習する。										
教 科 書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	配布資料 生理機能検査学 実習書(医歯薬出版) 標準臨床検査学 生理検査学・画像検査学(医学書院)										
成績評価の方法	実習態度、課題レポート、期末試験(筆記) 評価の配分割合(筆記試験70%、レポート30%)										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	各生理機能検査の実習中は、その部門の基礎的知識をしっかりと身につけること。										

生体機能検査学実習Ⅱ (Physiological Technology Practice Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	実習
担 当 教 員	樋本 尚志(Takashi Himoto)、和田 晋一(Shin-ichi Wada)、太田 安彦(Yasuhiko Ohta)、末澤 千草(Chigusa Suezawa)、小河 佳織(Kaoru Ogo)										
授 業 の 目 的	<p>【実習の目的】 呼吸器、体液、脳・神経、画像検査の生理機能検査について、その実技を指導し、結果の分析、評価も併せて実習する。また、検査機器の取扱い方や検査上の留意事項などについても学習する。</p> <p>【到達目標】 呼吸機能検査、脳波検査、心臓超音波検査を理解し、検査結果を正しく評価できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>① 学生は交互に検者と被検者になって検査を実習し、患者の立場からも生理機能検査の理解に努める。</p> <p>② 実技を施行していない学生は、課題について自習し、その後、討論する。</p> <p>③ 適宜、レポートを書く</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～5	呼吸器系、体液の生理機能検査	換気機能検査、肺胞機能検査、体成分分析について、機器の取扱い方や実技、検査結果の評価法などを実習する。(和田、太田)								
	6～10	脳・神経系の生理機能検査、鼻腔吸引液採取	脳波検査について、機器の取扱い方や電極の装着、波形の導出、脳波誘発法、鼻腔吸引液採取法などを実習する。(樋本、末澤)								
	11～15	心臓超音波検査	心臓超音波検査について、機器の取扱い方や標準的な画像の描出法、検査結果の評価法などを実習する。(和田、小河)								
	<p>実習に際しては、学生は3グループに分かれ、各生理機能検査を5週間ずつ学習する。</p> <p>最終日には、老年看護学教員を講師に招いて生理検査における患者接遇の講義・実習を行う。</p>										
教 科 書	最新臨床検査学講座 生理機能検査学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	<p>配布資料</p> <p>生理機能検査学 実習書(医歯薬出版)</p> <p>標準臨床検査学 生理検査学・画像検査学(医学書院)</p>										
成績評価の方法	<p>実習態度、レポート、期末試験(筆記)</p> <p>評価の配分割合(筆記試験70%、レポート30%)</p>										
オフィスアワー	質問等は随時受け付け可能。										
受講上の留意事項											

臨床医学 I (Clinical Medicine I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	樋本 尚志(Takashi Himoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>近年、少子高齢化や疾病構造の変化、科学技術のめざましい進歩等により、医学・医療を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、医療従事者にはこれらの変化に的確に対応できる能力が求められている。</p> <p>本講義では、将来の医療従事者への登竜門として、疾病の分類と成り立ち、主な病因、症候などを理解するとともに、医療従事者の倫理や患者への接遇、医療の仕組みや社会との関わりなどを学習し、臨床医学の基礎を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>医療従事者の役割、日本の医療制度や医療制度の抱える問題点および疾患の原因や兆候などが述べられる</p>										
授 業 の 進 め 方	講義では、まず健康と病気の概念、患者の心理や権利、医療と社会の関わりなどを学習し、医療の仕組みを理解する。また、現代社会における医療の様々な問題についても自ら探究し、考察する。次いで、疾病の分類と成り立ち、病因論、症候論などを系統的に学習し、臨床医学の基礎を習得する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	オリエンテーション	講義スケジュール、講義の進め方、評価方法の説明								
	2	健康と疾患(1)	病気と病人								
	3	健康と疾患(2)	医療と社会								
	4	健康と疾患(3)	医療従事者の倫理								
	5	疾患の原因(1)	遺伝、腫瘍、感染								
	6	疾患の原因(2)	老化、心因、医原病								
	7	診断学	診断学と臨床検査								
	8	症状および徴候(1)	全身症状								
	9	症状および徴候(2)	神経系の症状および徴候								
	10	症状および徴候(3)	消化器系の症状および徴候								
	11	症状および徴候(4)	呼吸・循環器系の症状および徴候								
	12	症状および徴候(5)	腎泌尿器系・血液系の症状および徴候								
	13	症状および徴候(6)	その他の症状および徴候								
	14	将来の展望	臨床検査の課題								
	15	総括	筆記試験								
教 科 書	特に指定はない。講義ではプリントを配布する。										
参考書・参考資料等	臨床検査学講座 臨床医学総論・臨床検査医学総論(医歯薬出版) 臨床検査技術学 医学概論・臨床医学総論・臨床病理学総論(医学書院) 内科診断学(医学書院) 学生のための医療概論(医学書院)										
成績評価の方法	筆記試験で評価する。										
オフィスアワー	質問等は随時受け付け可能。										
受講上の留意事項	しっかり復習して医療従事者として必要な基本的な知識を習得すること。										

臨床医学Ⅱ (Clinical Medicine Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義
担 当 教 員	樋本 尚志(Takashi Himoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>主として内科的疾患について、代表的な疾病の病因、病態、症状、検査所見、経過、治療などを学習し、医療における臨床検査の役割を理解するとともに、検査結果を正しく管理、分析、評価するための基礎的能力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>疾患の病態を理解し、それぞれの疾患の診断・治療に必要な検査所見が述べられる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>①代表的な疾病の講義を聞く</p> <p>②講義終了前にまとめの問題を解く</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	内分泌疾患(1)	下垂体疾患、甲状腺疾患								
	2	内分泌疾患(2)	副甲状腺疾患、副腎疾患								
	3	代謝(1)	糖代謝異常								
	4	代謝(2)	脂質代謝異常、尿酸代謝異常など								
	5	血液疾患(1)	貧血症、白血病など								
	6	血液疾患(2)	悪性リンパ腫など								
	7	血液疾患(3)	血小板減少症、凝固異常など								
	8	免疫・アレルギー性疾患(1)	アレルギー疾患								
	9	免疫・アレルギー性疾患(2)	膠原病、免疫不全症など								
	10	感染症(1)	細菌感染症								
	11	感染症(2)	ウイルス感染症								
	12	感染症(3)	その他の感染症								
	13	腎疾患	腎炎、腎不全								
	14	泌尿器疾患	腎・尿路結石、尿路感染症、腫瘍								
	15	循環器疾患(1)	心不全、不整脈、先天性・後天性心疾患								
	16	循環器疾患(2)	虚血性心疾患、心筋疾患、脈管疾患								
	17	呼吸器疾患(1)	感染性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患など								
	18	呼吸器疾患(2)	肺循環障害、胸膜疾患、肺癌など								
	19	消化管疾患(1)	食道、胃・十二指腸疾患								
	20	消化管疾患(2)	腸疾患								
	21	肝疾患(1)	肝炎、肝硬変、脂肪性肝疾患								
	22	肝疾患(2)	自己免疫性肝疾患、肝腫瘍								
	23	胆膵疾患	胆石、胆道感染症、膵炎、膵癌、神経内分泌腫瘍など								
教 科 書	最新臨床検査学講座 臨床医学総論／臨床検査医学総論(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	臨床医学総論・臨床検査医学総論(医歯薬出版) 内科学(朝倉書店)										
成績評価の方法	筆記試験										
オフィスアワー	質問等は随時受け付け可能。										
受講上の留意事項	次回の講義までに復習しておくこと。										

病態生理機能検査学 (Clinical Pathophysiology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	樋本 尚志 (Takashi Himoto)、中村 文洋 (Takehiro Nakamura)、舩形 尚 (Hisashi Masugata) 森下 朝洋 (Asahiro Morishita) 小原 英幹 (Hideki Kobara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>臨床検査学を学ぶうえで、種々の疾患の病態生理を理解することは極めて重要である。本講義では、循環器、消化器、神経など生体の生理機能を調節している各器官についてその構造や機能を十分把握したうえで、主な疾患の病態を理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①循環器疾患の病態生理および検査について概説できる。 ②消化器疾患の病態生理および検査について概説できる。 ③神経・筋疾患の病態生理および検査について概説できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	本講義では、まず循環器、消化器および神経・筋肉などの構造や生理機能について理解する。次に、主な循環器疾患、消化器疾患や神経・筋疾患の基本的な病態について学習する。また、それらの疾患を診断したり、治療効果を評価したりするために行われる臨床検査の意義、さらには緊急検査の果たす役割についても学習する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	循環器(1)	循環器系の構造と機能(舩形)								
	2	循環器(2)	循環器疾患の病態生理と臨床検査(1)(舩形)								
	3	循環器(3)	循環器疾患の病態生理と臨床検査(2)(舩形)								
	4	循環器(4)	循環器疾患の病態生理と臨床検査(3)(舩形)								
	5	消化器(1)	消化管の構造と機能(樋本)								
	6	消化器(2)	消化管の内視鏡検査と内視鏡を用いた治療(小原)								
	7	消化器(3)	肝機能検査(樋本)								
	8	消化器(4)	自己免疫性肝疾患の病態生理と臨床検査(樋本)								
	9	消化器(5)	肝腫瘍・膵腫瘍の病態生理と臨床検査(森下)								
	10	消化器(6)	非腫瘍性膵疾患の病態生理と臨床検査(樋本)								
	11	神経(1)	神経・筋の構造と機能(中村)								
	12	神経(2)	神経・筋疾患の病態生理と臨床検査(1)(中村)								
	13	神経(3)	神経・筋疾患の病態生理と臨床検査(2)(中村)								
	14	神経(4)	神経・筋疾患の病態生理と臨床検査(3)(中村)								
	15	緊急検査	緊急検査(樋本)								
教 科 書	特に指定はない。講義ではプリントを配布する。										
参考書・参考資料等	臨床検査学講座 臨床医学総論・臨床検査医学総論(医歯薬出版) 臨床検査技術学 医学概論・臨床医学総論・臨床病理学総論(医学書院) 臨床病態学(ヌーヴェルヒロカワ)										
成績評価の方法	原則として出席態度と期末試験で評価する。										
オフィスアワー	質問等は随時受け付け可能。										
受講上の留意事項											

病態代謝機能検査学 (Clinical Pathometabolic physiology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義
担 当 教 員	樋本 尚志 (Takashi Himoto)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 生体の代謝機能や防御機能を調節している各器官について、主な疾患の基本的な病態を理解するとともに、病態を正しく把握するための検査法を体系的に学習する。</p> <p>【到達目標】 それぞれの臨床検査項目が異常値を示す機序について説明ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	プリントを用いて講義を行う。講義終了前にまとめの問題を解く。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	内分泌疾患(1)	内分泌疾患の病態と臨床検査								
	2	内分泌疾患(2)	内分泌疾患の病態と臨床検査								
	3	内分泌疾患(3)	内分泌疾患の病態と臨床検査								
	4	内分泌疾患(4)	内分泌疾患の病態と臨床検査								
	5	代謝異常(1)	代謝異常の病態と臨床検査								
	6	代謝異常(2)	代謝異常の病態と臨床検査								
	7	代謝異常(3)	代謝異常の病態と臨床検査								
	8	血液疾患(1)	血液疾患の病態と血液検査								
	9	血液疾患(2)	血液疾患の病態と臨床検査								
	10	血液疾患(3)	血液疾患の病態と臨床検査								
	11	免疫異常(1)	免疫異常の病態と臨床検査								
	12	免疫異常(2)	免疫異常の病態と臨床検査								
	13	総括	中間試験(範囲は第1回～第12回)								
	14	感染症(1)	感染症の病態と臨床検査								
	15	感染症(2)	感染症の病態と臨床検査								
	16	感染症(3)	感染症の病態と臨床検査								
	17	消化器疾患(1)	消化器疾患の病態と臨床検査								
	18	消化器疾患(2)	消化器疾患の病態と臨床検査								
	19	消化器疾患(3)	消化器疾患の病態と臨床検査								
	20	消化器疾患(4)	消化器疾患の病態と臨床検査								
	21	神経・腎疾患	神経および腎疾患の病態と臨床検査								
	22	呼吸器・循環器疾患	呼吸器および循環器疾患の病態と臨床検査								
	23	悪性腫瘍	悪性腫瘍の病態と臨床検査								
教 科 書	最新臨床検査学講座 臨床医学総論／臨床検査医学総論(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	異常値の出るメカニズム(医学書院)										
成績評価の方法	筆記試験										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	次回講義までに復習しておくこと。										

検査精度保証管理学 (Quality Assurance Management)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	立石 謹也 (Kinya Tateishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 正確さを基盤とした測定体系による臨床検査データの標準化、標準物質、測定誤差要因、内部精度管理、外部精度保証など、国際的な標準化の視野から検査精度保証に関する基本的な考え方や実践方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①精度保証の概念と標準化およびSI単位について理解できる。 ②測定値の誤差と変動要因について理解できる。 ③精密さの評価と正確さの評価法を説明できる。 ④内部精度管理と外部精度保証の実際についてそれぞれの特徴を理解し、実践できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書やプリントを用いて講義するが、パワーポイントも適宜利用する。また、各自が授業に参加できるようなレポート発表や討論会も行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	精度保証と精度評価	検査精度保証管理学概論、精度保証、精度評価、精度運営								
	2	標準化の概念	標準化とは、標準化の組織								
	3	数の概念と単位	慣用単位、SI単位								
	4	検査法の評価	測定誤差、変動要因、測定値の信頼性								
	5	精密さの評価1	日間・日内の反復測定法、許容誤差限界								
	6	精密さの評価2	ランダムイズ2回測定法、許容誤差限界								
	7	正確さの評価1	正確さのトレーサビリティ連鎖、標準を測定する方法								
	8	正確さの評価2	標準法と比較する方法								
	9	正確さの評価3	装置定数								
	10	測定法の選択	測定法の技術的評価								
	11	測定法の評価法	測定値の比例性、干渉試験、回収試験、相関性試験								
	12	内部精度管理1	精度管理用試料								
	13	内部精度管理2	精度管理試料を用いる方法								
	14	内部精度管理3	患者試料の測定値を用いる方法								
	15	外部精度評価	クロスチェック、精度管理調査								
教 科 書	最新臨床検査学講座 検査総合管理学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	臨床検査精度管理教本 (近代出版)、臨床検査の精度管理 (医歯薬出版)										
成績評価の方法	レポート(10%)、小テスト(20%)、期末筆記試験(70%)等により総合的に評価する。										
オフィスアワー	質問・相談等は研究室43にて随時対応する。										
受講上の留意事項	予習・復習をしっかりとしておくこと。レポートでは自分の意見や主張をしっかりと述べること。討論会では自分が言いたいことを聞き手に明確に伝えられるように平日頃より練習しておくこと。										

検査分析システム学 (Laboratory Analytical Systems)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	講義
担 当 教 員	立石 謹也 (Kinuya Tateishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 臨床検査システムおよびオーダリングシステム等の変遷と背景を理解し、臨床検査システム構築の基本的な考え方と実際、検査各部門における自動分析装置オンラインシステム、画像解析システム等について学ぶ。また、電子カルテや病院全体の情報システム、地域における医療情報システムについて学ぶ。さらに臨床検査技師としてチーム医療にいかに関わっていくかを考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 臨床検査システムの概要を理解できる。 ② 自動分析装置オンラインシステム、臨床検査搬送システムを実際に見学し、その機能を理解し、メリット・デメリットを考察できる。 ③ 医療における情報システムについて理解し、そのなかで臨床検査の役割を考察することができる。 ④ 臨床検査技師が色々な場面で何をしていたらなければならないかを考察できる。 ⑤ 臨床検査技師として将来の自分像を想像し、そのためにこれから何をしなければいけないか、自分に足りないものは何かを考えることができる。 										
授 業 の 進 め 方	教科書やプリントを用いて講義するが、パワーポイントも適宜利用する。また、各自が授業に参加できるようなレポート発表や討論会も行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～4	臨床検査システム概論と構築	歴史と変遷、プロセスイノベーションとプロダクトイノベーション、オートメーションシステム								
	5～8	臨床検査自動化システムの標準化	臨床検査の自動化、検査室内での標準化のあゆみ、通信規格、標識の規格化								
	9～11	病院情報システム	病院における情報の流れ、病院情報システムを構成するシステム、情報伝達の実際、病院情報システムと電子カルテ								
	12～14	臨床検査システムの展開	ランニングコスト管理システム、オープンモジュール								
	15～16	医療の質の評価	国際標準化、検査室の認定制度、バランス・スコアカード、ケースミックス区分法、インフォームド・コンセント								
	17～19	臨床検査DBの実際と管理運営	臨床データベース概論、データベース・知識ベース・オントロジー								
	20～23	地域医療情報システム	地域医療システムと情報化、知識医療情報システムの概要								
	24	POCT	POCTの定義と目的、POCTコーディネータ								
	25～26	臨床検査システムとチーム医療	チーム医療における臨床検査技師の役割、検査情報室、クリニカル・パス、NST、糖尿病療養指導士、臨床研究支援 (CRC)								
	27～28	検査分析システム学の医学統計学	統計学総論、標本統計量、歪度・尖度、実験計画法と分散分析								
	29～30	トータル・オートメーションシステム	施設見学								
教 科 書	最新臨床検査学講座 検査総合管理学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	臨床検査情報学 臨床病理レビュー特集第113号 (克誠堂出版)、臨床検査管理運営教本 (薬事日報社)										
成績評価の方法	レポート・討論会 (50%)、期末筆記試験 (50%) 等により総合的に評価する。										
オフィスアワー	質問や相談は研究室43にて随時対応する。										
受講上の留意事項	レポートでは自分の意見や主張をしっかりと述べる。討論会では自分が言いたいことを聞き手に明確に伝えられるように平日頃より練習しておくこと。施設見学では素早く行動し、挨拶をきちんと行う。また、仕事の邪魔にならないように配慮し、私語を慎むこと。										

検査情報解析学(Laboratory Informatics)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	立石 謹也(Kinya Tateishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>質の高い診療支援を行うためには検査情報解析は不可欠である。そこで検査データを解析するための判断基準としての基準範囲(正常値)の設定方法とその意義や診断能力の評価方法など科学的な思考力を養い、診療支援の実践についての手法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①臨床判断値について説明できる。 ②基準範囲の設定方法を理解できる。 ③検査の特性と診断能力を評価できる。 ④EBMについて説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書やプリントを用いて講義するが、パワーポイントも適宜利用する。また、各自が授業に参加できるようなレポート発表も行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	基準範囲1	臨床検査の利用目的、俗にいう正常値、臨床判断値								
	2	基準範囲2	基準範囲の設定法								
	3	検査の診断能力の評価	検査の特性と診断能力の評価法、予測値・確率による診断								
	4	結果報告と付加価値	報告書の形式、付加価値の定義と付加価値の実際								
	5	データの判読1	検査計画と項目選択								
	6	データの判読2	コンサルテーションと診療支援								
	7	EBMと検査診断1	EBMとは、EBMで何が期待できるか								
	8	EBMと検査診断2	EBMの実践、メタ分析								
教 科 書	最新臨床検査学講座 検査総合管理学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	臨床検査情報学 臨床病理レビュー特集第113号(克誠堂出版)										
成績評価の方法	期末筆記試験により評価する。										
オフィスアワー	質問や相談は研究室43にて随時対応する。										
受講上の留意事項	教養教育科目の「統計学」の履修は、本科目の理解をより深めることにつながります。										

臨床検査管理運営学 (Laboratory Management)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	立石 謹也 (Kinya Tateishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 医療関連施設における臨床検査室・臨床検査技師の役割、組織体制、倫理、接遇、管理法の実際やインフォームド・コンセント、安全管理や医療過誤および検査保険点数を含む損益に関する運営方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 管理の本質を理解し、組織体系を説明できる。 ② 臨床検査の意義が説明できる。 ③ 臨床検査部門の役割と組織体系を理解できる。 ④ 臨床検査部門の管理運営を理解できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	教科書やプリントを用いて講義するが、パワーポイントも適宜利用する。また、各自が授業に参加できるような討論会やレポート作成・発表も行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	管理概論	管理の概念、機能、組織、人間関係管理、医療専門職の意識と管理、管理者の仕事と役割								
	2	臨床検査の意義	臨床検査の目的と種類								
	3	医療機関と検査部門の役割	病院の機能、病院組織の概要、医療職とチーム医療、検査部門の役割と重要性								
	4	検査部門の組織と業務	検査体制、検査部門の組織と業務								
	5	検査部門の管理と運営	業務管理、人事管理、教育								
	6	〃	物品管理、情報管理								
	7	〃	安全管理								
	8	〃	災害予防								
教 科 書	最新臨床検査学講座 検査総合管理学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	臨床検査管理運営教本 (薬事日報社)										
成績評価の方法	レポート(20%)、期末筆記試験(80%)等により総合的に評価する。										
オフィスアワー	質問や相談は研究室43にて随時対応する。										
受講上の留意事項	「臨床検査管理」の総まとめの科目です。臨床検査とは何か、臨床検査技師は何をすべきかを自ら探求し、将来職場で生かしていけるように考えていきましょう。										

検査学概論 (Introduction to Medical Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	眞鍋 紀子(Noriko Manabe)、戸塚 実(Minoru Tozuka)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 臨床検査学とはどのようなものか、また、それを専門職として行う臨床検査技師はどのようにして誕生してきたかなど、臨床検査に関わる歴史、臨床検査の特徴・内容等を具体的に学習し、検査学への意欲を高める。さらに、知り得た知識や特別講義などから、これから自らが進む方向を模索する。</p> <p>【到達目標】 臨床検査学の概要を理解し、個々の将来と夢について、討論およびレポートすることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	はじめに、本学へ入学した動機や現在の心構えなどについて意見交換を行い、臨床検査技師を目指す意識を共感させる。続いて臨床検査技師および臨床検査学について具体的に学習した後、現場で活躍している先輩の夢のある講義を視聴し、自分が目指す臨床検査技師像について討論し、レポートする。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	自己紹介	臨床検査技師を目指すために 入学の動機と現在の心境 (眞鍋)								
	2	臨床検査とは①	歴史、資格、教育について (眞鍋)								
	3	臨床検査とは②	本学の成り立ち、医療職とは、 臨床検査技師の職場とその拡大について (眞鍋)								
	4	臨床検査学1	化学検査、免疫学検査、血液学検査 (眞鍋)								
	5	臨床検査学2	細菌学検査、病理学検査、一般検査 (眞鍋)								
	6	臨床検査学3	生理学検査、緊急検査、遺伝子学検査 食品・環境検査、その他 (眞鍋)								
	7	臨床検査技師への夢	私が歩んできた検査学の道 (戸塚)								
	8	討論およびレポート	臨床検査そして個々の将来と夢 (眞鍋)								
教 科 書	資料配布										
参考書・参考資料等	臨床検査技師教育のあゆみ(全国臨床検査技師教育施設協議会編)2002年、 臨床検査法提要(金原出版)、 臨床検査の歴史を辿る										
成績評価の方法	レポート(100%)により評価する。										
オフィスアワー	研究室等で適宜対応										
受講上の留意事項											

臨床検査学体験実習 (Introductory Medical Technology Training)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	実習、演習
担 当 教 員	眞鍋 紀子 (Noriko Manabe)、平川 栄一郎 (Eiichiro Hirakawa)、奥田 潤 (Jun Okuda)、中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)、多田 達史 (Satoshi Tada)、行正 信康 (Nobuyasu Yukimasa)、和田 晋一 (Shin-ichi Wada)、太田 安彦 (Yasuhiko Ohta)、末澤 千草 (Chigusa Suezawa)、山口 航 (Wataru Yamaguchi)、小河 佳織 (Kaoru Ogo)、森西 起也 (Tatsuya Morinishi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 臨床検査技師を目指すための動機付け科目として、臨床検査技師が実際に臨床現場で測定している検査法を体験し、その概要を知る。さらに、検査法の原理や特徴を学ぶ上で教育カリキュラムとの関係を把握し、今後、進むべき方向を明らかにする。また、病院見学では、医療における臨床検査の役割について考え、医療人としての自覚を促し、自ら学ぶ精神の育成につなげてほしい。</p> <p>【到達目標】 臨床検査の体験から、個々の興味を分析し、興味ある分野について説明することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	オムニバス方式でそれぞれの内容を体験する。 病院見学では、1年担任の指示に従う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	臨床化学	血糖値を知ろう (多田、太田)								
	2	血液	顕微鏡で血液細胞を見てみよう (眞鍋、山口)								
	3	遺伝子	血液からの抽出したDNAを目で見よう (中村)								
	4	臨床免疫	血液型の不思議 (行正)								
	5	微生物	手のひらの細菌を見よう (奥田、末澤)								
	6	病理	がん細胞を探そう (平川、森西)								
	7	臨床生理	肺年齢を知ろう (和田、太田、小河)								
	8	病院見学	県立中央病院見学 (1年担任教員)								
教 科 書	資料配布										
参考書・参考資料等	臨床検査法提要(金原出版)										
成績評価の方法	興味を持った分野について、調べてレポートし、担当教員が評価する(100%)。										
オフィスアワー	担当教員の研究室で随時										
受講上の留意事項	講義項目・順序は変更することがある。県立中央病院の見学の日程は、本学と病院側の話し合いで決定される。										

基礎検査技術学演習 (Basic Medical Technology Laboratory)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	眞鍋 紀子 (Noriko Manabe)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 学内実習や臨床実習に必要な検査(ドラフト・クリーンベンチ等の使用法や滅菌・洗浄、また採血・検体処理など)の基礎技術を修得する。</p> <p>【到達目標】 専門的な用語や基礎的な検査機器の使い方に慣れ、自主的に使用することができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	各回、プリント資料を準備し、講義・演習を行う。 また基礎的項目(採血、ドラフト、滅菌、洗浄等)については演習を行い、技術を習得し、他の実習に臨めるように努力する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2	実験室、研究室 機器等	室内の条件および機器・器具について ドラフト、クリーンベンチの使用法と注意点								
	3～4	採血法	毛細管採血(耳朵、足趾、指頭)説明、疑似体験のみ 静脈採血(シリンジ採血、真空採血)実習あり								
	5	消毒、滅菌法	乾熱滅菌装置、オートクレーブ								
	6	洗浄法	洗浄設備(試験管、ピペット、超音波洗浄) 純水設備(超純水、イオン交換水、蒸留水)								
	7	検体の取り扱い方	採取容器、抗凝固剤、保存剤・保存法・保存期間、								
	8	その他共通機器	廃液処理 秤量装置、分離装置、保冷装置								
教 科 書	プリント資料										
参考書・参考資料等	臨床検査禁忌・注意マニュアル(医歯薬出版) 分子生物学実験の基礎(バイオ実験イラストレイテッド)										
成績評価の方法	試験,演習態度 (基準:試験80%、演習態度20%)										
オフィスアワー	研究室、実習室等で適宜対応										
受講上の留意事項	演習にかけられる時間が短時間であるため、積極的に行うこと。										

専門ゼミナール(Seminar in Medical Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	眞鍋 紀子(Noriko Manabe)、平川 栄一郎(Eiichiro Hirakawa)、奥田 潤(Jun Okuda)、樋本 尚志(Takashi Himoto)、中村 丈洋(Takehiro Nakamura)、立石 謹也(Kinya Tateishi)、多田 達史(Satoshi Tada)、行正 信康(Nobuyasu Yukimasa)、和田 晋一(Shin-ichi Wada)、加太 英明(Hideaki Kabuto)、古山 達雄(Tatsuo Furuyama)、末澤 千草(Chigusa Suezawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>卒業研究に先立ち、教員が実際に行っている研究内容を学び、そのテーマについて科学論文の読み方、書き方、文献検索法等の研究手法について習得すると共に、研究や医療における倫理について学習する。また研修会への参加などから、医療従事者の一人として生涯学習の重要性を認識する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>各検査学分野の研究について学び、興味を持って、卒業研究に臨むことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	オムニバス方式で行う。 各教員が行っている研究内容を紹介し、研究テーマに関する文献等の検索法や論文の読み方、書き方等について学習する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	遺伝子	有用性の高い遺伝子検査—特にmicroRNA— (中村)								
	2	細胞病理	細胞診、組織診への分子病理学的アプローチ (平川)								
	3	臨床生理検査	呼吸、神経領域における検査法の開発 (和田)								
	4	血液系検査	血液細胞増殖と血小板活性化に関する研究 (眞鍋)								
	5	消化器系検査	肝疾患における自己抗体の臨床的意義 (樋本)								
	6	感染症 I	病原細菌の内因性血液感染機構の分子生物学的解析 (奥田)								
	7	腎臓病・糖尿病	末期腎臓病と糖尿病に関する研究 (立石)								
	8	動脈硬化	脂質代謝・動脈硬化に関する研究 (多田)								
	9	臨床免疫	臨床検査室でもできた免疫検査の研究 (行正)								
	10	神経	食品成分の神経細胞保護作用とその作用機序 (加太)								
	11	解剖生理	血管形成にかかわる因子 (古山)								
	12	感染症 II	下痢原性細菌の病原性に関する研究(末澤)								
	13	研修会参加	3大学連携研修会への参加								
	14	検討会	文献検索・レポート作成								
	15	検討会	文献検索・レポート作成								
教 科 書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	各分野における専門書										
成績評価の方法	レポートで評価する(100%)。										
オフィスアワー	担当教員の研究室で随時										
受講上の留意事項	卒業研究のテーマを決める上で、重要な授業である。										

臨床検査関係法規 (Law and Medical Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	須那 滋 (Shigeru Suna)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 わが国の憲法-法-制度の体系のもとで形づくられる保健・医療・福祉を総合的に理解するとともに、臨床検査技師の業務に必要な臨床検査技師等に関する法律他、医事関係法規を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①臨床検査技師等に関する法律の内容を説明できる。 ②医事関係法規の概要を説明できる。 ③わが国の保健・医療・福祉制度の成り立ちを説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	まず、法の概念、法令の成り立ち、わが国の憲法-法-制度体系を理解したのち、医療従事者として必要な関係法規について、その法体系を中心に学習する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	総論	法の概念、法、命令、規則、憲法・法・制度、医事法規概説、厚生行政体系								
	2	臨床検査技師法詳説	臨床検査技師法の変遷、総則、免許、試験								
	3	臨床検査技師法詳説	業務と守秘義務、診療行為と診療の補助行為、保健師助産師看護師法との関連、採血と生理検査								
	4	臨床検査技師法詳説	衛生検査所、院内委託業務、精度管理								
	5	保健医療福祉法規	医療法、地域保健法、医師法、歯科医師法、薬剤師法、保健師助産師看護師法ほか								
	6	保健医療福祉法規	予防・保健関係法規、薬事・食品関係法規、								
	7	保健医療福祉法規	環境衛生関係法規、福祉関係法規、労働関係法規								
	8	臨床検査と医療過誤	医療過誤、検査過誤の実態、臨床検査技師の医療事故における責任								
教 科 書	最新臨床検査学講座 関係法規 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	レポート、口頭試問等により評価する。ただし、口頭試問はレポートが不十分の場合、個別に実施する。										
オフィスアワー	随時。メール可。E-mail:suna-s@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	法規は、毎年改訂されることが多いので、教科書等の購入にあたっては最新刊を用意すること。										

先端医療技術学(Advanced Medical Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	眞鍋 紀子(Noriko Manabe)、平川 栄一郎(Eiichiro Hirakawa)、古山 達雄(Tatsuo Furuyama)、奥田 潤(Jun Okuda)、樋本 尚志(Takashi Himoto)、中村 文洋(Takehiro Nakamura)、塩田 敦子(Atsuko Shiota)、片山 陽子(Yoko Katayama)、立石 謹也(tateishi kinya)、行正 信康(Nobuyasu Yukimasa)、多田 達史(Satoshi Tada)、和田 晋一(Shin-ichi Wada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 臨床検査分野で注目されている先端医療技術についてのトピックス、将来展望、課題あるいはあるべき方向について学習し、臨床検査技師として資質を高めるための内容を習得する。</p> <p>【到達目標】 ①臨床検査分野で注目されている先端医療技術についてのトピックスについて説明ができる。 ②興味を持った先端医療技術について、詳細なレポートができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	オムニバス方式で行う。 新しい技術等の内容を理解させるために、画像やスライド等を用いて行う場合がある。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	血液検査	血液疾患診断における、検査技術学（眞鍋）								
	2	産婦人科疾患	不妊症検査・治療、産科超音波、出生前診断の実際と倫理（塩田）								
	3	脈管形成と疾患	脈管形成の基礎研究から臨床への応用（古山）								
	4	在宅医療	在宅医療における携帯用超音波診断装置の臨床的活用（片山）								
	5～6	遺伝子検査	分子生物学からみた脳腫瘍と治療法（中村）								
	7	酸化ストレス検査	血液透析における酸化ストレスと酸化ストレス評価法（立石）								
	8	微生物検査	緑膿菌の糞便監視培養の重要性（奥田）								
	9	免疫検査	免疫応答に関与する遺伝子多型の意義（行正）								
	10	顔面神経検査	臨床生理学検査機器の最前線（和田）								
	11～12	消化器疾患	肝疾患における自己抗体の臨床的意義（樋本）								
	13～14	癌の病理診断と治療	肺がんの基礎知識と個別化治療（平川）								
	15	動脈硬化検査	動脈硬化性疾患研究の最前線（多田）								
教 科 書	特に指定しない										
参考書・参考資料等	各講義に関する専門書										
成績評価の方法	興味を持った先端医療技術学についてレポートを提出し、担当教員が評価する(100%)。										
オフィスアワー	担当教員の研究室で随時										
受講上の留意事項	講義項目・順序は変更することがある。										

検診検査学 (Medical Examination Technology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	4	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	藤田 純子 (Sumiko Fujita)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 検診におけるデータの評価や管理方法などの実務を身に付け、検診の意義やその中で検査技師が果たす役割を学ぶ。</p> <p>〔学習目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診の意義を理解する ・検診におけるデータの重要性と管理方法を学ぶ ・検診における検査技師の役割を理解する <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 検診の意義を広く理解し検診における受診率向上などについて具体的に提案できる。 ② 検診におけるデータ管理の重要性を具体的に理解し仕事の中で役立てることができる。 										
授 業 の 進 め 方	資料及びパワーポイント、DVD等を用いてそれぞれの内容で講義を行う。 検診センター(香川県予防医学協会)の見学を行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1 2・3 4 5 6 7 8	<p>予防医学について</p> <p>施設見学</p> <p>検診の種類と目的</p> <p>検診の仕組み</p> <p>精度管理(総論)</p> <p>精度管理の指標と評価</p> <p>検診を効果的に行うために必要なこと</p>	<p>検診を取り巻く社会環境、検診の目的</p> <p>検診施設の見学(検診の流れとそれぞれの検査の説明、 検診対象者への案内、検診事後管理・追跡調査)</p> <p>検診の種類・目的・対象者・法的根拠</p> <p>検診の対象者と法的根拠</p> <p>がん検診に関する研究とガイドライン</p> <p>精度管理の指標(技術・体制的指標、プロセス指標、アウトカム指標)と評価</p> <p>受診率向上や精度管理などがん検診に必要なことをグループワークで考える</p>								
教 科 書	『働く人の健康』((社)全国労働衛生団体連合会)										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	①グループワークでの参加度、発表内容(30%) ②レポート内容(70%)										
オフィスアワー	質問等についてはメールでの受付を行います。 e-mail: s.fujita@bd5.so-net.ne.jp										
受講上の留意事項	講義項目・順序は変更することがあります										

救急医学概論(Introduction to Emergency Medicine)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	萩池 昌信(Masanobu Hagiike)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 救急医療について基本的な知識を深める。救急疾患における臨床検査の意義、臨床検査技師の役割を理解する。災害医療についても基本的な知識を学び、医療人としての総合的な能力および自覚を高める。</p> <p>【到達目標】 ①頻度の高い救急疾患について病態を簡潔に説明でき、検査値の異常を推測できる。 ②災害時の対応について、医療従事者として適切な判断や助言ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義、質疑応答、実習										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	蘇生	広い意味での蘇生								
	2	症候	救急疾患の症候診断								
	3	治療	救急疾患のクリティカルケア								
	4	疾患	代表的な致死性急性疾患・外傷								
	5	災害医療1	災害医療概論								
	6	災害医療2	避難所運営(HUG演習)								
	7	実習1	気管内挿管、AEDシュミレーター、蘇生シュミレーター								
	8	実習2	超音波検査シュミレーターなど								
教 科 書	なし										
参考書・参考資料等	救急患者の診かた考え方 2013 改訂3版(金芳堂)(購入が必須ではありません)										
成績評価の方法	終了後にレポートを提出していただきます。評価の基準は、その提出の有無で50%、適正に記載されているかどうかで50%。										
オフィスアワー	電子メールでの質問を受け付けます。 hagiikem@gmail.com										
受講上の留意事項	授業中は積極的に質疑応答、発言をしていただきたい。										

生殖補助医療技術論 (Assisted Reproductive Technology)											
必修・選択の区別	選択	学年次	カリキュラムにより異なります。	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	塩田 敦子 (Atsuko Shiota)、小河 佳織 (Kaoru Ogo)、中澤 留美 (Rumi Nakazawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>臨床検査技師がエンブリオロジストとして働くための生殖補助医療技術(ART)の基礎と倫理を学ぶ。そのために産婦人科の疾患、不妊治療に関わる具体的な内容と技術、すなわち精子や卵子の発生学や妊娠成立などの基礎的な講義に加えて、体外受精や顕微授精などの生殖補助医療技術の基本的な細胞培養、精液分析などの技術を演習で学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①不妊症の基礎知識を習得し、その原因、検査、治療法について概説できる。</p> <p>②生殖補助医療技術(ART)の進歩、実際の方法について概説できる。</p> <p>③不妊症治療に関わる生殖生命倫理について考察し、自分の考えを述べることができる。</p> <p>④ARTに関わる技術の演習を行い、その基本的操作法を身につけることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	エンブリオロジストとして働くための基礎として産婦人科の疾患や受精のしくみ、また生殖生命倫理について解説した後、演習にて生殖補助医療技術の基本的操作法を習得する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～2	性と生殖の形態と機能	性周期とホルモン、妊娠成立まで (塩田)								
	3	生殖生命倫理	婦人科疾患の診断と臨床検査、治療 (塩田)								
	4～5	不妊症とは	産婦人科領域における生殖生命倫理 (塩田)								
			不妊症の原因とその検査 (塩田)								
			不妊症の最新治療(塩田)								
	6	エンブリオロジストとは	エンブリオロジストと生殖補助医療技術(ART) (中澤)								
	7～8	演習	精液検査(精子数のカウント、運動精子数の算出、精液処理法) (中澤)								
			胚の取り扱い(ガラス管の作成、ガラスピーズを使用し、胚の移動や凍結技術を学ぶ) (中澤)								
教 科 書	不要										
参考書・参考資料等	教員が作成して配布する										
成績評価の方法	演習後のレポートにて評価する。(聴講・演習態度を10%以内で加味することがある。)										
オフィスアワー	研究室在室時はいつでも質問、相談に応じます。										
受講上の留意事項	<p>重要事項を明記するなど、要点を絞ってできるだけわかりやすく講義を行い、演習はARTの現場の実際に即して行う。エンブリオロジスト、ARTに興味を持って受講してほしい。</p> <p>なお、平成27年度入学生は4年次後期配当、平成28年度以後入学生は3年次後期配当なので、注意すること。</p>										

リスクマネジメント(Risk Management)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	十川 聖三(Seizou Sogawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>EBM(evidence based medicine)という根拠に基づくよりよい医療とは、患者にとって不利、或いはよくないリスクを払拭し、マネージメントとしてそれ等を分類し、リスクの発生の確立と重大さなどを加算式、掛け算式、マトリックス式などで考え、リスクを防止し資質の高い安心・安全な医療の提供を行うことである。</p> <p>しかし、リスクの定義は幅広く医療体制全般にわたるリスクの是非の考え方から、病院の経営、ルーチンにおける現場や個人の業務まで多岐にわたり、アクシデントの予防、インシデントの改善だけではない。</p> <p>医療がこれ等の考え方に進化したのは極めて新しく、これまで質の高い医療の提供こそ医療の本質と考えられていたが、顧客側つまり患者側に立ったサービスも極めて大切と意識改革され物心のサービス体制が図られるようになってきた。従い、医行為のみならずグローバルな視野をもつ医療職員の必要性がたかまってきた。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①あらゆるリスクのハザード(危険な状態)やペリル(遭遇)について分析し、事象発生の原因や状態を把握できる。</p> <p>②リスクを改善(Benefit)しメリットを創出して、プラスな現象(効果・効率、安心・安全)などの恩恵や有利さを醸し出す能力を養うことができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>経済の発展は生活の進化や暮らしの推移にどのように関わってきたのかという生活環境を理解し、同時に医療の発展や推移など基礎的課題を勉強し、成熟社会は人々の意識がどのように変化するのかを学ぶ。</p> <p>次いで医療のリスクを様々な方式により分析抽出し、その防止と改善策について学ぶ。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	経営管理学(マネージメント)	医療に何故経営管理学が必要か								
	2	社会科学の分析	医療・経済・国民生活の推移								
	3	国民は何を求めているか	経済の成長は医療に何をもたらせたか								
	4	医療の本質と組織論	医療組織とサービス体制・責任と権限の事例								
	5	リスクの分類	社会のリスクと医療のリスクについて								
	6	リスクの発生要因と分析法	医療と看護と検査領域のリスクの分析								
	7	リスクの防止と対応について	リスクからメリットへ								
	8	総論	セイフティな医療を目指して								
教 科 書	各毎 レジユメ配布										
参考書・参考資料等	<p>経営管理の倫理 宮坂純一 晃洋書房 高松大</p> <p>組織と戦略 権泰吉 文新堂 高松大</p> <p>分かりやすいリスクの見方・分析の実際 鈴木茂夫 日刊工業新聞</p> <p>病院の医療安全『理論と実践』小川龍他 真興公易(株)医学出版部</p> <p>医療安全の経済分析 安川文朗 勤草書房</p>										
成績評価の方法	レポート提出(A-4 2枚以上)、授業態度を加味する										
オフィスアワー	随時 メール(090-9170-3100)										
受講上の留意事項	授業中に、授業の要点について質問がある。										

遺伝子分析科学 (Molecular Analysis)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 遺伝子分析・検査技術の専門的人材の育成を目的とし、遺伝子検査従事者に必要な医学的知識・技術を学習し、さらに遺伝子検査・染色体検査の検体の取り扱い、前処理、検査方法、結果の評価法を修得する。本授業は、遺伝子分析科学認定士資格取得も念頭に置いた講義内容となっている。</p> <p>【到達目標】 ① 遺伝子検査に必要な基礎医学知識を概説できる。 ② 遺伝子検査における機器や検体の取り扱いについて説明できる。 ③ 遺伝子検査の流れを概説できる。 ④ 染色体検査の流れを概説できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	遺伝子分析科学認定士資格試験を念頭に置き、演習を中心とした授業を行う。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～3	医学的知識・技術①	生化学、生理学、解剖学、免疫学、血液学								
	4～6	医学的知識・技術②	微生物学、薬理学、病理学、臨床病態学、人類遺伝学								
	7	遺伝子検査技術①	機器の取り扱い、試薬の調整、検体の取り扱い、精度管理など								
	8～9	遺伝子検査技術②	核酸抽出、核酸増幅、検出法								
	10～11	遺伝子検査結果の評価	感染症、血液疾患、固形腫瘍、単一遺伝子疾患、生活習慣病など								
	12～13	染色体検査学科技術①	染色体の構造・機能、核型記載法、細胞培養、標本作成、染色法、FISH、マイクロアレイ染色体検査								
	14～15	染色体検査結果の評価	常染色体異常、性染色体異常、白血病・リンパ腫・固形腫瘍と染色体異常の関連、環境変異原と染色体異常の関連								
教 科 書	遺伝子検査技術—遺伝子分析科学認定士テキスト— 改訂第2版(克誠堂出版)										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	学習態度(50%)、レポート(50%)										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	学習内容が膨大なため、予習・復習をしっかりと行うこと。										

健康食品学 (Health Food Dietetics)											
必修・選択の区別	選択	学年次	3	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担 当 教 員	立石 謹也 (Kinya Tateishi)、藤井 映子 (Eiko Fujii)、眞鍋 紀子 (Noriko Manabe)、多田 達史 (Satoshi Tada)、太田 安彦 (Yasuhiko Ohta)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 臨床検査技師に栄養学、食品学および健康食品についての知識を習得し、健康食品の正しい使用法や健康増進に寄与できる人材育成を図る。また、健康食品等の摂取により変動が予想される臨床検査データの読み方や健康食品と医薬品の同時摂取により生体内で起こる相互作用について学び、その知識を一般消費者や患者に説明する方法等について学習する。</p> <p>【到達目標】 ①健康維持における食の重要性、食品の3つの機能、健康食品の問題点、保健機能食品制度の概略、保健機能食品の各論について説明できる。 ②健康食品に必要なコミュニケーション技術を身に付け、一般の人に保健機能食品についてわかりやすく説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	オムニバス方式で行う。教科書やプリントを用いて講義するが、パワーポイントやビデオも適宜利用する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	保健機能食品総論1	健康食品管理士とは、コミュニケーション技術 (太田)								
	2	保健機能食品総論2	健康食品、保健機能食品について (太田)								
	3	食品と栄養1	栄養と栄養素、摂取と消化吸収、糖質、脂質 (多田)								
	4	食品と栄養2	たんぱく質、水と電解質、エネルギー代謝 (多田)								
	5	病態解析と栄養管理1	病態栄養管理 (藤井)								
	6	病態解析と栄養管理2	疾患別の栄養管理 (藤井)								
	7	NST	健康食品管理士とチーム医療 (藤井)								
	8	正しい摂取法	健康食品の正しい摂取法 (藤井)								
	9	保健機能食品各論1	栄養機能食品素材およびその関連物質、栄養機能食品、特定保健機能食品 (立石)								
	10	保健機能食品各論2	保健機能食品素材として良く用いられる非栄養成分 (立石)								
	11	保健機能食品各論3	民間でよく使用されている機能性素材1 (立石)								
	12	保健機能食品各論4	民間でよく使用されている機能性素材2 (立石)								
	13	医薬品と食品の相互作用	医薬品と食品の相互作用 (立石)								
	14	食品の表示	表示制度、法律、食品マーク (眞鍋)								
	15	食品の安全性	食品の衛生管理、食品添加物(規格基準、使用量、簡略化法等) (眞鍋)								
教 科 書	保健機能食品学(一般社団法人 日本食品安全協会)、問題解説集第4版(一般社団法人 日本食品安全協会)										
参考書・参考資料等	健康・栄養食品アドバイザースタッフ・テキストブック(第一出版)、健康食品のすべて 第2版(同文書院)、消化管吸収と相互作用(南山堂)、健康食品アドバイザースタッフのための教本2014(健康食品管理士会四国支部香川県部会編)										
成績評価の方法	期末筆記試験により評価する。										
オフィスアワー	質問や相談等がある場合は研究室43で随時対応する。										
受講上の留意事項	保健機能食品に興味を持ち、普段の生活において常に意識するように心がけましょう。 健康食品管理士認定資格取得を目指す場合は履修が必要です。										

健康食品学関係法規 (Health Food Law)											
必修・選択の区別	選択	学年次	3	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	太田 安彦 (Yasuhiko Ohta)、立石 謹也 (Kinya Tateishi)、末澤 千草 (Chigusa Suezawa)、山口 航 (Wataru Yamaguchi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>健康食品に関して消費者と製造・販売業者間で問題となっている現状を整理し、食品及び健康食品と関係する法規の概要を学ぶ。また、健康食品の表示や販売等で問題となる虚偽・誇大広告など違反の事例を学ぶ。さらに、保健機能食品制度に関する海外の現状を理解し、国際的な視野に立った健康食品の安全性について考察できる力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 食品安全法、食品衛生法、健康増進法、JAS法、医薬品医療機器等法景品表示法、食品表示法、消費者安全法、製造物責任法特定商取引法、消費者教育の推進に関する法律について目的を理解できる。</p> <p>② これらの法律と健康食品の関わりやリスク評価およびリスク管理について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	オムニバス方式で行う。教科書やプリントを用いて講義するが、パワーポイントも適宜利用する。										
	回	項 目	内 容								
授 業 スケジュール	1	食品表示法	食品の表示制度、栄養強調表示、健康強調表示 (立石)								
	2	関係法規の概要、食品安全基本法	保健機能食品、いわゆる健康食品、食品安全基本法の目的・概要 (立石)								
	3	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律	医薬品医療機器等法の目的・概要・内容、医薬品の定義等 (立石)								
	4	食品衛生法	食品衛生法の目的・概要、基準設定と行政 (末澤)								
	5	JAS法	JAS法の目的・概要、違法例等 (山口)								
	6	健康増進法、景品表示法	健康増進法の目的・概要、関係者の責務、基本方針等、景品表示法の目的・概要・定義等 (太田)								
	7	消費者安全法、特定商取引法、製造物責任法 (PL法)	消費者安全法の目的・概要、特定商取引法の目的・概要、指定取引、特定商取引の種類、特定商取引法の規制等、製造物責任法の目的、製造物責任とは、責任の主体、免責事由等 (太田)								
	8	消費者教育の推進に関する法律、違反の事例、試験対策	消費者教育の推進に関する法律の目的と基本理念、保健機能食品制度に関する海外の現状、健康食品に関する事例、問題集の解説等 (立石)								
教 科 書	保健機能食品学 (一般社団法人 日本食品安全協会)、問題解説集第4版 (一般社団法人 日本食品安全協会)										
参考書・参考資料等	健康食品のすべて (第2版) (同文書院)、健康食品・保健機能食品関係法令・通知集 (中央法規)、健康食品取扱マニュアル第3版 (薬事日報社)										
成績評価の方法	期末筆記試験により評価する。										
オフィスアワー	質問や相談等がある場合は研究室43で随時対応する。										
受講上の留意事項	健康食品や保健機能食品は様々な法律で規定されています。理解度を深めるためにもテキストを事前に一読しておくことが大切です。 健康食品管理士認定資格取得を目指す場合は履修が必要です。										

卒業研究 (Graduation Research)											
必修・選択の区別	選択	学年次	4	学 期	前期	単位数	3.0	時間数	135	授業形態	研究
担 当 教 員	眞鍋 紀子 (Noriko Manabe)、平川 栄一郎 (Eiichiro Hirakawa)、奥田 潤 (Jun Okuda)、樋本 尚志 (Takashi Himoto)、中村 丈洋 (Takehiro Nakamura)、立石 謹也 (Kinya Tateishi)、多田 達史 (Satoshi Tada)、行正 信康 (Nobuyasu Yukimasa)、和田 晋一 (Shinichi Wada)、末澤 千草 (Chigusa Suezawa)、太田 安彦 (Yasuhiko Ohta)、山口 航 (Wataru Yamaguchi)、森西 起也 (Tatsuya Morinishi)、加太 英明 (Hideaki Kabuto)、古山 達雄 (Tatsuo Furuyama)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>臨床検査をはじめ自分達が将来関係する分野から研究テーマを選び、その研究計画、文献検索・調査、実験および研究結果の解析を行い、研究発表や研究論文の書き方等の過程を通じ様々な知見を吸収するとともに、検査法の評価や臨床検査の価値観を養い、総合的な研究能力を習得する。また、研究におけるモラルについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>研究について、抄録(目的・方法・結果・考察)にまとめ、発表し、討論できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>学生2名程度のグループに分かれ、指導教員と共同して研究テーマについて調査・実験等を行い、その結果について討論し、論文形式としてまとめ、発表を行う。</p> <p>研究の進展によっては国内外で開催される学会発表の経験や論文投稿を行う。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	遺伝子検査	臨床的有用性のある体液中マイクロRNAの検索。(中村)								
	2	病理検査	細胞診、組織診への分子病理学的アプローチ(平川、森西)								
	3	臨床生理	生理機能学領域における検査法の開発(和田)								
	4	血液検査	血液細胞増殖に関する検査技術研究(眞鍋、山口)								
	5	微生物 I	病原微生物の病原性に関する分子生物学的研究(奥田)								
	6	微生物 II	病原微生物の病原性に基づいた検査法の開発(末澤)								
	7	消化器疾患	肝疾患における自己抗体の臨床的意義(樋本)								
	8	腎臓病・糖尿病	末期腎臓病と糖尿病に関する基礎的研究(立石)								
	9	糖・脂質検査	糖・脂質代謝に関する研究(多田)								
	10	免疫検査	敗血症バイオマーカー産生に影響する要因の研究(行正)								
	11	神経化学	食品成分の神経細胞保護作用とその作用機序(加太)								
	12	解剖生理	血管形成にかかわる因子の形態学的研究(古山)								
教 科 書	各教員より必要に応じて指定する										
参考書・参考資料等	各教員より必要に応じて指定する										
成績評価の方法	研究態度、研究成果のまとめ(抄録)、発表などから、指導教員が評価する。										
オフィスアワー	担当教員の研究室で随時										
受講上の留意事項	3年次後期に、学生に対し、卒業研究志望先アンケート調査を実施する。										

臨床検査総論臨床実習 (General Specimen Analytical Technology :Clinical Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	45	授業形態	実習
担 当 教 員	多田 達史 (Satoshi Tada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 臨地実習では大学で学んだ知識が、医療の現場でどのように利用されているかを実感し知識を深めることを目的とする。 検体受付、分析、報告に至る検査のながれを理解し、検体の分析を通じて患者の接し方、異常データの判断、臨床的意義など検査の実践を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①尿の外観を観察し判定することができる。 ②尿定性試験の測定原理、分析装置の操作法を習得する。また偽陽性、偽陰性の要因について理解する。 ③尿沈渣の標本を正しく作製し、沈渣成分を鏡検する。また検査結果の表現方法について理解する。 ④尿沈渣の代表成分が鑑別できる。 ⑤尿沈渣で見間違えやすいものについて(赤血球・白血球)認識し、正確に鑑別できる。 ⑥尿定性検査と尿沈渣の関連について理解し、病態との関連についても考察できる。 ⑦糞便検査(潜血など)、髄液検査(化学的検査、細胞数など)、体腔液検査(胸水、腹水など)について理解する。 										
授 業 の 進 め 方	臨床検査部を7つの部門に分け、1部門を2週間間隔で順次移動し、実際の臨床現場での体験実習を行う。 ここでは一般検査について、実際の患者検体を用いて実習を行う。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～6	検査部の検体の流れを把握する	検体受付、分析、報告 それぞれの注意点について理解する。								
	7～23	実習検査項目	1)尿定性検査 試験紙法 2)尿混濁鑑別法 3)尿沈渣 4)便検査 5)潜血反応 6)虫卵検査 7)体液検査 腹水、胸水 胃液 精液 関節液								
教 科 書	最新臨床検査学講座 一般検査学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	一般検査技術教本(一般社団法人日本臨床衛生検査技師会)										
成績評価の方法	レポートを含む実習評価(20%)、試験(80%)で総合的に判断する										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	大学での講義と実習を復習し、臨床実習に臨んでください。										

病理組織細胞学臨床実習 (Pathological Technology :Clinical Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	45	授業形態	実習
担 当 教 員	平川 栄一郎 (Eiichiro Hirakawa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 病理検査室における検査材料の受付、検査物の処理、標本の作製、検査方法の種類などを学習する。また、臨床における病理組織学的な病因の解明方法や臓器・組織・細胞などに関する肉眼的特徴や顕微鏡標本の組織・細胞学的特徴を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ①病理検査室における主要な各種検査法について説明することができ、実際に検査を行うことができる。 ②標本作製法では検体処理や基本的な標本作製、HE染色、各種特殊染色を行うことができる。 ③細胞診では、標本作製や各種疾患のスクリーニング、推定診断ができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	臨床検査部内を7つの部門に分け、1部門を2週間間隔で順次移動し、実際の臨床現場での体験実習を行う。ここでは、県立中央病院病理検査室において病理組織細胞学の実習を行う。機会があれば病理解剖検査についても見学する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	病理検査室オリエンテーション	病理検査、病理解剖の実際								
	2	標本作製法(1)	検体処理								
	3	標本作製法(2)	標本作製法、特殊染色								
	4	細胞診(1)	検体処理、細胞診標本作製								
	5	細胞診(2)	呼吸器の細胞診								
	6	細胞診(3)	婦人科の細胞診								
	7	細胞診(4)	体腔液の細胞診								
	8	細胞診(5)	消化器の細胞診								
教 科 書											
参考書・参考資料等	臨床検査学講座病理学/病理検査学(医歯薬出版) 病理組織染色ハンドブック(医学書院)										
成績評価の方法	実習評価(20%) 定期試験(80%)										
オフィスアワー	随時:管理研究棟3階 研究室34 メール:hirakawa@chs.pref.kagawa.jp										
受講上の留意事項	白衣着用										

臨床生理検査学臨床実習(Physiological Technology :Clinical Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	45	授業形態	実習
担 当 教 員	樋本 尚志(Takashi Himoto)、和田 晋一(Shin-Ichi Wada)										
授 業 の 目 的	<p>【実習の目的】 種々の生理検査について、実際の検査の方法、検査の流れ、検査結果の評価および管理法、患者への接し方、緊急時の対応、他の医療従事者とのチームワークなど、学内では学ぶことができない実践について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 それぞれの生理検査を理解し、検査結果を正しく評価できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	<p>臨床検査部内を7つの部門に分け、1部門を2週間間隔で順次移動し、実際の臨床現場での体験実習を行う。</p> <p>①臨床生理検査実習スケジュールに従って、循環生理、神経生理、呼吸生理、腹部超音波部門において見学実習、患者への検査を指導教員のもとで実施する。</p> <p>②学生同士でお互いに実習することもある。</p> <p>③実習の内容をレポートにする。</p>										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～6	循環器系の生理機能検査	心電図、負荷心電図、ホルター心電図、負荷心筋シンチ(見学)、心臓カテーテル検査(見学)								
	7～10	神経・筋系の生理機能検査	脳波、誘発脳電位、神経伝導速度								
	11～14	呼吸器系の生理機能検査	スパイロメトリ、血液ガス検査(見学)								
	15～23	画像検査	超音波検査(心臓、腹部)、MRI検査(見学)								
教 科 書	臨床検査学講座 生理機能検査学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	<p>配布資料</p> <p>生理機能検査学 実習書(医歯薬出版)</p> <p>標準臨床検査学 生理検査学・画像検査学(医学書院)</p>										
成績評価の方法	<p>実習態度、レポートなどによる実習病院の評価、期末試験(筆記)</p> <p>評価の配分割合(筆記試験70%、実習病院での評価30%)</p>										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	実習および見学は積極的におこなうこと。患者と直接に接する検査であることを十分に自覚して、服装や言葉使いに気をつけること。										

臨床化学検査学臨床実習(Clinical Chemistry Technology :Clinical Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	45	授業形態	実習
担 当 教 員	多田 達史(Satoshi Tada)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 臨地実習では大学で学んだ知識が、医療の現場でどのように利用されているかを実感し知識を深めることを目的とする。 検体の受付、ながれに沿った検体処理、自動化学分析装置による分析、コンピューター処理を理解し、検査値の変化、他の項目との相関性、臨床的意義、精度管理の方法など検査の実践を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 分析のための検体処置(採取法及び保存法)、分析機器の取扱いについて説明できる。 ② 緊急検査の検査項目と対応の仕方について説明できる。 ③ 臨床化学分析法の精度管理法、データチェックの実際と異常値に対する対応を知る。 ④ 臨床検体の状況(溶血、混濁、フィブリン塊など)、干渉物質(抗凝固剤、造影剤、輸液など)の影響について説明できる。 ⑤ 検査機器トラブル(試薬不足、非特異反応)について学ぶ。 ⑥ 臨床症状の急変、パニック値の対応方法、コメントなどについて学ぶ。 ⑦ チーム医療(NST 回診、SMBG 指導等)について学ぶ。 										
授 業 の 進 め 方	臨床検査部内を7つの部門に分け、1部門を2週間間隔で順次移動し、実際の臨床現場での体験実習を行う。ここでは、臨床化学検査についての本学の実習で学べないことを重点にして、患者検体を用いて実習を行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～6	自動化学分析装置の構成と実際	検体処理の注意点 自動分析装置の原理と取り扱い								
	7～23	実習検査項目	<ol style="list-style-type: none"> 1) 糖質 2) タンパク質、電気泳動 3) 脂質 4) 無機質 5) 非タンパク性窒素 6) 酵素 7) 機能検査 8) 精度管理の方法 9) 各検査結果の臨床的意義と評価 10) 糖尿病教室・NSTなどのチーム医療 								
教 科 書	臨床検査学講座 臨床化学検査学 (医歯薬出版)										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	レポートを含む実習評価(20%)、試験(80%)で総合的に判断する										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	大学での講義と実習を復習し、臨床実習に臨んでください。										

臨床血液検査学臨床実習(Hematological Technology :Clinical Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	45	授業形態	実習
担 当 教 員	眞鍋 紀子(Noriko Manabe)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 学外実習を通して、医療現場における患者や他の医療従事者への対応の仕方を学ぶ。また、血液検査器具や測定機器の管理の重要性を学ぶと共に、血液検査学以外の検査データとの関連から血液疾患の理解を深める。</p> <p>【到達目標】 臨床検体(血液学)の異常値および形態異常、また血液疾患の成因・検査結果・報告について説明できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	臨床実習では、臨床検査部内を7つの部門に分け、1部門を2週間間隔で順次移動し、実際の臨床現場での体験実習を行う。血液部門では、見学および実習をし、血液検査データの見方や疾病との関連および検査精度の必要性を理解する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1～3	血球検査 I	血液一般検査の流れと検体処理、採血と患者への対応 末梢血液検査の実際とデータ処理 XE-2100、網赤血球、血小板								
	4～6	血球検査 II									
授業スケジュール	7～9	骨髓検査	病棟での骨髓検査(見学)と事後処理検査 特殊染色(3種)とスケッチ 凝固検査装置CS-2000iで検体測定 APTT、PT、FDP、FIB ミキシングテスト								
	10～13	特殊染色									
	14～17	凝固線溶検査									
	18～21	自動血球分類装置									
授業スケジュール	22～23	血液疾患像	自動染色、自動血球分類装置 血液疾患別細胞のスケッチ 血液疾患別細胞のスケッチ、テスト								
	22～23	まとめ									
教 科 書	最新臨床検査講座 血液検査学(医歯薬出版) 血液細胞アトラス 第5版(文光堂) プリント資料										
参考書・参考資料等	臨床検査技術学11 血液検査学第4版(医学書院)										
成績評価の方法	評価表・スケッチブック、実習後の学内試験 (基準:試験80%、評価表・スケッチブック20%)										
オフィスアワー	研究室、実習室等で適宜対応										
受講上の留意事項	教科書等での予習を必ず行うこと。 積極性をもって臨むこと。										

臨床微生物検査学臨床実習 (Microbiological Technology :Clinical Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	45	授業形態	実習
担 当 教 員	奥田 潤 (Jun Okuda)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 実際の臨床現場での、微生物検査に関する体験実習を行う。</p> <p>【到達目標】 ①臨床検査室での検査材料の採取と保存法、輸送法などの前処理方法や、染色と形態、培養、同定、薬剤感受性試験など、微生物検査を進める上で必要な知識、手技を実際の臨床検査の流れの中で体得できる。 ②また、実習を通して微生物検査の臨床的意義について理解できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	実際の臨床現場での体験実習を行う。臨床微生物検査学臨床実習では、実際の臨床検体を用いて微生物検査を進めていく。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	検体の取り扱い	材料による扱い方を実際の検体で経験する。								
	2	染色法と検鏡	各種染色法の正しい選択を実際の検体で経験する。								
	3	分離培養の判定	正しい分離培地・培養法の選択法を実際の検体で経験する。								
	4	分離培地の観察	正しい分離培地・培養法の選択法を実際の検体で経験する。								
	5	分離菌の同定	グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陽性桿菌、グラム陰性桿菌、真菌などの推定起因菌について実際に同定してみる。								
	6	薬剤感受性検査	感受性試験の方法、選択されるべき薬剤の種類、成績の読み取り方について体験する。								
	7	結果報告書作成	一連の結果を検査成績としていかにまとめるかについて学ぶ。								
	8	検査成績の意義	検査成績から得られる情報について、その臨床的意義を考察する。								
教 科 書	臨床検査学講座[第3版] 微生物学/臨床微生物学(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	臨床検査法提要(金原出版)、臨床検査ハンドブック(二輪書店)										
成績評価の方法	実習態度(10%)、レポート(40%)、試験(50%)で総合的に評価する。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	大学での講義と実習について必ず復習してから、臨床の現場であることを忘れずに、積極的に実習に臨むこと。										

臨床免疫検査学・輸血移植免疫検査学臨床実習(Immunological Technology :Clinical Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	3	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	45	授業形態	学外実習
担 当 教 員	行正 信康(Nobuyasu Yukimasa)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>学内で学んだ高感度分析検査学や輸血・移植検査学の基本技法が、①検査室の現場でどのように活用されているか、②その方法がどのように進化しているか、③検査システム化しているかを理解する。また、測定された検査データの解析法と評価法及び疾病との関連性を理解する。さらに、検査材料の受付や管理保存法を適切に判断し適用する。輸血検査室においては適合血の選択法と移植検査における諸問題を理解し習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 実際の臨床検査室における検査の流れを説明できる。 ② 特殊な検査項目における検体処理法を列挙できる。 ③ 自動分析された測定値を正しく評価できる。 ④ 異常値の出現に関して検査の妥当性や臨床的意義を判断できる。 ⑤ 輸血医療に必要な関連検査を正しく実施し判定できる。 ⑥ 臨床免疫検査の実際を整理して列挙できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	臨床検査部内を7つの部門に分け、1部門を2週間間隔で順次移動し、実際の臨床現場での体験実習を行う。この分野では免疫血清検査室、輸血検査室、緊急検査室を体験する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	2週間	1.実習検査項目	1)感染症検査、2)自己免疫疾患の検査、3)異常血漿蛋白と急性相反応物質の検査、4)免疫自動分析機の原理と扱い方、5)フローサイトメトリの原理と扱い方、6)輸血検査の実際、7)輸血検査の業務管理法、8)移植検査、9)緊急検査での対応法、当直業務								
		2.検査室運営	1)検査の流れ(受付、準備、検査、報告、精度管理、片付け、外注検査)、2)他部門との関連性と協調性、3)検体の扱い方(採血、分離、保管法、廃棄法)、4)検査データの読み方、異常値への対応法、5)コンピュータシステム運用法とデータベースの利用法、6)検査保険点数との関り、7)感染対策								
教 科 書	臨床検査学講座「免疫検査学」(医歯薬出版)、「臨床免疫学」(医歯薬出版)										
参考書・参考資料等	輸血・移植検査 技術教本 (日本臨床衛生検査技師会監修・丸善出版)、スタンダード輸血検査テキスト(認定輸血検査技師協議会編・医歯薬出版)										
成績評価の方法	筆記試験(80%)、施設担当者の評価(10%)、平常点(10%) 再試験は原則行わない。										
オフィスアワー	随時										
受講上の留意事項	学内実習では体験できない臨床診療における免疫血清検査・輸血検査の位置付けを理解する。										

IV 教育科目

助産学専攻科

1 助産学専攻科教育科目の履修にあたって

助産学専攻科では、本学の基本理念である生命の尊厳と深い人間愛を基盤とし、ライフサイクル全般にある女性、乳幼児、家族そして地域社会を対象に、女性の主体性を尊重し、安全で質の高い助産ケアができる助産師を育成することを目的としている。

教育課程の編成にあたっては、助産師に必要な基本的能力（コア・コンピテンシー）を倫理的感応力、マタニティケア能力、ウィメンズケア能力、専門的自律能力と位置づけ、これらの能力が修了時に獲得できるよう「基礎領域」、「実践領域」、「実践関連領域」の3領域に区分し授業科目を配置している。

<基礎領域>

助産の対象である母子およびその家族について、人間、環境、社会の側面から理解するための科目や、助産学を探究する科目を配置し、学生が自主的な学習意欲に基づいて選択履修できるようにしている。

<実践領域>

助産の実践に必要な基本的な知識・技術を習得するために講義、学内演習、実習を通じて学ぶ必修科目を配置している。

特に実習科目は、助産師として必要な基礎的助産実践能力を獲得するために重要な科目である。「助産学実習Ⅰ」では妊娠分娩産褥期及び新生児期を継続して1事例を受け持つ実習とするため、入学時早期から実習を開始し、病院及び助産所において継続した助産ケアについて学ぶ。「助産学実習Ⅱ」では、分娩介助を中心に病院において妊産褥婦及び新生児に対する助産実践について学ぶ。規則により正常な分娩を10例介助することが修了要件となっており、実習期間内に介助できない場合は補習実習を行う。その他、「助産学実習Ⅲ」では病院及び助産所の助産管理、「助産学実習Ⅳ」ではライフサイクル全般の女性への健康支援について学び、助産師としての基礎的助産実践能力の獲得を目指す。

さらに、「助産学研究」では、継続受け持ち事例への関わりを事例研究としてまとめることで科学的思考力を養い助産学研究の方法論について学ぶ。また、「助産診断技術学Ⅳ」は受胎調節実地指導員の資格取得に必要な科目となっている。

<実践関連領域>

卒業後に卓越した助産実践能力を獲得することを目的として選択科目を配置している。「総合ヘルスケア論」では、経験豊かな助産師により助産技術を学ぶ。また、「母子保健活動論Ⅱ」では、国際的な母子保健活動の実際や民間団体による母子保健活動の講義及び災害時の演習などから助産師に求められる今日的課題や多職種との連携について学ぶ。

さらに、「新生児学・乳幼児学特論Ⅱ」では、新生児救急蘇生における助産師の役割について学び、試験に合格すれば「新生児蘇生法講習会(専門コース)」の修了認定資格が得られる。

1年間という短い教育期間ではあるが、履修内容が多く母子の生命に直結する実習を行う必要があることから、厳しい教育体験となる可能性が高い。しかし、主体的に取り組むことによって大きな学習成果も得られるので、自分の描いた助産師としての将来像の実現を目指して履修科目を選択し、勉学に取り組まれることを期待する。

取得できる資格など

助産師国家試験受験資格

受胎調節実地指導員

新生児蘇生法講習会「専門コース」の修了認定資格

(新生児学・乳幼児学特論Ⅱを履修した者のみ)

修了要件

(単位)

	必修	選択	計
基礎領域	5	1以上	6以上
実践領域	25		25
実践関連領域		2以上	2以上
計	30	3以上	33以上

2 授業科目表

教育科目（助産学専攻科）

○必修

科目名		担当教員	単位	時間	配当年次	卒業要件	ページ
基礎領域	助産学概論	野口純子	①	15	前期	6単位以上 (選択1以上)	233
	性と生殖の形態と機能	塩田敦子	②	30	通年		234
	新生児学・乳幼児学特論Ⅰ	小谷野耕佑、中村信嗣	①	15	前期		235
	母子と家族の心理	榮玲子、植村裕子	①	15	前期		236
	女性と社会学	時岡晴美	1	15	前期		237
	生殖生命倫理	塩田敦子	1	15	後期		238
実践領域	助産診断技術学Ⅰ	野口純子、塩田敦子、松木由美	②	45	前期	25単位	239
	助産診断技術学Ⅱ	竹内美由紀、塩田敦子	②	45	前期		240
	助産診断技術学Ⅲ	石原留美、塩田敦子	②	45	前期		241
	助産診断技術学Ⅳ	竹内美由紀、野口純子、石原留美、川上聡子	②	45	通年		242
	助産診断技術学演習	野口純子、竹内美由紀、塩田敦子、石原留美	①	30	通年		243
	母子保健活動論Ⅰ	辻・よしみ、竹内美由紀	①	15	前期		244
	助産管理	野口純子、池添紀美代、眞鍋由紀子、中西ひとみ、竹内美由紀、石原留美	②	30	通年		245
	助産学研究	野口純子、竹内美由紀、石原留美、眞鍋由紀子	①	15	通年		246
	助産学実習Ⅰ	野口純子、竹内美由紀、石原留美	②	90	通年		247
	助産学実習Ⅱ	野口純子、竹内美由紀、石原留美	⑦	315	通年		248
	助産学実習Ⅲ	野口純子、竹内美由紀、石原留美	①	45	後期		249
	助産学実習Ⅳ	野口純子、竹内美由紀、石原留美	②	90	後期		250
実践関連領域	総合ヘルスケア論	野口純子、井上美智子、野口和代、篠原佐智子、松尾真理、石原留美	1	15	後期	2単位以上 (選択2以上)	251
	母子保健活動論Ⅱ	竹内美由紀、野口純子、石原留美、中橋恵美子、草薙めぐみ	1	15	後期		252
	新生児学・乳幼児学特論Ⅱ	石原留美、小谷野耕佑、岡田佳子	1	15	後期		253
	助産学実習Ⅴ	野口純子、竹内美由紀、石原留美	1	45	後期		254
計				1005		33単位以上	

3 基礎領域

助産学専攻科

助産学概論 (Introduction to Midwifery)											
必修・選択の区別	必修	学年次		学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	野口 純子 (Junko Noguchi)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 助産の基本的概念を理解し、専門職として国際的に認知されている助産師の法的責任や役割、求められる倫理観について理解し、助産師としてのアイデンティティを育む基礎とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 助産学の基礎となる助産の考え方および女性を中心とした対象の特性について説明できる。 ② 助産師の身分と法的責任、機能と役割について説明できる。 ③ 我が国の母子保健行政及び助産師活動の変遷と現状について説明できる。 ④ 国際的に認知されている助産師の役割や業務について説明できる。 ⑤ 助産師業務に関連する倫理的問題や基本的な倫理的対応について説明できる。 ⑥ 専門職としての助産師に求められている能力や基本的態度について説明できる。 										
授 業 の 進 め 方	<p>視聴覚教材及び資料を用いる。 第1回講義時に授業計画を配布し、授業内容を明確にして講義をすすめる。 専門職としての助産師に求められている能力や助産師としての基本的態度・倫理的な問題に対する考えを深めることを目的に、課題学習、グループ討議、意見交換の機会を設ける。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	助産の理念	助産師の定義、助産の対象(女性、家族を中心にしたケア)								
	2	専門職に求められる助産の概念	演習(目指す助産師像についての検討と発表)								
	3	母性保健行政と助産師活動の変遷	母子保健行政の変遷と助産に関する歴史の変遷 (課題: 助産師活動の歴史、展望と課題)								
	4	助産師の身分と法的責任	保健師助産師看護師法、医療法、その他の関連法規								
	5	助産師の業務と倫理①	助産業務に関する倫理的問題								
	6	助産師の業務と倫理②	事例検討								
	7	専門職の役割	課題学習の発表、専門職能団体の役割								
	8	まとめ	ICM活動と助産師教育								
教 科 書	<p>助産学講座1 助産学概論 (医学書院)</p> <p>助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健(医学書院)</p>										
参考書・参考資料等	<p>国民衛生の動向(直近に発売された 特集号)</p> <p>助産師基礎教育テキスト第1巻 助産概論 (日本看護協会出版会)</p>										
成績評価の方法	グループ討議や意見交換での授業への参加状況(20%)、学習課題の成果(30%)、筆記試験(50%)として総合的に評価する。										
オフィスアワー	特に設定はしないので、相談があれば随時研究室に来て下さい。										
受講上の留意事項	看護学教育で学んだ助産師の法的責任や看護の歴史と連動する内容であるので、看護学教育で学んだことを振り返りなど、主体的に学習に取り組むようにして下さい。										

性と生殖の形態と機能(Reproductive Anatomy and Physiology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	通 年	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義	
担 当 教 員	塩田 敦子(Atsuko Shiota)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>性と生殖のしくみ、生殖器の形態と機能などについて理解を深め、マタニティサイクルにおける正常な妊娠・分娩及び産褥経過の診断に必要な基礎知識を学習する。また、正常からの逸脱を予測・診断できるように必要な妊娠・分娩及び産褥の異常に関する基礎知識と検査法について学び、さらに、女性の一生をトータルにサポートすべく女性特有の疾患や身体とこころの変化について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①妊娠・分娩を中心に、助産実習を前に身につけるべき基礎知識を説明できる。</p> <p>②リプロダクションに関わる検査の方法、その解釈ができる。</p> <p>③女性の一生に関わる助産師として必要な婦人科学的、女性心身学的知識を概説でき、自分の考えが述べられる。</p>										
授 業 の 進 め 方	まず妊娠・分娩を中心に、助産実習を前に身につけるべき基礎知識、診断・検査の方法、解釈等について講義を行い、後半で女性の一生に関わる助産師として必要な婦人科学的、女性心身学的な知識について講義する。パワーポイント、プリントを用いて、臨床症例を多数紹介して学生の十分な理解が得られるよう努める。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	女性のからだ	女性生殖器の形態と機能(発生、解剖・生理)								
	2	妊娠の生理	妊娠と母体の生理、胎児・胎盤の形成								
	3	妊娠の検査	リプロダクションに関する検査①(妊娠の診断、超音波検査)								
	4~7	異常妊娠	異常妊娠①(切迫流・早産、子宮外妊娠、多胎妊娠) 異常妊娠②(妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病など) 異常妊娠③(偶発性全身性疾患、母子感染など)								
	8	正常分娩	リプロダクションに関する検査②(胎児心拍図、超音波検査)								
	9	異常分娩	正常分娩								
	10	付属物、産褥	異常分娩(骨盤位、回旋異常など)、産科救急、産科手術								
	11~12	子宮疾患	付属物の異常、正常産褥・異常産褥								
	13	付属器疾患、乳腺疾患	子宮の良性疾患(子宮筋腫・腺筋症・子宮脱など)								
	14	女性の一生	子宮の悪性疾患(子宮頸がん・子宮体がん)								
	15	女性のこころ	卵巣・卵管の疾患、外陰・膣の疾患、子宮内膜炎、乳腺疾患								
	16	不妊症	女性のライフステージと疾患(月経異常、避妊)								
教 科 書	助産学講座 2. 3. 6. 7. 8 (医学書院) 助産師基礎教育テキスト 第7巻(日本看護協会出版会)										
参考書・参考資料等	産婦人科診療ガイドライン 産科編2014(社団法人日本産科婦人科学会) 病気がみえる Vol.9 婦人科 第2版(MEDIC MEDIA) 病気がみえる Vol.10 産科 第2版(MEDIC MEDIA)										
成績評価の方法	期末筆記試験にて評価する。										
オフィスアワー	研究室在室時はいつでも質問・相談を受けつけます。										
受講上の留意事項	前半は直接妊産婦に関わる実習前の講義になるため予習・復習をして、理解を深めることが望ましい。 後半は自身のライフプランとも重ねながら、暗記より考えることに重点をおいてほしい。										

新生児学・乳幼児学特論Ⅰ (Neonate & Infant Health I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義	
担 当 教 員	小谷野 耕佑(Kosuke Koyano)、中村 信嗣(Shinji Nakamura)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>新生児から幼児期までの正常な成長・発達の特徴について理解する。さらに助産診断に必要な、新生児期の疾患(早産児・低出生体重児など)の特徴、病態・診断・治療を学び、NICUにおける実践的な治療についても学習する。</p> <p>また実技実習として、日本周産期・新生児医学会で行われている新生児蘇生法(NCPR)普及事業での、新生児蘇生法「専門コース」の取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①新生児、乳幼児の生理学的特性を理解し、その知識に基づいて新生児、乳幼児の診察ができ、家族への適切な支援ができるようになる。</p> <p>②新生児蘇生法を習得できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	まず新生児について、生理学的特徴を学び、知識に基づいた診察法を理解する。また、生理学的特徴に関与して発症する様々な病気を学び、将来その早期発見、早期対応に寄与できるよう知識を深める。新生児期以降の乳幼児期については発育の評価法について学び、乳幼児健康診断の実際について理解する。以上をパワーポイントを用いた講義形式にて行う。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	正常新生児	総論								
	2	正常新生児	新生児の生理								
	3	正常新生児	新生児の診察								
	4	ハイリスク新生児	新生児の呼吸、循環								
	5	ハイリスク新生児	新生児の代謝、神経								
	6	ハイリスク新生児	新生児の栄養、母乳								
	7	乳幼児	乳幼児の発育発達と健康診査①								
	8	乳幼児	乳幼児の発育発達と健康審査②								
教 科 書	助産学講座8 助産診断技術学Ⅱ 新生児期・乳幼児期(医学書院)、日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト(メジカルビュー)										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
成績評価の方法	筆記試験										
オフィスアワー	特に設定しないが適宜質問等に対応する。										
受講上の留意事項											

母子と家族の心理 (Maternal, Child & Family psychology)										
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	榮 玲子 (Reiko Sakae)、植村 裕子 (Yuko Uemura)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>妊娠・分娩・産褥期、育児期における母子および家族の心理・社会的特徴と母子関係および家族関係をめぐる問題を理解し、母子保健活動および助産活動の基礎とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①母性・父性の概念および現代の母性観・父性観の概要を説明できる。</p> <p>②妊娠・分娩・産褥期、育児期にある母親と父親およびその家族が、子どもとの相互関係を確立していく過程や親としての発達を説明できる。</p> <p>③現代における母子および家族の心理・社会的特徴と課題・問題を説明できる。</p> <p>④問題を抱える母子および家族に対する援助方法を考えることができる。</p>									
授 業 の 進 め 方	<p>視聴覚教材および資料を用いる。</p> <p>母子および家族をめぐる心理・社会的な課題や問題を明確にし、援助に対する考えを深めることを目的に、グループ討議、意見交換の機会を設ける。</p> <p>なお、事前に、母性看護学で学習した妊産褥婦及び家族の心理について確認し、授業に臨むこと。</p>									
	回	項 目	内 容							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	女性の心理・社会的特徴	女性のライフサイクルとこころの危機 (榮)							
	2	母性と父性	母性・父性の概念および発達 (榮)							
	3	親の発達と役割	母親・父親になる過程と親役割 (榮)							
	4	子育てと家族	子育ての概念と少子社会における家族と子育て (榮)							
	5	母子・親子関係	母子と親子・家族の心理・社会的特徴と課題・問題・胎児期からの親子の愛着形成と心の育ち (榮)							
	6	多胎児家族	多胎児家族の心理・社会的特徴と課題・問題 (植村)							
	7	子どもの喪失と障がいの受容	子どもの喪失と障がいの受容に対する支援 (榮)							
	8	母子・家族の健康	母子と家族の関係と健康支援 (榮)							
教 科 書	助産学講座4 基礎助産学[4] 母子の心理・社会学(医学書院)									
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	<p>新道幸恵、和田サヨ子、母性の心理社会的側面と看護ケア(医学書院)</p> <p>中野仁雄 監修、心理的問題をもつ妊産褥婦のケア(医学書院)</p> <p>吉田敬子、鈴宮寛子、山下洋 監修、妊産婦メンタルヘルスマニュアル～産後ケアへの切れ目のない支援に向けて～(公益社団法人日本産婦人科医会)</p> <p>末原則幸、大岸弘子指導、ふたごの子育て～多胎の赤ちゃんとその家族のために～(母子保健事業団)</p> <p>その他、適宜紹介する。</p>									
成 績 評 価 の 方 法	グループ討議や意見交換等での授業への参加度(20%)、期末試験(80%)で総合的に評価する。									
オ フィ ス ア ウ ー	特に設定はしないので、随時対応する。									
受 講 上 の 留 意 事 項	知識や理論に基づいて考える力と主体的に学習する姿勢を培い、意見交換を通して自分の考えを整理・表現し、思考が創造的に発展することを期待する。									

女性と社会学 (Women & Sociology)											
必修・選択の区別	選択	学年次		学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	時岡 晴美 (Harumi Tokioka)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 女性についての心理・社会的考察を通して、その特徴を理解するとともに、ジェンダーの視点から子どもを産む性としての女性について検討する。また、少子化と少産化がもたらす社会状況について考察し、ワーク・ライフ・バランスの視点をふまえてこれからの家族と社会のありかたについて理解を深める。</p> <p>【到達目標】 ワーク・ライフ・バランスの視点をふまえて、これからの家族と社会のありかたについて展望をすることができる。</p>										
授 業 の 進 め 方	ジェンダーの視点から女性について、社会学をベースとしながら心理・社会的に考察していく。講義形式を基本としながら、ビデオ教材を用いたワークショップを取り入れるなど、実感を持って主体的に検討し、女性の視点からこれからの社会のあり方について展望する。										
	回	項 目	内 容								
授業スケジュール	1	女性と社会	女性と社会の関係、その変遷について								
	2	個別化する家族の現在	個別化をキーワードに家族の特徴を整理する								
	3	母性とリプロダクティブ・ヘルツ&ライツ	日本および世界の動向をみる								
	4	少子化・少産化がもたらすもの	日本の家族の現状と将来像を検討する								
	5	家族と子どもを取り巻く社会環境	子どもの視点から、家族と社会の関係について考察する								
	6	現代女性のパラドックス	前回までの内容をふまえて、現代日本の社会における女性の生き方について考察する								
	7	ワーク・ライフ・バランスと育児支援	社会における育児支援のあり方を考察することによって家族と社会の将来像について検討する								
	8	まとめ									
教 科 書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等											
成績評価の方法	小レポートおよび最終課題レポートによる。評価の配分割合は、小レポートの合計40%、最終課題レポート60%とする。										
オフィスアワー	授業終了後。										
受講上の留意事項	特になし										

生殖生命倫理(Bioethics in Midwifery)											
必修・選択の区別	選択	学年次		学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	塩田 敦子(Atsuko Shiota)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>「正解」を見つけにくい問いの前で、それでも考え続けることをやめないための一助になるのが生命倫理学である。これから医療に携わる、あるいは自分や家族と生きていくなかで「命を考える」ことを学んでほしい。生命科学の発展に伴い新たに生じた倫理的諸問題を対象とする学問領域の現状と、助産領域における倫理的問題のアセスメントに必要となる知識について学ぶ。</p> <p>主として遺伝疾患と遺伝相談および出生前診断の方法と治療、不妊治療の現状と問題、新生児医療、死と倫理についても考えてもらう。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 広く生命倫理の問題についていくつか述べるができる。</p> <p>② 生殖生命倫理の諸問題の最新の現状を概説できる。</p> <p>③ 遺伝疾患と遺伝相談について概説できる。</p> <p>④ 出生前診断の方法と治療について概説できる。</p> <p>⑤ 不妊治療の現状と問題、新生児医療の倫理について現状を把握し、自分の意見が述べられる。</p>										
授 業 の 進 め 方	主に講義形式で授業を行うが、グループワーク、ロールプレイ等の方式も用いながら、自ら考えることを中心に生殖生命倫理を身近に感じてもらう。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1 2～3 4 5 6 7 8	生命医療倫理 生殖医療倫理 新生児医療と倫理 遺伝と倫理 死と倫理 研究と倫理 産科医療と倫理	生命倫理、医療倫理 生殖医療と倫理 出生前診断、人工妊娠中絶と倫理 新生児医療と倫理 遺伝子・遺伝性疾患、遺伝カウンセリング 死と倫理、介護・尊厳死・臓器移植 ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針 無過失補償制度、薬害と医療倫理								
教 科 書	助産学講座2 母子の基礎科学(医学書院)										
参考書・参考資料等	はじめて出会う生命倫理(有斐閣アルマ)										
成績評価の方法	課題発表、レポート、討議にて評価する。										
オフィスアワー	研究室在室時はいつでも質問・相談を受け付けます。										
受講上の留意事項	日頃から生命倫理、生殖倫理に関わる情報に関心を持ち、自分なりに考える習慣をつけてくれるとうれしい。										

4 実践領域

助産学専攻科

助産診断技術学 I (Diagnostics Arts in Midwifery I)										
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	前期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義, 演習
担 当 教 員	野口 純子(Junko Noguchi)、塩田 敦子(Atsuko Shiota)、松木 由美(Yumi Matsuki)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>マタニティサイクルにおける妊娠期の助産過程の展開に必要な診断項目を理解し、妊娠期における助産診断技法や助産の実践に必要な基本的技術と妊娠期の異常に対応する方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①妊娠経過と妊娠期の助産診断の特徴について説明できる。</p> <p>②妊娠期の助産診断に基づき、対象に応じた助産診断技法について説明できる。</p> <p>③対象に応じた妊娠各期の保健指導について検討し、セルフケア能力を高める具体的な支援方法について説明できる。</p> <p>④妊娠期に妊婦及び胎児に発生する異常について、助産診断に基づき正常経過からの逸脱時の助産ケアについて説明できる。</p> <p>⑤妊娠期の助産過程の展開について説明できる。</p>									
授 業 の 進 め 方	<p>第1回目の講義時に詳細な授業計画を配布し、授業内容を明確にして講義を進める。講義方式の場合は原則としてパワーポイントを用いて進行する。また、妊娠期の保健指導・妊婦健康診査・出産準備教育については、助産診断技術学演習と関連づけて、実習に向けて実践内容の理解を深める。さらに、助産学実習 I での体験を振り返りながら、事例検討を行うことにより授業内容の理解を深められるようにする。</p> <p>ハイリスク妊婦への助産ケアについては、実習病院のMFICU助産師からケアの実際について学び、助産学実習 II での総合周産期母子医療センターでの実習に繋げる。</p>									
	回	項 目	内 容							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～4	妊娠期の助産診断と助産技術	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠経過と助産診断技術の特徴 (野口) ・マタニティサイクルの助産診断類型と助産過程 (野口) ・セルフケア能力を高める支援/(演習)妊婦体験 (野口) 							
	5～8	妊娠期に必要な助産技術	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の栄養と食生活指導 (野口) ・妊娠中の乳房ケア/マイナートラブルへの対処 (野口) 							
	9～10	妊娠期のフィジカルアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の診察法(母体と胎児)/(演習)超音波検査など (野口) ・妊婦健康診査の実際と助産師の役割 (野口) 							
	11～12	出産準備教育	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な出産に向けた支援 (野口) 							
	13～14	妊娠期の異常	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の合併症と治療 (塩田) 							
	15～16	異常妊婦の支援①	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク妊婦へのケア (野口) 							
	17～20	助産過程の展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討(妊娠初期・妊娠中期) (野口) 							
	21	異常妊婦の支援②	<ul style="list-style-type: none"> ・MFICUにおける助産師のケアの実際 (松木) 							
	22	助産過程の展開②	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討(妊娠末期) (野口) 							
	23	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の助産師の支援に関する全体討議 (野口) 							
教 科 書	<p>助産学講座 3、6 (医学書院)</p> <p>助産師基礎教育テキスト 第4、7巻(日本看護協会出版会)</p> <p>助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版(医学書院)</p> <p>実践マタニティ診断第4版(医学書院)</p> <p>助産業務ガイドライン 2014(公益社団法人日本助産師会)</p> <p>写真でわかる助産技術アドバンス(インターメディカ)</p>									
参考書・参考資料等	産婦人科診療ガイドライン 産科編2017(社団法人日本産科婦人科学会)									
成績評価の方法	グループ討議や意見交換での授業参加状況(10%)、学習課題の成果(20%)、筆記試験(70%)で総合的に評価する。									
オフィスアワー	特に設定はしないので、相談があれば随時研究室に来て下さい。									
受講上の留意事項	授業計画は、若干変更の可能性があります。助産診断技術学演習及び助産学実習での体験したことを関連づけながら授業を進めますので、主体的に授業に臨むことを期待します。									

助産診断技術学Ⅱ (Diagnostics Arts in Midwifery Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次		学 期	前期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	竹内 美由紀(Miyuki Takeuchi)、塩田 敦子(Atsuko Shiota)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 分娩各期の経過診断及び健康生活診断、分娩予測の方法を理解し、基礎的な技術を習得する。 産婦の心身の苦痛緩和や胎児のストレスの軽減を図り、安全で産婦及び家族の意思や主体性を尊重した分娩体験となるために必要な分娩期の助産診断と助産技術について習得する。</p> <p>【到達目標】 ①分娩期の助産診断の特徴と分娩期の助産過程の展開に必要な診断項目を説明できる。 ②分娩の3要素および産婦の精神状態について、分娩進行に影響を与える要因を説明できる。 ③分娩期の診断技法や診察法、助産の実践に必要な基本的技術を理解し、診察技法が実施できる。 ④分娩期に産婦及び胎児に発生する異常の原因を理解し、対処に必要な基礎的技術を実施できる。 ⑤産婦の主体性や自然な経過を尊重し、産婦やその家族が満足な体験となるような安全で安楽な分娩助産技術を実施できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	講義では視聴覚教材及び資料を用いる。第1回講義時に授業計画を配布し、授業内容を明確にして講義をすすめる。講義時シミュレーション教材を使用した演習を実施し、授業内容の理解が深められるようにする。 分娩期各期のケア、分娩助産技術については、助産診断技術学演習と関連づけて、実習に向けて実践内容を深める。後半では、事例を用い、臨床推論とシミュレーションを重ねながら、グループワークで実践のフィードバック、リフレクションを行い、リアルタイムでのロールプレイより、助産診断能力の育成を図る。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	分娩期の助産診断の特徴と診断類型	分娩期の助産診断の特徴と診断類型、分娩期の記録 (竹内)								
	2	分娩の生理と助産師の役割	分娩経過と母児に及ぼす影響(分娩3要素・精神状態) (竹内)								
	3~4	基本的診断技法	分娩期の健康診査(問診・外診・内診) (竹内)								
	5~6	フィジカルアセスメント	分娩の機序(陣痛のメカニズム・軟産道開大・児の回旋) (竹内)								
		①	分娩開始の予知と分娩開始の診断 (竹内)								
	7~8	フィジカルアセスメント	胎児の健康状態(CTG) (竹内)								
		②	分娩経過の診断・分娩予測 (竹内)								
	9~10	分娩期の基本的支援方法	分娩経過に伴うアセスメントと分娩各期のケア (竹内)								
	11~16	分娩助産法	分娩助産の意義と原理、分娩室の管理と分娩の準備 (竹内) 分娩助産に伴う技術(肛門保護・会陰保護・児娩出) (竹内) 分娩助産に伴う技術(臍帯切断・胎盤娩出・胎盤計測) (竹内) 出生直後の新生児のアセスメントとケア (竹内) 胎児付属物の検査と計測 (竹内) 分娩後2時間の母児の観察とケア (竹内)								
	17~18	フリースタイル分娩	フリースタイル分娩のポイント・産科手術の助産とケア (竹内)								
19~20	分娩期の異常	分娩期の異常疾患・産科手術・救急処置 (塩田)									
21~23	助産過程の展開	事例演習: 正常分娩・正常経過逸脱の予測と予防・異常分娩 (竹内)									
教 科 書	助産学講座3「母子の健康科学」助産学講座4「母子の心理社会学」助産学講座7「分娩期・産褥期」 助産学講座8「新生児期・乳幼児期」(医学書院) 助産師基礎教育テキスト第5巻「分娩期の診断とケア」・助産師基礎教育テキスト第7巻「ハイリスク妊産褥婦新生児へのケア」(日本看護協会出版会) 実践マタニティ診断第4版 (医学書院) 写真でわかる助産技術アドバンス (インターメディカ) 助産業務ガイドライン2014 (公益社団法人日本助産師会)										
参考書・参考資料等	助産師のためのフィジカルイグザミネーション(医学書院) 図説 CTGテキスト(メジカルビュー社) 体位別フリースタイル分娩助産法(メディカ出版) 産婦人科診療ガイドライン 産科編2017(社団法人日本産婦人科学会・日本産婦人科医会)										
成績評価の方法	授業への参加度(10%)、筆記試験(50%)、分娩助産等技術試験(40%)で総合的に評価する。										
オフィスアワー	特に設定はしないので、相談があれば随時研究室に来て下さい。										
受講上の留意事項	分娩助産については演習を中心に授業を行うので、自己の課題を明確にして積極的に取り組みましょう。助産学実習Ⅱの実施には、事前に分娩助産等技術試験に合格していることが必要になります。時間を有効に使い自己学習に取り組みましょう。										

助産診断技術学Ⅲ (Diagnostics Arts in Midwifery Ⅲ)											
必修・選択の区別	必修	学年次		学 期	前期	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	石原 留美(Rumi Ishihara)、塩田 敦子(Atsuko Shiota)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 産褥・新生児期が順調に経過し、女性とその家族および新生児が新しい家族として良好な相互関係が築けるために必要な助産診断・援助技術を習得するとともに、産褥期の異常およびハイリスク新生児に必要な知識・技術・ケアを理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①産褥・新生児期の特徴を説明できる。 ②産褥・新生児期の助産診断の技法および助産技術を身につけることができる。 ③母乳育児支援および乳房管理技術を身につけることができる。 ④ハイリスク褥婦やハイリスク新生児に対しての健康増進への支援を説明できる。 ⑤母子相互作用を高めながら母親自らの判断で育児が行え、家族が新しい役割に適応できるよう対象に応じた支援を考察することができる。 										
授 業 の 進 め 方	第1回講義時に詳細な授業計画を配布し、授業内容を明確にして講義を進める。 講義では視聴覚教材を活用する。またプレゼンテーションによるディスカッションを行う。演習ではシミュレーション教材を使用し授業内容の理解が深められるようにする。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～2	産褥期・新生児期の助産診断	産褥期・新生児の助産診断(石原) (演習:褥婦のフィジカルアセスメント)								
	3～6	産褥期のケア	産褥期の適応、褥婦のニーズとセルフケア(石原) 家庭・社会復帰への支援、育児支援、母子関係を支えるケア(石原) (演習:産褥体操・リラクゼーション)								
	7～8	ハイリスク褥婦のケア	ハイリスク・異常因子のアセスメントと支援(石原)								
	9～14	母乳育児支援	産褥期の母乳育児支援(石原) 乳房トラブル時の対処方法(石原) 特殊な問題のある母子への支援(石原)								
	15～18	新生児期・乳幼児期のケア	新生児の適応生理と新生児期のケア(石原) 乳幼児の発達と健康診査(石原) (演習:新生児のフィジカルアセスメント)								
	19～20	ハイリスク母子のケア	特殊な問題を持つ母子への支援(プレゼンテーション)(石原)								
	21～22	産褥期の異常	産褥期の異常(塩田)								
	23	助産過程の展開	産褥期・新生児期の助産過程の展開方法(石原)								
教 科 書	助産学講座7、8(医学書院)、助産師基礎教育テキスト第6、7巻(日本看護協会出版会) 新生児学入門 第4版(医学書院) 助産師のためのフィジカルイグザミネーション(医学書院) 実践マタニティ診断第4版(医学書院) 写真でわかる助産技術アドバンス(インターメディカ)										
参考書・参考資料等	母乳育児支援スタンダード(医学書院) 妊娠中から始めるメンタルヘルスケア(日本評論社)										
成績評価の方法	授業の参加度(10%)、プレゼンテーション(20%)、筆記による定期試験(70%)などから総合的に評価する。										
オフィスアワー	特に設定はしないので、相談があれば随時研究室に来て下さい。										
受講上の留意事項	授業計画は、若干変更の可能性があります。 看護基礎教育(母性・小児看護学)で学修した知識・技術を復習し授業に臨んで下さい。										

助産診断技術学Ⅳ (Diagnostics Arts in Midwifery Ⅳ)										
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	通 年	単位数	2.0	時間数	45	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)、野口 純子 (Junko Noguchi)、石原 留美 (Rumi Ishihara)、川上 聡子 (Satoko Kawakami)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 女性のライフサイクル各期の健康問題に関する助産診断・技術の特徴を理解し、思春期・成熟期・更年期に関するアセスメント方法およびセルフケア能力など健康支援に必要な援助技法について考察する。加えて、女性のセクシュアリティに関するセルフケア能力の向上と自己決定を支える援助技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①女性のライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。 ②女性のライフサイクル各期の健康問題と具体的支援方法を説明できる。 ③家族計画の意義が説明でき、各種受胎調節法の特徴・メリット・デメリットを知り、ライフサイクル各期の対象に合った方法を説明及び実施できる。 ④女性のセクシュアリティの諸問題に対する自己決定を支える支援を実施できる。 ⑤性のライフサイクル各期の健康支援における助産師の役割を考え述べる事ができる。 									
授 業 の 進 め 方	<p>理論と実践を結び付けられるように、講義だけでなくグループワークやプレゼンテーションを行い、女性のライフサイクルにおける、性に関する健康と権利を基盤に、助産師が行う健康支援について考察を深める。</p> <p>受胎調節実地指導員の資格取得に必要な科目です。</p> <p>後期の授業では、ライフサイクル各期における女性のリプロダクティブヘルスへの具体的支援をグループワークにて検討し考察を深める。</p> <p>不妊認定看護師や地域で活動している助産師からの講義を通して、専門的な助産師活動の実際について考察を深める。</p> <p>助産診断技術学Ⅳの学習内容を基盤とし、助産学実習Ⅳで、集団を対象に女性への健康教育を実施する。</p>									
	回	項 目	内 容							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1～4	女性のセクシュアリティの諸問題	・セクシュアリティとリプロダクティブヘルス (竹内)							
	5～8	家族計画と受胎調節	・ライフサイクルとセクシュアリティ(プレゼンテーション) (竹内)							
	9～12	女性のライフサイクル各期の健康問題	・ライフステージと受胎調節法の選択 (竹内)							
	13～14	現代女性に特別に支援を要する健康問題	・各種受胎調節法の実際(プレゼンテーション) (竹内)							
	15～18	セルフケア能力を高める	・思春期の健康支援(月経障害・性感染症など) (石原)							
	19～21	支援	・成熟期の健康支援(女性とがん・骨粗鬆症など) (石原)							
	22～23	助産師活動の実際	・更年期/老年期の健康支援(更年期障害など) (石原)							
教 科 書	<p>助産学講座3 母子の健康科学(医学書院)、助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ(医学書院)、助産師基礎教育テキスト第2巻 女性の健康とケア(日本看護協会出版会)</p> <p>家族計画指導の実際 第2版 (医学書院)</p>									
参考書・参考資料等	助産師のための性教育実践ガイド (医学書院)									
成績評価の方法	授業への参加度(10%)、プレゼンテーション等演習課題(30%)、筆記試験(60%)で総合的に評価する。									
オフィスアワー	特に設定はしないので、相談があれば随時研究室に来て下さい。									
受講上の留意事項	<p>授業計画は、若干変更の可能性があります。</p> <p>受胎調節実地指導員の資格取得に必要な科目で、資格取得には専攻科修了後に自己申請の必要があります。</p>									

助産診断技術学演習 (Seminar of Diagnostics in Midwifery & Midwifery Arts I)										
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	通 年	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	演習
担 当 教 員	野口 純子 (Junko Noguchi)、竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)、塩田 敦子 (Atsuko Shiota)、石原 留美 (Rumi Ishihara)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 妊娠分娩産褥期を通じて継続した助産ケアを展開する為の知識・技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 妊婦健康診査の必要な助産技術が、事例を用いた学内演習で実施できる。 ② 妊娠各期の保健指導を事例を用いた学内演習で実施できる。 ③ 出産準備教育の企画・運営の実際について、学内演習で実施できる。 ④ 分娩期のケア・産痛緩和ケア・呼吸法について、学内演習で実施できる。 ⑤ 分娩の準備、分娩介助、新生児の扱いなどについて、学内演習で実施できる。 ⑥ 産後の保健指導について、学内演習で実施できる。 ⑦ 産後の母子訪問について、学内演習で実施できる。 ⑧ 会陰切開・会陰縫合について、学内演習で実施できる。 									
授 業 の 進 め 方	妊娠分娩産褥・新生児期に必要な技術について、臨床場面に近い状況を設定し、実技演習・ロールプレイ・学生のグループ討議等を行い、知識・技術を習得できるようにする。									
	回	項 目	内 容							
授業スケジュール	1～2	妊婦健康診査	計測診・触診・超音波検査など妊婦健康診査の実際							
	3～4	妊娠期の保健指導	妊娠各期の保健指導(事例に応じた指導方法の実際)							
	5～6	出産準備教育	出産準備教育の企画・運営の実際							
	7～8	分娩期のケア	分娩期のケア・産痛緩和ケア・呼吸法の実際							
	9～10	分娩介助	分娩の準備、分娩介助、新生児の扱いなど							
	11～12	産後の保健指導	産後の保健指導							
	13～14	母子訪問	母子訪問の実際							
	15～16	会陰縫合	会陰切開・会陰縫合の演習							
教 科 書	助産診断技術学 I～III で使用した教科書。									
参考書・参考資料等	適宜紹介する。									
成績評価の方法	演習への参加度及び意見交換、課題の提出状況などから総合的に評価する。									
オフィスアワー	特に設定はしないので、相談があれば随時研究室に来て下さい。									
受講上の留意事項	授業計画は、若干変更の可能性があります。基礎看護技術に関しては、看護基礎教育で学習した知識・技術を復習(資料を整理)して演習に臨んで下さい。 演習内容に応じて、担当教員及びグループメンバーと十分に連絡をとり、実習に向けての自己の課題が明確にできるように、各自が主体的に参加することを期待します。									

母子保健活動論 I (Maternal & Child Community Health I)										
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担 当 教 員	辻 よしみ (Yoshimi Tsuji)、竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 地域母子保健活動の理念と目的を理解し、母子保健施策に基づく保健行政の現状と地域母子保健活動の実態を理解する。香川県の母子保健に関する保健統計資料の分析から課題を検討し今後の展望について考察できる。</p> <p>【到達目標】 ①母子保健活動の目的を説明できる。 ②地域保健活動の実際について理解できる。 ③母子保健統計の文政及びプレゼンを行うことができる。</p>									
授 業 の 進 め 方	地域母子保健の意義と現状と動向について講義する。また香川県及び高松市の保健活動について特別講義を実施する。演習では、香川県内の母子保健の動向や制度を調べ地域の特性をアセスメントし、課題を抽出し考察を深める。									
	回	項 目	内 容							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	地域母子保健の意義	地域母子保健の概念・定義・目的・歴史 (辻)							
	2	地域母子保健の現状と動向	地域母子保健の動向と保健対策 (辻)							
	3	地域母子保健の特性と課題	保健統計資料の分析とアセスメント (辻)							
	4	〃	〃							
	5	地域母子保健行政と施策	香川県の母子保健行政と現状 (特別講義)							
	6	〃	〃							
	7	〃	高松市の母子保健活動の現況 (特別講義)							
	8	〃	〃							
教 科 書	国民衛生の動向(最新版) 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健(医学書院)									
参考書・参考資料等	かがわの母子保健(香川県健康福祉部子育て支援課) 標準保健師講座3 対象別地域看護活動(医学書院)									
成績評価の方法	レポート60%、演習課題30%、プレゼンテーション10%により評価する。									
オフィスアワー	必要に応じて対応します。									
受講上の留意事項	講義に主体的に参加し母子保健への考察を深めて欲しいと思います。									

助産管理 (Midwifery Administration)											
必修・選択の区別	必修	学年次		学 期	通 年	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	野口 純子 (Junko Noguchi)、池添 紀美代 (Kimiyo Ikezoe)、眞鍋 由紀子 (Yukiko Manabe)、中西 ひとみ (Hitomi Nakanishi)、竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)、石原 留美 (Rumi Ishihara)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 助産所や病院(病棟、外来、指導部門等)の助産管理の基本的な考え方や、関連法規について学び、助産管理に必要な基礎的能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 助産管理の概念や助産管理の基本的な事項、関連法規について説明できる。 ② 母子保健サービスの充実や助産業務の改善に必要な管理の在り方について説明できる。 ③ 施設における災害管理・危機管理の実際について説明できる。 ④ 地域における助産師活動と家庭分娩の管理の実際について説明できる。 ⑤ 専門職の役割と機能について、助産師のキャリア発達を通して説明できる。 ⑥ 実習施設の現状から助産管理の在り方や課題について考察できる。 										
授 業 の 進 め 方	<p>科目の全体構成は第1回講義で説明し、授業内容ごとにオムニバス形式で担当講師が講義を行う。 実習施設の助産管理の在り方については、各自課題を決めて、助産学実習Ⅲと連動して調べた内容を課題レポートとして報告するとともに発表を行い意見交換を行うことで学びを深める。 災害時の助産師の役割については、母子保健活動論Ⅱで行う学内演習と連動している。</p>										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	助産管理の概念	助産管理の概念とプロセス (野口)								
	2	"	関連法規と助産師の法的責任と義務(野口)								
	3	周産期管理システムとリス	周産期のリスクマネジメント(野口)								
	4	ク管理	周産期管理システム、医療事故とリスクマネジメント(野口)								
	5~6	病院における助産管	産科病棟・産婦人科外来における助産管理の実際と課題 (中西)								
	7~8	理									
	7~8	助産所の助産管理	助産所における助産管理の実際と課題 (眞鍋)								
	9~10	地域社会と助産管理	地域における助産師活動・家庭分娩の管理の実際 (池添)								
	11~12	専門職の役割と機能	助産師のキャリア発達 (竹内)								
	13~14	助産所と関連法規	病院・助産所の管理運営、課題レポートの発表 (野口、竹内、石原)								
	15~16	災害管理・まとめ	災害時の助産師の役割・まとめ (野口)								
教 科 書	助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全(日本看護協会出版会) 助産学講座10 助産管理(医学書院)										
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	助産師業務要覧 第3版 基礎編(日本看護協会出版会) 助産師業務要覧 第3版 実践編(日本看護協会出版会) その他、適宜紹介する。										
成 績 評 価 の 方 法	グループ討議や意見交換での授業への参加状況(20%)、筆記試験(50%)、発表(30%)で総合的に評価する。										
オ フ ィ ス ア ウ ー	非常勤講師は授業後に自分で連絡をとり確認する。専任教員は必要時研究室に来て下さい。										
受 講 上 の 留 意 事 項	授業計画は、若干変更の可能性があります。 助産学実習Ⅲに連動しての課題探求については、自己の課題を明確にして主体的に学ぶ姿勢を期待します。										

助産学研究 (Midwifery Research)											
必修・選択の区別	必修	学年次		学 期	通年	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義・演習
担 当 教 員	野口 純子 (Junko Noguchi)、竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)、石原 留美 (Rumi Ishihara)、眞鍋 由紀子 (Yukiko Manabe)										
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 助産学領域における研究の意義と動向、課題について理解するとともに、事例研究による助産学研究の方法論について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①助産学領域における研究の動向や課題について説明できる。 ②事例研究の方法について説明できる。 ③継続ケースとして受け持った事例への関わりを、各自で設定したテーマに基づき、文献検討、事例分析、考察を行い論文としてまとめることができる。 ④学内に於いて研究発表会を行い、発表・討議を行うことで一連の研究プロセスを実施できる。</p>										
授 業 の 進 め 方	第1回・第2回の講義で助産学研究の現状や事例研究のすすめ方について説明し、その後は担当教員の指導を受けながら当該年度の助産学研究ガイドラインに沿って研究を進める。										
	回	項 目	内 容								
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	助産学領域における研究の意義	助産学研究の動向、意義、課題 (野口)								
	2	研究の方法	助産学領域における事例研究の進め方 (野口)								
	3	研究のすすめ方①	研究課題の検討、文献検討 (各指導教員)								
	4	研究のすすめ方②	事例分析 (各指導教員)								
	5	論文作成①	論文作成個別指導・相談 (各指導教員)								
	6	論文作成②	論文作成個別指導・相談 (各指導教員)								
	7	論文作成③	論文修正 (各指導教員)								
	8	論文作成	集録集原稿の作成指導・相談 (各指導教員) * 国家試験終了後、2月末頃に事例研究発表会を実施する								
教 科 書	特に定めない。										
参考書・参考資料等	研究課題に応じて必要な参考文献を紹介する。										
成績評価の方法	助産学研究ガイドラインに示した助産学研究論文評価表にもとづき総合的に評価する。										
オフィスアワー	特に設定はしないので、指導教員に連絡をとり必要時相談して下さい。										
受講上の留意事項	論文作成は担当教員に内容を報告して、了解をとりながら進めて下さい。 各自の研究課題を明確にして、主体的に取り組むことを期待します。										

助産学実習 I (Midwifery Practice I)										
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	通 年	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担 当 教 員	野口 純子(Junko Noguchi)、竹内 美由紀(Miyuki Takeuchi)、石原 留美(Rumi Ishihara)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 妊娠期の経過診断および健康生活診断を行い、助産診断と健康生活支援が実践できる能力を習得する。 助産の対象である妊産婦および乳幼児とその家族を地域で生活する生活者として捉え、妊産婦のマタニティサイクル各期における変化や乳幼児の成長発達を理解し、健康生活を支援する能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 妊娠期に必要な診断技法を用いて、妊娠各期の助産診断が表現できる。 ② 妊娠各期のセルフケアを高めるような支援が実施できる。 ③ 妊娠期の助産診断に基づき、妊婦の状態に応じた健康生活支援が実施できる。 ④ 妊娠期に必要な社会資源の活用ができる。 ⑤ 妊婦及び家族が最良の状態で妊娠期を過ごし、安全で安楽な出産に向けて援助の人間関係を形成し育児をスムーズに行うための援助が実施できる。 ⑥ 健康問題を生活の場を通して理解し、対象特性や家族特性に応じた健康生活支援が実施できる。 									
授 業 の 進 め 方	<p>平成30年度助産学専攻科実習要項 参照 <妊婦健康診査>実習施設：香川県立中央病院・ぼっこ助産院 5月初～6月末</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 1週間に1回2～3人ずつ、曜日を設定し実習する。 2. 産婦人科外来では、医師の指導のもと、妊娠初期・中期・末期の助産診断、検査、超音波検査を中心に実施する。 3. 助産所および助産外来では、助産師の指導のもと、助産診断ならびに健康生活診断、保健指導を実施する。 <p><継続妊婦受け持ち事例>実習施設：ぼっこ助産院 7月～12月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生2人で1人の妊婦を妊娠期から分娩・産褥・育児期まで継続して受け持ち、経過診断および健康生活診断の実施と支援を実施する。 2. 妊婦継続受け持ち事例の妊婦健診の実施、保健指導、電話相談、母子訪問を実施する。 									
	回	項 目	内 容							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル		妊婦健康診査 まとめ発表 継続妊婦受け持ち開始 継続事例報告① 継続事例報告② 継続事例報告③	香川県立中央病院・ぼっこ助産院での妊婦健康診査の実施 香川県立中央病院・ぼっこ助産院での保健指導の実施 妊婦健康診査実習における学び 継続妊婦受け持ち事例の妊娠経過報告 継続妊婦受け持ち事例の分娩・産褥・新生児経過報告 継続妊婦受け持ち事例の産後家庭訪問経過報告							
教 科 書	助産診断技術学Ⅰ～Ⅲで使用した教科書									
参考書・参考資料等	随時紹介する。									
成績評価の方法	実習態度、実習記録、妊産婦への支援状況、事例報告会での発表および報告内容より実習目標の到達度を総合的に評価する。妊婦健康診査記録・実習記録30%、妊婦継続事例への実習状況・実習記録60%、事例報告会10%とする。									
オフィスアワー	特に設定しないので、随時相談に来てください。									
受講上の留意事項	継続妊婦受け持ち事例と妊娠期から育児期まで長期間関わるので、事例との信頼関係の構築に留意し、連絡調整等主体的に取り組みましょう。 自己の健康管理及び交通事故に十分気をつけ主体的に取り組みましょう。									

助産学実習Ⅱ (Midwifery Practice Ⅱ)										
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	通 年	単 位 数	7.0	時 間 数	315	授 業 形 態	実 習
担 当 教 員	野口 純子 (Junko Noguchi)、竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)、石原 留美 (Rumi Ishihara)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 分娩・産褥・新生児期にある対象者に対し、経過診断および健康生活診断を行い、助産診断と健康生活支援が実践できる能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①産婦が主体的に分娩に取り組み、安全・安楽で有意義な分娩体験となる援助が実施できる。 ②産婦および家族の意思や価値観を尊重した援助の人間関係を形成し、新しい家族と共に健康生活が過ごせるよう、産褥期の助産診断と適切な健康支援が実施できる。 ③母乳育児支援のための情報提供と基本的援助が実施できる。 ④新生児の健康レベルを診断し、新生児の健康を促進するためのケアが実施できる。 ⑤妊娠分娩産褥期に偶発する異常に対して行われる、診断・治療・検査・産科手術・救急処置の方法と助産師の役割を述べるができる。 ⑥母子保健医療チームにおける助産師の役割を認識し、チームの一員としての行動がとれる。 									
授 業 の 進 め 方	<p>7月～10月にかけて、7週間の実習を行う。 平成30年度助産学専攻科実習要項 参照</p> <p>分娩介助・産褥新生児期のケアは、香川県立中央病院と高松赤十字病院の2グループに分かれ、途中実習まとめの期間を除き6週間、同じ病院で実習する。 各実習施設の責任者と実習指導者および担当教員の指導援助のもと実習を実施する。 学内で実施した妊産褥婦・新生児のフィジカルアセスメントおよびケアの学習を、指導者の指導のもと、個々の対象に適応させながら、産婦が主体的に取り組み、安全で安楽で有意義な分娩体験となるようケアを実施する。 単位認定にあたっては、正常分娩介助を10例程度実施していることが必要条件である。直接介助10例に満たない時は、集中実習7週間を超えても、補習実習を実施する。 分娩に備え、24時間体制で待機し分娩介助を実施する。</p>									
	回	項 目	内 容							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル		<p>7月～9月 香川県立中央病院 高松赤十字病院 正常分娩介助、 異常分娩介助(吸引分娩・ 帝王切開分娩) 産婦及び新生児の助 産診断・助産技術</p> <p>10月～11月 香川大学医学部附属病院 ハイリスク妊産褥婦及び ハイリスク新生児の助産 診断・助産技術</p>	<p>香川県立中央病院と高松赤十字病院の2グループに分かれ、6週間実習する。 正常分娩を10例以上直接介助する。 間接介助を5例以上介助する。 予定帝王切開分娩の扱いを1例実施する。 可能な範囲で入院の取り扱い、分娩開始の診断を実施する。 分娩直接介助した産婦と新生児に対する助産診断及び支援技術を実施する。 実習3週目より、分娩後からの継続事例1例を選択し、電話訪問・2週間健診・産後1ヵ月健診まで受け持つ。 毎週1回実習指導者同席でテーマカンファレンスを行う。 毎週大学への帰校日に、2名ずつケースカンファレンスを行う。 香川大学医学部附属病院でMFICU、NICU/GCU、助産外来をローテーションして1週間見学実習を行い、ハイリスク妊産褥婦・新生児の支援技術を学ぶ。</p>							
教 科 書	助産診断技術学Ⅰ～Ⅲで使用した教科書									
参考書・参考資料等	随時紹介する。									
成績評価の方法	<p>分娩介助評価は、担当助産師が実施する。 実習態度、分娩介助評価、実習記録、その他妊産褥婦へのケア、保健指導等により実習目標の到達度を総合的に評価する。産後の母子ケアを含む助産実践状況50%、分娩介助評価40%、課題レポート10%とする。</p>									
オフィスアワー	特に設定しないので、随時相談にきてください。									
受講上の留意事項	<p>分娩介助の為に、病院待機室に宿泊、実習が夜間・土日など時間外に及ぶことがあります。 実習期間中に分娩介助10例が実施できなかった場合は、補習実習を行います。 自己の健康管理に留意し、主体的に取り組みましょう。</p>									

助産学実習Ⅲ (Midwifery Practice Ⅲ)										
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	45	授業形態	実習
担 当 教 員	野口 純子 (Junko Noguchi)、竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)、石原 留美 (Rumi Ishihara)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 産科病棟や外来、助産所の業務管理の原則を理解し、助産管理に必要な基礎的能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 助産管理の原理・原則が説明できる。 ② 助産管理の実際について現状の分析や課題の報告ができる。 ③ 助産管理が行われる場の違いによる助産師の役割が説明できる。 ④ 母子保健医療チームにおける助産師の役割が説明できる。 ⑤ 母子保健医療チームの一員として責任ある行動がとれる。 									
授 業 の 進 め 方	<p>平成30年度助産学専攻科実習要項 参照</p> <p>助産管理の講義と連動して学習を深める。</p> <p>香川県立中央病院の病院概要と病棟のオリエンテーションは助産学実習Ⅰのオリエンテーションで実施している。</p> <p>リーダー実習は助産学実習Ⅱの期間中に並行して、実習施設で実施する。</p> <p>病棟管理・助産所管理については、助産管理の講義で学習した内容をさらに助産管理の現場で、自己の課題に沿って管理の実際を調べ、指導者、管理者からの説明を受ける。</p> <p>学内で報告会を実施し、個人の体験や学習内容のプレゼンテーション、ディスカッションを行い、学生間で学習を共有し、助産管理に必要な基礎的能力を習得する。</p>									
	回	項 目	内 容							
授 業 スケジュール		リーダー実習 (香川県立中央病院・高松赤十字病院) 助産管理実習 病棟における助産管理(香川県立中央病院) 助産所における助産管理(ぼっこ助産院) 学内報告会	<p><リーダー実習> 助産学実習Ⅱと並行して実習を行う。 リーダーと行動を共にし、リーダーの役割を理解する。</p> <p><助産管理実習> 産婦人科病棟管理については、自己の課題に沿って管理の実際を調べ、指導者からの説明を受ける。 助産所管理については、助産所管理者からの説明を受けて、管理運営の実際について調べる。</p> <p>自己の課題に沿った各自の助産管理についての学習内容を学内で発表し、課題レポートを提出する。</p>							
教 科 書	助産管理で使用した教科書									
参考書・参考資料等	随時紹介する。									
成績評価の方法	<p>実習態度、実習記録、学習報告会での発表および報告内容、課題レポートにより実習目標の到達度を総合的に評価する。学習報告会での発表および報告内容については、助産管理の評価内容とする。</p> <p>実習状況、実習記録30%、課題レポート70%とする。</p>									
オフィスアワー	特に設定しないので随時相談にきてください。									
受講上の留意事項	<p>助産管理での学習をもとに自己課題を明確にして取り組んでください。</p> <p>自己の健康管理及び交通事故に気をつけ、主体的に取り組みましょう。</p>									

助産学実習Ⅳ (Midwifery PracticeⅣ)										
必修・選択の区別	必修	学年次	学 期	後期	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担 当 教 員	野口 純子 (Junko Noguchi)、竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)、石原 留美 (Rumi Ishihara)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 ライフサイクル全般にわたる女性への健康支援方法を理解し、対象のニーズに即した保健指導の実施に必要な基礎的能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① ライフサイクル各期の対象の心身の特性と、おこりやすい疾病と治療及びその予防方法が説明できる。 ② ライフサイクル各期の健康生活を維持するためのケアの方法を説明できる。 ③ ライフサイクル各期に必要な社会資源の活用方法が説明できる。 ④ 対象に応じた健康教育が実施できる。</p>									
授 業 の 進 め 方	<p>11月～12月に香川県立保健医療大学地域連携推進センター主催のいきいき健康広場にて、女性を対象に集団健康教育を行う。</p> <p>教員、事務局、本学地域連携推進センター長、地域の関連専門職と連携を密に取りながら、学生自らが主体的に企画・運営・報告を実施する。</p> <p>健康教育の実施にあたっては、指導案を作成し、デモンストレーション、ディスカッションを繰り返し、内容を精選させていく。</p>									
	回	項 目	内 容							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル		課題の検討 関連情報の収集 対象者の選定 健康教育の企画 近隣対象住民への広報 健康教育の運営 健康教育の実施 健康教育の評価 報告書の作成	ライフサイクル各期の課題に沿って健康教育の内容を検討 課題に関連する情報を収集 健康教育対象者の選定 同じ健康問題を持つ女性の集団を対象に健康教育の企画 対象者への広報活動(ポスター作成、参加者募集) 健康教育の運営(健康教育・健康度測定・保健指導・相談) 健康教育の実施(2グループ、各30分間の健康教育) 健康教育活動の評価(アンケート等) 健康教育実施報告書を作成し報告							
教 科 書	助産診断技術学Ⅳで使用した教科書									
参考書・参考資料等	随時紹介する。									
成績評価の方法	実習態度、実習記録、集団指導の企画から実施までの過程および健康教育内容で実習目標の到達度を総合的に評価する。学習課題への取り組み状況10%、健康教育の企画・準備40%、健康教育の実施・実習記録50%とする。									
オフィスアワー	特に設定しないので、随時相談に来てください。									
受講上の留意事項	<p>健康教育内容については、教員と協議しながら進めてください。</p> <p>健康課題については、助産学実習、助産診断技術学Ⅳの学習をもとに検討します。</p> <p>自主的で活発なグループワークを期待します。</p>									

5 実践関連領域

助産学専攻

総合ヘルスケア論(Integrative Health Care)										
必修・選択の区別	選択	学年次	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義, 演習
担 当 教 員	野口 純子(Junko Noguchi)、井上 美智子(Michiko Inoue)、野口 和代(Kazuyo Noguchi)、篠原 佐智子(Sachiko Shinohara)、松尾 真理(Mari Matuo)、石原 留美(Rumi Ishihara)									
授 業 の 目 的	【授業の目的】 女性が本来もつ自然の力を引き出すことのできる助産ケアについて、卓越した技術を持つ助産師から学ぶ。 【到達目標】 マタニティサイクル各期が自然で安全に経過し、育児が健全に行えるように支援する助産ケアについて理解できる。									
授 業 の 進 め 方	講義ガイドの後、県内の熟練助産師が、オムニバス方式で講義を行う。									
	回	項 目	内 容							
授業スケジュール	1～2	講義ガイド	・助産師に期待される総合ヘルスケアとは (野口純子)							
		母子訪問時のケア	・助産師が行う母子訪問と乳房ケア (井上美智子)							
	3～4	骨盤ケア	・助産師が行う骨盤ケア (野口和代)							
	5～6	妊産褥婦の運動療法	・マタニティヨガ・産後ヨガなど (篠原佐智子)							
	7～8	東洋医学を用いたケア	・助産技術に応用する鍼灸(ツボ)療法 (松尾真理)							
			・まとめ (石原留美)							
教 科 書	特に指定しない。									
参考書・参考資料等	適宜紹介する。									
成績評価の方法	演習など授業への参加度(20%)、レポート(80%)によって評価する。									
オフィスアワー	学外講師が多いので、授業後にコンタクトをとりましょう。									
受講上の留意事項	授業の内容だけでなく、自身の助産師としてのキャリア形成についても考えてみましょう。									

母子保健活動論Ⅱ (Maternal & Child Community Health Ⅱ)										
必修・選択の区別	選択	学年次	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)、野口 純子 (Junko Noguchi)、石原 留美 (Rumi Ishihara)、中橋 恵美子 (Emiko Nakahashi)、草薙 めぐみ (Megumi Kusanagi)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 国際的な母子活動や地域における母子保健活動の現状や課題を学び、助産師に求められる国際貢献や地域貢献について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>① 国際的な母子保健活動の現状や我が国が果たすべき課題について説明できる。 ② 我が国の母子保健行政を支える関連団体の取り組みの現状や課題を説明できる。 ③ 母子保健における助産師の果たすべき役割や課題を表現できる。 ④ 地域の母子を支える助産師として、災害時等で取り組むべき活動を想定し、学内で実施できる。 ⑤ 専攻科課程修了後に助産師として国際貢献や地域貢献が実施できる。</p>									
授 業 の 進 め 方	授業の目標が達成できるように豊富な実践経験を持つ担当教員が、オムニバス形式でそれぞれのテーマに基づき講義や演習形式で授業を行う。 災害時の母子保健活動の実際は、助産管理の災害管理の学習内容と連動している。									
	回	項 目	内 容							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	ガイダンス	授業の目的と進め方 (竹内)							
	2	海外の母子保健活動の現状と課題	海外の母子保健活動の現状と課題 (竹内)							
	3~4	国際母子保健活動	国際母子保健活動の実際 (特別講義)							
	5~6	災害時の母子保健活動	災害時の母子保健活動の実際(演習) (竹内・野口・石原)							
	7	民間による母子保健活動①	①NPO法人わははネットの活動 (中橋)							
	8	民間による母子保健活動②	②NPO法人子育てネットくすくすの活動 (草薙)							
教 科 書	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健(医学書院)									
参考書・参考資料等	授業のなかで適宜紹介する。									
成績評価の方法	グループワーク、ロールプレイ等授業への参加度(20%)と課題レポート(80%)により成績評価を行う。									
オフィスアワー	特に設定しない。授業中に担当教員に確認する。									
受講上の留意事項	選択科目であるので、自己の学習課題に応じて主体的に授業に参加するようにして下さい。									

新生児学・乳幼児学特論Ⅱ (Neonate & Infant Health Ⅱ)										
必修・選択の区別	選択	学年次	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義、演習
担 当 教 員	石原 留美(Rumi Ishihara)、小谷野 耕佑(Kosuke Koyano)、岡田 佳子(Yoshiko Okada)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】</p> <p>新生児蘇生法および、ハイリスク新生児を含むNICUでのケアなど、ハイリスク新生児・乳幼児や発育、発達障害児のケアに必要な知識・技術について理解する。</p> <p>母子保健医療チームの一員として、他職種と協働し出生直後の児の状態の評価と、救急処置に必要な知識・技術を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①ハイリスク新生児のケアに必要な知識を説明できる。</p> <p>②ハイリスク新生児のケアに必要な技術を身につけることができる。</p> <p>③ハイリスク新生児・乳幼児の治療や看護に関連する倫理的諸問題について考えることができる。</p> <p>④出生直後の新生児蘇生法を身につけることができる。</p>									
授 業 の 進 め 方	新生児蘇生法については、講習会に参加し、講義・実技演習・筆記試験等により、資格取得を目指す。また、NICUにおけるハイリスク新生児の看護は、実習病院の新生児専門看護師から、NICUにおけるケアの実際について視聴覚教材などを用いた講義を受講する。									
	回	項 目	内 容							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	1	ハイリスク新生児・乳幼児の看護	ハイリスク新生児・乳幼児の治療とケア総論 (石原)							
	2～3	ハイリスク新生児の看護	NICUにおけるハイリスク新生児の看護 (岡田)							
	4	障がい児の看護	障がいをもつ新生児及び乳幼児の看護 (岡田)							
	5～6	新生児蘇生法①	新生児蘇生法 (小谷野)							
	7～8	新生児蘇生法②	新生児蘇生法(新生児蘇生法講習会に参加) (小谷野)							
教 科 書	助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ 新生児期・乳幼児期(医学書院) 日本版救急蘇生ガイドライン2015に基づく新生児蘇生法テキスト(メジカルビュー) 助産師基礎教育テキスト 第7巻(日本看護協会出版会)									
参考書・参考資料等	適宜紹介する。									
成績評価の方法	課題レポートにより評価する。									
オフィスアワー	特に設定しないが、質問などは授業終了後に受ける。									
受講上の留意事項	新生児救急蘇生法については、香川県周産期医療従事者研修会等で行われる新生児蘇生法講習会に参加し実技を含めて学習します。事前学習が重要です。合格すれば、日本周産期・新生児医学会公認の専門コース修了認定証を得ることができます。									

助産学実習Ⅴ (Midwifery Practice Ⅴ)										
必修・選択の区別	選択	学年次	学 期	後期	単位数	1.0	時間数	45	授業形態	実習
担 当 教 員	野口 純子 (Junko Noguchi)、竹内 美由紀 (Miyuki Takeuchi)、石原 留美 (Rumi Ishihara)									
授 業 の 目 的	<p>【授業の目的】 地域母子保健の現状や女性のライフサイクル各期を通じた健康支援の方法と助産師の役割を理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 保健所及び地域保健センターの機能と役割が説明できる。 ② 母子保健行政との関連性や関係職種が説明できる。 ③ 乳幼児の成長発達段階の理解と異常を早期発見するためのスクリーニングの方法が説明できる。 ④ 女性のライフサイクル各期に生じる健康問題に対する母子保健事業の実際を知り、対象者のニーズや助産師の役割を述べることができる。 									
授 業 の 進 め 方	<p>選択希望者に対し実習を行う。 実習計画は、高松市保健センターの実習指導者と担当教員が連絡調整し作成する。 母子保健事業内容によっては、休日実習に変更になる可能性がある。また、実習内容によって実習時間も柔軟に変更予定である。</p> <p>見学実習ではあるが、可能な範囲での実施を伴う。 学生の参加する事業は、住民サービス一環として行われているので、母子保健事業に参加している母子への対応に留意し、実施指導者、担当保健師と相談し指導を受け実施し、結果の報告を行う。 原則として、毎日30分程度のカンファレンスを実施し、体験や事例を学生間で共有し、学生個々の学びを深め、母子保健医療チームにおける助産師の役割を考察する。</p>									
	回	項 目	内 容							
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル		保健センターの機能と 母子保健行政 両親学級 乳幼児の成長と発達 母子保健事業	保健所および地域保健センター機能 母子保健行政を含んだ、全体オリエンテーション 地域での両親学級 1歳6か月児健診あるいは3歳児健診 4か月児相談等、実習期間内に行われている母子保健事業 実習指導者や教員同席にて、学生主体のミニカンファレンス 対象となる母子や家族の保健ニーズや健康課題、助産師に求められる役割について学びを共有、学習内容を深める。 実習で経験した地域母子保健活動を振り返り、学習課題をレポートにして提出する。							
教 科 書	母子保健活動論Ⅰで使用した教科書									
参考書・参考資料等	随時紹介する。									
成績評価の方法	実習態度、カンファレンス参加度、課題レポートにより実習目標の到達度を総合的に評価する。実習状況・実習記録30%、課題レポート70%とする。									
オフィスアワー	特に設定しないので、随時相談に来てください。									
受講上の留意事項	自己の健康管理及び交通事故に気をつける。 参加する保健事業の事前準備(内容の学習・場所の確認)を前日までにしておく。 主体的に取り組みましょう。									

